

女性と男性がともに暮らしやすい  
豊中市をつくるための

アンケート

# 結果報告書

平成 28 年(2016 年)3 月

 豊中市



# 目 次

I. 調査の概要	1
1. 調査の目的	1
2. 調査の設計	1
3. 回収状況	1
4. 報告書の見方	2
5. 標本誤差	2
6. 調査票の設計と分析	3
II. 回答者の属性	5
1. 性別	5
2. 年齢	6
3. 配偶者・パートナーの有無	7
4. 同居している家族	8
5. 末子の年齢	10
6. 職業	11
7. 雇用形態	13
8. 配偶者・パートナーの職業	15
9. 配偶者・パートナーの雇用形態	19
III. 調査結果の概要	21
IV. 調査結果の分析	29
1. 日常生活や社会全般について	29
2. 家庭生活について	35
3. 地域活動について	59
4. 男性の家事、子育て、介護、地域活動の参加について	67
5. 高齢期の生活について	70
6. 仕事について	78
7. 男女の人権について	108
8. 男女共同参画社会の実現について	141
9. 自由記述について	155
V. 今回の調査からみえてきたこと	161
VI. 調査票	167



# I. 調査の概要



## 1. 調査の目的

平成23年度（2011年度）に策定した「第2次豊中市男女共同参画計画」の中間見直しの実施、並びに豊中市DV対策基本計画の後継計画策定にあたり、市民の性別役割分担の状況や男女共同参画に関する意識、DV等の実態などを把握し、次期計画策定のための基礎資料を得るために実施した。

## 2. 調査の設計

### (1) 調査対象

- ・住民基本台帳から無作為抽出した満20歳以上の男女市民各2,000人（計4,000人）
- ・調査基準日 平成27年(2015年)9月1日

### (2) 調査方法

郵送による配布・回収（調査期間中に、はがきによる督促を1回実施）

### (3) 調査期間

平成27年(2015年)9月18日～10月2日

### (4) 調査内容

1. 日常生活や社会全般について
2. 家庭生活について
3. 地域活動について
4. 男性の家事、子育て、介護、地域活動の参加について
5. 高齢期の生活について
6. 仕事について
7. 男女の人権について
8. 男女共同参画社会の実現について

## 3. 回収状況

配布数	回収数	有効回収数				有効回収率
		女性	男性	その他	性別無回答	
4,000 票	1,859 票	1,851 票				46.3%
		1,064 票	780 票	0 票	7 票	
		57.5%	42.1%	0.0%	0.4%	

## 4. 報告書の見方

- 1 図表のn (number of case) は、設問に対する回答者数のことである。
- 2 回答比率 (%) は回答者数 (n) を100%として算出し、小数点以下第2位を四捨五入して表示した。四捨五入の結果、内訳の合計が計に一致しないことがある。また、一人の対象者に複数の回答を求める設問では、回答比率 (%) の計は100.0%を超える。
- 3 図表中の「MA%」(Multiple Answer の略) という表示は、複数回答形式の設問 (回答選択肢の中から「○はいくつでも」選択する形式の設問) である。
- 4 クロス集計の結果を示す図表においては、該当者の少ない分類項目、及び「その他」「不明 (無回答)」は省略しているものがあり、各分類項目の該対象数の合計と集計対象総数は一致しないことがある。
- 5 表の単位については、二段の場合は上段が実数、下段が構成比 (%) とし、一段の場合は構成比 (%) とする。
- 6 表の網掛けについては、■は最も多い項目を示している。「わからない」「なし」等が最も多い際には、主要回答内で最も多い項目を□で示している。

## 5. 標本誤差

本調査の主な回答率における標本誤差の幅は次のとおりである。

【標本誤差の1/2幅を求める公式】(信頼度95%の場合)

$$\text{誤差率} = 1.96 \times \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{P \times (100-P)}{n}}$$

	N = 母集団数	n = 標本数	P = 回答率
女性	174,196	1,064	
男性	153,947	780	

※平成27年 (2015年) 9月1日現在

P (%)	標本誤差	
	女性	男性
50%	±3.0	±3.5
45%または55%	±3.0	±3.5
40%または60%	±2.9	±3.4
35%または65%	±2.9	±3.3
30%または70%	±2.7	±3.2
25%または75%	±2.6	±3.0
20%または80%	±2.4	±2.8
15%または85%	±2.1	±2.5
10%または90%	±1.8	±2.1
5%または95%	±1.3	±1.5

## 6. 調査票の設計と分析

調査票の設計、結果の分析、報告書の執筆にあたっては、関西大学人権問題研究室の協力を得た。参加した研究員等は、次のとおりである。

石元 清英（室長）  
多賀 太（研究員）  
宮前 千雅子（委嘱研究員）  
杉谷 眞佐子（元研究員）  
山口 季音（至誠館大学専任講師）



## Ⅱ. 回答者の属性



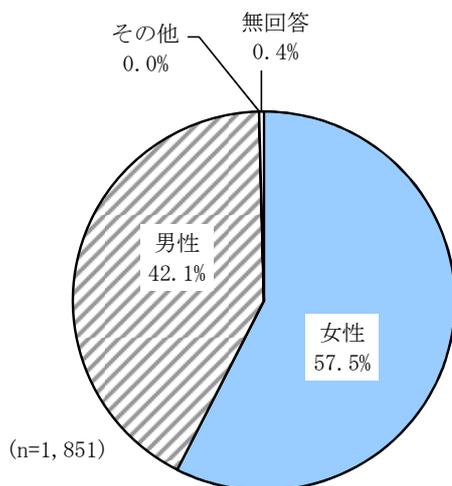
## データを解釈するうえでの留意点

本調査の回答者集団は、本市の母集団に比べて、男女ともに50歳以上の年齢層が多く、その結果、全年齢層を合わせた市全体の回答は、男女ともに50歳以上の意識がより多く反映されている。前回調査の結果と比較している設問についても、前回調査に比べてより高い年齢層の意識が多く反映されている。また、本調査の調査対象数についても前回調査（3,000人）から1,000人（男女各500人）増やし4,000人としている。

このことから本調査結果については、以上の点を考慮のうえ、解釈することが必要である。

## 1. 性別

### 【回答者の性別】



### 【参考】母集団（平成27年(2015年)9月1日現在）と 前回調査の回答率

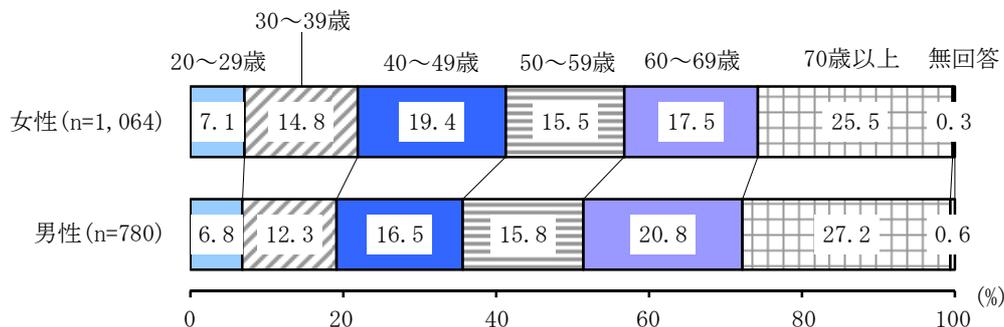
		女性	男性	その他 無回答	計
母 集 団	人口（人）	174,196	153,947	—	328,143
	構成比	53.1%	46.9%	—	100.0%
前回調査回答率・構成比		53.4%	45.0%	1.6%	100.0%

回答者の性別では、「女性」が57.5%、「男性」は42.1%で、女性の回答者の方が多くなっている。

平成27年(2015年)9月1日現在の母集団人口の構成比同様、男性に比べ女性の割合が上回っている。また、母集団に比べ、女性は4ポイント程度高く、男性は5ポイント程度低くなっている。

## 2. 年齢

### 【回答者の年齢】



### 【参考】母集団（平成27年（2015年）9月1日現在）と前回調査の回答率

		20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70歳以上	無回答	計
母集団	女性（人）	19,851	27,090	33,501	24,556	27,027	42,171	—	174,196
	構成比	11.4%	15.6%	19.2%	14.1%	<b>15.5%</b>	<b>24.2%</b>	—	100.0%
	男性（人）	19,088	25,609	32,284	23,469	24,478	29,019	—	153,947
	構成比	12.4%	16.6%	21.0%	15.2%	<b>15.9%</b>	<b>18.8%</b>	—	100.0%
前回調査回答率	女性・構成比	8.3%	17.0%	17.0%	13.9%	20.8%	23.0%	0.0%	100.0%
	男性・構成比	6.0%	15.0%	17.9%	13.9%	26.9%	20.3%	0.0%	100.0%

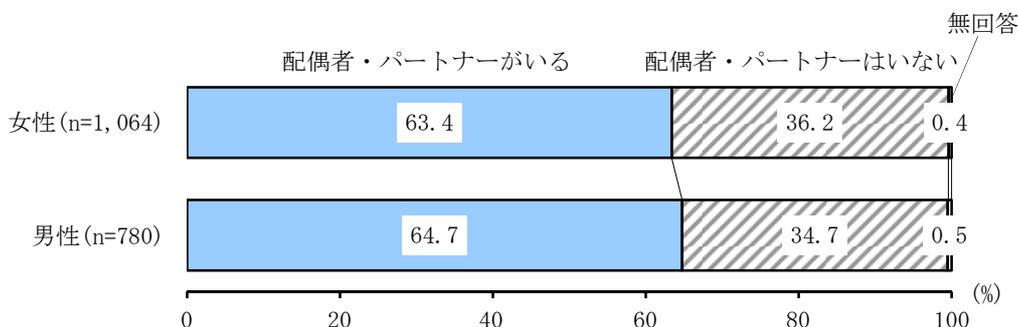
### <性別>

回答者の年齢では、女性では「70歳以上」が25.5%で最も多く、次いで「40~49歳」が19.4%、「60~69歳」が17.5%となっている。一方、男性では「70歳以上」が27.2%で最も多く、次いで「60~69歳」が20.8%、「40~49歳」が16.5%となっている。女性は男性に比べ20~40歳代の割合が高く、男性は女性に比べ50歳以上の年代の割合が高くなっている。

平成27年（2015年）9月1日現在の母集団人口の構成比に比べ、男女とも20歳代の割合が低い。30歳以上の年代では、母集団構成比に比べ女性はその差は2ポイント以下で差は小さい。一方、男性では、30歳代・40歳代の割合は母集団構成比に比べ4~5ポイント程度低く、60歳以上の年代が5~8ポイント程度高くなっている。

### 3. 配偶者・パートナーの有無

【配偶者・パートナーの有無】



#### <性別>

男女とも「配偶者・パートナーがいる」が6割台を占めており、「配偶者・パートナーはいない」では女性36.2%、男性34.7%で、女性の方が1.5ポイント高くなっている。

#### <性・年代別>

女性では、20歳代で「配偶者・パートナーはいない」が64.5%と多く、30～60歳代では「配偶者・パートナーがいる」が6～7割台を占めているが、70歳以上になると48.3%に低下し、「配偶者・パートナーはいない」が51.3%と多くなっている。

男性では、20歳代で「配偶者・パートナーはいない」が75.5%となっているが、30歳以上になると「配偶者・パートナーがいる」が6割以上を占めており、なかでも50歳代は74.0%と高くなっている。

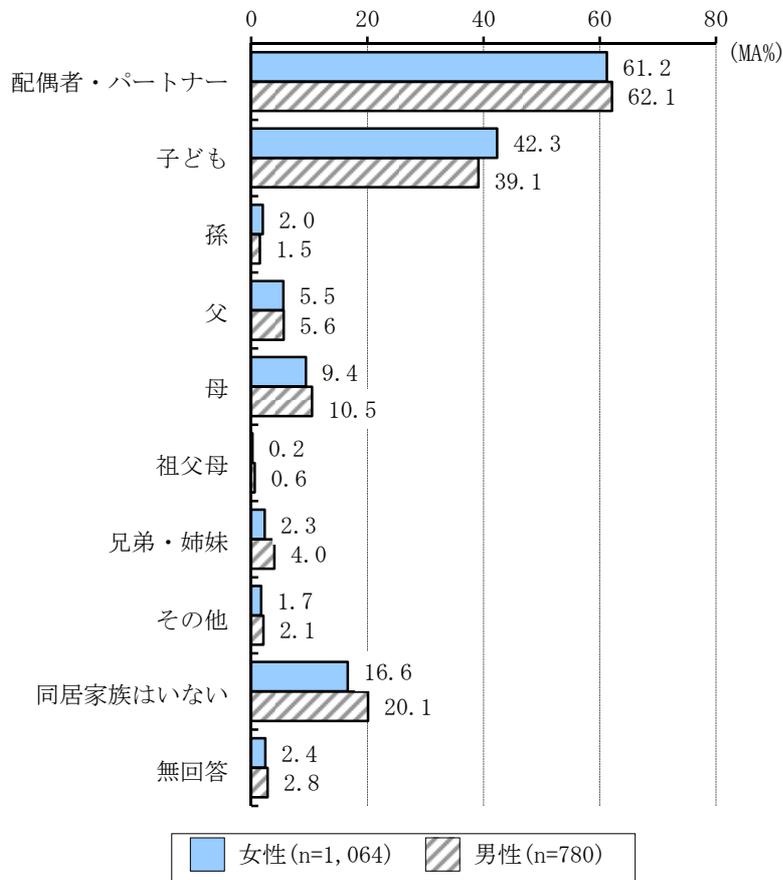
また、50歳代では「配偶者・パートナーはいない」が女性33.3%、男性26.0%で、女性の方が7.3ポイント高くなっている。

【性・年代別 配偶者・パートナーの有無】

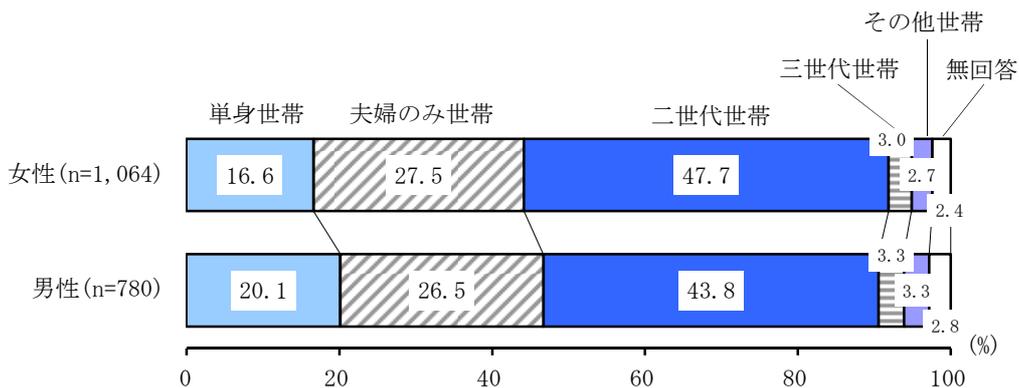
	n	配偶者・パートナーの有無		無回答	
		が配偶者・パートナーがいる	は配偶者・パートナーはいない		
全体	上段/実数 下段/%	1851 100.0	1183 63.9	657 35.5	11 0.6
女性	20歳代	76 100.0	27 35.5	49 64.5	-
	30歳代	157 100.0	122 77.7	35 22.3	-
	40歳代	206 100.0	152 73.8	54 26.2	-
	50歳代	165 100.0	108 65.5	55 33.3	2 1.2
	60歳代	186 100.0	133 71.5	52 28.0	1 0.5
	70歳以上	271 100.0	131 48.3	139 51.3	1 0.4
	男性	20歳代	53 100.0	12 22.6	40 75.5
30歳代		96 100.0	62 64.6	34 35.4	-
40歳代		129 100.0	90 69.8	39 30.2	-
50歳代		123 100.0	91 74.0	32 26.0	-
60歳代		162 100.0	113 69.8	49 30.2	-
70歳以上		212 100.0	135 63.7	77 36.3	-

## 4. 同居している家族

【同居している家族】



【家族構成】



### <性別>

同居している家族では、男女とも「配偶者・パートナー」が6割台で最も多く、次いで「子ども」が女性42.3%、男性39.1%となっている。

家族構成では、男女とも「二世帯世帯」が4割台で最も多く、次いで「夫婦のみ世帯」が2割台となっている。「単身世帯」では、女性16.6%、男性20.1%で、男性の方が3.5ポイント高くなっている。

<性・年代別>

女性では、20～50歳代で「二世世代世帯」が50%以上を占めており、特に30歳代・40歳代は7割台と高くなっている。60歳以上の各年代では、「夫婦のみ世帯」が最も多く、次いで60歳代では「二世世代世帯」、70歳以上では「単身世帯」となっている。

男性では、20～50歳代で「二世世代世帯」が最も多くなっており、60歳以上になると「夫婦のみ世帯」が最も多く、次いで「二世世代世帯」となっている。

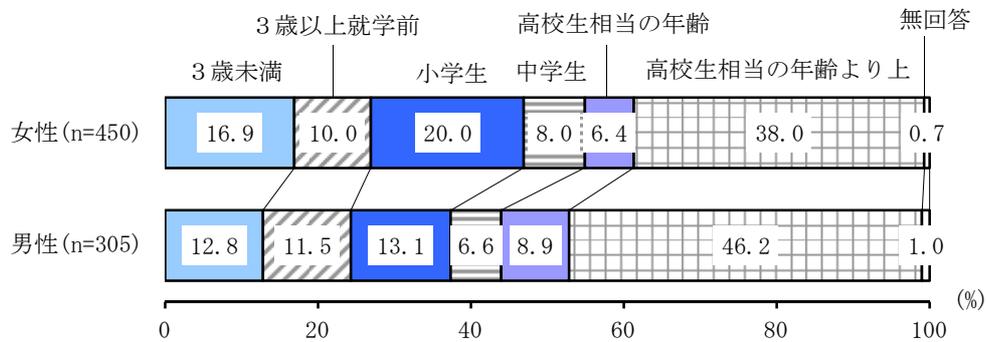
また、「単身世帯」の割合は、20～60歳代は男性の方が高くなっているが、70歳以上では女性の方が高くなっている。

【性・年代別 家族構成】

		n	単身世帯	夫婦のみ世帯	二世世代世帯	三世世代世帯	その他世帯	無回答	
全体		上段/実数 下段/%	1851 100.0	334 18.0	501 27.1	851 46.0	58 3.1	56 3.0	51 2.8
女性	20歳代	76 100.0	17 22.4	14 18.4	38 50.0	3 3.9	4 5.3	-	-
	30歳代	157 100.0	14 8.9	25 15.9	111 70.7	5 3.2	2 1.3	-	-
	40歳代	206 100.0	18 8.7	32 15.5	152 73.8	2 1.0	2 1.0	-	-
	50歳代	165 100.0	24 14.5	41 24.8	92 55.8	3 1.8	3 1.8	2 1.2	-
	60歳代	186 100.0	32 17.2	87 46.8	53 28.5	7 3.8	4 2.2	3 1.6	-
	70歳以上	271 100.0	72 26.6	94 34.7	59 21.8	12 4.4	13 4.8	21 7.7	-
	男性	20歳代	53 100.0	19 35.8	4 7.5	22 41.5	2 3.8	5 9.4	1 1.9
30歳代		96 100.0	17 17.7	14 14.6	60 62.5	2 2.1	2 2.1	1 1.0	-
40歳代		129 100.0	19 14.7	13 10.1	90 69.8	5 3.9	2 1.6	-	-
50歳代		123 100.0	18 14.6	24 19.5	72 58.5	5 4.1	2 1.6	2 1.6	-
60歳代		162 100.0	36 22.2	63 38.9	47 29.0	5 3.1	8 4.9	3 1.9	-
70歳以上		212 100.0	48 22.6	89 42.0	51 24.1	7 3.3	7 3.3	10 4.7	-

## 5. 末子の年齢

### 【末子の年齢】

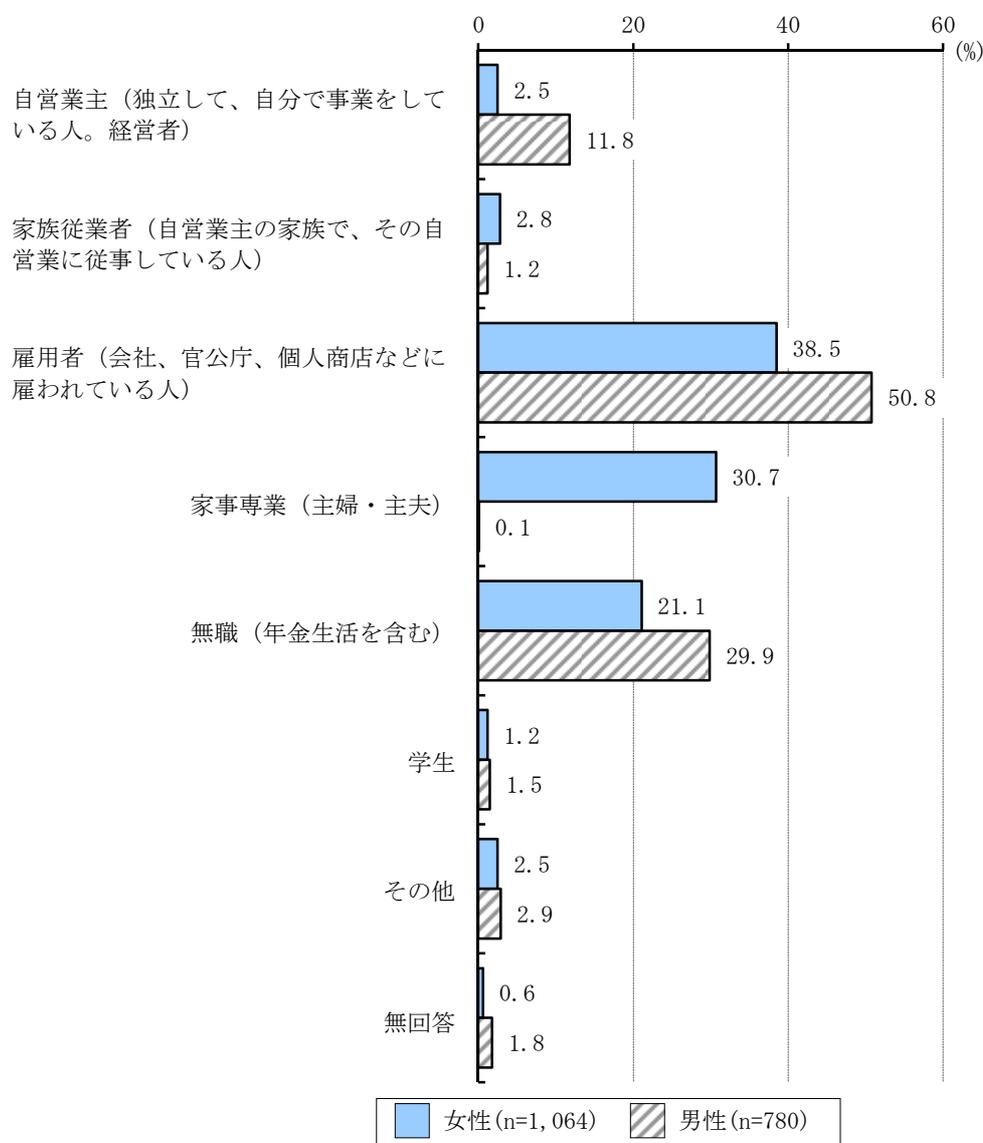


### <性別>

子どもと同居している人に、一番下の子どもの状況をたずねたところ、「高校生相当の年齢より上」が女性38.0%、男性46.2%で最も多くなっている。また、「3歳未満」は女性が16.9%で、男性（12.8%）に比べ4.1ポイント高くなっており、「小学生」では女性が20.0%で、男性（13.1%）に比べ6.9ポイント高くなっている。

## 6. 職業

### 【回答者の職業】



### <性別>

女性の職業では、「雇用者」が38.5%で最も多く、「自営業主」(2.5%)と「家族従業者」(2.8%)も含め、就労している女性は43.8%となっている。また、「家事専業(主婦・主夫)」が30.7%で2番目に多く、次いで「無職(年金生活を含む)」が21.1%となっている。一方、男性の職業では、「雇用者」が50.8%を占めており、次いで「無職(年金生活を含む)」が29.9%、「自営業主」が11.8%となっている。

<性・年代別>

女性では、20～50歳代で「雇用者」が最も多く、20歳代は68.4%と高くなっているが、30～50歳代では6割未満に低下し、「家事専業（主婦・主夫）」が3割前後となっている。60歳代は「家事専業（主婦・主夫）」が39.2%で最も多く、次いで「無職（年金生活を含む）」が25.3%、「雇用者」が24.2%となっている。70歳以上になると「無職（年金生活を含む）」が56.8%で最も多く、次いで「家事専業（主婦・主夫）」が31.0%となっている。

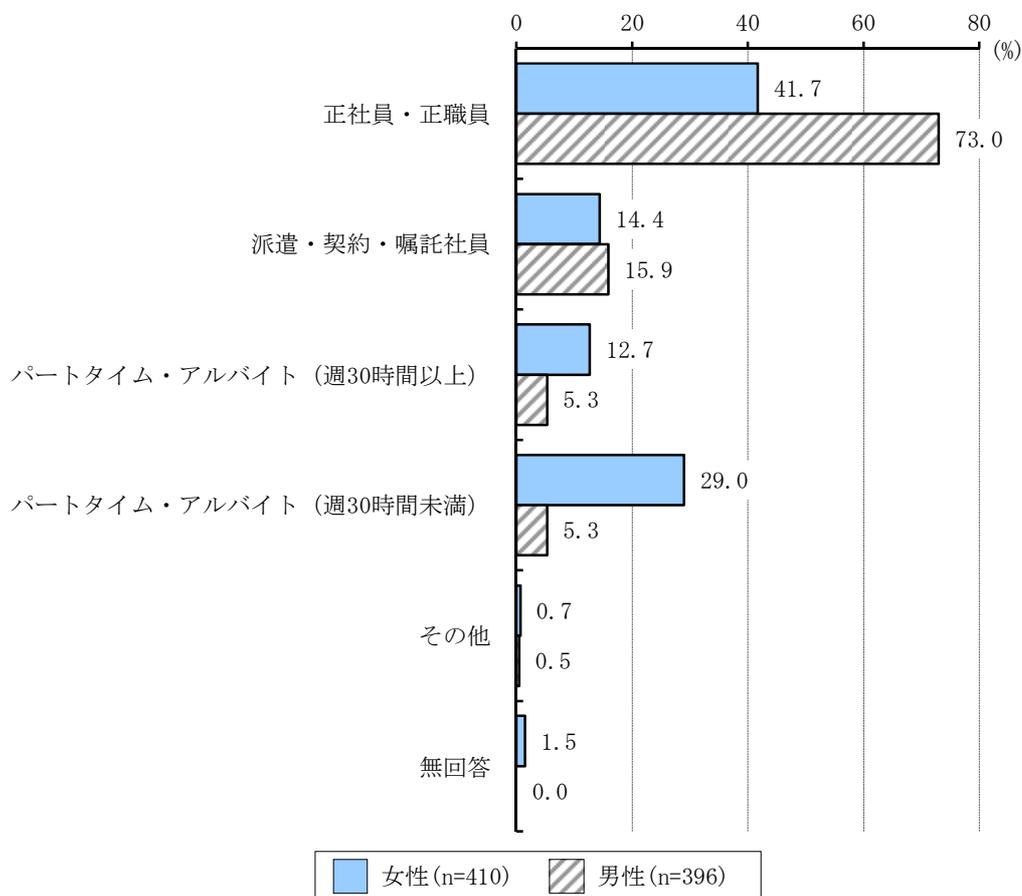
男性では、20～60歳代で「雇用者」が最も多く、30歳代・40歳代は8割台と高くなっており、女性の30～50歳代と比べ10～30ポイント程度上回っている。「雇用者」の割合は、60歳代では43.2%に低下し、「無職（年金生活を含む）」が37.0%と多くなっている。70歳以上になると、「無職（年金生活を含む）」が71.7%で最も多く、次いで「自営業主」が10.8%となっている。

【性・年代別 回答者の職業】

		n	自営業主（独立して、 自分で事業をしている 人。経営者）	家族従事者（その自営業主 に家族で、その自営業主 に従事している人）	雇用者（個人、会社、官公 庁、個人商店などに雇 われている人）	家事専業（主婦・主 夫）	無職（年金生活を含 む）	学生	その他	無回答
全体	上段/実数 下段/%	1851 100.0	119 6.4	39 2.1	806 43.5	328 17.7	461 24.9	25 1.4	50 2.7	23 1.2
女性	20歳代	76 100.0	- -	1 1.3	52 68.4	7 9.2	2 2.6	12 15.8	2 2.6	- -
	30歳代	157 100.0	3 1.9	2 1.3	90 57.3	52 33.1	5 3.2	1 0.6	4 2.5	- -
	40歳代	206 100.0	5 2.4	5 2.4	119 57.8	64 31.1	9 4.4	- -	4 1.9	- -
	50歳代	165 100.0	8 4.8	6 3.6	94 57.0	46 27.9	7 4.2	- -	4 2.4	- -
	60歳代	186 100.0	5 2.7	9 4.8	45 24.2	73 39.2	47 25.3	- -	6 3.2	1 0.5
	70歳以上	271 100.0	6 2.2	7 2.6	10 3.7	84 31.0	154 56.8	- -	5 1.8	5 1.8
	男性	20歳代	53 100.0	1 1.9	1 1.9	35 66.0	- -	3 5.7	11 20.8	1 1.9
30歳代		96 100.0	7 7.3	1 1.0	84 87.5	- -	2 2.1	- -	1 1.0	1 1.0
40歳代		129 100.0	14 10.9	3 2.3	105 81.4	- -	5 3.9	- -	2 1.6	- -
50歳代		123 100.0	22 17.9	1 0.8	85 69.1	- -	11 8.9	- -	4 3.3	- -
60歳代		162 100.0	24 14.8	- -	70 43.2	1 0.6	60 37.0	- -	6 3.7	1 0.6
70歳以上		212 100.0	23 10.8	3 1.4	17 8.0	- -	152 71.7	1 0.5	9 4.2	7 3.3

## 7. 雇用形態

【回答者の雇用形態】



### <性別>

職業を雇用者と回答した人に、雇用形態をたずねたところ、男女とも「正社員・正職員」が最も多くなっているが、女性は41.7%で男性（73.0%）に比べ31.3ポイント低くなっている。次いで、女性では「パートタイム・アルバイト（週30時間未満）」が29.0%、「派遣・契約・嘱託社員」が14.4%、「パートタイム・アルバイト（週30時間以上）」が12.7%となっており、これら非正規雇用の割合は56.1%となっている。

### <性・年代別>

女性では、20～50歳代で「正社員・正職員」が最も多くなっているが、年代が上がるとともにその割合は低下し、「パートタイム・アルバイト（週30時間未満）」が40歳代・50歳代で3割台、60歳以上になると5割台になっている。

男性では、20～50歳代で「正社員・正職員」が7～8割台と最も多くなっているが、60歳以上になると2割台に低下し、「派遣・契約・嘱託社員」が4割台で最も多くなっている。

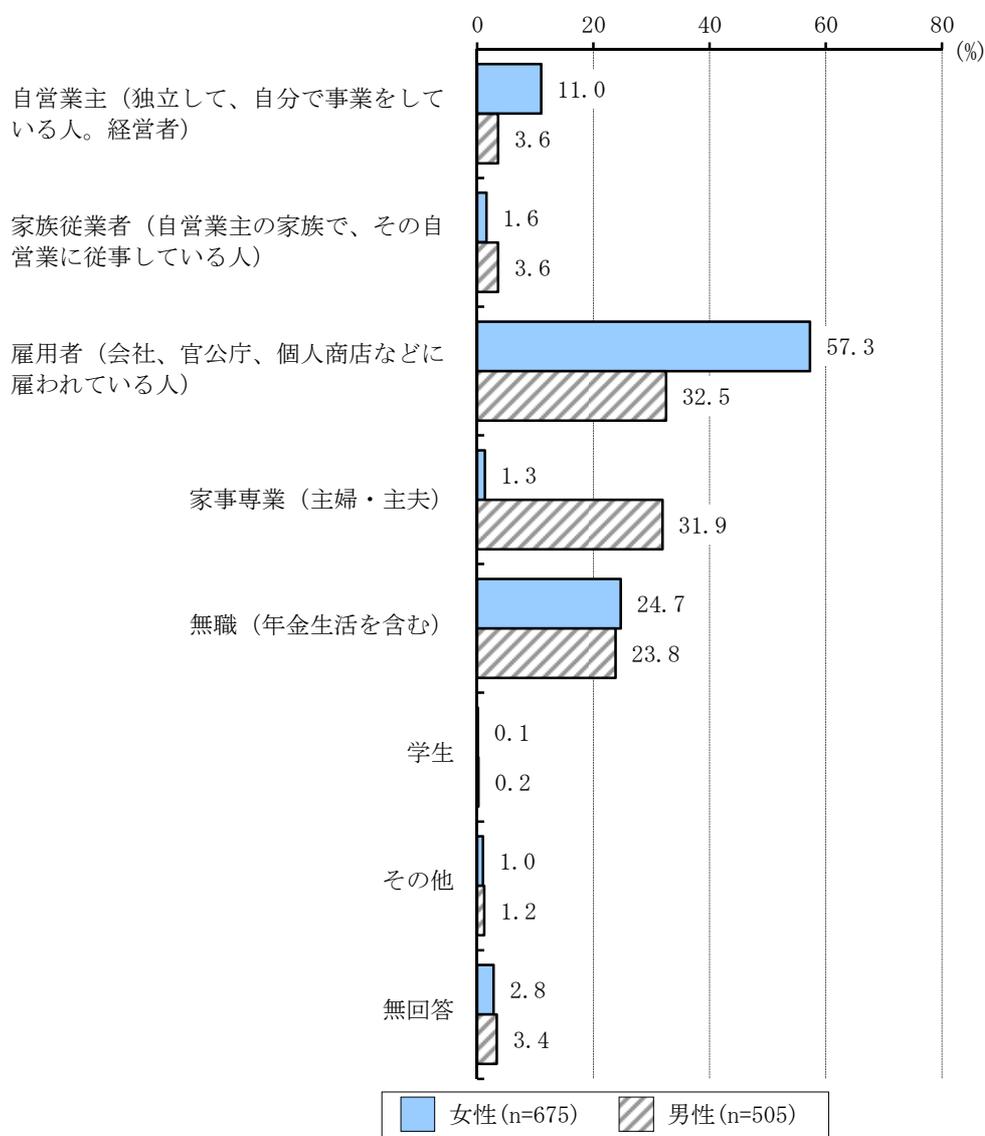
男女とも60歳代を境に正規雇用から非正規雇用へと移行しているが、「正社員・正職員」の割合は、女性では年齢の上昇とともに低下しているのに対し、男性の場合、30歳代以降は、その割合はあまり変化していない。

【性・年代別 回答者の雇用形態】

		n	正社員・正職員	派遣・契約・嘱託社員	パートタイム・アルバイト（週30時間未満）	パートタイム・アルバイト（週30時間未満）	その他	無回答
全体	上段/実数	806	460	122	73	140	5	6
	下段/%	100.0	57.1	15.1	9.1	17.4	0.6	0.7
女性	20歳代	52	34	6	5	6	-	1
		100.0	65.4	11.5	9.6	11.5	-	1.9
	30歳代	90	49	13	10	17	-	1
		100.0	54.4	14.4	11.1	18.9	-	1.1
	40歳代	119	46	20	14	36	1	2
		100.0	38.7	16.8	11.8	30.3	0.8	1.7
	50歳代	94	33	15	14	30	1	1
	100.0	35.1	16.0	14.9	31.9	1.1	1.1	
60歳代	45	8	4	6	25	1	1	
	100.0	17.8	8.9	13.3	55.6	2.2	2.2	
70歳以上	10	1	1	3	5	-	-	
	100.0	10.0	10.0	30.0	50.0	-	-	
男性	20歳代	35	27	1	5	2	-	-
		100.0	77.1	2.9	14.3	5.7	-	-
	30歳代	84	71	10	3	-	-	-
		100.0	84.5	11.9	3.6	-	-	-
	40歳代	105	93	8	2	2	-	-
		100.0	88.6	7.6	1.9	1.9	-	-
	50歳代	85	75	7	3	-	-	-
	100.0	88.2	8.2	3.5	-	-	-	
60歳代	70	19	30	7	13	1	-	
	100.0	27.1	42.9	10.0	18.6	1.4	-	
70歳以上	17	4	7	1	4	1	-	
	100.0	23.5	41.2	5.9	23.5	5.9	-	

## 8. 配偶者・パートナーの職業

【配偶者・パートナーの職業】



### <性別>

女性本人の配偶者・パートナーの職業では、「雇用者」が57.3%で最も多く、次いで「無職 (年金生活を含む)」が24.7%、「自営業主」が11.0%となっている。一方、男性本人の配偶者・パートナーの職業では、「雇用者」が32.5%で最も多く、次いで「家事専業 (主婦・主夫)」が31.9%、「無職 (年金生活を含む)」が23.8%となっている。

<性・年代別>

女性では、20～50歳代で「雇用者」が7～9割台と最も多く、60歳代になると26.3%に低下しており、「無職（年金生活を含む）」が60歳以上の年代で最も多くなっている。

男性では、20歳代は「雇用者」が66.7%、30歳代では「家事専業（主婦・主夫）」が50.0%で最も多く、次いで「雇用者」が41.9%となっている。40歳代・50歳代は「雇用者」が4～5割台で最も多く、次いで「家事専業（主婦・主夫）」が3割台となっている。60歳代では「家事専業（主婦・主夫）」が34.5%で最も多く、次いで「無職（年金生活を含む）」が27.4%、「雇用者」が25.7%となっている。70歳以上になると「無職（年金生活を含む）」が58.5%を占めており、次いで「家事専業（主婦・主夫）」が17.0%となっている。

【性・年代別 配偶者・パートナーの職業】

	n	配偶者・パートナー								
		経営者 （分業主として 営業者）	家族 （営業者）	家族 （営業者）	個人 （人）	雇用者 （会社、官公庁、 個人商店などに 雇われ、	家事 専業 （主婦・主夫）	無職 （年金生活を含む）	学生	その他
全体	1183	92	29	551	170	289	2	13	37	
上段/実数	100.0	7.8	2.5	46.6	14.4	24.4	0.2	1.1	3.1	
下段/%										
女性 （本人）	20歳代	27	-	24	1	1	-	-	1	
		100.0	-	88.9	3.7	3.7	-	-	3.7	
	30歳代	122	4	114	-	1	1	-	1	
		100.0	3.3	93.4	-	0.8	0.8	-	0.8	
	40歳代	152	20	124	-	3	-	-	2	
		100.0	13.2	81.6	-	2.0	-	-	1.3	
	50歳代	108	16	79	-	8	-	2	1	
	100.0	14.8	73.1	-	7.4	-	1.9	0.9		
60歳代	133	24	35	1	63	-	4	4		
	100.0	18.0	26.3	0.8	47.4	-	3.0	3.0		
70歳以上	131	10	9	7	91	-	1	10		
	100.0	7.6	6.9	5.3	69.5	-	0.8	7.6		
男性 （本人）	20歳代	12	-	8	3	1	-	-	-	
		100.0	-	66.7	25.0	8.3	-	-	-	
	30歳代	62	1	26	31	2	-	-	-	
		100.0	1.6	41.9	50.0	3.2	-	-	-	
	40歳代	90	3	50	30	1	1	1	1	
		100.0	3.3	55.6	33.3	1.1	1.1	1.1	1.1	
	50歳代	91	1	42	35	6	-	2	1	
	100.0	1.1	46.2	38.5	6.6	-	2.2	1.1		
60歳代	113	7	29	39	31	-	2	3		
	100.0	6.2	25.7	34.5	27.4	-	1.8	2.7		
70歳以上	135	6	9	23	79	-	1	11		
	100.0	4.4	6.7	17.0	58.5	-	0.7	8.1		

<女性本人の職業別>

女性本人が自営業主・家族従業者では、配偶者・パートナーは「自営業主」が72.1%で最も多くなっている。女性本人が雇用者では、配偶者・パートナーも「雇用者」が83.6%を占めており、共働き世帯が多くなっている。女性本人が家事専業・無職・学生では、配偶者・パートナーは「雇用者」が46.8%で最も多く、次いで「無職（年金生活を含む）」が39.0%となっている。

【性・回答者本人（女性）の職業別 配偶者・パートナーの職業】

	n	配偶者・パートナー								
		経営者 （自営業主）	自営業主 （独立して いる人）	家族従業者 （自営業主 の従業者）	個人商店 （会社、官 公庁に 雇われて いる人）	雇用者 （主婦・主 夫）	家事専業 （主婦・主 夫）	無職 （年金生活 を含む）	学生	その他
全体	675	74	11	387	9	167	1	7	19	
上段/実数	100.0	11.0	1.6	57.3	1.3	24.7	0.1	1.0	2.8	
下段/%										
女性 （本人）	自営業主・家族従業者	43	31	3	3	-	5	-	1	-
		100.0	72.1	7.0	7.0	-	11.6	-	2.3	-
	雇用者	244	15	3	204	-	15	1	1	5
		100.0	6.1	1.2	83.6	-	6.1	0.4	0.4	2.0
女性 （本人）	家事専業・無職・学生	374	25	5	175	9	146	-	2	12
		100.0	6.7	1.3	46.8	2.4	39.0	-	0.5	3.2
女性 （本人）	その他	13	3	-	5	-	1	-	3	1
		100.0	23.1	-	38.5	-	7.7	-	23.1	7.7

<男性本人の職業別>

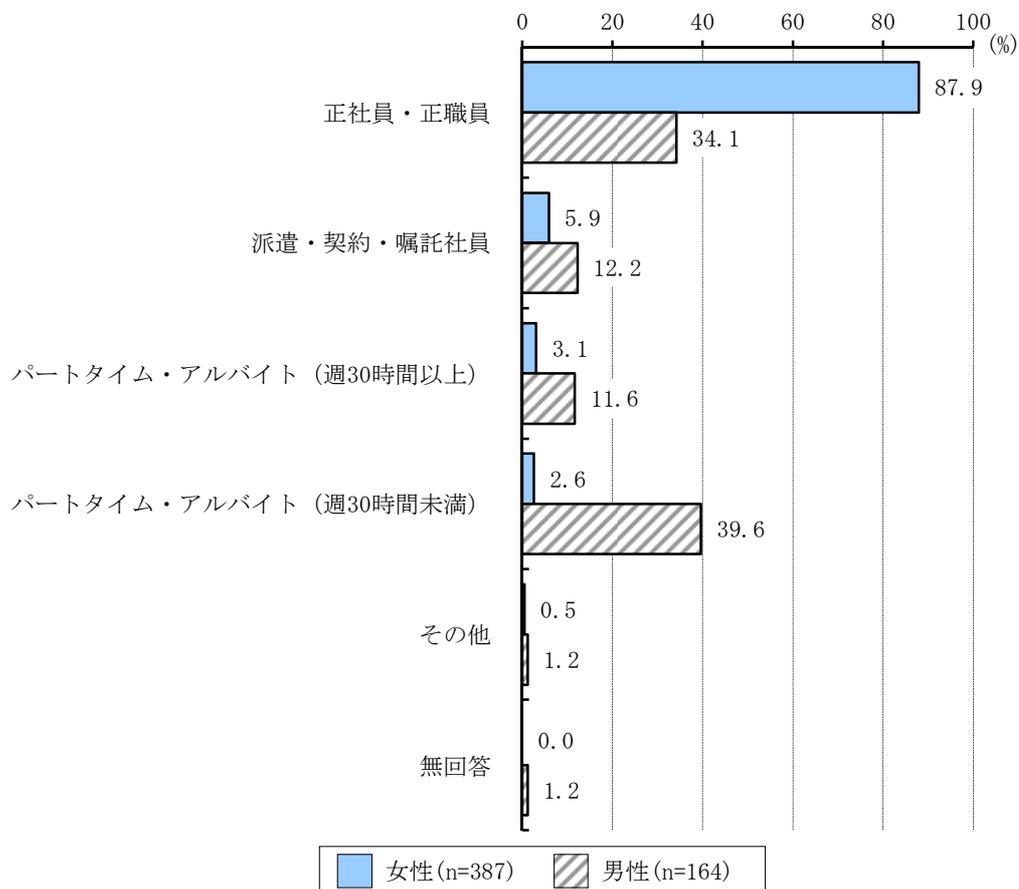
男性本人が自営業主・家族従業者では、配偶者・パートナーは「雇用者」が30.8%で最も多く、次いで「家事専業（主婦・主夫）」が25.6%、「家族従業者」が21.8%となっている。男性本人が雇用者では、配偶者・パートナーは「雇用者」が46.8%で最も多く、次いで「家事専業（主婦・主夫）」が43.4%となっている。男性本人が家事専業・無職・学生では、配偶者・パートナーは「無職（年金生活を含む）」が67.8%で最も多く、次いで「家事専業（主婦・主夫）」が14.7%となっている。

【性・回答者本人（男性）の職業別 配偶者・パートナーの職業】

	n	配偶者・パートナー									
		経営者 （自営業主 を して いる 人）	分業 主 （ 立 て て い る 人）	自 営 業 主 （ 自 営 業 に 従 事 し て い る 人）	家 族 従 業 者 （ 自 営 業 に 従 事 し て い る 人）	家 族 従 業 者 （ 自 営 業 に 従 事 し て い る 人）	個 人 商 店 な ど に 雇 わ れ て い る 人	雇 用 者 （ 会 社 、 官 公 庁 、 等 に 雇 わ れ て い る 人）	家 事 専 業 （ 主 婦 ・ 主 夫 ）	無 職 （ 年 金 生 活 を 含 む ）	学 生
全体	上段/実数 下段/%	505 100.0	18 3.6	18 3.6	164 32.5	161 31.9	120 23.8	1 0.2	6 1.2	17 3.4	
男性 （本人）	自営業主・家族従業者	78 100.0	8 10.3	17 21.8	24 30.8	20 25.6	3 3.8	1 1.3	1 1.3	4 5.1	
	雇用者	267 100.0	5 1.9	1 0.4	125 46.8	116 43.4	16 6.0	-	3 1.1	1 0.4	
	家事専業・無職・学生	143 100.0	5 3.5	-	12 8.4	21 14.7	97 67.8	-	-	8 5.6	
	その他	13 100.0	-	-	3 23.1	4 30.8	4 30.8	-	2 15.4	-	

## 9. 配偶者・パートナーの雇用形態

【配偶者・パートナーの雇用形態】



### <性別>

配偶者・パートナーの職業が雇用者と回答した人に、配偶者・パートナーの雇用形態をたずねたところ、女性本人の配偶者・パートナーでは「正社員・正職員」が87.9%を占めている。一方、男性本人の配偶者・パートナーでは「パートタイム・アルバイト (週30時間未満)」が39.6%で最も多く、「派遣・契約・嘱託社員」(12.2%)、「パートタイム・アルバイト (週30時間以上)」(11.6%)も合わせた非正規雇用の割合は63.4%を占めているが、「正社員・正職員」は34.1%で2番目に多くなっている。

<性・年代別>

20～60歳代の女性では、配偶者・パートナーは「正社員・正職員」が最も多くなっているが、60歳代では45.7%に低下しており、「派遣・契約・嘱託社員」や「パートタイム・アルバイト（週30時間以上）」「パートタイム・アルバイト（週30時間未満）」が上昇している。

20歳代の男性では、配偶者・パートナーが「正社員・正職員」は75.0%、30歳代では61.5%となっている。40～60歳代では「パートタイム・アルバイト（週30時間未満）」が5割程度で最も多くなっている。

【性・年代別 配偶者・パートナーの雇用形態】

	n	配偶者・パートナー						
		正社員・正職員	派遣・契約・嘱託社員	パート（週30時間以上）	パート（週30時間未満）	その他	無回答	
全体	上段/実数 下段/%	551 100.0	396 71.9	43 7.8	31 5.6	75 13.6	4 0.7	2 0.4
女性 (本人)	20歳代	24 100.0	22 91.7	1 4.2	1 4.2	-	-	-
	30歳代	114 100.0	112 98.2	1 0.9	1 0.9	-	-	-
	40歳代	124 100.0	123 99.2	-	1 0.8	-	-	-
	50歳代	79 100.0	63 79.7	11 13.9	4 5.1	1 1.3	-	-
	60歳代	35 100.0	16 45.7	6 17.1	5 14.3	7 20.0	1 2.9	-
	70歳以上	9 100.0	2 22.2	4 44.4	-	2 22.2	1 11.1	-
	男性 (本人)	20歳代	8 100.0	6 75.0	1 12.5	1 12.5	-	-
30歳代		26 100.0	16 61.5	6 23.1	2 7.7	2 7.7	-	-
40歳代		50 100.0	17 34.0	4 8.0	4 8.0	25 50.0	-	-
50歳代		42 100.0	11 26.2	4 9.5	6 14.3	21 50.0	-	-
60歳代		29 100.0	4 13.8	3 10.3	4 13.8	14 48.3	2 6.9	2 6.9
70歳以上		9 100.0	2 22.2	2 22.2	2 22.2	3 33.3	-	-

### Ⅲ. 調査結果の概要



## 1. 日常生活や社会全般について

### (1) 日常生活や社会全般についての考え方〔問6〕

- ・前回調査（平成22年(2010年)）の結果に比べ、全体的に男女の固定的な役割を肯定する考えから固定観念にとらわれない自由な回答が増加傾向にある。
- ・結婚について、「⑦結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない」「⑧結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい」の『肯定派』は、女性の割合が男性に比べ10ポイント以上高い。
- ・子どもを育てることについて、男女とも「④自分の子どもには、男女にかかわらず同程度の教育・学歴を身につけさせたい」の『肯定派』が9割前後を占め、子どもの教育に関しては共通の考え方を持っている反面、「⑤子どもが3歳くらいまでは母親のもとで育てる方がよい」は女性の割合が、「③男の子は男らしく、女の子は女らしく育てる方がよい」は男性の割合がそれぞれ高く、子育て過程においては、男女とも伝統的な考えが根強い面もみられる。
- ・男性の場合、「①妻や子どもを養うのは、男性の責任である」や「②結婚したら、妻が夫の姓を名乗るのは当然だ」の『肯定派』の各割合も女性に比べ10ポイント以上高く、伝統的な家族観が強くなっている。

## 2. 家庭生活について

### (1) 性別役割分担意識について〔問7〕

- ・男女とも「男性は仕事、女性は家事・育児」という考え方に対し、『反対派』よりも『賛成派』の方が多い。
- ・『賛成派』の割合は、女性は5割弱に対し男性6割、『反対派』の割合は、女性4割に対し男性3割弱となっており、固定的な性別役割分担意識は男性で強くなっている。
- ・前回調査（平成22年(2010年)）の結果に比べ、『賛成派』は女性で8.3ポイント、男性で10.9ポイント減少しているのに対し、『反対派』は男女とも7ポイント程度増加している。

### (2) 性別役割分担意識について賛成の理由〔問7-1〕

- ・男女とも「子どもの成長にとってよいと思うから」が最も多い。次いで、女性では「個人的にそうありたいと思うから」が、男性では「役割分担をした方が効率がよいと思うから」が多くなっている。

### (3) 性別役割分担意識について反対の理由〔問7-2〕

- ・男女とも「男女がともに仕事と家庭の両方に関わる方が、各個人、家庭にとってよいと思うから」が最も多い。

#### (4) 家庭での分担〔問8〕

【理想】 育児については、女性は夫婦・カップルで同じくらいが理想に対し、男性は女性の役割が理想

- ・「①生活費を得る」は、男女とも「主に夫・パートナー（男性）」が最も多い。
- ・「②家計の管理」と「③日常の家事（食事のしたく、掃除、洗濯）」では、男女とも「主に妻・パートナー（女性）」が最も多く、両項目とも女性に比べ男性の方が多くなっている。
- ・「④育児」は、女性が「夫婦・カップルで同じくらい」が50%以上を占めているのに対し、男性は「主に妻・パートナー（女性）」が最も多くなっている。
- ・「⑤高齢者、病人の介護・看護」では、男女とも「夫婦・カップルで同じくらい」が多く、男女間の差は小さい。

【現実】 育児・介護は主に女性の役割、生活費を得ることは男性の役割が現実

- ・「①生活費を得る」は、男女とも「主に夫・パートナー（男性）」が7割台を占めている。
- ・「②家計の管理」や「③日常の家事（食事のしたく、掃除、洗濯）」「④育児」では、男女とも「主に妻・パートナー（女性）」が50%以上を占めている。
- ・「⑤高齢者、病人の介護・看護」について、女性は「主に妻・パートナー（女性）」が最も多く、男性は「夫婦・カップルで同じくらい」が最も多い。

#### (5) 各分野での男女平等感〔問9〕

- ・「⑦社会通念・慣習・しきたりで」「⑧社会全体で」「⑤政治の場で」「②職場で」では、男女とも『男性優遇』の割合が高い。
- ・「③学校教育の場（児童・生徒の立場から）」では「平等になっている」が男女ともに最も多くなっている。
- ・「①家庭生活で」や「④法律や制度で」「⑥自治会やNPOなどの地域活動・社会活動の場で」などにおいては、女性の『男性優遇』の割合が高い。
- ・前回調査（平成22年(2010年)）の結果に比べ、「①家庭生活で」と「⑥自治会やNPOなどの地域活動・社会活動の場で」は、男性で『男性優遇』の割合が減少する一方、「④法律や制度で」については、男女とも「平等」が減少し『男性優遇』が増加している。

### 3. 地域活動について

#### (1) 地域活動の参加状況〔問10〕

- ・現在地域活動に参加している割合は男性に比べ女性の方が高く、男女とも活動内容は「自治会・町内会の活動」や「地域における趣味・スポーツ・学習の活動」「PTAや子ども会の活動」が多い。特に「PTAや子ども会の活動」は、男性に比べ女性の割合の方が高く、男性の活動への参加は低い。
- ・今後（または引き続き）何らかの地域活動に参加したい人は3人に1人で、男女

とも「地域における趣味・スポーツ・学習の活動」や「NPO（非営利団体）やボランティアの活動」「自治会・町内会の活動」などが多くなっている。

## （2）地域活動に参加したくない理由〔問10-1〕

- ・男女とも「仕事が忙しいから」が最も多く、次いで、男女とも「参加するきっかけがないから」と「あまり関心がないから」となっている。
- ・女性では男性に比べ、「家事・育児・介護で忙しいから」が、男性では女性に比べ、「仕事が忙しいから」「あまり関心がないから」「一緒に参加する仲間がいない」が、それぞれ高くなっている。
- ・前回調査（平成22年（2010年））の結果に比べ、男女とも「仕事が忙しいから」「あまり関心がないから」が増加している。

## 4. 男性の家事、子育て、介護、地域活動の参加について

### （1）男性が家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくために必要なこと〔問11〕

- ・男女とも「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」が最も多く、また男性では、これに次いで「労働時間短縮や休暇制度を普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること」が多くなっている。
- ・女性では男性に比べ、「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」や「年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担等についての当事者の考え方を尊重すること」「社会の中で、男性による家事、子育て、介護、地域活動についても、その評価を高めること」が高くなっている。

## 5. 高齢期の生活について

### （1）高齢期の生活の不安〔問12〕

- ・男女とも「健康で過ごせるか」が最も多く、次いで「経済的にやっていけるか」「病気や寝たきりになったとき、世話を頼める人がいるか」など、健康面や経済面で不安を抱く人が多い。

### （2）高齢期を生き生きと送るためにやってみたいこと〔問13〕

- ・男女とも「趣味の活動やスポーツ、旅行」が最も多く、次いで、女性では「孫など家族との団らん」が、男性では「働くこと」が多くなっている。
- ・「ボランティア活動」や「地域の老人クラブ活動」「自治会・町内会の活動」は、男女とも15%未満で、いずれも女性の割合が高くなっている。

## 6. 仕事について

### (1) 雇用の場における男女平等感〔問 14〕

- ・「④昇進・昇格、管理職への登用」と「③昇給や賃金水準」では『男性優遇』の割合が高く、男女ともそれぞれ5割台と4割台が『男性優遇』と答えている。
- ・「①採用・募集」と「②仕事の内容、仕事の分担」においては、男女とも「平等になっている」が最も多くなっているが、男性は『男性優遇』の割合が4割前後となっている。
- ・「⑤研修の機会や内容」と「⑥働き続けやすい雰囲気」においては、男女とも「平等になっている」が4～5割台で最も多くなっている。
- ・「⑦育児・介護休暇のとりやすさ」においては、男女とも『女性優遇』の割合が高くなっている。
- ・前回調査（平成22年(2010年)）の結果に比べ、「⑦育児・介護休暇のとりやすさ」を除く、各項目で『男性優遇』が減少し、「平等」が増加している。

### (2) 仕事や家事・育児・介護等に要する時間〔問 15〕

- ・平日の仕事に要する時間は、8時間未満は女性の方が、10時間以上は男性の方がそれぞれ多くなっている。
- ・平日の家事・育児・介護等に要する時間は、女性は「5時間以上」が最も多いのに対し、男性は「ほとんどない」が最も多い。休日でもこの傾向は変わらず、女性は「5時間以上」、男性は「ほとんどない」がそれぞれ最も多い。

### (3) 希望する暮らし方〔問 16〕

- ・女性では「家庭生活を優先したい」「仕事と家庭生活をともに優先したい」「家庭生活と地域・個人の生活をともに優先したい」の順で多くなっている。
- ・男性では「仕事と家庭生活をともに優先したい」「家庭生活を優先したい」「仕事と家庭生活と地域・個人の生活をともに優先したい」の順で多くなっている。

### (4) 現実の生活〔問 17〕

- ・女性では「家庭生活を優先している」が最も多く、次いで「仕事を優先している」と「仕事と家庭生活をともに優先している」の順で多くなっている。
- ・男性では「仕事を優先している」「家庭生活を優先している」「仕事と家庭生活をともに優先している」の順で多くなっている。
- ・女性の場合は、現実には「仕事」または「家庭生活」のいずれかを優先せざるを得ない人が多い。男性は「家庭生活」よりも「仕事」を優先せざるを得ない人が多い。

### (5) 働いていない理由〔問 18〕

- ・女性では「健康上の問題」「家事や育児をしている」が多くなっている。
- ・男性では「定年退職した」「健康上の問題」が多くなっている。

## (6) 就労の希望〔問 19〕

- ・男女とも問19では60歳以上の回答者が多いことを背景に、「仕事につきたいと思わない」が最も多く、女性に比べ男性の割合の方が高くなっている。
- ・『仕事につきたい』割合は、男性に比べ女性の方が高くなっている。

## (7) 仕事につく上での不安〔問 19-1〕

- ・女性では「家事、育児、介護との両立ができるか」が、男性では「自分のしたい仕事につけるか」がそれぞれ最も多くなっている。
- ・男性では「自分のしたい仕事につけるか」と「自分の資格や能力が通用するか」が女性に比べ10ポイント以上高い一方、「家事、育児、介護との両立ができるか」や「保育所・園、学童保育などを利用できるか」では女性の割合に比べ低くなっている。

## (8) 働く上で大切なこと〔問 20〕

- ・男女とも「生活状況に応じて柔軟な働き方を選ぶことができること」が最も多くなっている。
- ・これに次いで、女性では「男女が協力して家事や育児・介護などをする事」「介護、育児休業がとりやすい職場の雰囲気があること」が多く、「保育所・園、学童保育などの保育環境が整っていること」や「残業がない、あるいは少ないこと」「職場に介護、育児休業制度があること」も男性に比べ女性の割合の方が高くなっている。
- ・男性は「厚生年金など社会保障が整っていること」が2番目に多く、女性に比べ高くなっている。

## 7. 男女の人権について

### (1) 配偶者等からの暴力（ドメスティック・バイオレンス DV）に対する認識〔問 21〕

- ・前回調査（平成22年(2010年)）の結果に比べ、男女とも、すべての項目で、「どんな場合でも暴力にあたると思う」との回答が増加している。
- ・女性では、「①何を言っても長期間無視される」以外の項目は「どんな場合でも暴力にあたると思う」が50%以上を占めている。
- ・男性では、「①何を言っても長期間無視される」や「②大声でどなられる」「⑤実家の親・きょうだい、友人との付き合いをいやがられたり、禁止される」以外の項目では「どんな場合でも暴力にあたると思う」が最も多くなっている。
- ・「どんな場合でも暴力にあたると思う」では、身体的暴力のうち、きわめて暴力性が激しい「⑩身体を傷つける可能性のあるもので、たたかれる」「⑫骨折をしたり、鼓膜がやぶれたりするほどの暴力をふるわれる」「⑬命の危険を感じるほどの暴行をされる」が、順位は若干異なるものの、男女とも上位を占め、8～9割になっ

ている。激しい暴力性を伴う身体的暴力については、「暴力である」との認識が深まっているといえる。

## (2) 配偶者等からの暴力（ドメスティック・バイオレンス DV）の経験

### 〔問 22〕

- ・すべての項目で、男女とも「まったくない」が50%以上を占めている。
- ・DVを受けた人では、男女とも「②大声でどなられる」が「10～20歳代にあった」「30歳代以上にあった」で最も高く、また男性に比べ女性の方が高くなっている。
- ・「30歳代以上にあった」では、ほぼすべての項目で女性の方が暴力を受けた率は高くなっている。

## (3) 配偶者等からの暴力（ドメスティック・バイオレンス DV）の相談状況

### 〔問 23〕

- ・男女とも「相談しようと思わなかった」が最も多くなっている。
- ・相談相手は、女性では「友人・知人」が最も多く、男性では「家族や親族」が最も多くなっている。
- ・公的相談機関等は、ほとんど利用されていない状況である。

## (4) 相談しなかった理由〔問 24〕

- ・男女とも「相談するほどのことではないと思ったから」が最も多く、次いで「自分にも悪いところがあると思ったから」となっている。
- ・これに次いで、女性では「自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」の割合が男性に比べ高くなっている。

## (5) セクシュアル・ハラスメントについて〔問 25〕

- ・セクシュアル・ハラスメントに該当する行為については、前回調査（平成22年（2010年））の結果と傾向はあまり変わらず、男女とも「キスやセックスの強要など性的な行為を迫られる」が最も多く、「故意に身体にふれられる」や「しつこく交際を求められる」「職場にヌードポスター・ヌードカレンダーなどをはられる」「昇進や商取引などを利用して性的な関係を迫られる」「着替え中の更衣室に、異性に入られる」「性的な冗談やひわいなことを話題にされる」などは男女とも5割前後を占めている。
- ・職場でセクシュアル・ハラスメントを受けた経験は、女性では「忘年会などでお酌・デュエット・ダンスなどを強要される」が最も多く、次いで「性的な冗談やひわいなことを話題にされる」「故意に身体にふれられる」「容姿について、あれこれ聞かれる・話題にされる」の順で多くなっている。男性では、具体的な被害経験は女性に比べ少なく、「どれもあたらない（どれも無い）」が最も多い。
- ・学校でセクシュアル・ハラスメントを受けた経験は、男女とも「どれもあたらない（どれも無い）」が15%台で最も多く、被害経験のある人では、「容姿について、あれこれ聞かれる・話題にされる」が男女とも最も多くなっている。

- ・地域等でセクシュアル・ハラスメントを受けた経験は、男女とも「どれもあたら  
ない（どれもない）」が15%台で最も多く、被害経験のある人では、「身体をじろ  
じろ見られる」が男女とも最も多くなっている。

#### (6) 男性で「男もつらい」と感じることの有無〔問 26〕

- ・「男もつらい」と感じるものが「ある」男性が60.1%に対し、「ない」は32.1%と  
なっている。

#### (7) 男もつらいと感じること〔問 26-1〕

- ・男性がつらいと感じることは、「仕事の責任が大きい、仕事できて当たり前だと  
言われる」が最も多く、次いで「なにかにつけ「男だから」「男のくせに」と言わ  
れる」「自分のやりたい仕事を自由に選べないことがある」「妻子を養うのは男の  
責任だと言われる」の順で多くなっている。

## 8. 男女共同参画社会の実現について

### (1) 市が力を入れていくべきこと〔問 27〕

- ・女性は「子育てや介護中であっても仕事が続けられるよう支援する」が最も多く、  
次いで「高齢者の施設や介護サービスを充実させる」「子育てや介護等でいったん  
仕事を辞めた人の再就職を支援する」「保育の施設・サービスを充実させる」が続  
いている。女性では家事・育児・介護といった性別役割分担における女性役割と  
それらと仕事との両立についての項目が上位に挙がっている。
- ・男性においても、女性が上位4つに挙げた項目が、若干順位は異なるものの上位  
を占めている。

### (2) 「女性の活躍が推進されている」状態に関する意見〔問 28〕

- ・男女とも「出産しても、子育て期間中でも仕事を続ける女性が増えること」が最  
も多く、次いで「退職した後、再就職しても、また正社員になる可能性が開かれ  
ていること」となっており、どちらも男性に比べ女性の割合の方が高くなってい  
る。
- ・「仕事や家庭、地域活動などに男女の固定的な役割分担がないこと」でも、女性の  
割合の方が高くなっている。

### (3) 政治・経済・地域などの各分野で女性のリーダーを増やすときに障害となるもの 〔問 29〕

- ・男女とも「保育・介護の支援などの公的サービスが十分ではないこと」が最も多  
く、次いで、「保育・介護・家事などにおける夫などの家族の支援が十分ではない  
こと」「上司・同僚・部下となる男性や顧客が女性リーダーを希望しないこと」な  
どとなっている。

- ・「現時点では、必要な知識や経験などを持つ女性が少ないこと」「女性自身がリーダーになることを希望しないこと」といった女性に原因があるとする見方については、男性の割合の方が高くなっている。

#### (4) 防災・災害対応における性別に配慮した対応で必要と思うもの〔問 30〕

- ・男女とも「避難所の設備（男女別のトイレ、更衣室、授乳室、洗濯干場等）」が最も多く、次いで「災害時の救援医療体制（乳幼児、高齢者、障害者、妊産婦のサポート体制）」「避難所運営の責任者に男女がともに配置され、避難所運営や被災者対応に男女両方の視点が入ること」となっており、すべての項目で男性に比べ女性の方が高くなっている。

## IV. 調査結果の分析



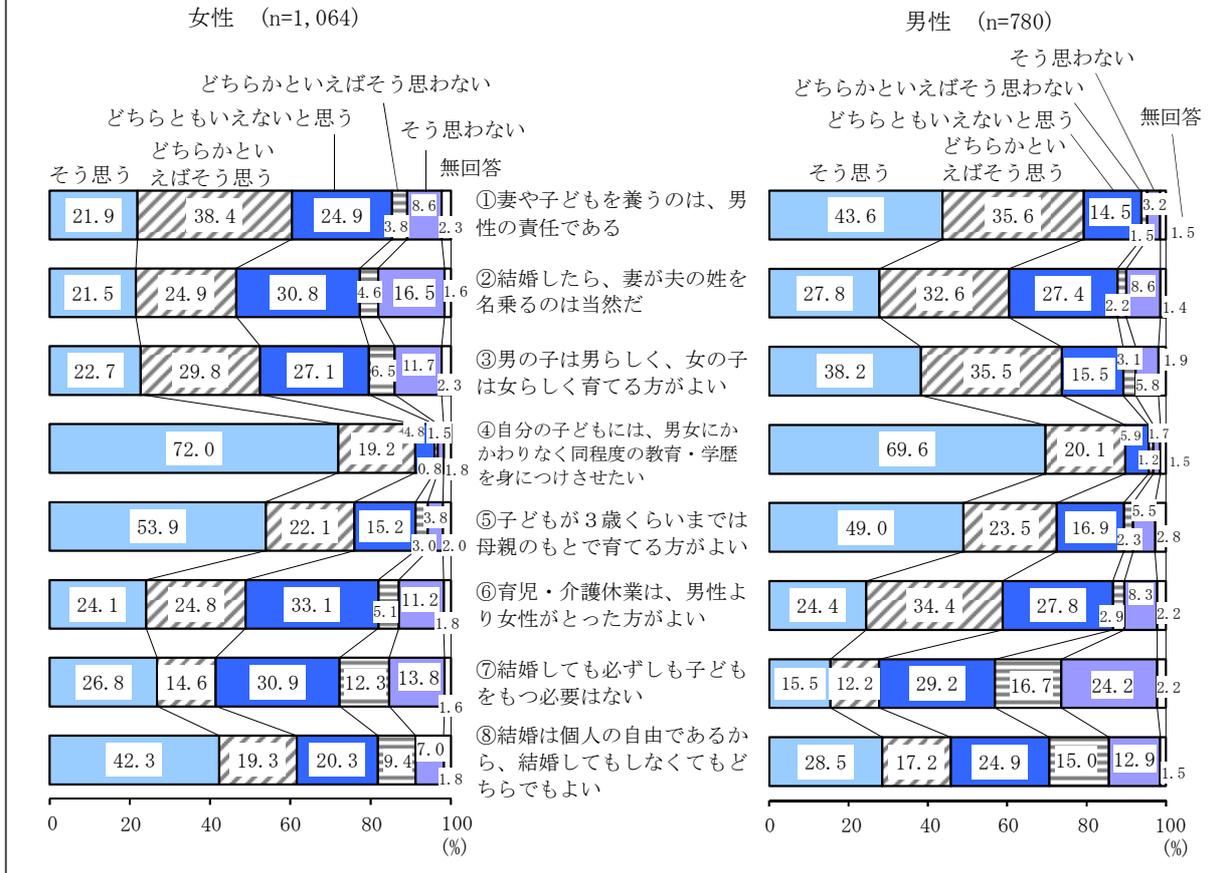
# 1. 日常生活や社会全般について

## (1) 日常生活や社会全般についての考え方

問6 あなたは、次の①～⑧の項目についてどのように思いますか。

(○は各項目それぞれ1つずつ)

【図表1-1 日常生活や社会全般についての考え方】



### <性別> (図表1-1)

日常生活や社会全般についての考え方について、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『肯定派』の割合では、男女とも「④自分の子どもには、男女にかかわらず同程度の教育・学歴を身につけさせたい」が9割前後で最も高くなっている。次いで、女性では「⑤子どもが3歳くらいまでは母親のもとで育てる方がよい」(76.0%)が、男性では「①妻や子どもを養うのは、男性の責任である」(79.2%)が続いている。また、女性では「⑦結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない」(41.4%)は男性に比べ13.7ポイント高く、「⑧結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい」(61.6%)は、男性に比べ15.9ポイント高くなっている。一方、男性では「①妻や子どもを養うのは、男性の責任である」(79.2%)は女性に比べ18.9ポイント、「③男の子は男らしく、女の子は女らしく育てる方がよい」(73.7%)は21.2ポイント高く、「②結婚したら、妻が夫の姓を名乗るのは当然だ」(60.4%)は14.0ポイント、「⑥育児・介護休業は男性より女性がとった

方がよい」(58.8%)では9.9ポイント高くなっている。

教育や学歴については、子どもの性別に関係なく、同じ程度にと考える人が男女とも9割ほどもいる一方で、子どもの育て方については、「③男の子は男らしく、女の子は女らしく育てる方がよい」と考える人が女性で5割以上、男性で7割以上いる。そして、「⑤子どもは3歳くらいまでは母親のもとで育てる方がよい」と考える人が男女ともに7割以上となっており、いわゆる「三歳児神話」の根強さがうかがえる。

#### <性・年代別> (図表1-1-1)

##### ①妻や子どもを養うのは、男性の責任である

男女とも、各年代で『肯定派』が最も多く、女性では20歳代が46.1%、30歳以上の年代が5～6割台、男性では各年代で7～8割台を占め、いずれの年代も男性の割合が女性の割合を上回っている。

##### ②結婚したら、妻が夫の姓を名乗るのは当然だ

女性では、20歳代・40歳代・60歳以上の年代で『肯定派』が最も多く、なかでも70歳以上は66.4%と高くなっており、30歳代・50歳代では「どちらともいえない」が最も多くなっている。男性では、20歳代で「どちらともいえない」が43.4%で最も多く、『肯定派』の割合は20歳代の女性との差はほとんどない。しかし、30歳以上では、『肯定派』が最も多く、40歳以上の年代になると50%を超えている。

##### ③男の子は男らしく、女の子は女らしく育てる方がよい

男女とも、各年代で『肯定派』が最も多くなっており、女性の60歳以上では5～6割台を占めるが、それ以下の年代では3～4割台となっている。一方、男性の場合、20歳代の割合は同年代の女性との差は小さいが、30歳以上の各年代では6割を超え、女性の割合を上回っている。

##### ④自分の子どもには、男女にかかわらず同程度の教育・学歴を身につけさせたい

男女とも、各年代で『肯定派』が8～9割台を占めている。20歳代では女性の割合が男性に比べ11.0ポイント高くなっている。

##### ⑤子どもが3歳くらいまでは母親のもとで育てる方がよい

男女とも、各年代で『肯定派』が50%以上を占めている。女性はほぼ7～8割台を占めているが、30歳代は57.3%と他の年代に比べ低くなっている。また、『否定派』は、男女ともに20歳代・30歳代の割合が40歳以上の年代に比べ高くなっている。

##### ⑥育児・介護休業は、男性より女性がとった方がよい

女性では、20歳代と50歳以上の年代で『肯定派』が最も多く、30歳代・40歳代は「どちらともいえない」が4割台で最も多くなっている。男性では、各年代で『肯定派』が最も多く、その割合は若い年代ほど低くなっている。また、男女ともに20歳代の『否定派』が3割台で他の年代に比べ高くなっている。

##### ⑦結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない

女性では、20～60歳代で『肯定派』が最も多く、20歳代・30歳代は5割台と他の年代に比べ高くなっている。70歳以上では『否定派』が35.4%で最も多くなっ

ている。男性では、20歳代と40歳以上の年代で『否定派』が最も多く、同年代の女性とは正反対の傾向となっているが、30歳代では『肯定派』が38.5%と最も多くなっている。70歳以上では、『否定派』が52.8%を占め、同年代の女性と同様の傾向となっている。

**⑧結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい**

女性では、各年代で『肯定派』が最も多く、その割合は若い年代ほど高くなっており、20歳代・30歳代では7割台となっている。男性では、20～60歳代で『肯定派』が最も多く、20～40歳代は5割台となっている。70歳以上では『否定派』が41.5%で最も多くなっている。

「⑦結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない」と「⑧結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい」については、男性に比べ女性は、若い年代ほど『肯定派』の割合が高くなっているだけでなく、年代による差も大きくなっており、若い女性の間で結婚観の多様化が進んでいることがうかがえる。

しかし、「②結婚したら、妻が夫の姓を名乗るのは当然だ」「⑤子どもが3歳くらいまでは母親のもとで育てる方がよい」「⑥育児・介護休業は、男性より女性がとった方がよい」については、30歳代女性よりも20歳代女性の方が、『肯定派』の割合が高くなっており、20歳代女性に伝統的な家族観や子育て観をもつ人が多くなっていることが注目される。

【図表 1-1-1 性・年代別 日常生活や社会全般についての考え方①】

	n	①妻や子どもを養うのは、男性の責任である			②結婚したら、妻が夫の姓を名乗るのは当然だ			③男の子は男らしく、女の子は女らしく育てる方がよい			
		『肯定派』	いどえちなら ないとも	『否定派』	『肯定派』	いどえちなら ないとも	『否定派』	『肯定派』	いどえちなら ないとも	『否定派』	
全体	上段/実数 下段/%	1851 100.0	1263 68.2	380 20.5	169 9.1	967 52.2	543 29.3	310 16.7	1136 61.4	410 22.2	263 14.2
女性	20歳代	76 100.0	35 46.1	24 31.6	17 22.4	31 40.8	19 25.0	26 34.2	29 38.2	22 28.9	25 32.9
	30歳代	157 100.0	95 60.5	42 26.8	19 12.1	47 29.9	71 45.2	38 24.2	63 40.1	56 35.7	37 23.6
	40歳代	206 100.0	135 65.5	46 22.3	24 11.7	84 40.8	76 36.9	46 22.3	98 47.6	71 34.5	36 17.5
	50歳代	165 100.0	98 59.4	43 26.1	22 13.3	60 36.4	64 38.8	41 24.8	77 46.7	53 32.1	35 21.2
	60歳代	186 100.0	105 56.5	57 30.6	21 11.3	90 48.4	56 30.1	38 20.4	103 55.4	49 26.3	32 17.2
	70歳以上	271 100.0	172 63.5	52 19.2	29 10.7	180 66.4	42 15.5	35 12.9	186 68.6	37 13.7	28 10.3
	男性	20歳代	53 100.0	38 71.7	10 18.9	4 7.5	20 37.7	23 43.4	9 17.0	23 43.4	14 26.4
30歳代		96 100.0	68 70.8	19 19.8	8 8.3	45 46.9	32 33.3	19 19.8	59 61.5	23 24.0	14 14.6
40歳代		129 100.0	107 82.9	17 13.2	5 3.9	80 62.0	35 27.1	14 10.9	103 79.8	15 11.6	11 8.5
50歳代		123 100.0	94 76.4	19 15.4	9 7.3	66 53.7	40 32.5	16 13.0	86 69.9	25 20.3	10 8.1
60歳代		162 100.0	134 82.7	22 13.6	4 2.5	103 63.6	47 29.0	11 6.8	126 77.8	24 14.8	9 5.6
70歳以上		212 100.0	172 81.1	26 12.3	7 3.3	155 73.1	36 17.0	13 6.1	175 82.5	20 9.4	8 3.8
全体		上段/実数 下段/%	1851 100.0	1674 90.4	97 5.2	46 2.5	1377 74.4	294 15.9	134 7.2	979 52.9	572 30.9
女性	20歳代	76 100.0	70 92.1	3 3.9	2 2.6	54 71.1	11 14.5	10 13.2	31 40.8	20 26.3	25 32.9
	30歳代	157 100.0	141 89.8	11 7.0	4 2.5	90 57.3	50 31.8	17 10.8	56 35.7	70 44.6	31 19.7
	40歳代	206 100.0	188 91.3	14 6.8	2 1.0	146 70.9	46 22.3	13 6.3	79 38.3	91 44.2	35 17.0
	50歳代	165 100.0	151 91.5	8 4.8	5 3.0	132 80.0	22 13.3	10 6.1	73 44.2	59 35.8	33 20.0
	60歳代	186 100.0	172 92.5	7 3.8	6 3.2	150 80.6	19 10.2	15 8.1	102 54.8	56 30.1	27 14.5
	70歳以上	271 100.0	245 90.4	8 3.0	5 1.8	234 86.3	14 5.2	7 2.6	178 65.7	55 20.3	22 8.1
	男性	20歳代	53 100.0	43 81.1	5 9.4	4 7.5	29 54.7	12 22.6	11 20.8	19 35.8	16 30.2
30歳代		96 100.0	82 85.4	10 10.4	4 4.2	49 51.0	33 34.4	14 14.6	46 47.9	33 34.4	16 16.7
40歳代		129 100.0	116 89.9	8 6.2	5 3.9	89 69.0	30 23.3	10 7.8	69 53.5	44 34.1	15 11.6
50歳代		123 100.0	111 90.2	8 6.5	3 2.4	94 76.4	19 15.4	9 7.3	71 57.7	37 30.1	14 11.4
60歳代		162 100.0	148 91.4	10 6.2	2 1.2	123 75.9	26 16.0	9 5.6	99 61.1	48 29.6	13 8.0
70歳以上		212 100.0	195 92.0	5 2.4	4 1.9	177 83.5	12 5.7	8 3.8	151 71.2	38 17.9	12 5.7
全体		上段/実数 下段/%	1851 100.0	1674 90.4	97 5.2	46 2.5	1377 74.4	294 15.9	134 7.2	979 52.9	572 30.9
女性	20歳代	76 100.0	70 92.1	3 3.9	2 2.6	54 71.1	11 14.5	10 13.2	31 40.8	20 26.3	25 32.9
	30歳代	157 100.0	141 89.8	11 7.0	4 2.5	90 57.3	50 31.8	17 10.8	56 35.7	70 44.6	31 19.7
	40歳代	206 100.0	188 91.3	14 6.8	2 1.0	146 70.9	46 22.3	13 6.3	79 38.3	91 44.2	35 17.0
	50歳代	165 100.0	151 91.5	8 4.8	5 3.0	132 80.0	22 13.3	10 6.1	73 44.2	59 35.8	33 20.0
	60歳代	186 100.0	172 92.5	7 3.8	6 3.2	150 80.6	19 10.2	15 8.1	102 54.8	56 30.1	27 14.5
	70歳以上	271 100.0	245 90.4	8 3.0	5 1.8	234 86.3	14 5.2	7 2.6	178 65.7	55 20.3	22 8.1
	男性	20歳代	53 100.0	43 81.1	5 9.4	4 7.5	29 54.7	12 22.6	11 20.8	19 35.8	16 30.2
30歳代		96 100.0	82 85.4	10 10.4	4 4.2	49 51.0	33 34.4	14 14.6	46 47.9	33 34.4	16 16.7
40歳代		129 100.0	116 89.9	8 6.2	5 3.9	89 69.0	30 23.3	10 7.8	69 53.5	44 34.1	15 11.6
50歳代		123 100.0	111 90.2	8 6.5	3 2.4	94 76.4	19 15.4	9 7.3	71 57.7	37 30.1	14 11.4
60歳代		162 100.0	148 91.4	10 6.2	2 1.2	123 75.9	26 16.0	9 5.6	99 61.1	48 29.6	13 8.0
70歳以上		212 100.0	195 92.0	5 2.4	4 1.9	177 83.5	12 5.7	8 3.8	151 71.2	38 17.9	12 5.7
全体		上段/実数 下段/%	1851 100.0	1674 90.4	97 5.2	46 2.5	1377 74.4	294 15.9	134 7.2	979 52.9	572 30.9
女性	20歳代	76 100.0	70 92.1	3 3.9	2 2.6	54 71.1	11 14.5	10 13.2	31 40.8	20 26.3	25 32.9
	30歳代	157 100.0	141 89.8	11 7.0	4 2.5	90 57.3	50 31.8	17 10.8	56 35.7	70 44.6	31 19.7
	40歳代	206 100.0	188 91.3	14 6.8	2 1.0	146 70.9	46 22.3	13 6.3	79 38.3	91 44.2	35 17.0
	50歳代	165 100.0	151 91.5	8 4.8	5 3.0	132 80.0	22 13.3	10 6.1	73 44.2	59 35.8	33 20.0
	60歳代	186 100.0	172 92.5	7 3.8	6 3.2	150 80.6	19 10.2	15 8.1	102 54.8	56 30.1	27 14.5
	70歳以上	271 100.0	245 90.4	8 3.0	5 1.8	234 86.3	14 5.2	7 2.6	178 65.7	55 20.3	22 8.1
	男性	20歳代	53 100.0	43 81.1	5 9.4	4 7.5	29 54.7	12 22.6	11 20.8	19 35.8	16 30.2
30歳代		96 100.0	82 85.4	10 10.4	4 4.2	49 51.0	33 34.4	14 14.6	46 47.9	33 34.4	16 16.7
40歳代		129 100.0	116 89.9	8 6.2	5 3.9	89 69.0	30 23.3	10 7.8	69 53.5	44 34.1	15 11.6
50歳代		123 100.0	111 90.2	8 6.5	3 2.4	94 76.4	19 15.4	9 7.3	71 57.7	37 30.1	14 11.4
60歳代		162 100.0	148 91.4	10 6.2	2 1.2	123 75.9	26 16.0	9 5.6	99 61.1	48 29.6	13 8.0
70歳以上		212 100.0	195 92.0	5 2.4	4 1.9	177 83.5	12 5.7	8 3.8	151 71.2	38 17.9	12 5.7

【図表1-1-1 性・年代別 日常生活や社会全般についての考え方②】

	n	⑦結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない			⑧結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい			
		『肯定派』	いど えち なら い も	『否定派』	『肯定派』	いど えち なら い も	『否定派』	
全体	上段/実数 下段/%	1851	658	557	599	1014	411	392
		100.0	35.5	30.1	32.4	54.8	22.2	21.2
女性	20歳代	76	43	22	11	60	12	4
		100.0	56.6	28.9	14.5	78.9	15.8	5.3
	30歳代	157	79	50	28	115	29	13
		100.0	50.3	31.8	17.8	73.2	18.5	8.3
	40歳代	206	97	66	43	143	38	23
		100.0	47.1	32.0	20.9	69.4	18.4	11.2
	50歳代	165	67	54	42	111	30	23
	100.0	40.6	32.7	25.5	67.3	18.2	13.9	
男性	20歳代	53	18	12	22	29	7	16
		100.0	34.0	22.6	41.5	54.7	13.2	30.2
	30歳代	96	37	34	25	55	29	12
		100.0	38.5	35.4	26.0	57.3	30.2	12.5
	40歳代	129	37	45	46	68	34	27
		100.0	28.7	34.9	35.7	52.7	26.4	20.9
	50歳代	123	38	39	45	58	32	32
	100.0	30.9	31.7	36.6	47.2	26.0	26.0	
70歳以上	162	41	50	66	77	40	42	
	100.0	25.3	30.9	40.7	47.5	24.7	25.9	
	212	44	47	112	66	51	88	
	100.0	20.8	22.2	52.8	31.1	24.1	41.5	

＜夫婦・パートナーの就労状況別＞（図表1-1-2）

夫婦・パートナーの就労状況の違いによって、日常生活や社会全般についての考え方がどのように異なるのかをみる。

夫婦・パートナーの就労状況の違いとして、女性については、(a)夫が雇用者である家事専業の女性と、(b)夫が雇用者で自身も雇用者である女性の2つのタイプを取り上げた。男性については、(c)妻が家事専業である雇用者の男性と、(d)妻が雇用者で自身も雇用者である男性の2つのタイプを取り上げた。そして、これら4つのタイプ別に、日常生活や社会全般についての考え方の①から⑧までについて「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」と回答した『肯定派』の割合をそれぞれ示した。

「①妻や子どもを養うのは、男性の責任である」「②結婚したら、妻が夫の姓を名乗るのは当然だ」「③男の子は男らしく、女の子は女らしく育てる方がよい」「⑤子どもが3歳くらいまでは母親のもとで育てる方がよい」の4項目では、男女ともに妻が雇用者(b・d)である場合に比べ、妻が家事専業(a・c)の場合の方が『肯定派』の割合が高くなっており、妻が雇用者である夫婦(b・d)に比べ妻が家事専業である夫婦(a・c)の方が、より伝統的な家族観や子育て観を持っている傾向がうかがえる。

ただし、「①妻や子どもを養うのは、男性の責任である」「②結婚したら、妻が夫の姓を名乗るのは当然だ」「③男の子は男らしく、女の子は女らしく育てる方がよい」の3項目については、妻の就労状況の違いよりも性別による回答傾向の違いの方が大きくなっている点には注意が必要である。

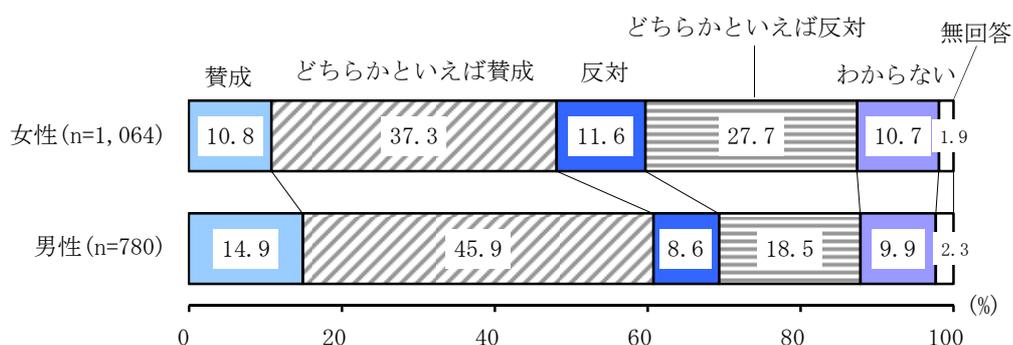


## 2. 家庭生活について

### (1) 性別役割分担意識について

問7 あなたは、「男性は仕事、女性は家事・育児」という考え方について、どう思いますか。(〇は1つ)

【図表 2-1 性別役割分担意識について】



#### <性別> (図表2-1)

性別役割分担意識については、男女とも「どちらかといえば賛成」が最も多く、「賛成」と合わせた『賛成派』の割合は、女性48.1%、男性60.8%で、男性の方が12.7ポイント高くなっている。一方、「反対」と「どちらかといえば反対」を合わせた『反対派』の割合は、女性39.3%、男性27.1%となっており、男女とも『賛成派』の方が多くなっている。

#### <性・年代別> (図表2-1-1)

女性では、20～50歳代で『反対派』が最も多い。その割合は若い年代ほど高く、20歳代では55.3%となっている。60歳以上になると『賛成派』が各年代で最も多くなっており、70歳以上は67.9%を占めている。

男性では、各年代とも『賛成派』が最も多くなっており、20歳代は49.1%、30歳以上の年代は50%以上を占めている。20歳代から50歳代までの各年代は、各々同年代の女性とは正反対の意識となっており、70歳以上では、『賛成派』が74.5%で各年代を通して最も高くなっている。

おおむね男女とも年齢が若くなるほど、『賛成派』が少なくなる傾向を示しているが、その傾向は女性の方により強くみられ、20歳代女性の『賛成派』の割合は70歳以上女性のその2分の1以下である。また、50歳代以下の各年代では、女性の『賛成派』の割合が男性のそれをそれぞれ10ポイント以上も下回っており、性別役割分担意識に男女間で大きな差がみられる。

【図表2-1-1 性・年代別 性別役割分担意識について】

		n	『賛成派』	『反対派』	わからない	無回答
全体		1851	989	629	192	41
上段/実数		100.0	53.4	34.0	10.4	2.2
下段/%						
女性	20歳代	76	24	42	9	1
		100.0	31.6	55.3	11.8	1.3
	30歳代	157	64	78	15	-
		100.0	40.8	49.7	9.6	-
	40歳代	206	84	97	22	3
		100.0	40.8	47.1	10.7	1.5
	50歳代	165	64	74	24	3
	100.0	38.8	44.8	14.5	1.8	
男性	60歳代	186	91	78	14	3
		100.0	48.9	41.9	7.5	1.6
	70歳以上	271	184	48	29	10
		100.0	67.9	17.7	10.7	3.7
	20歳代	53	26	17	9	1
		100.0	49.1	32.1	17.0	1.9
	30歳代	96	52	30	12	2
	100.0	54.2	31.3	12.5	2.1	
女性	40歳代	129	79	38	10	2
		100.0	61.2	29.5	7.8	1.6
	50歳代	123	62	42	18	1
		100.0	50.4	34.1	14.6	0.8
	60歳代	162	94	50	17	1
		100.0	58.0	30.9	10.5	0.6
	70歳以上	212	158	33	10	11
	100.0	74.5	15.6	4.7	5.2	

＜夫婦・パートナーの就労状況別＞（図表2-1-2）

夫婦・パートナーの就労状況別に性別役割分担意識の違いをみる。図表2-1-2は、先の図表1-1-2で示した4つのタイプの回答者別に、性別役割分担に対する『賛成派』と『反対派』の割合を示したものである。

女性では、家事専業(a)に比べ、雇用者(b)の方が、性別役割分担への『賛成派』が13.5ポイント少なく、『反対派』が11.5ポイント多くなっている。男性では、妻が家事専業(c)か雇用者(d)かによって『賛成派』の割合に大きな違いはみられないが、『反対派』の割合は妻が雇用者である者(d)の方が5.3ポイントとやや多くなっている。

男女ともに、妻が家事専業である場合に比べ雇用者である場合の方が性別役割分担に反対する傾向がうかがえるが、その傾向は男性よりも女性で顕著である。

【図表 2-1-2 夫婦・パートナーの就労状況別 性別役割分担意識について】

	n	性別役割分担	
		『賛成派』	『反対派』
全体 上段/実数	1183	639	411
下段/%	100.0	54.0	34.7
(a) 夫が雇用者である女性家事専業	166	81	68
	100.0	48.8	41.0
(b) 夫が雇用者である女性雇用者	204	72	107
	100.0	35.3	52.5
(c) 妻が家事専業である男性雇用者	116	67	30
	100.0	57.8	25.9
(d) 妻が雇用者である男性雇用者	125	74	39
	100.0	59.2	31.2

※ここでいう「雇用者」とは、「会社、官公庁、個人商店などに雇われている人」をいう。

※(a)～(d)にはパートナーを含む。

＜前回調査（平成22年（2010年））との比較＞（図表2-1-3）

前回調査の結果に比べ、『賛成派』が女性で8.3ポイント、男性で10.9ポイント低下しているのに対し、『反対派』は女性で7.3ポイント、男性で7.4ポイント上昇している。

【図表2-1-3 前回調査との比較 性別役割分担意識について】

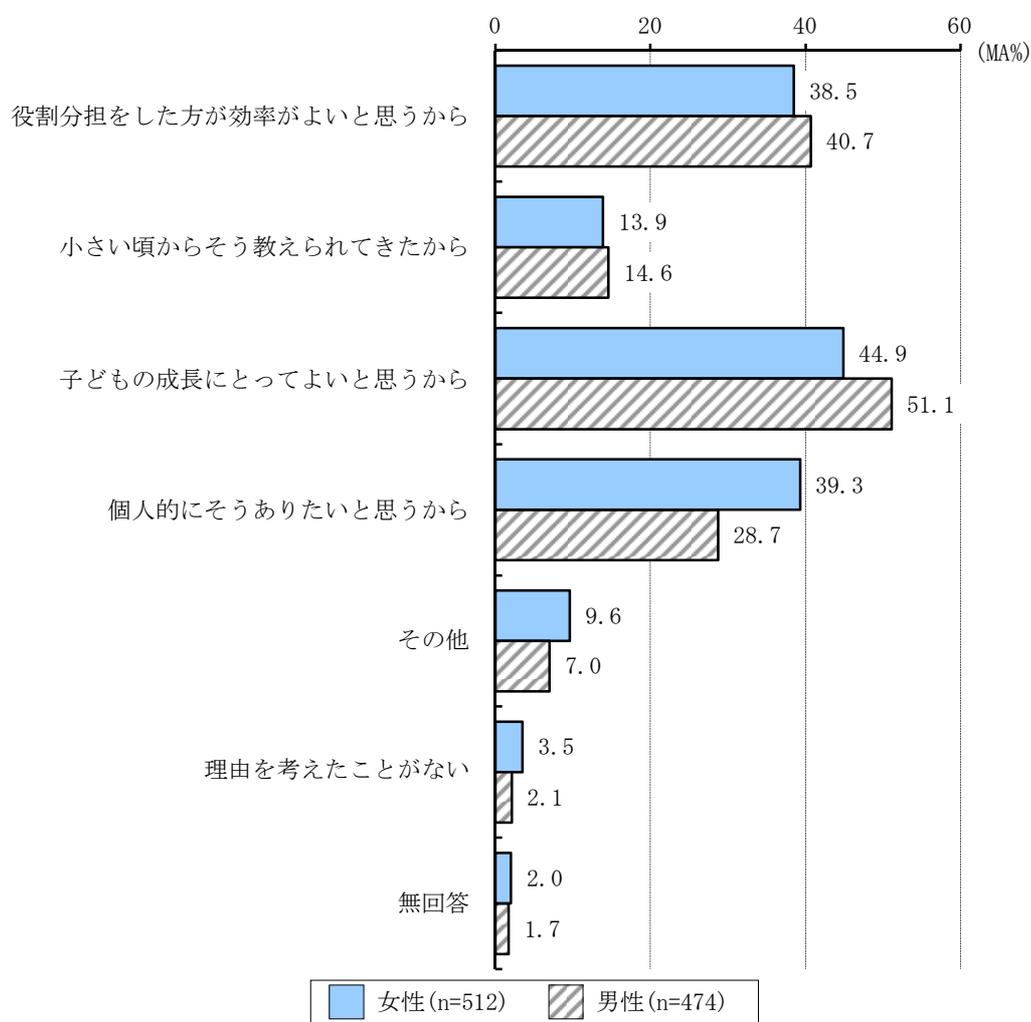
	女性			男性		
	n	『賛成派』	『反対派』	n	『賛成派』	『反対派』
今回調査	1064	48.1	39.3	780	60.8	27.1
前回調査	690	56.4	32.0	581	71.7	19.7

## (2) 性別役割分担意識について賛成の理由

【問7で「1. 賛成」「2. どちらかといえば賛成」と答えられた方におたずねします。】

問7-1 その理由は、以下のどれに近いですか。(〇はいくつでも)

【図表2-2 性別役割分担意識について賛成の理由】



### <性別> (図表2-2)

性別役割分担意識について『賛成派』を回答した人に、その理由をたずねたところ、男女とも「子どもの成長にとってよいと思うから」が最も多く、女性44.9%、男性51.1%で、男性の方が6.2ポイント高くなっている。次いで、女性では「個人的にそうありたいと思うから」が39.3%となっており、男性(28.7%)に比べ10.6ポイント高くなっている。男性では「役割分担をした方が効率がよいと思うから」が40.7%と続いて多くなっている。

<性・年代別> (図表2-2-1)

女性では、20歳代・30歳代で「個人的にそうありたいと思うから」が最も多く、30歳代では「役割分担をした方が効率がよいと思うから」も同率で多くなっている。40歳以上になると「子どもの成長にとってよいと思うから」が最も多くなっており、なかでも60歳代が53.8%と高くなっている。また、「役割分担をした方が効率がよいと思うから」は、50歳代が45.3%で他の年代に比べ高くなっている。

男性では、各年代とも「子どもの成長にとってよいと思うから」が最も多く、20～50歳代では6割前後を占め、20歳代・30歳代の各年代の割合は同年代の女性の割合を23.3～41.0ポイント上回っている。また、「個人的にそうありたいと思うから」は、60歳代が40.4%で他の年代に比べ高くなっている。

【図表2-2-1 性・年代別 性別役割分担意識について賛成の理由】

		n	率が割 よ分 担を 思 た か 方 が 効	ら小 れさ てい き頃 たか ら そ う 教 え	よ子 いど も 思 の 成 長 に と つ て	と個 思人 う的 か ら そ う あ り た い	そ の 他	い理 由 を 考 え た こ と が な
全体	上段/実数 下段/MA%	989 100.0	392 39.6	142 14.4	473 47.8	339 34.3	82 8.3	28 2.8
女性	20歳代	24 100.0	10 41.7	3 12.5	4 16.7	11 45.8	3 12.5	1 4.2
	30歳代	64 100.0	25 39.1	4 6.3	22 34.4	25 39.1	12 18.8	5 7.8
	40歳代	84 100.0	32 38.1	9 10.7	40 47.6	33 39.3	14 16.7	3 3.6
	50歳代	64 100.0	29 45.3	5 7.8	30 46.9	27 42.2	7 10.9	3 4.7
	60歳代	91 100.0	28 30.8	12 13.2	49 53.8	34 37.4	6 6.6	1 1.1
	70歳以上	184 100.0	73 39.7	38 20.7	84 45.7	71 38.6	7 3.8	5 2.7
	男性	20歳代	26 100.0	8 30.8	4 15.4	15 57.7	8 30.8	4 15.4
30歳代		52 100.0	22 42.3	2 3.8	30 57.7	15 28.8	7 13.5	-
40歳代		79 100.0	33 41.8	11 13.9	48 60.8	19 24.1	6 7.6	1 1.3
50歳代		62 100.0	26 41.9	8 12.9	35 56.5	9 14.5	4 6.5	2 3.2
60歳代		94 100.0	36 38.3	13 13.8	41 43.6	38 40.4	5 5.3	2 2.1
70歳以上		158 100.0	67 42.4	31 19.6	71 44.9	46 29.1	7 4.4	4 2.5

<前回調査（平成22年（2010年））との比較>（図表2-2-2）

前回調査の結果に比べ、女性では、「個人的にそうありたいと思うから」が6.9ポイント、男性では、「子どもの成長にとってよいと思うから」が5.3ポイント、それぞれ上昇している。

【図表2-2-2 前回調査との比較 性別役割分担意識について賛成の理由】

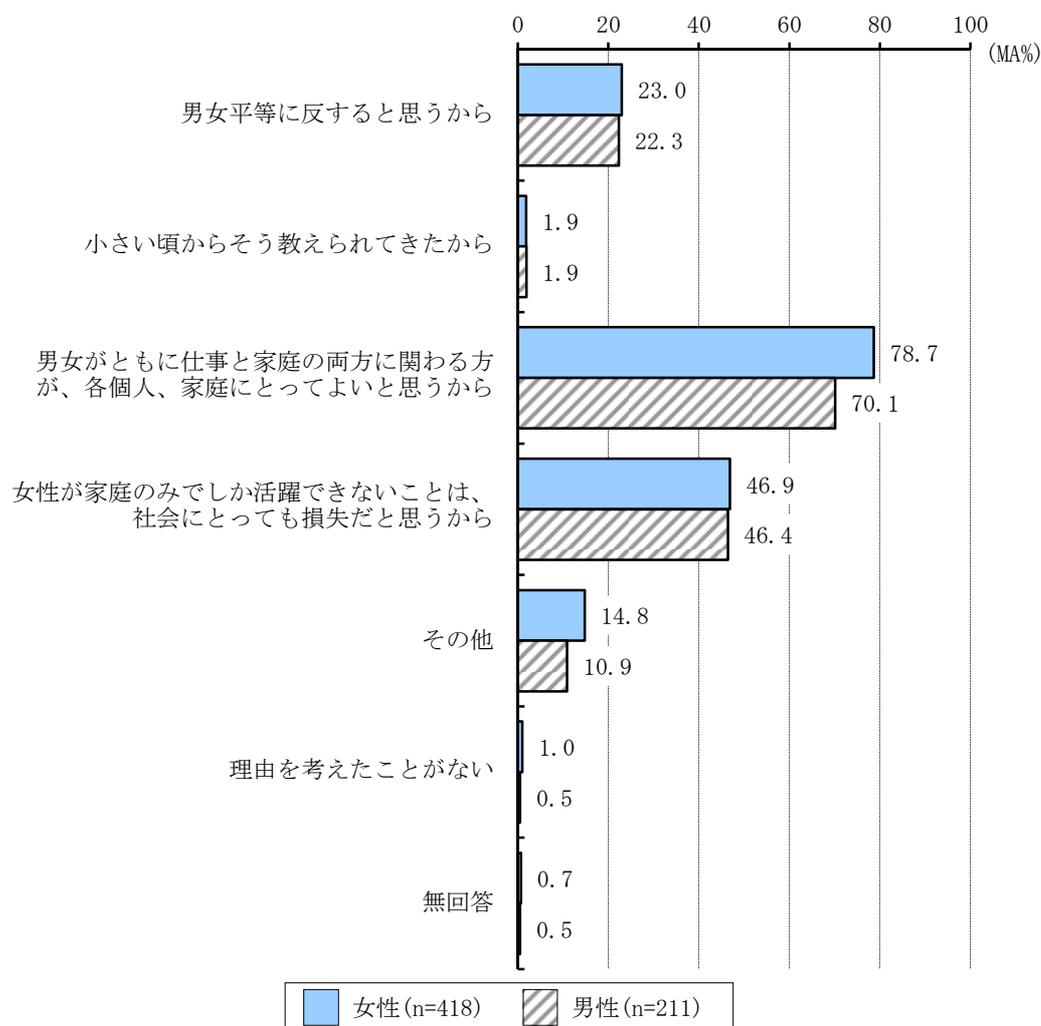
		n	(MA%)					
			役割分担を よいと思う 方が効	小さい頃か らそう教え	子どもか 成長にと つて	個人的に そうあり たい	その他	理由を 考えた ことが な
女性	今回調査	512	38.5	13.9	44.9	39.3	9.6	3.5
	前回調査	389	43.7	25.4	51.2	32.4	8.5	2.8
男性	今回調査	474	40.7	14.6	51.1	28.7	7.0	2.1
	前回調査	417	53.2	25.2	45.8	29.0	9.4	1.7

### (3) 性別役割分担意識について反対の理由

【問7で「3. 反対」「4. どちらかといえば反対」と答えられた方におたずねします。】

問7-2 その理由は、以下のどれに近いですか。(〇はいくつでも)

【図表2-3 性別役割分担意識について反対の理由】



#### <性別> (図表2-3)

性別役割分担意識について『反対派』を回答した人に、その理由をたずねたところ、男女とも「男女がともに仕事と家庭の両方に関わる方が、各個人、家庭にとってよいと思うから」が最も多く、女性78.7%、男性70.1%で、女性の方が8.6ポイント高くなっている。次いで、男女ともに「女性が家庭のみでしか活躍できないことは、社会にとっても損失だと思うから」が46%台、「男女平等に反すると思うから」が22～23%台、「小さい頃からそう教えられてきたから」がともに1.9%となっており、これら3項目に男女差は、ほとんどみられない。

<性・年代別> (図表2-3-1)

女性では、各年代とも「男女がともに仕事と家庭の両方に関わる方が、各個人、家庭にとってよいと思うから」が7～8割台で最も多く、同年代の男性の割合をいずれも上回っている。また、「女性が家庭のみでしか活躍できないことは、社会にとっても損失だと思うから」が、50歳代・60歳代で5割台と高くなっている。

男性でも、各年代で「男女がともに仕事と家庭の両方に関わる方が、各個人、家庭にとってよいと思うから」が6～7割台で最も多くなっている。また、「女性が家庭のみでしか活躍できないことは、社会にとっても損失だと思うから」は、20歳代が70.6%、60歳代が52.0%と両年代では50%を超え、20歳代については、男性の割合が同年代の女性の割合を32.5ポイント上回っている。

【図表2-3-1 性・年代別 性別役割分担意識について反対の理由】

		n	男女平等に反すると思うから	小さい頃からそう教えられてきたから	男性が仕事と家庭の両方に関わる方がよいと思うから	女性も家庭のみでしか活躍できないことは、社会にとっても損失だと思うから	その他	理由を考えたことがない
全体	上段/実数 下段/MA%	629 100.0	143 22.7	12 1.9	477 75.8	294 46.7	85 13.5	5 0.8
女性	20歳代	42 100.0	11 26.2	-	33 78.6	16 38.1	2 4.8	-
	30歳代	78 100.0	16 20.5	5 6.4	59 75.6	36 46.2	16 20.5	1 1.3
	40歳代	97 100.0	30 30.9	-	72 74.2	38 39.2	23 23.7	1 1.0
	50歳代	74 100.0	14 18.9	1 1.4	57 77.0	38 51.4	16 21.6	-
	60歳代	78 100.0	14 17.9	-	65 83.3	45 57.7	3 3.8	2 2.6
	70歳以上	48 100.0	10 20.8	2 4.2	42 87.5	22 45.8	2 4.2	-
	男性	20歳代	17 100.0	4 23.5	-	12 70.6	12 70.6	2 11.8
30歳代		30 100.0	2 6.7	1 3.3	20 66.7	11 36.7	7 23.3	-
40歳代		38 100.0	9 23.7	-	24 63.2	17 44.7	6 15.8	-
50歳代		42 100.0	14 33.3	1 2.4	30 71.4	15 35.7	5 11.9	-
60歳代		50 100.0	11 22.0	1 2.0	38 76.0	26 52.0	1 2.0	1 2.0
70歳以上		33 100.0	7 21.2	1 3.0	23 69.7	16 48.5	2 6.1	-

<前回調査（平成22年（2010年））との比較>（図表2-3-2）

前回調査の結果に比べ、女性では、「女性が家庭のみでしか活躍できないことは、社会にとっても損失だと思うから」が9.7ポイント、「男女がともに仕事と家庭の両方に関わる方が、各個人、家庭にとってよいと思うから」が5.9ポイント、それぞれ低下している。

男性では、「男女平等に反すると思うから」が10.2ポイント、「男女がともに仕事と家庭の両方に関わる方が、各個人、家庭にとってよいと思うから」が5.3ポイント、それぞれ低下している。

【図表2-3-2 前回調査との比較 性別役割分担意識について反対の理由】

		n	(MA%)					
			男女平等に反すると思うから	小さい頃からそう教えられてきたから	女性に関わる方がよいと思うから	男女がともに仕事と家庭の両方に関わる方がよいと思うから	女性のみでしか活躍できないことは、社会にとっても損失だと思うから	その他
女性	今回調査	418	23.0	1.9	78.7	46.9	14.8	1.0
	前回調査	221	21.3	2.3	84.6	56.6	10.9	-
男性	今回調査	211	22.3	1.9	70.1	46.4	10.9	0.5
	前回調査	114	32.5	-	75.4	46.5	10.5	3.5

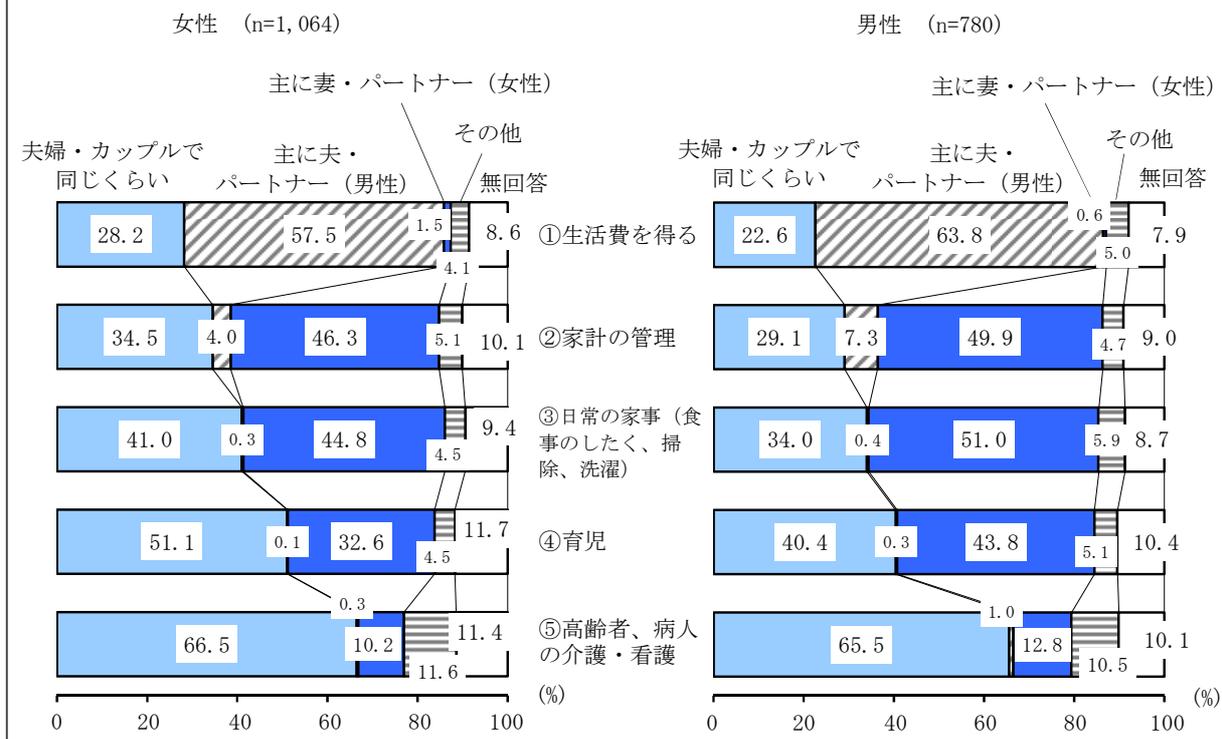
#### (4) 家庭での分担

##### ①家庭での分担（理想）

問8 家庭での分担について、あなたはどのようにするのが望ましいと思いますか。また実際にあなたの家庭では、どのように分担していますか。

(①～⑤の項目について、理想と現実それぞれ各項目に○は1つずつ)

【図表2-4① 家庭での分担（理想）】



##### <性別> (図表2-4①)

理想とする家庭での分担について、「①生活費を得る」は、男女とも「主に夫・パートナー（男性）」が最も多く、女性57.5%、男性63.8%で、男性の方が6.3ポイント高くなっている。「②家計の管理」と「③日常の家事（食事のしたく、掃除、洗濯）」では、男女とも「主に妻・パートナー（女性）」が最も多く、両項目とも女性に比べ男性の方が高くなっている。「④育児」では、女性は「夫婦・カップルで同じくらい」が51.1%を占めているが、男性は「主に妻・パートナー（女性）」が43.8%で最も多く、次いで「夫婦・カップルで同じくらい」が40.4%となっている。「⑤高齢者、病人の介護・看護」では、男女とも「夫婦・カップルで同じくらい」が65～66%台で男女差はほとんどみられない。

これら5つの項目の中で、回答の男女差が最も大きかったのは、「④育児」についてであった。「夫婦・カップルで同じくらい」では、女性が男性より10.7ポイント上回り、一方で「主に妻・パートナー（女性）」では、男性が女性より11.2ポイント上回っている。特に育児に関する役割分担の理想が男女で異なっている様子がうかがえる。

## <性・年代別> (図表2-4①-1)

### ①生活費を得る

男女とも、各年代で「主に夫・パートナー（男性）」が50%以上を占めており、特に40歳代の割合が女性64.6%、男性70.5%でそれぞれ最も高くなっている。

### ②家計の管理

女性では、30歳代で「夫婦・カップルで同じくらい」が45.9%と最も多く、20歳代と40歳以上の年代は「主に妻・パートナー（女性）」が4～5割台で最も多くなっている。

男性では、各年代で「主に妻・パートナー（女性）」が最も多くなっているが、若い年代ほどその割合は低くなっている。

### ③日常の家事（食事のしたく、掃除、洗濯）

女性では、20歳代・30歳代・50歳代で「夫婦・カップルで同じくらい」が最も多く、特に20歳代・30歳代では5割台と高くなっている。40歳代と60歳以上の年代では「主に妻・パートナー（女性）」が最も多くなっている。

男性では、20歳代と40歳以上の年代で「主に妻・パートナー（女性）」が最も多く、40歳以上では5割台と高くなっている。「夫婦・カップルで同じくらい」の割合は、特に20歳代の男女間で開いており、女性に比べ男性の割合は20.8ポイント低くなっている。30歳代は「夫婦・カップルで同じくらい」が43.8%で最も多くなっているが、「主に妻・パートナー（女性）」（42.7%）に僅差となっている。

### ④育児

女性では、20～60歳代で「夫婦・カップルで同じくらい」が最も多く、なかでも30歳代が73.9%と高くなっている。70歳以上では「主に妻・パートナー（女性）」が38.7%で最も多くなっている。

男性では、20～40歳代で「夫婦・カップルで同じくらい」が最も多く、なかでも30歳代が61.5%と高くなっている。50歳以上になると「主に妻・パートナー（女性）」が49%台で最も多くなっている。

### ⑤高齢者、病人の介護・看護

男女とも、「夫婦・カップルで同じくらい」が最も多くなっており、女性は20～50歳代で7割台と高く、男性では50歳代が77.2%と高くなっている。

各項目の年代による回答傾向の違いに注目してみると、年代差が特に大きいのは、「③日常の家事（食事のしたく、掃除、洗濯）」と「④育児」であり、男女とも若い年代ほど、理想として「夫婦・カップルで同じくらい」をあげている。

家庭の役割分担に関する理想については、性差に加えて、年代差も比較的大きいことがうかがえる。

【図表2-4①-1 性・年代別 家庭での分担（理想）】

	n	①生活費を得る			②家計の管理			③日常の家事（食事のし たく、掃除、洗濯）			
		く ら ら い で 同 カ ジ ツ	パ 主 に 夫 ト ナ ー （ 男 性 ）	パ 主 に 妻 ト ナ ー （ 女 性 ）	く ら ら い で 同 カ ジ ツ	パ 主 に 夫 ト ナ ー （ 男 性 ）	パ 主 に 妻 ト ナ ー （ 女 性 ）	く ら ら い で 同 カ ジ ツ	パ 主 に 夫 ト ナ ー （ 男 性 ）	パ 主 に 妻 ト ナ ー （ 女 性 ）	
全体	上段/実数 下段/%	1851 100.0	477 25.8	1112 60.1	21 1.1	594 32.1	100 5.4	885 47.8	701 37.9	6 0.3	879 47.5
女性	20歳代	76 100.0	24 31.6	45 59.2	1 1.3	29 38.2	4 5.3	36 47.4	43 56.6	-	27 35.5
	30歳代	157 100.0	56 35.7	89 56.7	1 0.6	72 45.9	6 3.8	68 43.3	81 51.6	-	66 42.0
	40歳代	206 100.0	55 26.7	133 64.6	1 0.5	73 35.4	11 5.3	103 50.0	90 43.7	1 0.5	98 47.6
	50歳代	165 100.0	61 37.0	90 54.5	-	60 36.4	6 3.6	78 47.3	80 48.5	-	65 39.4
	60歳代	186 100.0	59 31.7	102 54.8	6 3.2	67 36.0	3 1.6	88 47.3	74 39.8	1 0.5	87 46.8
	70歳以上	271 100.0	45 16.6	151 55.7	7 2.6	66 24.4	13 4.8	118 43.5	68 25.1	1 0.4	132 48.7
	男性	20歳代	53 100.0	12 22.6	31 58.5	-	18 34.0	3 5.7	20 37.7	19 35.8	-
	30歳代	96 100.0	32 33.3	53 55.2	-	35 36.5	8 8.3	40 41.7	42 43.8	-	41 42.7
	40歳代	129 100.0	29 22.5	91 70.5	-	49 38.0	11 8.5	61 47.3	56 43.4	-	66 51.2
	50歳代	123 100.0	35 28.5	79 64.2	-	47 38.2	9 7.3	58 47.2	50 40.7	1 0.8	65 52.8
	60歳代	162 100.0	31 19.1	109 67.3	2 1.2	45 27.8	13 8.0	85 52.5	56 34.6	-	84 51.9
	70歳以上	212 100.0	37 17.5	131 61.8	3 1.4	32 15.1	13 6.1	122 57.5	41 19.3	2 0.9	118 55.7

	n	④育児			⑤高齢者、病人の介護・ 看護			
		く ら ら い で 同 カ ジ ツ	パ 主 に 夫 ト ナ ー （ 男 性 ）	パ 主 に 妻 ト ナ ー （ 女 性 ）	く ら ら い で 同 カ ジ ツ	パ 主 に 夫 ト ナ ー （ 男 性 ）	パ 主 に 妻 ト ナ ー （ 女 性 ）	
全体	上段/実数 下段/%	1851 100.0	861 46.5	3 0.2	690 37.3	1222 66.0	11 0.6	209 11.3
女性	20歳代	76 100.0	49 64.5	-	21 27.6	59 77.6	1 1.3	5 6.6
	30歳代	157 100.0	116 73.9	-	32 20.4	114 72.6	2 1.3	16 10.2
	40歳代	206 100.0	123 59.7	-	62 30.1	149 72.3	-	17 8.3
	50歳代	165 100.0	87 52.7	1 0.6	57 34.5	123 74.5	-	17 10.3
	60歳代	186 100.0	89 47.8	-	68 36.6	128 68.8	-	19 10.2
	70歳以上	271 100.0	80 29.5	-	105 38.7	134 49.4	-	35 12.9
	男性	20歳代	53 100.0	26 49.1	-	17 32.1	34 64.2	1 1.9
	30歳代	96 100.0	59 61.5	1 1.0	24 25.0	59 61.5	1 1.0	14 14.6
	40歳代	129 100.0	68 52.7	-	52 40.3	90 69.8	1 0.8	21 16.3
	50歳代	123 100.0	53 43.1	1 0.8	61 49.6	95 77.2	1 0.8	13 10.6
	60歳代	162 100.0	63 38.9	-	80 49.4	110 67.9	2 1.2	20 12.3
	70歳以上	212 100.0	45 21.2	-	105 49.5	120 56.6	2 0.9	30 14.2

<前回調査（平成22年（2010年））との比較>（図表2-4①-2）

前回調査の結果に比べ、「①生活費を得る」では、「主に夫・パートナー（男性）」が女性6.3ポイント、男性6.4ポイント、それぞれ低下している。「②家計の管理」「③日常の家事（食事のしたく、掃除、洗濯）」では、「主に妻・パートナー（女性）」の割合が男女とも低下している。また、「④育児」については、「夫婦・カップルで同じくらい」が女性で6.0ポイント、男性2.5ポイント低下し、男性では「主に妻・パートナー（女性）」も2.7ポイント低下している。「⑤高齢者、病人の介護・看護」では、「主に妻・パートナー（女性）」と「夫婦・カップルで同じくらい」の各割合が男女とも低下している。

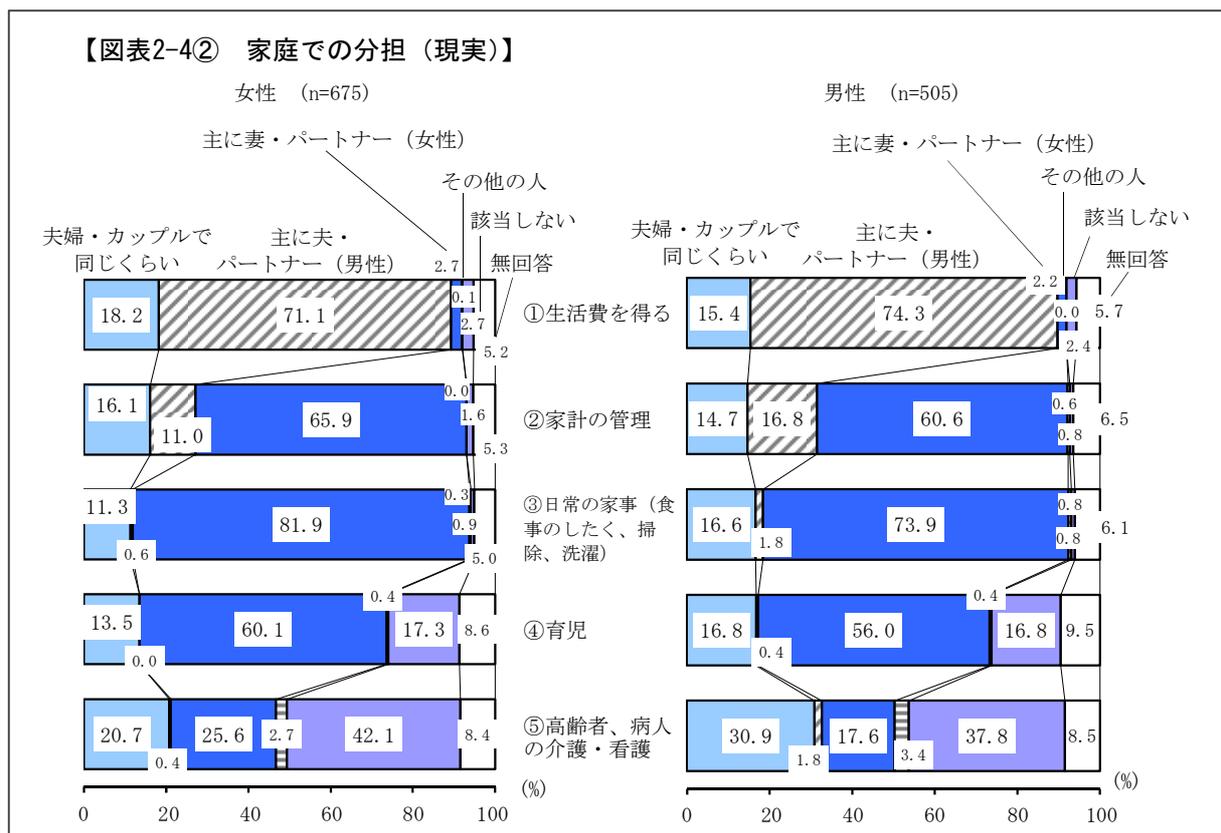
「④育児」と「⑤高齢者、病人の介護・看護」について、前回調査に比べ、男女とも理想として「夫婦・カップルで同じくらい」と回答した割合が低下しているが、一方で「主に妻・パートナー（女性）」との回答が上昇しているわけではなく、むしろどちらかといえばそうした回答も低下している。これは、その分「その他」の回答が上昇しているからであり、これらの役割を夫婦だけで担うのではなく、より多様な担い手で分担して担うべきとの考えを持つ人が増えていると考えられる。

【図表2-4①-2 前回調査との比較 家庭での分担（理想）】

		女性				男性			
		n	で夫 同婦 じ・カ ッ プ ル	ナ 主 ー に 夫 （ 男 ・ 性 ） パ ー ト	ナ 主 ー に 妻 （ 女 ・ 性 ） パ ー ト	n	で夫 同婦 じ・カ ッ プ ル	ナ 主 ー に 夫 （ 男 ・ 性 ） パ ー ト	ナ 主 ー に 妻 （ 女 ・ 性 ） パ ー ト
①生活費を得る	今回調査	1064	28.2	57.5	1.5	780	22.6	63.8	0.6
	前回調査	690	26.4	63.8	1.7	581	22.2	70.2	1.2
②家計の管理	今回調査	1064	34.5	4.0	46.3	780	29.1	7.3	49.9
	前回調査	690	34.2	4.5	52.3	581	26.5	9.1	57.0
③日常の家事（食事のしたく、掃除、洗濯）	今回調査	1064	41.0	0.3	44.8	780	34.0	0.4	51.0
	前回調査	690	40.4	0.3	50.9	581	31.0	0.9	60.9
④育児	今回調査	1064	51.1	0.1	32.6	780	40.4	0.3	43.8
	前回調査	690	57.1	-	32.9	581	42.9	1.0	46.5
⑤高齢者、病人の介護・看護	今回調査	1064	66.5	0.3	10.2	780	65.5	1.0	12.8
	前回調査	690	76.5	0.7	13.2	581	70.7	1.9	16.9

※前回調査と同じ項目のみを比較。

## ②家庭での分担（現実）



### <性別> (図表2-4②)

現実での家庭での分担について、「①生活費を得る」は、男女とも「主に夫・パートナー（男性）」が7割台を占めている。「②家計の管理」や「③日常の家事（食事のしたく、掃除、洗濯）」「④育児」では、男女とも「主に妻・パートナー（女性）」が50%以上を占めており、3項目とも男性に比べ女性の方が高くなっている。「⑤高齢者、病人の介護・看護」では、男女とも「該当しない」が最も多くなっており、該当する人では、女性は「主に妻・パートナー（女性）」が25.6%で最も多く、男性（17.6%）に比べ8.0ポイント高くなっている。一方、男性は「夫婦・カップルで同じくらい」が30.9%で最も多くなっているが、女性は20.7%で男性より10.2ポイント低くなっている。

家庭の役割分担についての理想を示した図表2-4①と現実を示した図表2-4②との間で、「夫婦・カップルで同じくらい」と回答した割合を比べると、男女ともすべての項目で理想よりも現実で割合が低くなっている。理想と現実で「夫婦・カップルで同じくらい」と回答した割合の差が20ポイントを超えているものは、女性では「③日常の家事（食事のしたく、掃除、洗濯）」（29.7ポイント）、「④育児」（37.6ポイント）、「⑤高齢者、病人の介護・看護」（45.8ポイント）であり、男性では「④育児」（23.6ポイント）、「⑤高齢者、病人の介護・看護」（34.6ポイント）である。日常の家事・育児や介護などにおいて、理想と現実との格差が大きく、またその格差は男性よりも女性で大きい傾向にある。家事・育児や介護について、女性の方が夫婦でより平等な分担を理想と考える一方で、現実を厳しく見ている様子が見える。

## <性・年代別> (図表2-4②-1)

### ①生活費を得る

女性では、各年代で「主に夫・パートナー（男性）」が50%以上を占めている。「夫婦・カップルで同じくらい」は、20歳代・30歳代が2割台と他の年代に比べ高くなっている。

男性では、20歳代は「夫婦・カップルで同じくらい」が、30歳以上の各年代では「主に夫・パートナー（男性）」がそれぞれ多くなっている。

### ②家計の管理

男女とも、各年代で「主に妻・パートナー（女性）」が最も多くなっている。

また、「夫婦・カップルで同じくらい」は、20歳代の女性が40.7%と他の年代に比べ高くなっている。

### ③日常の家事（食事のしたく、掃除、洗濯）

男女とも、各年代で「主に妻・パートナー（女性）」が50%以上を占め、20～50歳代の女性では8割を超えている。また、「夫婦・カップルで同じくらい」は、20歳代の男性が33.3%、40歳代の男性が20.0%、50歳代の男性が20.9%で、同年代の女性の割合に比べ高くなっている。

### ④育児

男女とも、各年代で「主に妻・パートナー（女性）」が最も多く、特に30～60歳代は50%以上を占めている。また、「夫婦・カップルで同じくらい」は、40歳代・50歳代の男性が22%で同年代の女性の割合に比べ高くなっている。

### ⑤高齢者、病人の介護・看護

女性では、20歳代と70歳以上で「夫婦・カップルで同じくらい」が最も多くなっている。30～60歳代では「主に妻・パートナー（女性）」が最も多く、特に50歳代・60歳代では3割台と高くなっている。

男性では、各年代とも「夫婦・カップルで同じくらい」が最も多く、50歳以上になると3割台に上昇している。また、60歳代では「主に妻・パートナー（女性）」が27.4%で他の年代に比べ高くなっている。

20歳代は極端に回答数が少ないため、30歳以上の年代で、男女の回答割合に10ポイント以上の差が見られるものに注目してみる。「②家計の管理」では、「主に妻・パートナー（女性）」との回答が40歳代と50歳代で女性の方が高くなっている。「③日常の家事（食事のしたく、掃除、洗濯）」では、「主に妻・パートナー（女性）」という回答が30歳代から50歳代で女性の方が高く、「夫婦・カップルで同じくらい」という回答は40歳代と50歳代で男性の方が高くなっている。「④育児」では、「主に妻・パートナー（女性）」という回答が30歳代と50歳代で女性の方が高くなっている。「⑤高齢者、病人の介護・看護」では、40歳代と50歳代で、「主に妻・パートナー（女性）」という回答は女性で高く、「夫婦・カップルで同じくらい」という回答は男性で高くなっている。男性は家庭での役割を妻・パートナー（女性）と同じくらいしていると考えていても、女性から見れば妻・パートナー（女性）が主に行っていると見えるという傾向が、特に30～50歳代という中年期に顕著に見られる。

【図表2-4②-1 性・年代別 家庭での分担（現実）】

	n	①生活費を得る			②家計の管理			③日常の家事（食事のしたく、掃除、洗濯）			
		くづら らる い で 同 カ ジ ツ	（パ ー ト 主 に 夫 ・ ナ ー リ ） （男 性）	（パ ー ト 主 に 妻 ・ ナ ー リ ） （女 性）	くづら らる い で 同 カ ジ ツ	（パ ー ト 主 に 夫 ・ ナ ー リ ） （男 性）	（パ ー ト 主 に 妻 ・ ナ ー リ ） （女 性）	くづら らる い で 同 カ ジ ツ	（パ ー ト 主 に 夫 ・ ナ ー リ ） （男 性）	（パ ー ト 主 に 妻 ・ ナ ー リ ） （女 性）	
全体	1183	201	855	29	183	159	751	160	13	926	
上段/実数	100.0	17.0	72.3	2.5	15.5	13.4	63.5	13.5	1.1	78.3	
下段/%											
女性	20歳代	27	7	19	1	11	2	13	2	-	25
		100.0	25.9	70.4	3.7	40.7	7.4	48.1	7.4	-	92.6
	30歳代	122	28	91	2	29	17	74	15	-	105
		100.0	23.0	74.6	1.6	23.8	13.9	60.7	12.3	-	86.1
	40歳代	152	24	120	2	15	22	105	13	1	131
		100.0	15.8	78.9	1.3	9.9	14.5	69.1	8.6	0.7	86.2
	50歳代	108	18	84	2	16	10	79	9	1	93
	100.0	16.7	77.8	1.9	14.8	9.3	73.1	8.3	0.9	86.1	
60歳代	133	23	88	6	21	11	90	19	-	105	
	100.0	17.3	66.2	4.5	15.8	8.3	67.7	14.3	-	78.9	
70歳以上	131	23	76	5	17	12	82	18	2	92	
	100.0	17.6	58.0	3.8	13.0	9.2	62.6	13.7	1.5	70.2	
男性	20歳代	12	7	4	-	3	3	5	4	1	6
		100.0	58.3	33.3	-	25.0	25.0	41.7	33.3	8.3	50.0
	30歳代	62	12	45	2	11	11	36	10	1	47
		100.0	19.4	72.6	3.2	17.7	17.7	58.1	16.1	1.6	75.8
	40歳代	90	10	76	1	14	18	53	18	1	68
		100.0	11.1	84.4	1.1	15.6	20.0	58.9	20.0	1.1	75.6
	50歳代	91	14	74	-	18	15	56	19	-	68
	100.0	15.4	81.3	-	19.8	16.5	61.5	20.9	-	74.7	
60歳代	113	13	92	1	15	18	76	17	2	88	
	100.0	11.5	81.4	0.9	13.3	15.9	67.3	15.0	1.8	77.9	
70歳以上	135	22	82	7	12	20	79	16	4	94	
	100.0	16.3	60.7	5.2	8.9	14.8	58.5	11.9	3.0	69.6	

	n	④育児			⑤高齢者、病人の介護・看護			
		くづら らる い で 同 カ ジ ツ	（パ ー ト 主 に 夫 ・ ナ ー リ ） （男 性）	（パ ー ト 主 に 妻 ・ ナ ー リ ） （女 性）	くづら らる い で 同 カ ジ ツ	（パ ー ト 主 に 夫 ・ ナ ー リ ） （男 性）	（パ ー ト 主 に 妻 ・ ナ ー リ ） （女 性）	
全体	1183	176	2	689	296	12	262	
上段/実数	100.0	14.9	0.2	58.2	25.0	1.0	22.1	
下段/%								
女性	20歳代	27	4	-	12	3	1	2
		100.0	14.8	-	44.4	11.1	3.7	7.4
	30歳代	122	20	-	78	13	-	17
		100.0	16.4	-	63.9	10.7	-	13.9
	40歳代	152	23	-	99	24	-	40
		100.0	15.1	-	65.1	15.8	-	26.3
	50歳代	108	11	-	81	18	-	38
	100.0	10.2	-	75.0	16.7	-	35.2	
60歳代	133	15	-	76	37	1	44	
	100.0	11.3	-	57.1	27.8	0.8	33.1	
70歳以上	131	18	-	58	45	1	30	
	100.0	13.7	-	44.3	34.4	0.8	22.9	
男性	20歳代	12	2	-	3	3	-	-
		100.0	16.7	-	25.0	25.0	-	-
	30歳代	62	12	-	32	9	-	5
		100.0	19.4	-	51.6	14.5	-	8.1
	40歳代	90	20	1	57	22	-	12
		100.0	22.2	1.1	63.3	24.4	-	13.3
	50歳代	91	20	-	57	30	1	17
	100.0	22.0	-	62.6	33.0	1.1	18.7	
60歳代	113	16	-	69	40	3	31	
	100.0	14.2	-	61.1	35.4	2.7	27.4	
70歳以上	135	15	1	63	52	5	24	
	100.0	11.1	0.7	46.7	38.5	3.7	17.8	

### <夫婦・パートナーの就労状況別> (図表2-4②-2)

夫婦・パートナーの就労状況別に家庭での現実の役割分担についてみる。図表2-4②-2は、先の図表1-1-2 (34ページ) と図表2-1-2 (37ページ) で示した4つのタイプの回答者別に、「③日常の家事(食事のしたく、掃除、洗濯)」と「④育児」のそれぞれについて、家庭での現実の役割分担についての回答割合を示したものである。

「家事」については、男女ともに妻が家事専業(a・c)である場合に比べ、妻が雇用者(b・d)である場合の方が「夫婦・カップルで同じくらい」という回答が多くなっているが、同じ共働きでも、その回答割合は男性(d)の方が高く(22.4%)、女性(b)では低くなっている(12.3%)。

男性は女性と同程度の家事負担をしていると考えていても、女性から見れば同程度とは思えないという傾向がうかがえる。こうした傾向は、妻が家事専業の男性雇用者(c)と夫が雇用者の女性家事専業(a)との間でも同様に見られ、男性(c)では12.9%が「夫婦・カップルで同じくらい」と回答しているが、女性(a)でそう回答している割合は2.4%にすぎない。

「育児」についても、自身が家事専業である女性(e)と妻が家事専業である男性(g)の回答を比較すると、「主に妻・パートナー(女性)」という回答は女性(e)が男性(g)を約10ポイント上回っている。しかし、自身が雇用者である女性(f)と妻が雇用者である男性(h)の間では回答傾向にほとんど違いは見られない。つまり、妻が家事専業である夫婦(e・g)においては、育児についても、男性は夫婦同程度に参加していると考えているのに妻はそうは思っていないという傾向がうかがえるが、共働き夫婦(f・h)の間では、夫婦間で育児分担の認識がある程度一致している傾向がうかがえる。

【図表2-4②-2 夫婦・パートナーの就労状況別 家庭での分担(現実)】

		n	で夫 同 婦 じ ・ カ ッ プ ル	ナ 主 に 妻 ( 女 ・ パ ー ト ナ ー )	そ の 他	該 当 し な い	無 回 答
家事	全体 上段/実数	1183	160	926	19	10	68
	下段/%	100.0	13.5	78.3	1.6	0.8	5.7
	(a)夫が雇用者である女性家事専業	166	4	157	2	-	3
		100.0	2.4	94.6	1.2	-	1.8
	(b)夫が雇用者である女性雇用者	204	25	175	1	1	2
		100.0	12.3	85.8	0.5	0.5	1.0
育児	(c)妻が家事専業である男性雇用者	116	15	95	2	-	4
		100.0	12.9	81.9	1.7	-	3.4
	(d)妻が雇用者である男性雇用者	125	28	91	4	1	1
		100.0	22.4	72.8	3.2	0.8	0.8
	全体 上段/実数	1183	176	689	7	202	109
	下段/%	100.0	14.9	58.2	0.6	17.1	9.2
育児	(e)夫が雇用者である女性家事専業	166	19	122	-	17	8
		100.0	11.4	73.5	-	10.2	4.8
	(f)夫が雇用者である女性雇用者	204	31	129	2	39	3
		100.0	15.2	63.2	1.0	19.1	1.5
	(g)妻が家事専業である男性雇用者	116	21	73	-	16	6
	100.0	18.1	62.9	-	13.8	5.2	
	(h)妻が雇用者である男性雇用者	125	24	76	2	21	2
		100.0	19.2	60.8	1.6	16.8	1.6

※「主に夫・パートナー(男性)」と「その他の人」を合わせて「その他」とした。

※ここでの「雇用者」とは、「会社、官公庁、個人商店などに雇われている人」をいう。

※(a)～(h)にはパートナーを含む。

<前回調査（平成22年（2010年））との比較>（図表2-4②-3）

前回調査の結果に比べ、「①生活費を得る」については、女性では「主に夫・パートナー（男性）」の割合は低下し、「夫婦・カップルで同じくらい」が上昇している。

一方、男性も同様の傾向がみられるが、その変化は女性に比べ小さい。

「②家計の管理」では、男女とも「夫婦・カップルで同じくらい」の割合が上昇し、「主に妻・パートナー（女性）」は低下している。

「③日常の家事（食事のしたく、掃除、洗濯）」については、男性で「夫婦・カップルで同じくらい」の割合が上昇し、「主に妻・パートナー（女性）」は低下しているが、女性は「夫婦・カップルで同じくらい」の割合が低下している。

「④育児」も、「③日常の家事（食事のしたく、掃除、洗濯）」と同様の傾向がみられ、「夫婦・カップルで同じくらい」の割合は女性で低下している。

「⑤高齢者、病人の介護・看護」では、男女とも「主に妻・パートナー（女性）」の割合が低下しているものの、女性では「夫婦・カップルで同じくらい」も低下しているのに対し、男性では上昇している。

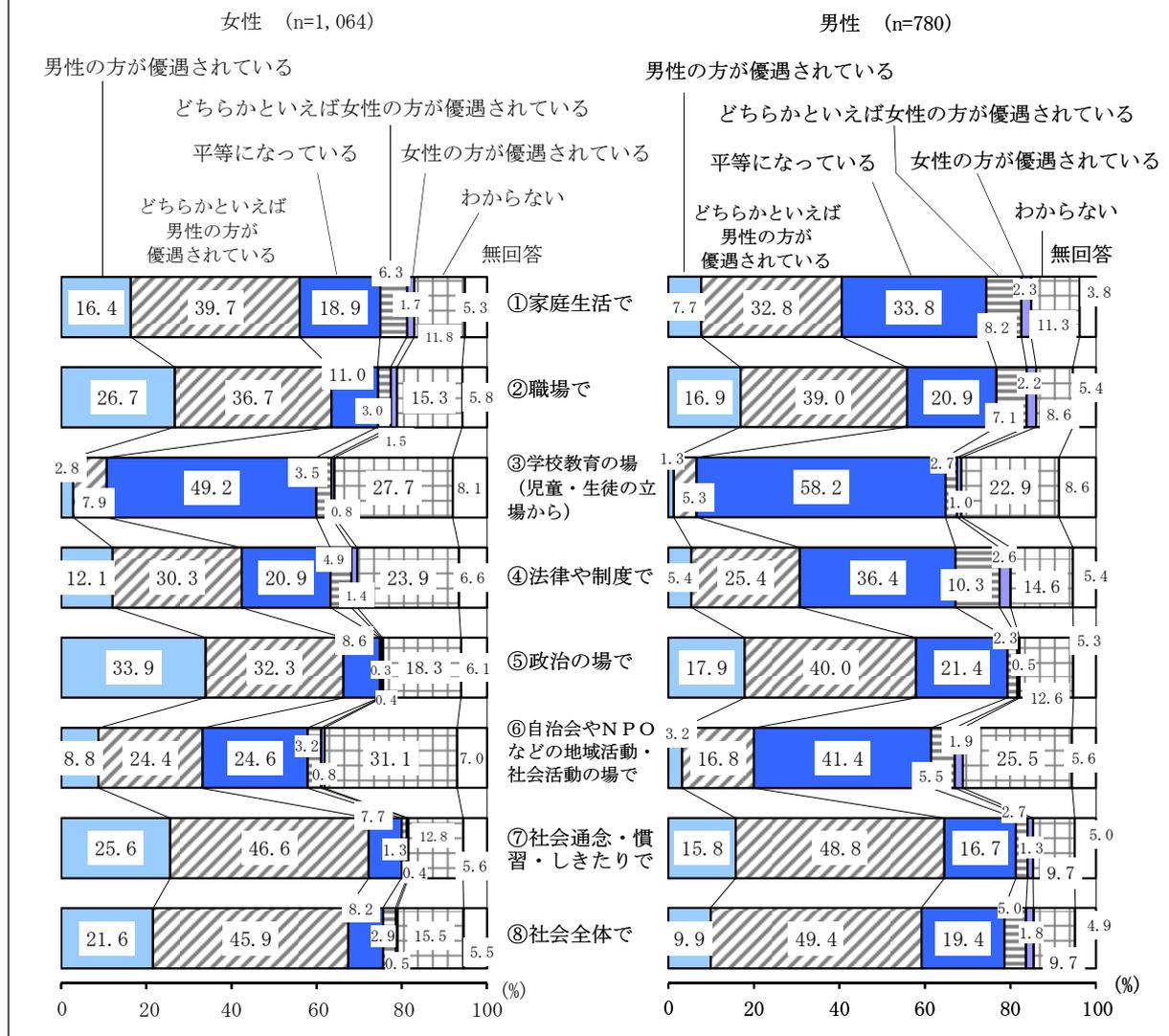
【図表2-4②-3 前回調査との比較 家庭での分担（現実）】

		女性				男性			
		n	で夫 同婦 じ・ くカ ツ プ ル	ナ 主 に 夫 （ 男 ・ 性 ） パ ー ト	ナ 主 に 妻 （ 女 ・ 性 ） パ ー ト	n	で夫 同婦 じ・ くカ ツ プ ル	ナ 主 に 夫 （ 男 ・ 性 ） パ ー ト	ナ 主 に 妻 （ 女 ・ 性 ） パ ー ト
①生活費を得る	今回調査	675	18.2	71.1	2.7	505	15.4	74.3	2.2
	前回調査	463	15.3	75.6	2.6	456	14.0	76.8	2.4
②家計の管理	今回調査	675	16.1	11.0	65.9	505	14.7	16.8	60.6
	前回調査	463	14.0	12.3	68.9	456	12.1	16.9	64.0
③日常の家事（食事のしたく、掃除、洗濯）	今回調査	675	11.3	0.6	81.9	505	16.6	1.8	73.9
	前回調査	463	12.5	1.5	81.0	456	14.9	1.3	77.0
④育児	今回調査	675	13.5	-	60.1	505	16.8	0.4	56.0
	前回調査	463	15.8	0.2	59.2	456	14.5	0.4	56.8
⑤高齢者、病人の介護・看護	今回調査	675	20.7	0.4	25.6	505	30.9	1.8	17.6
	前回調査	463	24.8	1.1	30.5	456	25.9	1.8	20.8

## (5) 各分野での男女平等感

問9 あなたは、一般的に、次の①～⑧の各分野で男女は平等になっていると思いますか。(〇は各項目それぞれ1つずつ)

【図表2-5 各分野での男女平等感】



### <性別> (図表2-5)

各分野での男女平等感について、「平等になっている」では、「③学校教育の場（児童・生徒の立場から）」が男女ともに最も多くなっている。男性では「①家庭生活で」（33.8%）や「④法律や制度で」（36.4%）、「⑥自治会やNPOなどの地域活動・社会活動の場で」（41.4%）も「平等になっている」が最も多くなっており、すべての項目で「平等になっている」の割合は男性の方が高くなっている。

また、「男性の方が優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた『男性優遇』の割合では、男女とも「⑦社会通念・慣習・しきたりで」が最も高く、次いで「⑧社会全体で」「⑤政治の場で」「②職場で」と続いており、これらの項目は、『男性優遇』が男女とも50%以上を占めている。

「平等になっている」の割合は、①から⑧すべての分野で女性の回答が男性の回答を下回っているが、男女の差が10ポイントを超えているものを差の大きい順に挙げる

と、「⑥自治会やNPOなどの地域活動・社会活動の場で」（16.8ポイント差）、「④法律や制度で」（15.5ポイント差）、「①家庭生活で」（14.9ポイント差）、「⑤政治の場で」（12.8ポイント差）、「⑧社会全体で」（11.2ポイント差）となる。

男女平等という状態に対する認識の差は男女間で大きく、特に「⑥自治会やNPOなどの地域活動・社会活動の場で」男女平等となっていないと感じている女性が多いことがうかがえる。

## <性・年代別>（図表2-5-1）

### ①家庭生活で

女性では、各年代で『男性優遇』が最も多く、50歳以上の年代では6割台と高くなっている。また、「平等」は、20歳代・30歳代が3割前後となっており、40歳以上の年代に比べ高くなっている。

男性では、30歳代・40歳代で「平等」が最も多く、『男性優遇』の割合が高い同年代の女性とは認識が異なっている。20歳代と50歳以上の年代では『男性優遇』が最も多く、また、『女性優遇』は、20歳代・30歳代が15～16%台で男性の他の年代と同年代の女性の割合に比べ高くなっている。

### ②職場で

男女とも、各年代で『男性優遇』が最も多くなっており、30歳以上の年代では、男女とも50%以上を占めている。一方、『女性優遇』は、男性の20～40歳代で高く、同年代の女性の割合を10ポイント以上上回っている。

### ③学校教育の場（児童・生徒の立場から）

男女とも、各年代で「平等」が最も多くなっており、女性は20～50歳代、男性は各年代で50%以上を占めている。

### ④法律や制度で

女性では、各年代で『男性優遇』が最も多く、なかでも50歳代は53.3%と高くなっている。また、『女性優遇』は、20歳代・30歳代が1割台で40歳以上の年代に比べ高くなっている。

男性では、20歳代は『男性優遇』『平等』『女性優遇』の各割合が同率（24.5%）となっている。30歳代は『男性優遇』と「平等」が同率（26.0%）で多いが、『女性優遇』（25.0%）との差は小さい。20歳代・30歳代では、同年代の女性が『男性優遇』寄りに対し、「平等」と『女性優遇』にも評価が分かれ、40歳以上になると「平等」が最も多くなっている。また、『女性優遇』は、20歳代・30歳代が2割台、40歳代は19.4%で、50歳以上の年代に比べ高くなっている。

### ⑤政治の場で

男女とも、各年代で『男性優遇』が最も多くなっている。また、「平等」は、男性の各年代とも1～2割台で、それぞれ同年代の女性の割合を上回っている。

### ⑥自治会やNPOなどの地域活動・社会活動の場で

女性では、20～40歳代で「わからない」が最も多いが、20歳代は「平等」、30歳代・40歳代は『男性優遇』が、それぞれ35%台と多くなっている。50歳以上では『男性優遇』が最も多く、なかでも50歳代は43.0%と最も高くなっている。

男性では、20歳代・30歳代は「わからない」が最も多く、次いで「平等」となっている。40歳以上では「平等」が4割台で最も多く、同年代の女性が『男性優遇』寄りにとらえているのとは異なっている。

#### ⑦社会通念・慣習・しきたりで

男女とも、各年代で『男性優遇』が50%以上を占めている。また、「平等」では、男性の各年代では1～2割台で、それぞれ同年代の女性の割合を上回っている。なかでも男性の70歳以上は21.7%と高くなっている。

#### ⑧社会全体で

男女とも、各年代で『男性優遇』が最も多く、女性では50%以上を占めている。また、「平等」は、男性の各年代では1～2割台で、それぞれ同年代の女性の割合を上回っている。なかでも男性の70歳以上は26.9%と高くなっている。

図表2-5で「平等になっている」との認識の男女差が大きかった分野について、特に男女差が大きい年代に着目してみると、「①家庭生活で」は60歳代（21.7ポイント差）、「④法律や制度で」は50歳代（21.3ポイント差）、「⑤政治の場で」は70歳以上（16.0ポイント差）、「⑥自治会やNPOなどの地域活動・社会活動の場で」は50歳代（24.0ポイント差）、「⑧社会全体で」は70歳以上（18.4ポイント差）となっており、50歳以上で男女の認識の差が大きいことがわかる。この年代では、男性では女性に比べ各分野で男女平等が実現されていると考えている人が多いのに対し、女性では男性に比べそのようには感じていない人が多いことがうかがえる。

一方、20歳代では、50歳以上に比べ、「平等になっている」との回答の男女差は小さい。これは、若い世代の身近な生活では年長世代に比べ本当に男女平等化が進んでいるからなのか、それとも、図表1-1-1（32ページ）でみたように、20歳代の女性では30歳代の女性に比べ、伝統的な家族観や子育て観をもつ傾向にあることが関係しているのか、いずれにしても今後の動向を見極める必要があるだろう。

【図表2-5-1 性・年代別 各分野での男女平等感①】

	n	①家庭生活で				②職場で				③学校教育の場（児童・生徒の立場から）				
		『男性優遇』	平等	『女性優遇』	わからない	『男性優遇』	平等	『女性優遇』	わからない	『男性優遇』	平等	『女性優遇』	わからない	
全体	上段/実数 下段/%	1851 100.0	914 49.4	466 25.2	167 9.0	216 11.7	1112 60.1	281 15.2	120 6.5	232 12.5	166 9.0	978 52.8	76 4.1	476 25.7
女性	20歳代	76 100.0	32 42.1	22 28.9	7 9.2	13 17.1	37 48.7	20 26.3	9 11.8	10 13.2	4 5.3	43 56.6	7 9.2	22 28.9
	30歳代	157 100.0	65 41.4	52 33.1	12 7.6	27 17.2	111 70.7	15 9.6	6 3.8	23 14.6	15 9.6	88 56.1	7 4.5	44 28.0
	40歳代	206 100.0	110 53.4	34 16.5	17 8.3	37 18.0	137 66.5	21 10.2	12 5.8	30 14.6	21 10.2	108 52.4	8 3.9	63 30.6
	50歳代	165 100.0	101 61.2	31 18.8	11 6.7	15 9.1	116 70.3	30 18.2	4 2.4	14 8.5	22 13.3	93 56.4	5 3.0	39 23.6
	60歳代	186 100.0	122 65.6	24 12.9	15 8.1	14 7.5	134 72.0	17 9.1	9 4.8	18 9.7	26 14.0	82 44.1	7 3.8	52 28.0
	70歳以上	271 100.0	165 60.9	37 13.7	23 8.5	20 7.4	138 50.9	13 4.8	8 3.0	68 25.1	26 9.6	107 39.5	12 4.4	75 27.7
	男性	20歳代	53 100.0	16 30.2	15 28.3	8 15.1	12 22.6	24 45.3	13 24.5	12 22.6	2 3.8	3 5.7	30 56.6	6 11.3
30歳代		96 100.0	23 24.0	36 37.5	16 16.7	20 20.8	55 57.3	19 19.8	15 15.6	6 6.3	4 4.2	50 52.1	3 3.1	37 38.5
40歳代		129 100.0	42 32.6	46 35.7	15 11.6	24 18.6	76 58.9	19 14.7	21 16.3	12 9.3	6 4.7	84 65.1	7 5.4	30 23.3
50歳代		123 100.0	47 38.2	45 36.6	12 9.8	14 11.4	67 54.5	35 28.5	8 6.5	9 7.3	13 10.6	74 60.2	4 3.3	27 22.0
60歳代		162 100.0	84 51.9	56 34.6	11 6.8	7 4.3	103 63.6	35 21.6	10 6.2	9 5.6	13 8.0	104 64.2	4 2.5	31 19.1
70歳以上		212 100.0	101 47.6	65 30.7	20 9.4	11 5.2	107 50.5	42 19.8	6 2.8	29 13.7	12 5.7	109 51.4	5 2.4	40 18.9

	n	④法律や制度で				⑤政治の場で				⑥自治会やNPOなどの地域活動・社会活動の場で				
		『男性優遇』	平等	『女性優遇』	わからない	『男性優遇』	平等	『女性優遇』	わからない	『男性優遇』	平等	『女性優遇』	わからない	
全体	上段/実数 下段/%	1851 100.0	693 37.4	507 27.4	168 9.1	369 19.9	1159 62.6	261 14.1	29 1.6	294 15.9	511 27.6	586 31.7	100 5.4	533 28.8
女性	20歳代	76 100.0	25 32.9	19 25.0	10 13.2	22 28.9	52 68.4	7 9.2	-	17 22.4	9 11.8	27 35.5	3 3.9	37 48.7
	30歳代	157 100.0	66 42.0	31 19.7	18 11.5	40 25.5	112 71.3	12 7.6	-	31 19.7	56 35.7	31 19.7	4 2.5	62 39.5
	40歳代	206 100.0	97 47.1	35 17.0	14 6.8	54 26.2	157 76.2	8 3.9	2 1.0	34 16.5	72 35.0	42 20.4	6 2.9	78 37.9
	50歳代	165 100.0	88 53.3	32 19.4	10 6.1	29 17.6	128 77.6	12 7.3	1 0.6	22 13.3	71 43.0	41 24.8	7 4.2	43 26.1
	60歳代	186 100.0	80 43.0	44 23.7	9 4.8	40 21.5	120 64.5	21 11.3	2 1.1	33 17.7	66 35.5	48 25.8	8 4.3	51 27.4
	70歳以上	271 100.0	94 34.7	60 22.1	6 2.2	69 25.5	135 49.8	32 11.8	2 0.7	57 21.0	80 29.5	72 26.6	14 5.2	59 21.8
	男性	20歳代	53 100.0	13 24.5	13 24.5	13 24.5	13 24.5	32 60.4	9 17.0	2 3.8	9 17.0	12 22.6	17 32.1	1 1.9
30歳代		96 100.0	25 26.0	25 26.0	24 25.0	21 21.9	57 59.4	14 14.6	5 5.2	19 19.8	19 19.8	25 26.0	11 11.5	40 41.7
40歳代		129 100.0	40 31.0	44 34.1	25 19.4	19 14.7	82 63.6	25 19.4	3 2.3	17 13.2	25 19.4	52 40.3	8 6.2	43 33.3
50歳代		123 100.0	43 35.0	50 40.7	11 8.9	15 12.2	80 65.0	23 18.7	4 3.3	12 9.8	27 22.0	60 48.8	6 4.9	25 20.3
60歳代		162 100.0	59 36.4	67 41.4	16 9.9	13 8.0	101 62.3	37 22.8	7 4.3	12 7.4	39 24.1	73 45.1	13 8.0	31 19.1
70歳以上		212 100.0	59 27.8	84 39.6	10 4.7	32 15.1	97 45.8	59 27.8	1 0.5	28 13.2	34 16.0	94 44.3	18 8.5	37 17.5

【図表2-5-1 性・年代別 各分野での男女平等感②】

	n	⑦社会通念・慣習・しきたりで				⑧社会全体で				
		『男性優遇』	平等	『女性優遇』	わからない	『男性優遇』	平等	『女性優遇』	わからない	
全体	上段/実数 下段/%	1851 100.0	1274 68.8	213 11.5	50 2.7	213 11.5	1183 63.9	239 12.9	89 4.8	242 13.1
女性	20歳代	76 100.0	46 60.5	8 10.5	2 2.6	19 25.0	46 60.5	10 13.2	7 9.2	13 17.1
	30歳代	157 100.0	122 77.7	13 8.3	3 1.9	16 10.2	111 70.7	16 10.2	2 1.3	26 16.6
	40歳代	206 100.0	163 79.1	8 3.9	4 1.9	25 12.1	145 70.4	9 4.4	8 3.9	38 18.4
	50歳代	165 100.0	129 78.2	19 11.5	1 0.6	15 9.1	122 73.9	16 9.7	6 3.6	19 11.5
	60歳代	186 100.0	146 78.5	10 5.4	1 0.5	20 10.8	135 72.6	13 7.0	5 2.7	24 12.9
	70歳以上	271 100.0	161 59.4	24 8.9	7 2.6	40 14.8	157 57.9	23 8.5	8 3.0	45 16.6
	男性	20歳代	53 100.0	31 58.5	7 13.2	4 7.5	10 18.9	22 41.5	10 18.9	9 17.0
30歳代		96 100.0	61 63.5	13 13.5	5 5.2	16 16.7	53 55.2	18 18.8	9 9.4	15 15.6
40歳代		129 100.0	91 70.5	19 14.7	4 3.1	14 10.9	82 63.6	22 17.1	9 7.0	15 11.6
50歳代		123 100.0	83 67.5	19 15.4	6 4.9	11 8.9	81 65.9	20 16.3	8 6.5	10 8.1
60歳代		162 100.0	119 73.5	26 16.0	4 2.5	7 4.3	118 72.8	24 14.8	8 4.9	6 3.7
70歳以上		212 100.0	115 54.2	46 21.7	8 3.8	18 8.5	104 49.1	57 26.9	9 4.2	18 8.5

<前回調査（平成22年（2010年））との比較>（図表2-5-2）

前回調査の結果に比べ、男女とも、「①家庭生活で」「②職場で」「③学校教育の場（児童・生徒の立場から）」「⑧社会全体で」において、『男性優遇』の割合が低下している。一方、「④法律や制度で」と「⑤政治の場で」では、男女とも『男性優遇』の割合が増加し、「平等」の割合は低下している。

【図表2-5-2 前回調査との比較 各分野での男女平等感】

		女性				男性			
		n	『男性優遇』	平等	『女性優遇』	n	『男性優遇』	平等	『女性優遇』
①家庭生活で	今回調査	1064	56.0	18.9	8.0	780	40.5	33.8	10.5
	前回調査	690	59.6	17.5	6.5	581	48.7	34.6	6.9
②職場で	今回調査	1064	63.3	11.0	4.5	780	55.9	20.9	9.2
	前回調査	690	67.0	10.3	2.1	581	58.0	20.3	8.5
③学校教育の場（児童・生徒の立場から）	今回調査	1064	10.7	49.2	4.3	780	6.5	58.2	3.7
	前回調査	690	11.8	53.0	2.3	581	8.1	61.1	5.7
④法律や制度で	今回調査	1064	42.4	20.9	6.3	780	30.8	36.4	12.8
	前回調査	690	37.7	28.8	4.9	581	26.5	44.9	12.2
⑤政治の場で	今回調査	1064	66.3	8.6	0.7	780	57.9	21.4	2.8
	前回調査	690	65.1	12.9	0.9	581	52.5	28.1	3.8
⑥自治会やNPOなどの地域活動・社会活動の場で	今回調査	1064	33.3	24.6	3.9	780	20.0	41.4	7.4
	前回調査	690	31.7	32.2	7.4	581	30.5	41.1	10.5
⑦社会通念・慣習・しきたり	今回調査	1064	72.2	7.7	1.7	780	64.6	16.7	4.0
	前回調査	690	72.1	9.3	1.4	581	66.8	17.0	4.3
⑧社会全体で	今回調査	1064	67.5	8.2	3.4	780	59.2	19.4	6.8
	前回調査	690	70.2	10.9	1.6	581	61.1	18.9	6.9

※前回調査の「⑥地域活動の場で」は、今回調査では「⑥自治会やNPOなどの地域活動・社会活動の場で」に表記を変更している。

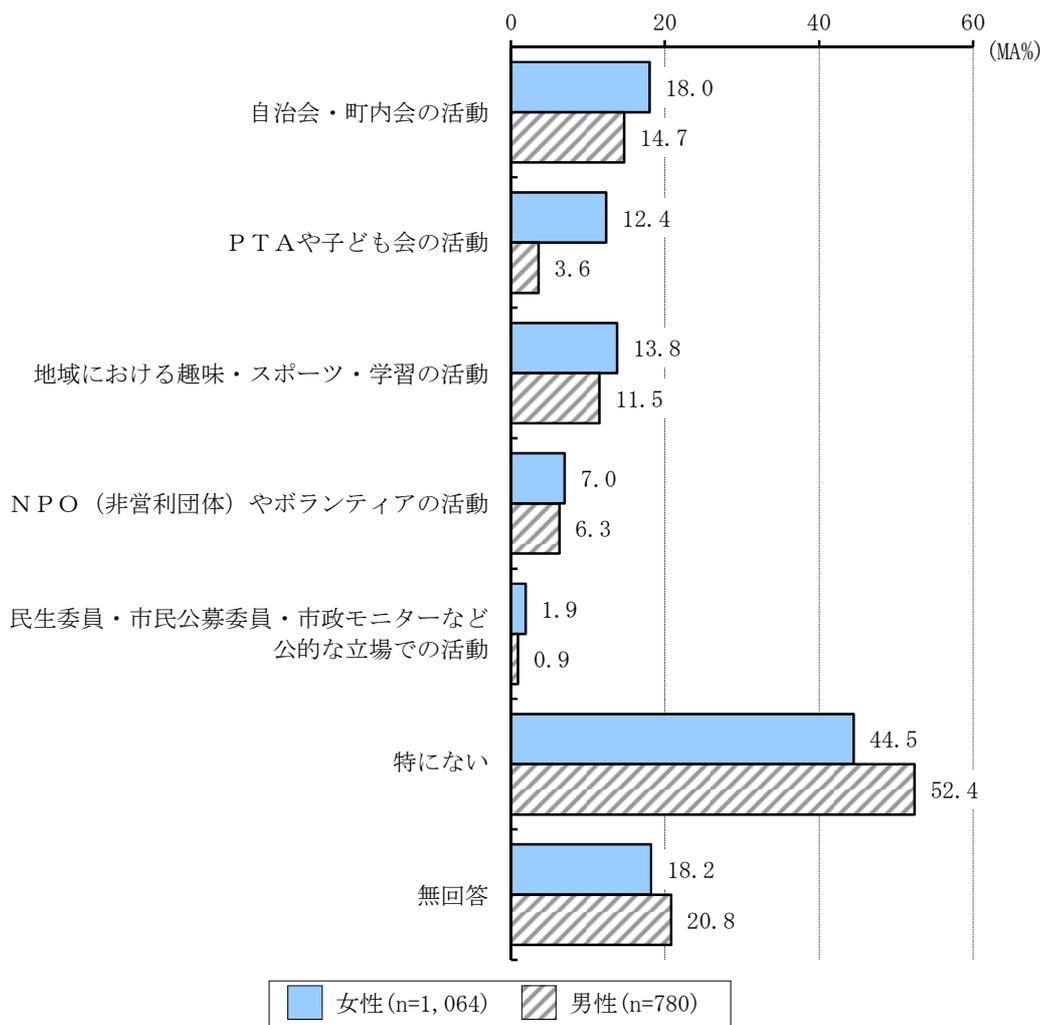
### 3. 地域活動について

#### (1) 地域活動の参加状況

##### ①現在参加している活動

問10 次の地域活動について、(ア) 現在参加している活動と、(イ) 今後（または引き続き）参加したい活動に○をつけてください。（○はいくつでも）

【図表3-1① 現在参加している活動】



#### <性別> (図表3-1①)

地域活動の参加状況について、現在参加している活動は、男女とも「特にない」が最も多く、全体100%から「特にない」と「無回答」の各割合を引いた活動に参加している割合は、女性37.3%に対し、男性26.8%で女性が高い。現在参加している人では、男女とも「自治会・町内会の活動」（女性18.0%、男性14.7%）が最も多く、次いで「地域における趣味・スポーツ・学習の活動」（女性13.8%、男性11.5%）となっている。また、すべての活動で女性の割合の方が高くなっており、なかでも「P T Aや子ども会の活動」は、女性12.4%に対し、男性が3.6%と8.8ポイント低くなっている。

<性・年代別> (図表3-1①-1)

男女とも「特にない」が最も多く、女性の20歳代及び男性の20～50歳代では6割前後を占めている。

現在地域活動に参加している女性では、20歳代は「地域における趣味・スポーツ・学習の活動」、30歳代・40歳代は「PTAや子ども会の活動」、50歳以上の年代では「自治会・町内会の活動」が最も多くなっている。また、「PTAや子ども会の活動」は、40歳代が36.4%で他の年代に比べ高くなっている。「地域における趣味・スポーツ・学習の活動」の割合は、年代が上がるほど上昇しており、70歳以上では21.4%となっている。

現在地域活動に参加している男性では、20歳代は「NPO（非営利団体）やボランティアの活動」、30歳代は「地域における趣味・スポーツ・学習の活動」、40歳以上の各年代では「自治会・町内会の活動」が最も多くなっている。また、「PTAや子ども会の活動」は40歳代（14.0%）、「地域における趣味・スポーツ・学習の活動」では70歳以上（18.9%）が、それぞれ他の年代に比べ高くなっている。

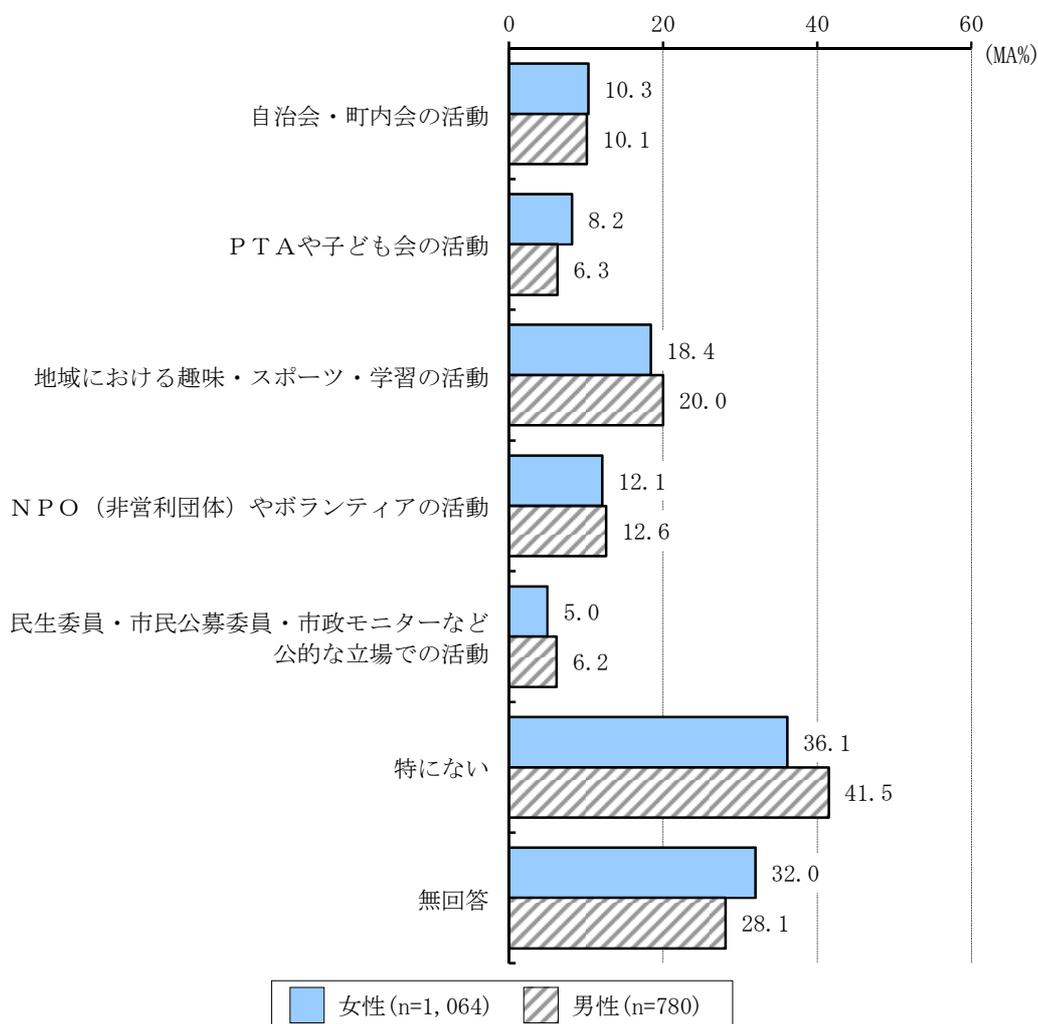
「PTAや子ども会の活動」は、30歳代の女性が19.7%に対し同年代の男性は3.1%、40歳代の女性が36.4%に対し同年代の男性は14.0%と、女性が活動の中心になっている状況がうかがえる。

【図表 3-1①-1 性・年代別 現在参加している活動】

		n	自治会・町内会の活動	PTAや子ども会の活動	地域における趣味・スポーツ・学習の活動	NPO（非営利団体）やボランティアの活動	民生委員・市民公募委員・立場での活動	特にない
全体		1851	307	160	237	123	27	884
上段/実数		100.0	16.6	8.6	12.8	6.6	1.5	47.8
下段/MA%								
女性	20歳代	76	3	3	5	3	1	50
		100.0	3.9	3.9	6.6	3.9	1.3	65.8
	30歳代	157	17	31	12	3	-	83
		100.0	10.8	19.7	7.6	1.9	-	52.9
	40歳代	206	31	75	19	10	2	85
		100.0	15.0	36.4	9.2	4.9	1.0	41.3
	50歳代	165	34	11	18	13	2	83
	100.0	20.6	6.7	10.9	7.9	1.2	50.3	
男性	60歳代	186	39	3	35	18	6	79
		100.0	21.0	1.6	18.8	9.7	3.2	42.5
	70歳以上	271	66	7	58	26	9	93
		100.0	24.4	2.6	21.4	9.6	3.3	34.3
	20歳代	53	3	-	3	5	1	32
		100.0	5.7	-	5.7	9.4	1.9	60.4
	30歳代	96	6	3	8	2	-	62
	100.0	6.3	3.1	8.3	2.1	-	64.6	
40歳代	129	19	18	13	7	1	74	
	100.0	14.7	14.0	10.1	5.4	0.8	57.4	
50歳代	123	13	3	11	4	-	74	
	100.0	10.6	2.4	8.9	3.3	-	60.2	
60歳代	162	32	1	15	12	1	82	
	100.0	19.8	0.6	9.3	7.4	0.6	50.6	
70歳以上	212	41	3	40	19	4	83	
	100.0	19.3	1.4	18.9	9.0	1.9	39.2	

## ②今後（または引き続き）参加したい活動

【図表3-1② 今後（または引き続き）参加したい活動】



### <性別>（図表3-1②）

今後（または引き続き）参加したい活動では、男女とも「特にない」が最も多く、全体100%から「特にない」と「無回答」の各割合を引いた何らかの活動に参加したい割合は、女性31.9%に対し、男性30.4%で、男女とも回答者の3人に1人となっている。

今後（または引き続き）参加したい人では、男女とも「地域における趣味・スポーツ・学習の活動」が最も多く、女性18.4%、男性20.0%となっている。次いで、男女ともに「NPO（非営利団体）やボランティアの活動」が12%台、「自治会・町内会の活動」が10%台となっている。

現在参加している地域活動についての回答（図3-1①）と今後（または引き続き）参加したい地域活動についての回答（図3-1②）を比べると、「自治会・町内会の活動」については、男女ともに今後（または引き続き）参加したいという回答が現在参加しているという回答を下回っている。「PTAや子ども会の活動」については、女性で

は今後（または引き続き）参加したいという回答が現在参加しているという回答を下回っている。一方、男性では今後（または引き続き）参加したいという回答が現在参加しているという回答をわずかではあるが上回っている。「地域における趣味・スポーツ・学習の活動」「NPO（非営利団体）やボランティアの活動」「民生委員・市民公募委員・市政モニターなど公的な立場での活動」については、男女ともに今後（または引き続き）参加したいという回答の方が現在参加しているという回答をそれぞれ上回っている。どちらかといえば、自主的に参加するという性格の強い地域活動に対する関心が男女とも高いことがうかがえる。

#### <性・年代別>（図表3-1②-1）

男女とも「特にない」が最も多くなっており、女性では20歳代、男性では30歳代と50歳代が5割台で高くなっている。

今後（または引き続き）活動に参加したい女性では、50歳代は「NPO（非営利団体）やボランティアの活動」が最も多くなっている。他の年代では「地域における趣味・スポーツ・学習の活動」が最も多く、特に20歳代・30歳代は25%台と高くなっている。

また、「PTAや子ども会の活動」では、30歳代が20.4%で他の年代に比べ高くなっている。

今後（または引き続き）活動に参加したい男性では、各年代とも「地域における趣味・スポーツ・学習の活動」が最も多くなっており、なかでも20歳代が30.2%と高くなっている。また、「PTAや子ども会の活動」は、30歳代が11.5%で他の年代に比べ高くなっているが、女性の30歳代・40歳代の割合に比べ男性の割合は低くなっている。

現在参加している地域活動についての回答（図表3-1①-1、60ページ）と今後（または引き続き）参加したい地域活動についての回答（図表3-1②-1、63ページ）を比べると、今後（または引き続き）参加したい地域活動の割合が現在参加している地域活動の割合を10ポイント以上、上回っている層に注目してみたところ、「地域における趣味・スポーツ・学習の活動」で、女性の20～30歳代、男性の20～30歳代と50～60歳代が、「NPO（非営利団体）やボランティアの活動」で、女性20～40歳代と男性の30歳代がそれに該当した。特に若い年代の男女と60歳前後の男性の間では、実際の参加程度以上に地域活動への関心が高い様子が見られる。

【図表3-1②-1 性・年代別 今後（または引き続き）参加したい活動】

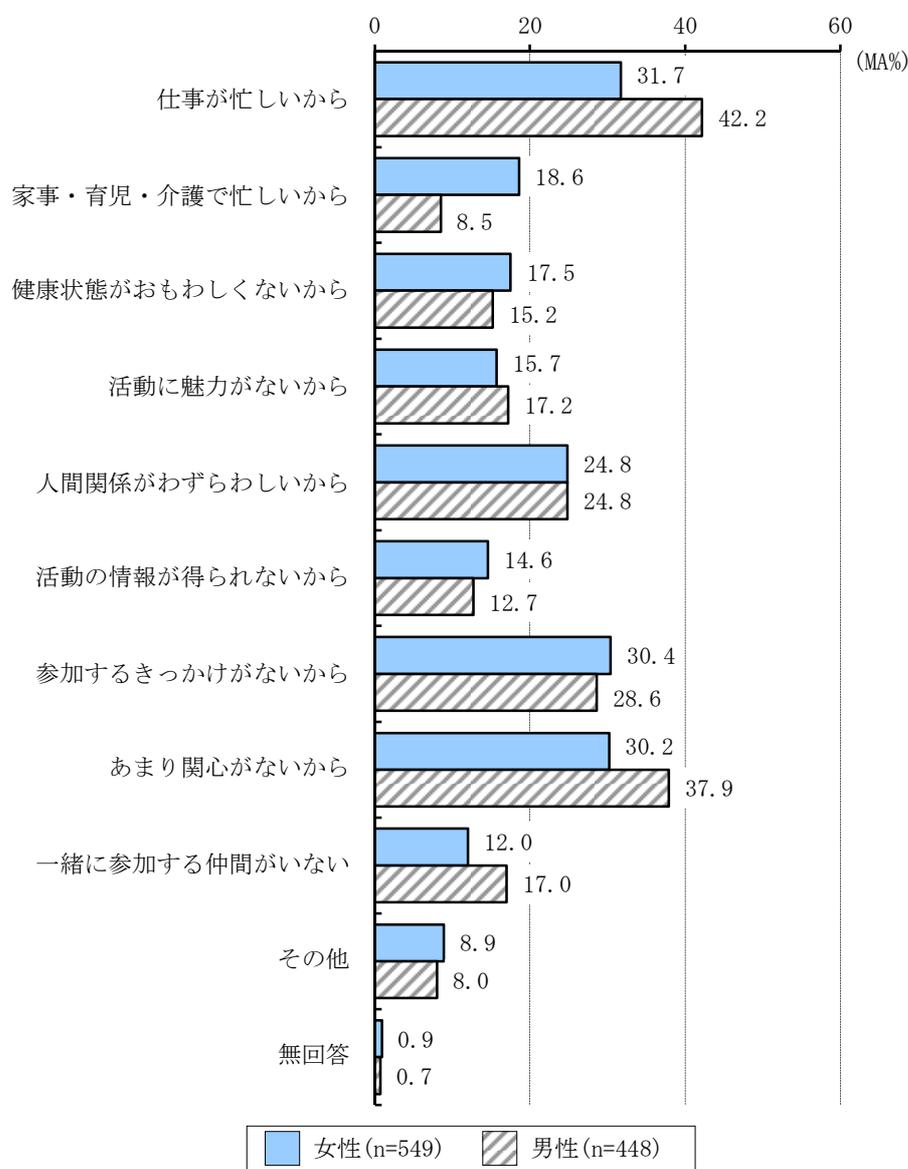
		n	自治会・町内会の活動	PTAや子ども会の活動	地域における学習の趣味・スポーツ	NPO（非営利団体）やボランティアの活動	民生委員・市民公募委員・立場での活動	特にない
全体	上段/実数 下段/MA%	1851 100.0	190 10.3	137 7.4	352 19.0	227 12.3	101 5.5	709 38.3
女性	20歳代	76 100.0	7 9.2	9 11.8	19 25.0	11 14.5	4 5.3	40 52.6
	30歳代	157 100.0	21 13.4	32 20.4	40 25.5	20 12.7	8 5.1	71 45.2
	40歳代	206 100.0	17 8.3	30 14.6	33 16.0	31 15.0	18 8.7	80 38.8
	50歳代	165 100.0	22 13.3	9 5.5	20 12.1	24 14.5	9 5.5	76 46.1
	60歳代	186 100.0	24 12.9	1 0.5	38 20.4	20 10.8	4 2.2	57 30.6
	70歳以上	271 100.0	19 7.0	5 1.8	45 16.6	23 8.5	9 3.3	60 22.1
	男性	20歳代	53 100.0	3 5.7	4 7.5	16 30.2	6 11.3	4 7.5
30歳代		96 100.0	10 10.4	11 11.5	22 22.9	18 18.8	6 6.3	51 53.1
40歳代		129 100.0	16 12.4	10 7.8	24 18.6	18 14.0	7 5.4	61 47.3
50歳代		123 100.0	8 6.5	4 3.3	25 20.3	11 8.9	5 4.1	63 51.2
60歳代		162 100.0	18 11.1	14 8.6	34 21.0	26 16.0	14 8.6	63 38.9
70歳以上		212 100.0	24 11.3	6 2.8	34 16.0	17 8.0	12 5.7	62 29.2

## (2) 地域活動に参加したくない理由

【問10で1つでも「6. 特にない」と答えられた方におたずねします。】

問10-1 それはどのような理由からですか。(〇はいくつでも)

【図表3-2 地域活動に参加したくない理由】



### <性別> (図表3-2)

地域活動に参加したくないと回答した人に、その理由をたずねたところ、男女とも「仕事が忙しいから」が最も多く、女性31.7%、男性42.2%で、男性の方が10.5ポイント高くなっている。次いで、男女とも「参加するきっかけがないから」と「あまり関心がないから」が多くなっており、なかでも男性の「あまり関心がないから」は37.9%と高くなっている。また、女性は「家事・育児・介護で忙しいから」が18.6%で男性(8.5%)に比べ10.1ポイント高くなっており、男性では「一緒に参加する仲間がない」が17.0%で女性(12.0%)に比べ5.0ポイント高くなっている。

<性・年代別> (図表3-2-1)

20歳代は「あまり関心がないから」が女性44.6%、男性51.5%で最も多くなっている。30～50歳代は「仕事が忙しいから」が女性3～4割台、男性5～6割台で最も多くなっており、30歳代の女性は「家事・育児・介護で忙しいから」(41.9%)、30歳代の男性は「活動に魅力がないから」(33.3%)が、それぞれ他の年代に比べ高くなっている。60歳代では、女性は「参加するきっかけがないから」(34.4%)、男性は「あまり関心がないから」(44.1%)が最も多く、また男性では「人間関係がわずらわしいから」(37.6%)も他の年代に比べ高くなっている。70歳以上では「健康状態がおもわしくないから」が女性43.1%、男性37.1%で最も多くなっている。

図表3-1①-1 (60ページ) と図表3-1②-1 (63ページ) との比較からは、若い年代で実際の参加程度に比べ、地域活動への関心は高い傾向がうかがえたが、一方で女性の20歳代、男性の20～30歳代で「あまり関心がないから」という回答が特に多くなっている。これらの若い年代では、地域活動への関心は高いのに何らかの理由で参加できていない人たちと、そもそも地域活動に関心がないという人たちとの間で、地域活動への関心のありようが両極に分かれている傾向がうかがえる。

【図表3-2-1 性・年代別 地域活動に参加したくない理由】

		n	仕事が忙しいから	家事・育児・介護で忙しいから	健康状態がおもわしくないから	活動に魅力がないから	人間関係がわずらわしいから	活動の情報が得られないから	参加するきっかけがないから	あまり関心がないから	一緒に参加する仲間がないから	その他
全体	上段/実数	999	363	140	164	163	247	138	296	336	143	85
	下段/MA%	100.0	36.3	14.0	16.4	16.3	24.7	13.8	29.6	33.6	14.3	8.5
女性	20歳代	56	21	7	1	9	8	10	24	25	11	4
		100.0	37.5	12.5	1.8	16.1	14.3	17.9	42.9	44.6	19.6	7.1
	30歳代	93	41	39	7	15	21	21	38	29	15	3
		100.0	44.1	41.9	7.5	16.1	22.6	22.6	40.9	31.2	16.1	3.2
	40歳代	109	41	24	19	22	35	15	33	32	11	3
		100.0	37.6	22.0	17.4	20.2	32.1	13.8	30.3	29.4	10.1	2.8
	50歳代	99	43	15	10	20	26	14	26	35	12	8
	100.0	43.4	15.2	10.1	20.2	26.3	14.1	26.3	35.4	12.1	8.1	
60歳代	90	21	12	15	12	26	12	31	30	9	7	
	100.0	23.3	13.3	16.7	13.3	28.9	13.3	34.4	33.3	10.0	7.8	
70歳以上	102	7	5	44	8	20	8	15	15	8	24	
	100.0	6.9	4.9	43.1	7.8	19.6	7.8	14.7	14.7	7.8	23.5	
男性	20歳代	33	12	3	-	6	5	6	10	17	7	5
		100.0	36.4	9.1	-	18.2	15.2	18.2	30.3	51.5	21.2	15.2
	30歳代	66	44	9	5	22	17	8	16	33	14	2
		100.0	66.7	13.6	7.6	33.3	25.8	12.1	24.2	50.0	21.2	3.0
	40歳代	82	57	10	4	13	20	8	24	24	13	4
		100.0	69.5	12.2	4.9	15.9	24.4	9.8	29.3	29.3	15.9	4.9
	50歳代	83	43	7	10	12	19	8	21	30	13	9
	100.0	51.8	8.4	12.0	14.5	22.9	9.6	25.3	36.1	15.7	10.8	
60歳代	93	25	3	16	14	35	17	35	41	20	6	
	100.0	26.9	3.2	17.2	15.1	37.6	18.3	37.6	44.1	21.5	6.5	
70歳以上	89	8	6	33	10	15	10	21	25	9	10	
	100.0	9.0	6.7	37.1	11.2	16.9	11.2	23.6	28.1	10.1	11.2	

<前回調査（平成22年（2010年））との比較>（図表3-2-2）

前回調査の結果に比べ、女性では、「仕事が忙しいから」「参加するきっかけがないから」「あまり関心がないから」が、それぞれ5ポイント以上上昇している。

男性では、「仕事が忙しいから」「あまり関心がないから」が、それぞれ5ポイント以上上昇している。

【図表3-2-2 前回調査との比較 地域活動に参加したくない理由】

			仕事が忙しいから	家事・育児・介護で忙しいから	健康状態がおもわしくないから	活動に魅力がないから	人間関係がわずらわしいから	活動の情報が得られないから	参加するきっかけがないから	あまり関心がないから	その他
		n									(MA%)
女性	今回調査	549	31.7	18.6	17.5	15.7	24.8	14.6	30.4	30.2	8.9
	前回調査	500	22.4	16.6	22.4	18.6	25.6	15.6	23.8	23.6	10.0
男性	今回調査	448	42.2	8.5	15.2	17.2	24.8	12.7	28.6	37.9	8.0
	前回調査	407	34.4	4.9	20.9	25.8	26.0	15.7	27.3	23.8	7.1

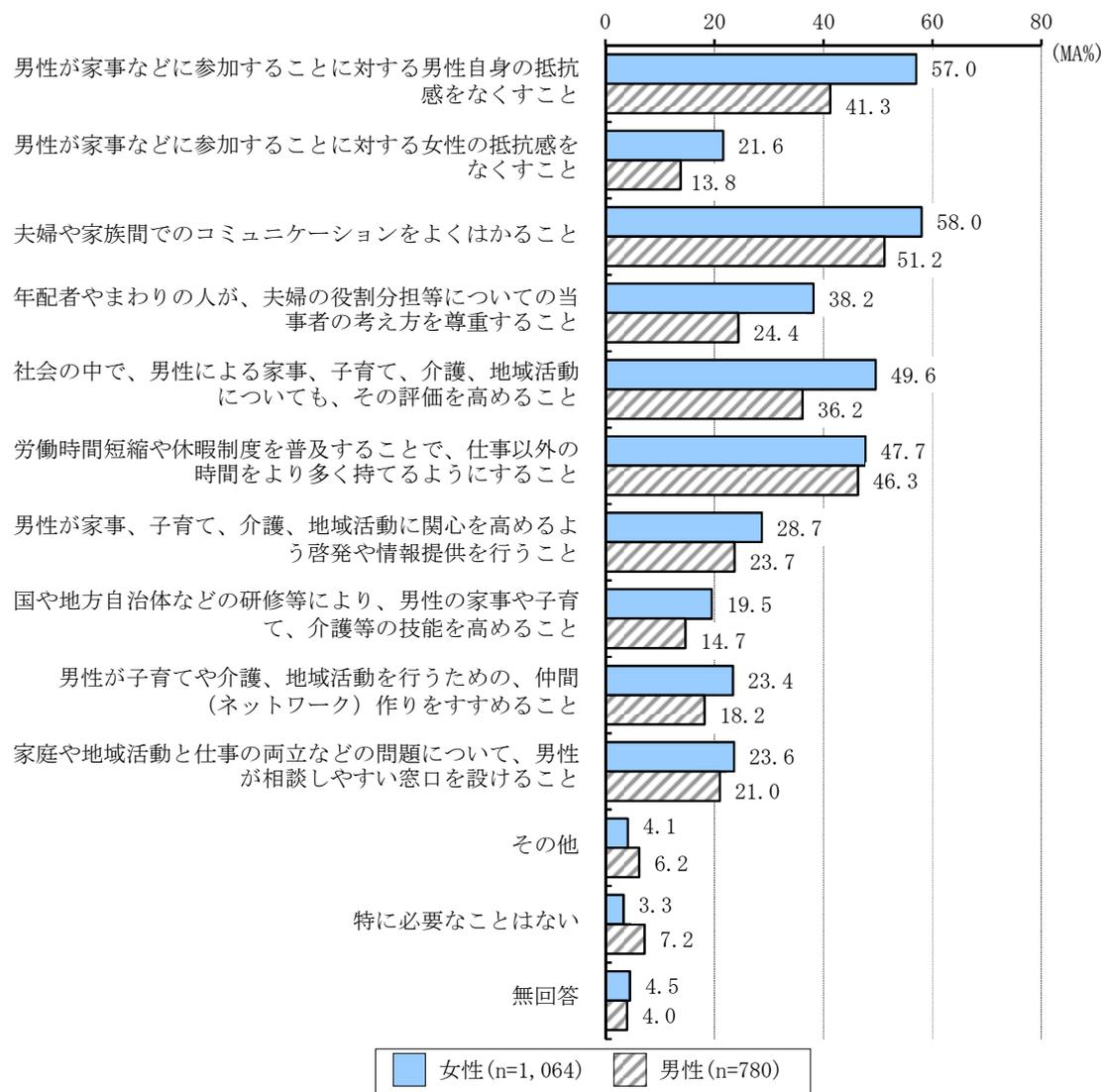
※前回調査と同じ項目のみを比較。

## 4. 男性の家事、子育て、介護、地域活動の参加について

### (1) 男性が家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくために必要なこと

問11 今後、男性が家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくためにはどのようなことが必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

【図表4-1 男性が家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくために必要なこと】



#### <性別> (図表4-1)

男性が家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくために必要なことは、男女とも「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」(女性58.0%、男性51.2%)が最も多くなっている。次いで、女性では「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」(57.0%)が男性(41.3%)に比べ15.7ポイント高く、「年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担等についての当事者の考え方を尊重すること」や「社会の中で、男性による家事、子育て、介護、地域活動についても、その評価を高めること」も13ポイント以上の差で、いずれも女性の割合

が男性を上回る結果となっている。一方、男性では「労働時間短縮や休暇制度を普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること」(46.3%)が2番目に多くなっている。

#### <性・年代別> (図表4-1-1)

女性では、20歳代と70歳以上で「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」が最も多く、特に20歳代は71.1%と他の年代に比べ高くなっている。30歳代では「労働時間短縮や休暇制度を普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること」が67.5%で最も多くなっており、「年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担等についての当事者の考え方を尊重すること」(46.5%)と「社会の中で、男性による家事、子育て、介護、地域活動についても、その評価を高めること」(61.1%)は他の年代に比べ高くなっている。40～60歳代は「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」が6割程度で最も多くなっている。

男性では、20歳代は「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」が58.5%で最も多くなっており、「男性が子育てや介護、地域活動を行うための、仲間(ネットワーク)作りをすすめること」(32.1%)は他の年代に比べ高くなっている。30～50歳代は「労働時間短縮や休暇制度を普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること」が5～6割台で最も多く、特に30歳代は61.5%と高くなっている。60歳以上では「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」が最も多くなっている。また、20～40歳代は「社会の中で、男性による家事、子育て、介護、地域活動についても、その評価を高めること」が4割台で50歳以上の年代に比べ高い。これに対し、50歳以上の年代では「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」が4割台で20～40歳の年代に比べ高く、60歳代では「労働時間短縮や休暇制度を普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること」も4割台でほぼ同程度となっている。

性別・年代別を問わず、同じ項目に回答が集中する結果となった。男性が家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくために必要なことについて、まず上位にあがったのは夫婦や家族間でのコミュニケーションであった。また、家事などに対する男性自身の抵抗感をなくすことも比較的回答の割合が高かったことから、個人の行動や意識といった個人的要因の改善が重要と考えられていることがうかがえる。

一方で、「労働時間短縮や休暇制度を普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること」や「社会の中で、男性による家事、子育て、介護、地域活動についても、その評価を高めること」、すなわち制度改善や社会全体の意識改革といった社会的要因の改善にも回答が集まっていた。

このことから、個人的要因と社会的要因双方の改善が、男性の家事・子育て・介護・地域活動への参加推進のためには必要と認識されていることがうかがえる。

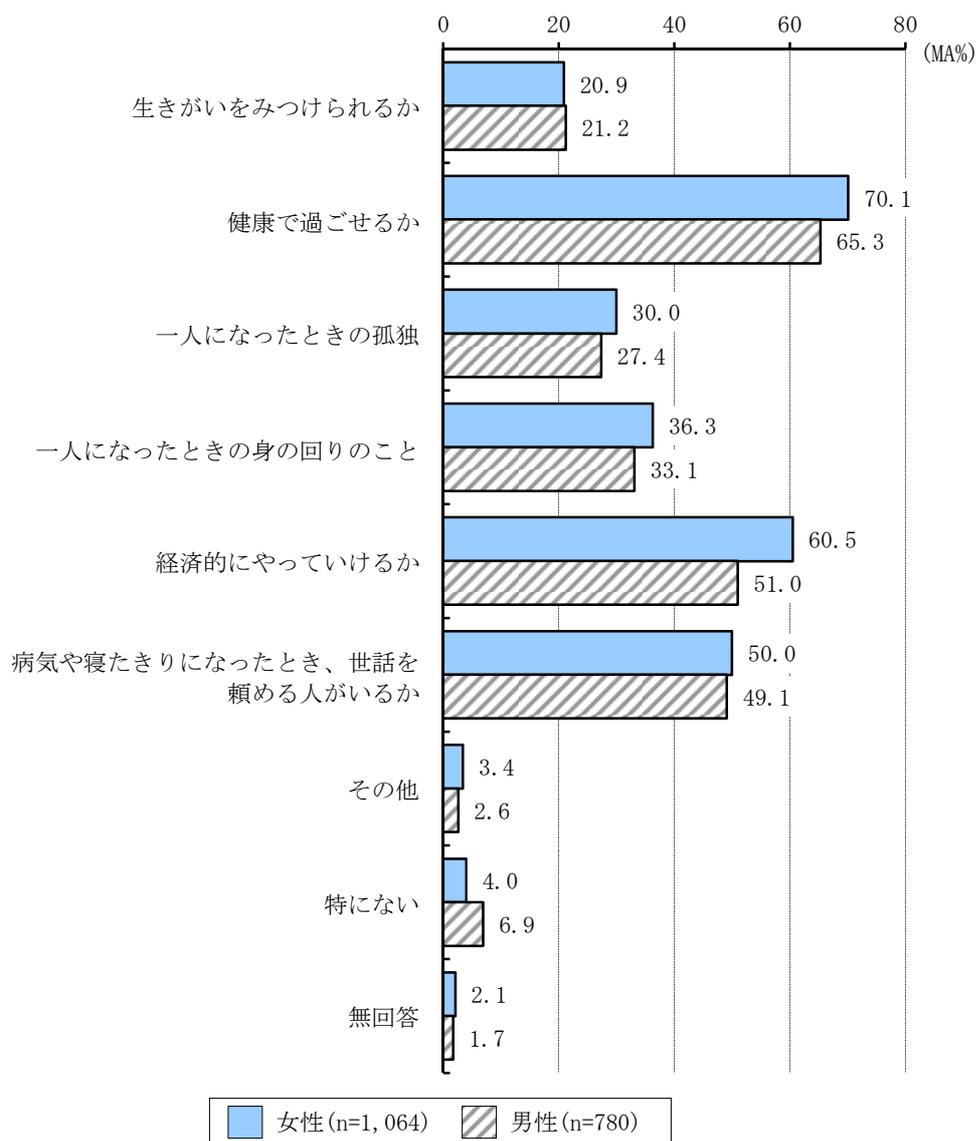


## 5. 高齢期の生活について

### (1) 高齢期の生活の不安

問12 あなたが高齢期の生活について、特に不安に思っていることはありますか。  
(〇はいくつでも)

【図表5-1 高齢期の生活の不安】



#### <性別> (図表5-1)

高齢期の生活の不安について、男女とも「健康で過ごせるか」(女性70.1%、男性65.3%)が最も多くなっており、次いで「経済的にやっていけるか」が女性60.5%、男性51.0%で、女性の方が9.5ポイント高くなっている。「病気や寝たきりになったとき、世話を頼める人がいるか」は男女とも5割前後で、男女差はほとんどみられない。

<性・年代別> (図表5-1-1)

男女ともに、20～40歳代は「経済的にやっていけるか」が女性7割台、男性6割台で最も多く、各年代とも女性の割合が男性を上回っている。40歳代の男性では「健康で過ごせるか」も同率で最も多くなっている。50歳以上では、「健康で過ごせるか」が男女とも最も多くなっており、特に女性では7～8割台と高くなっている。また、「一人になったときの孤独」は30歳代の女性が41.4%で他の年代、また同年代の男性の割合に比べ高くなっている。「一人になったときの身の回りのこと」は、女性の30歳代と50歳代の割合が高く、30～50歳代の男性よりもその割合は高くなっている。また、「一人になったときの身の回りのこと」は、70歳以上の男性で40.6%と、男性の他の年代や同年代の女性の割合に比べ高くなっている。

【図表5-1-1 性・年代別 高齢期の生活の不安】

		n	る生 かき がい をみ つけ られ	健 康 で 過 ご せ る か	独 一 人 に な っ た と き の 孤 独	の 一 回 人 に な っ た と き の 身 の 回 り の こ と	か 経 済 的 に や っ て い け る	人 た 病 が と 気 や い る か 寝 世 話 を 頼 り に な る	そ の 他	特 に な い
全体	上段/実数 下段/MA%	1851 100.0	387 20.9	1258 68.0	534 28.8	644 34.8	1045 56.5	918 49.6	56 3.0	97 5.2
女性	20歳代	76 100.0	14 18.4	33 43.4	27 35.5	26 34.2	59 77.6	33 43.4	2 2.6	3 3.9
	30歳代	157 100.0	37 23.6	99 63.1	65 41.4	64 40.8	125 79.6	82 52.2	3 1.9	3 1.9
	40歳代	206 100.0	38 18.4	135 65.5	64 31.1	70 34.0	159 77.2	95 46.1	3 1.5	5 2.4
	50歳代	165 100.0	44 26.7	124 75.2	53 32.1	67 40.6	108 65.5	94 57.0	9 5.5	5 3.0
	60歳代	186 100.0	39 21.0	149 80.1	52 28.0	65 34.9	95 51.1	96 51.6	5 2.7	8 4.3
	70歳以上	271 100.0	50 18.5	205 75.6	57 21.0	93 34.3	97 35.8	130 48.0	14 5.2	19 7.0
	男性	20歳代	53 100.0	15 28.3	31 58.5	21 39.6	18 34.0	33 62.3	26 49.1	- -
30歳代		96 100.0	19 19.8	56 58.3	21 21.9	19 19.8	62 64.6	39 40.6	3 3.1	10 10.4
40歳代		129 100.0	29 22.5	82 63.6	39 30.2	37 28.7	82 63.6	55 42.6	3 2.3	3 2.3
50歳代		123 100.0	35 28.5	73 59.3	43 35.0	38 30.9	70 56.9	62 50.4	2 1.6	6 4.9
60歳代		162 100.0	34 21.0	120 74.1	40 24.7	58 35.8	78 48.1	85 52.5	3 1.9	12 7.4
70歳以上		212 100.0	32 15.1	144 67.9	49 23.1	86 40.6	71 33.5	112 52.8	9 4.2	14 6.6



【図表5-1-3 性・年代別 前回調査との比較 高齢期の生活での経済的不安と病気になったときの不安】

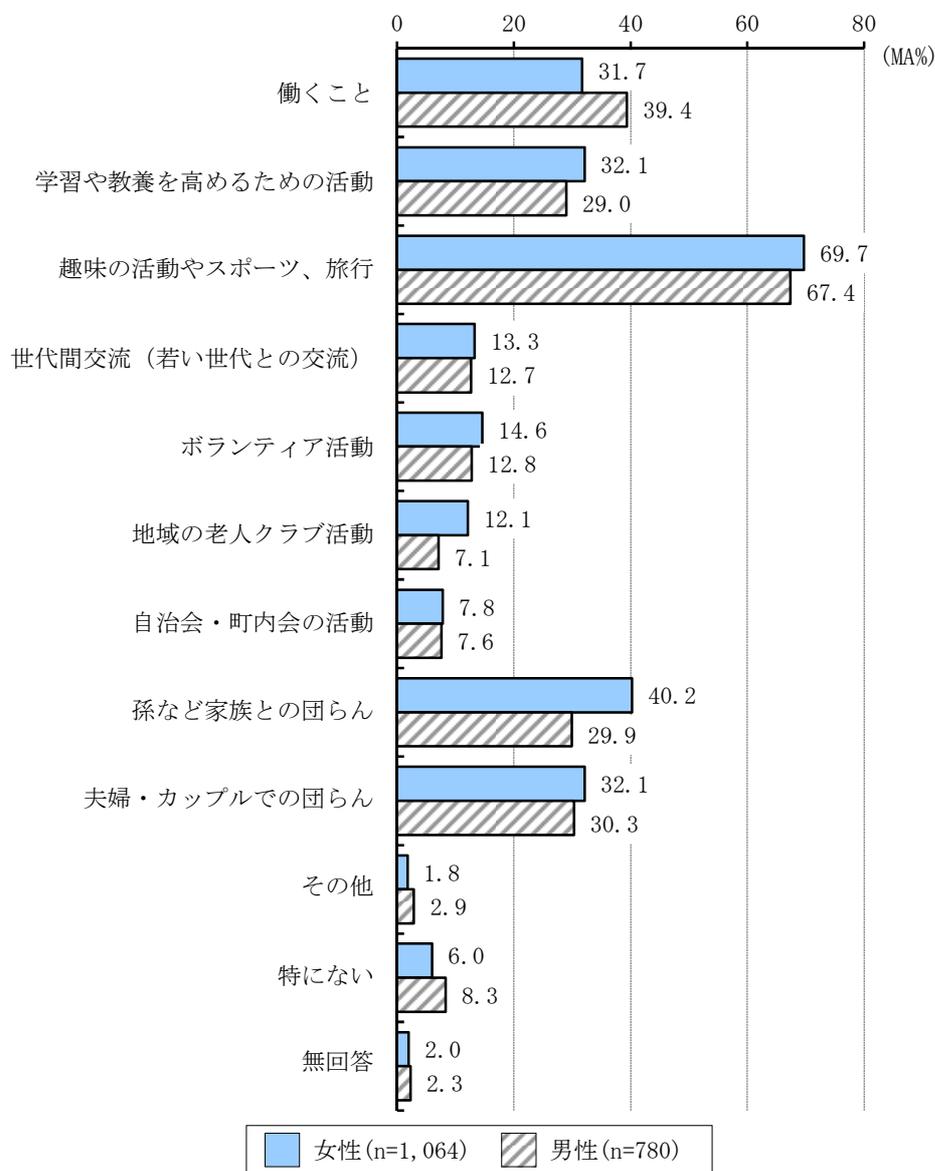
			(MA%)			
			n	る経 か済 的 に や っ て い け	頼な病 めつ気 るたや 人と寝 がき、 いたき る世り か話に を	
女性	20歳代	今回調査	76	77.6	43.4	
		前回調査	57	78.9	63.2	
	30歳代	今回調査	157	79.6	52.2	
		前回調査	117	79.5	53.0	
	40歳代	今回調査	206	77.2	46.1	
		前回調査	117	70.1	46.2	
	50歳代	今回調査	165	65.5	57.0	
		前回調査	96	63.5	45.8	
	60歳代	今回調査	186	51.1	51.6	
		前回調査	144	43.1	49.3	
	70歳以上	今回調査	271	35.8	48.0	
		前回調査	159	27.0	49.7	
	男性	20歳代	今回調査	53	62.3	49.1
			前回調査	35	42.9	42.9
30歳代		今回調査	96	64.6	40.6	
		前回調査	87	73.6	35.6	
40歳代		今回調査	129	63.6	42.6	
		前回調査	104	63.5	47.1	
50歳代		今回調査	123	56.9	50.4	
		前回調査	81	56.8	42.0	
60歳代		今回調査	162	48.1	52.5	
		前回調査	156	48.7	53.8	
70歳以上		今回調査	212	33.5	52.8	
		前回調査	118	33.1	56.8	

## (2) 高齢期を生き生きと送るためにやってみたいこと

問13 高齢期を生き生きと送るためにやってみたいことがありますか。(高齢者の方は、現在行っていることで生きがいを感じるものに○をつけてください。)

(○はいくつでも)

【図表5-2 高齢期を生き生きと送るためにやってみたいこと】



### <性別> (図表5-2)

高齢期を生き生きと送るためにやってみたいことについて、男女とも「趣味の活動やスポーツ、旅行」が6割台で最も多くなっている。次いで、女性では「孫など家族との団らん」が40.2%、男性は「働くこと」が39.4%となっている。これらに比べ、「世代間交流 (若い世代との交流)」や「ボランティア活動」「地域の老人クラブ活動」「自治会・町内会の活動」の各割合は、いずれも女性の方が高くなっているものの、男女とも15%未満となっている。

<性・年代別> (図表5-2-1)

男女ともに、各年代で「趣味の活動やスポーツ、旅行」が50%以上で最も多くなっている。また、「夫婦・カップルでの団らん」の割合は、男女とも若い年代ほど高くなっている。「働くこと」については、20歳代では女性に比べ男性の割合が高いが、30歳代では、男性に比べ女性の割合の方が高く、30～50歳代の女性では4割前後を占めている。一方、男性は40～60歳代は4～5割を占め、30歳代を除く各年代では女性の同年代の割合に比べいずれも高い。

このほか、20歳代・30歳代の女性では「孫など家族との団らん」と「夫婦・カップルでの団らん」が5割台と高くなっている。

男性では、20歳代は「世代間交流（若い年代との交流）」(28.3%)や「地域の老人クラブ活動」(15.1%)、「孫など家族との団らん」と「夫婦・カップルでの団らん」(ともに41.5%)が、それぞれ他の年代に比べ高くなっており、70歳以上では「自治会・町内会の活動」(12.7%)が他の年代に比べ高くなっている。

【図表5-2-1 性・年代別 高齢期を生き生きと送るためにやってみたいこと】

		n	働くこと	学習や活動の活動や教養を高めるため	趣味の活動やスポーツ、旅行	世代間交流（若い世代との交流）	ボランティア活動	地域の老人クラブ活動	自治会・町内会の活動	孫など家族との団らん	夫婦・カップルでの団らん	その他	特にない
全体	上段/実数 下段/MA%	1851 100.0	646 34.9	569 30.7	1271 68.7	241 13.0	255 13.8	184 9.9	142 7.7	662 35.8	579 31.3	43 2.3	129 7.0
女性	20歳代	76 100.0	21 27.6	18 23.7	66 86.8	7 9.2	5 6.6	13 17.1	8 10.5	44 57.9	45 59.2	1 1.3	- -
	30歳代	157 100.0	70 44.6	62 39.5	120 76.4	24 15.3	21 13.4	22 14.0	11 7.0	80 51.0	80 51.0	1 0.6	6 3.8
	40歳代	206 100.0	91 44.2	76 36.9	154 74.8	20 9.7	38 18.4	22 10.7	16 7.8	79 38.3	79 38.3	2 1.0	10 4.9
	50歳代	165 100.0	65 39.4	62 37.6	135 81.8	21 12.7	25 15.2	20 12.1	11 6.7	60 36.4	44 26.7	3 1.8	4 2.4
	60歳代	186 100.0	52 28.0	60 32.3	128 68.8	26 14.0	32 17.2	11 5.9	8 4.3	65 34.9	48 25.8	3 1.6	12 6.5
	70歳以上	271 100.0	37 13.7	63 23.2	137 50.6	43 15.9	33 12.2	40 14.8	28 10.3	98 36.2	44 16.2	9 3.3	32 11.8
	男性	20歳代	53 100.0	23 43.4	20 37.7	41 77.4	15 28.3	7 13.2	8 15.1	1 1.9	22 41.5	22 41.5	1 1.9
30歳代		96 100.0	38 39.6	24 25.0	67 69.8	11 11.5	12 12.5	7 7.3	7 7.3	34 35.4	34 35.4	1 1.0	12 12.5
40歳代		129 100.0	62 48.1	47 36.4	103 79.8	10 7.8	16 12.4	7 5.4	7 5.4	32 24.8	44 34.1	2 1.6	4 3.1
50歳代		123 100.0	63 51.2	40 32.5	90 73.2	14 11.4	21 17.1	4 3.3	5 4.1	22 17.9	41 33.3	- -	5 4.1
60歳代		162 100.0	79 48.8	55 34.0	106 65.4	22 13.6	20 12.3	7 4.3	12 7.4	50 30.9	44 27.2	3 1.9	8 4.9
70歳以上		212 100.0	42 19.8	38 17.9	116 54.7	27 12.7	24 11.3	21 9.9	27 12.7	73 34.4	51 24.1	16 7.5	31 14.6

### <前回調査（平成22年（2010年））との比較>（図表5-2-2）

前回調査の結果に比べ、女性では、「ボランティア活動」が6.1ポイント、「孫など家族との団らん」が5.7ポイント、「夫婦・カップルでの団らん」が4.4ポイント、それぞれ低下している。

男性では、「孫など家族との団らん」が10.9ポイント、「夫婦・カップルでの団らん」が9.5ポイント、「ボランティア活動」が4.8ポイント、「世代間交流（若い世代との交流）」が4.0ポイント、「自治会・町内会の活動」が3.6ポイント、「趣味の活動やスポーツ、旅行」が3.5ポイント、それぞれ低下している。

【図表5-2-2 前回調査との比較 高齢期を生き生きと送るためにやってみたいこと】

			(MA%)										
		n	働くこと	学習や教養を高めるための活動	趣味、旅行	世代間交流（若い世代との交流）	ボランティア活動	地域の老人クラブ活動	自治会・町内会の活動	孫など家族との団らん	夫婦・カップルでの団らん	その他	特にない
女性	今回調査	1064	31.7	32.1	69.7	13.3	14.6	12.1	7.8	40.2	32.1	1.8	6.0
	前回調査	690	32.6	34.8	70.7	14.1	20.7	12.2	7.4	45.9	36.5	1.7	3.8
男性	今回調査	780	39.4	29.0	67.4	12.7	12.8	7.1	7.6	29.9	30.3	2.9	8.3
	前回調査	581	36.8	28.7	70.9	16.7	17.6	7.7	11.2	40.8	39.8	1.5	6.4

### <性・年代別（前回調査（平成22年（2010年））との比較）>（図表5-2-3）

問12の高齢期の生活の不安（70ページ）と並び、問13の高齢期の生きがいについても、とりわけ社会参加に関わる項目で、年齢層による特徴的な相違がみられる。

「ボランティア活動」については、男女とも、70歳以上を除くすべての年齢層で割合の低下が見られるが、女性ではその傾向が顕著なのは20歳代で19.7ポイントの低下、男性でその傾向が顕著なのが40歳代で13.6ポイントの低下となっている。一方、70歳以上の男性では、わずかではあるが3.7ポイントの上昇が見られる。

「自治会・町内会の活動」については、いくつかの年齢層で割合の低下傾向がみられるなか、20歳代女性で8.7ポイント、50歳代女性でわずかに3.6ポイントの上昇がみられる。20歳代の男性では、同年代の女性とは対照的に6.7ポイントの低下がみられる。

【図表5-2-3 前回調査との比較 高齢期の生きがい活動－社会参加に関する項目】

			n	ボラン ティア 活動	(MA%) 自治会・ 町内会 の活動	
女性	20歳代	今回調査	76	6.6	10.5	
		前回調査	57	26.3	1.8	
	30歳代	今回調査	157	13.4	7.0	
		前回調査	117	20.5	7.7	
	40歳代	今回調査	206	18.4	7.8	
		前回調査	117	24.8	6.0	
	50歳代	今回調査	165	15.2	6.7	
		前回調査	96	20.8	3.1	
	60歳代	今回調査	186	17.2	4.3	
		前回調査	144	25.0	9.7	
	70歳以上	今回調査	271	12.2	10.3	
		前回調査	159	11.9	10.7	
	男性	20歳代	今回調査	53	13.2	1.9
			前回調査	35	17.1	8.6
30歳代		今回調査	96	12.5	7.3	
		前回調査	87	16.1	6.9	
40歳代		今回調査	129	12.4	5.4	
		前回調査	104	26.0	12.5	
50歳代		今回調査	123	17.1	4.1	
		前回調査	81	18.5	7.4	
60歳代		今回調査	162	12.3	7.4	
		前回調査	156	19.9	14.7	
70歳以上		今回調査	212	11.3	12.7	
		前回調査	118	7.6	11.9	

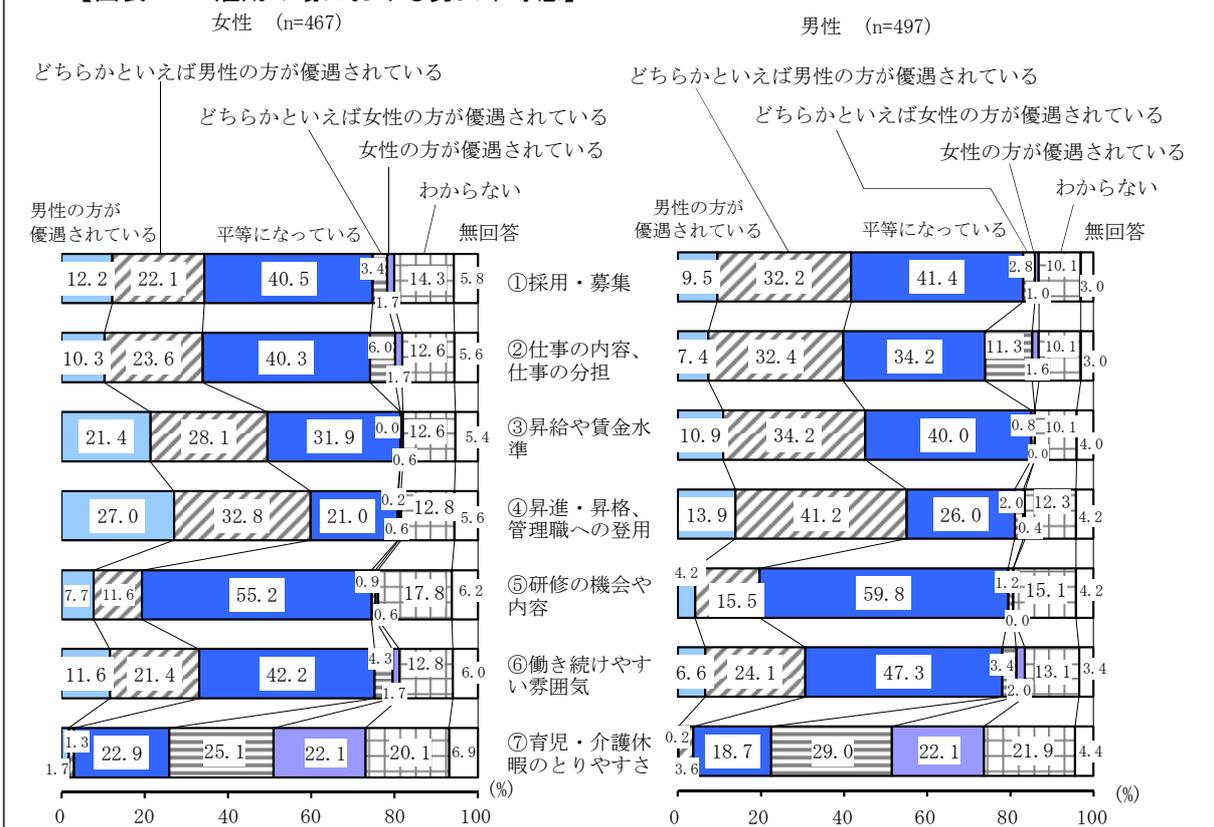
## 6. 仕事について

### (1) 雇用の場における男女平等感

【問14・問15は、「収入を得る仕事をしている」方におたずねします。】

問14 あなたは、雇用の場は次の①～⑦の項目について男女は平等になっていると思いますか。(○は各項目それぞれ1つずつ)

【図表6-1 雇用の場における男女平等感】



#### <性別> (図表6-1)

雇用の場における男女平等感について、女性の「男性の方が優遇されている」では、「③昇給や賃金水準」(21.4%)と「④昇進・昇格、管理職への登用」(27.0%)が他の項目に比べ高くなっている。

「男性の方が優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた『男性優遇』の割合では、男女とも「③昇給や賃金水準」が4割台、「④昇進・昇格、管理職への登用」が5割台となっており、「③昇給や賃金水準」と「④昇進・昇格、管理職への登用」は、それぞれ男性に比べ女性の方が高くなっている。

「①採用・募集」と「②仕事の内容、仕事の分担」では、男女とも「平等になっている」が最も多くなっているが、男性は『男性優遇』の割合が4割前後となっている。

「⑤研修の機会や内容」と「⑥働き続けやすい雰囲気」では、男女とも「平等になっている」が4～5割台で最も多くなっている。「⑦育児・介護休暇のとりやすさ」では、男女とも「どちらかといえば女性の方が優遇されている」が最も多く、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」と「女性の方が優遇されている」と合わせた

『女性優遇』の割合が、女性47.1%、男性51.1%で、男性の方が3.9ポイント高くなっている。

## ＜性・年代別＞（図表6-1-1）

### ①採用・募集

女性では、20歳代・40歳代・50歳代で「平等」が最も多く、これら年代の中では、20歳代が60.4%と最も高くなっている。30歳代と60歳以上の年代では『男性優遇』が最も多く、なかでも30歳代は42.1%で最も高くなっているが、「平等」も41.1%と同程度あり認識が分かれている。男性では、20歳代・30歳代・50歳代・70歳以上で「平等」が最も多くなっている。40歳代・60歳代では『男性優遇』が最も多く、特に60歳代が51.1%と高くなっている。また、30歳代を除く各年代の『男性優遇』の割合は、同年代の女性の割合を上回っており、これらの年代では男性の方が男性優遇意識を強くもっている。

### ②仕事の内容、仕事の負担

女性では、各年代で「平等」が最も多く、特に20歳代が52.8%と高くなっている。

男性では、30歳以上の年代で『男性優遇』が最も多く、なかでも60歳代が44.7%と最も高くなっている。一方、20歳代では、同年代の女性同様、「平等」が43.2%と高くなっている。

### ③昇給や賃金水準

女性では、20歳代で「平等」が54.7%と最も多いのに対し、30歳以上の年代では『男性優遇』の方が最も多く、30～50歳代では5割台を占める。

男性では、20歳代と70歳以上は、『男性優遇』と「平等」の割合が同率で認識が分かれている。また、30歳代は「平等」が47.8%で最も多い。40～60歳代は『男性優遇』が5割前後で、それぞれ最も多くなっている。

### ④昇進・昇格、管理職への登用

男女ともに、各年代とも『男性優遇』が最も多く、20～60歳代では50%以上を占め、なかでも30歳代の女性の割合が73.7%と最も高くなっている。

また、「平等」の割合は、男女とも20歳代の割合が高い。

### ⑤研修の機会や内容

70歳以上の女性では「わからない」が最も多く、女性の20～60歳代、男性の各年代では「平等」が最も多くなっている。「平等」の割合は、女性の20歳代と30歳代、男性の30歳代では7割台となっているが、20歳代の男性の割合は同年代の女性に比べ低くなっている。また、『男性優遇』は、男女とも40～60歳代では2割台となっており、他の年代に比べ高くなっている。

### ⑥働き続けやすい雰囲気

女性では、各年代とも「平等」が最も多く、特に20歳代・30歳代の割合が高い。また、70歳以上では『男性優遇』も同率で多くなっている。

男性では、40歳代で『男性優遇』が44.3%と最も多く、他の年代、また同年代の女性の割合に比べ高くなっている。一方、20歳代・30歳代・50歳以上の年代では「平等」が4～5割台で最も多く、なかでも50歳代は55.6%と高くなっている。

また、50歳以上の男性の「平等」の割合は、同年代の女性よりも高くなっている。

【図表6-1-1 性・年代別 雇用の場における男女平等感①】

	n	①採用・募集				②仕事の内容、仕事の分担				③昇給や賃金水準				
		『男性優遇』	平等	『女性優遇』	わからない	『男性優遇』	平等	『女性優遇』	わからない	『男性優遇』	平等	『女性優遇』	わからない	
全体	上段/実数 下段/%	964 100.0	367 38.1	395 41.0	43 4.5	117 12.1	356 36.9	358 37.1	100 10.4	109 11.3	455 47.2	348 36.1	7 0.7	109 11.3
女性	20歳代	53 100.0	11 20.8	32 60.4	5 9.4	5 9.4	15 28.3	28 52.8	4 7.5	6 11.3	19 35.8	29 54.7	1 1.9	4 7.5
	30歳代	95 100.0	40 42.1	39 41.1	5 5.3	8 8.4	35 36.8	40 42.1	11 11.6	8 8.4	51 53.7	38 40.0	-	5 5.3
	40歳代	129 100.0	43 33.3	52 40.3	4 3.1	26 20.2	43 33.3	46 35.7	13 10.1	23 17.8	68 52.7	33 25.6	2 1.6	21 16.3
	50歳代	108 100.0	39 36.1	41 38.0	8 7.4	16 14.8	43 39.8	47 43.5	4 3.7	10 9.3	61 56.5	31 28.7	-	12 11.1
	60歳代	59 100.0	21 35.6	20 33.9	1 1.7	10 16.9	18 30.5	22 37.3	4 6.8	8 13.6	26 44.1	15 25.4	-	12 20.3
	70歳以上	23 100.0	6 26.1	5 21.7	1 4.3	2 8.7	4 17.4	5 21.7	-	4 17.4	6 26.1	3 13.0	-	5 21.7
	男性	20歳代	37 100.0	13 35.1	14 37.8	7 18.9	3 8.1	14 37.8	16 43.2	3 8.1	4 10.8	16 43.2	16 43.2	1 2.7
30歳代		92 100.0	34 37.0	37 40.2	4 4.3	17 18.5	36 39.1	32 34.8	14 15.2	10 10.9	36 39.1	44 47.8	2 2.2	9 9.8
40歳代		122 100.0	56 45.9	51 41.8	2 1.6	10 8.2	46 37.7	37 30.3	22 18.0	14 11.5	63 51.6	42 34.4	1 0.8	12 9.8
50歳代		108 100.0	44 40.7	51 47.2	4 3.7	5 4.6	43 39.8	42 38.9	12 11.1	7 6.5	51 47.2	48 44.4	-	5 4.6
60歳代		94 100.0	48 51.1	32 34.0	2 2.1	9 9.6	42 44.7	28 29.8	12 12.8	9 9.6	45 47.9	35 37.2	-	11 11.7
70歳以上		43 100.0	12 27.9	20 46.5	-	6 14.0	16 37.2	15 34.9	1 2.3	6 14.0	13 30.2	13 30.2	-	10 23.3

	n	④昇進・昇格、管理職への登用				⑤研修の機会や内容				⑥働き続けやすい雰囲気				
		『男性優遇』	平等	『女性優遇』	わからない	『男性優遇』	平等	『女性優遇』	わからない	『男性優遇』	平等	『女性優遇』	わからない	
全体	上段/実数 下段/%	964 100.0	553 57.4	227 23.5	16 1.7	121 12.6	188 19.5	555 57.6	13 1.3	158 16.4	307 31.8	432 44.8	55 5.7	125 13.0
女性	20歳代	53 100.0	27 50.9	20 37.7	1 1.9	5 9.4	1 1.9	42 79.2	1 1.9	9 17.0	18 34.0	25 47.2	6 11.3	4 7.5
	30歳代	95 100.0	70 73.7	20 21.1	1 1.1	3 3.2	13 13.7	73 76.8	-	8 8.4	41 43.2	43 45.3	5 5.3	5 5.3
	40歳代	129 100.0	76 58.9	26 20.2	2 1.6	21 16.3	32 24.8	62 48.1	4 3.1	27 20.9	42 32.6	55 42.6	9 7.0	19 14.7
	50歳代	108 100.0	69 63.9	23 21.3	-	12 11.1	29 26.9	57 52.8	1 0.9	17 15.7	35 32.4	46 42.6	4 3.7	16 14.8
	60歳代	59 100.0	30 50.8	8 13.6	-	13 22.0	13 22.0	22 37.3	1 1.7	14 23.7	13 22.0	23 39.0	3 5.1	13 22.0
	70歳以上	23 100.0	7 30.4	1 4.3	-	6 26.1	2 8.7	2 8.7	-	8 34.8	5 21.7	5 21.7	1 4.3	3 13.0
	男性	20歳代	37 100.0	19 51.4	13 35.1	1 2.7	3 8.1	5 13.5	22 59.5	-	9 24.3	14 37.8	16 43.2	1 2.7
30歳代		92 100.0	50 54.3	26 28.3	4 4.3	12 13.0	10 10.9	66 71.7	1 1.1	15 16.3	26 28.3	42 45.7	7 7.6	17 18.5
40歳代		122 100.0	77 63.1	27 22.1	4 3.3	11 9.0	25 20.5	77 63.1	1 0.8	15 12.3	54 44.3	49 40.2	5 4.1	11 9.0
50歳代		108 100.0	57 52.8	35 32.4	2 1.9	10 9.3	23 21.3	65 60.2	3 2.8	13 12.0	26 24.1	60 55.6	9 8.3	10 9.3
60歳代		94 100.0	52 55.3	21 22.3	1 1.1	15 16.0	28 29.8	47 50.0	-	16 17.0	27 28.7	47 50.0	3 3.2	14 14.9
70歳以上		43 100.0	18 41.9	7 16.3	-	10 23.3	7 16.3	19 44.2	1 2.3	7 16.3	6 14.0	20 46.5	2 4.7	8 18.6

⑦育児・介護休暇のとりやすさ

男女ともに、70歳以上は「わからない」が多くなっている。それ以外の年代では『女性優遇』が男女とも最も多く、女性の20歳代・30歳代は6割弱、男性の20～40歳代は6割前後となっており、40歳代では、女性に比べ男性の方が17.4ポイント高くなっている。また、「平等」の割合は、男女とも50歳代が3割弱で他の年代に比べ高くなっている。

【図表6-1-1 性・年代別 雇用の場における男女平等感②】

	n	⑦育児・介護休暇のとりやすさ				
		『男性優遇』	平等	『女性優遇』	わからない	
全体	上段/実数 下段/%	964 100.0	33 3.4	200 20.7	474 49.2	203 21.1
女性	20歳代	53 100.0	1 1.9	14 26.4	31 58.5	7 13.2
	30歳代	95 100.0	6 6.3	19 20.0	55 57.9	12 12.6
	40歳代	129 100.0	1 0.8	32 24.8	59 45.7	33 25.6
	50歳代	108 100.0	4 3.7	31 28.7	47 43.5	21 19.4
	60歳代	59 100.0	2 3.4	8 13.6	24 40.7	15 25.4
	70歳以上	23 100.0	-	3 13.0	4 17.4	6 26.1
	男性	20歳代	37 100.0	1 2.7	5 13.5	23 62.2
30歳代		92 100.0	-	17 18.5	53 57.6	22 23.9
40歳代		122 100.0	4 3.3	13 10.7	77 63.1	25 20.5
50歳代		108 100.0	6 5.6	32 29.6	48 44.4	19 17.6
60歳代		94 100.0	6 6.4	20 21.3	40 42.6	24 25.5
70歳以上		43 100.0	2 4.7	6 14.0	12 27.9	12 27.9

<前回調査（平成22年（2010年））との比較>（図表6-1-2）

前回調査の結果に比べ、男女ともに、全項目で「平等」の割合が上昇し、『男性優遇』の割合は低下している。『男性優遇』の割合は、女性では「⑦育児・介護休暇のとりやすさ」以外の項目で、また男性では「⑦育児・介護休暇のとりやすさ」と「⑥働き続けやすい雰囲気」以外の項目で、10ポイント以上低下している。

【図表6-1-2 前回調査との比較 雇用の場における男女平等感】

		女性				男性			
		n	『男性優遇』	平等	『女性優遇』	n	『男性優遇』	平等	『女性優遇』
①採用・募集	今回調査	467	34.3	40.5	5.1	497	41.6	41.4	3.8
	前回調査	581	49.4	27.0	5.1	525	56.0	29.9	2.9
②仕事の内容、仕事の分担	今回調査	467	33.8	40.3	7.7	497	39.8	34.2	12.9
	前回調査	581	50.7	25.3	7.9	525	53.3	25.3	10.7
③昇給や賃金水準	今回調査	467	49.5	31.9	0.6	497	45.1	40.0	0.8
	前回調査	581	63.0	21.5	0.2	525	61.3	26.3	1.4
④昇進・昇格、管理職への登用	今回調査	467	59.7	21.0	0.9	497	55.1	26.0	2.4
	前回調査	581	72.4	11.7	0.2	525	69.8	17.1	1.4
⑤研修の機会や内容	今回調査	467	19.3	55.2	1.5	497	19.7	59.8	1.2
	前回調査	581	36.3	41.8	0.3	525	33.3	47.8	0.8
⑥働き続けやすい雰囲気	今回調査	467	33.0	42.2	6.0	497	30.8	47.3	5.4
	前回調査	581	46.7	29.1	4.6	525	37.0	43.6	4.9
⑦育児・介護休暇のとりやすさ	今回調査	467	3.0	22.9	47.1	497	3.8	18.7	51.1
	前回調査	581	7.9	11.7	41.2	525	5.3	15.2	47.7

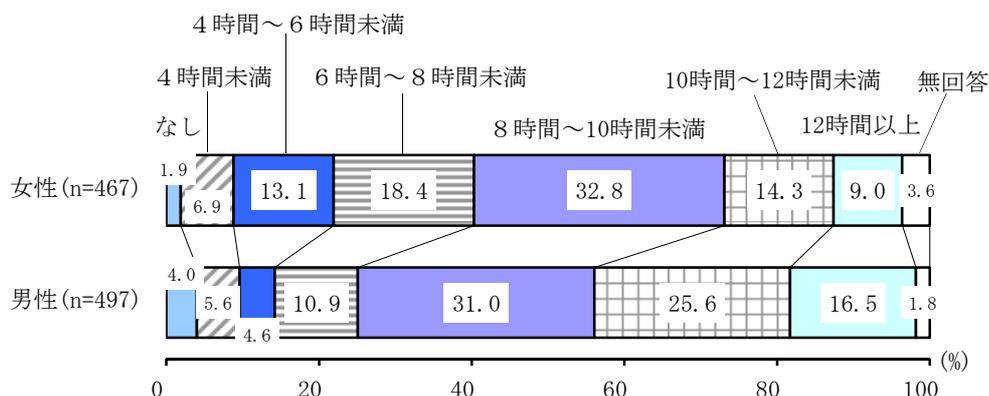
## (2) 仕事や家事・育児・介護等に要する時間

### ①仕事に要する時間

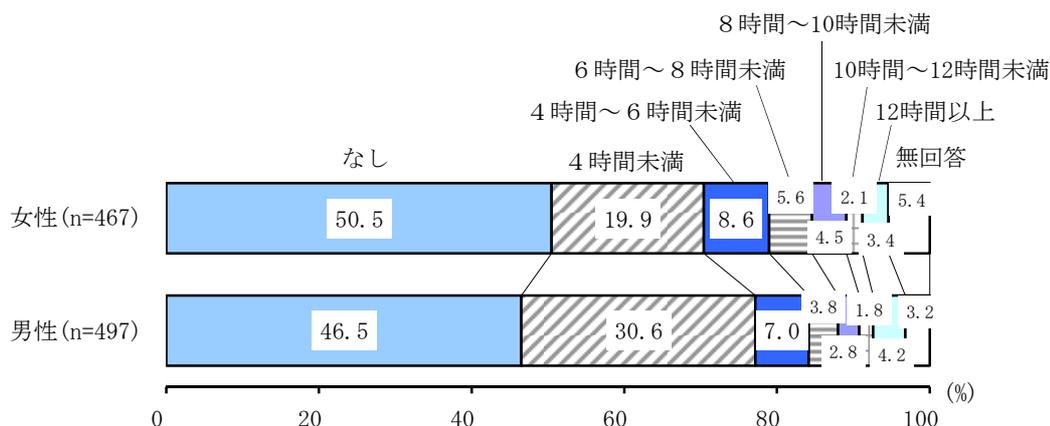
問15 1日のうちで、あなたが仕事（在宅就労を含む）や家事・育児・介護等をしている平均時間は、平日、休日それぞれでどのくらいですか。（〇はそれぞれ1つずつ）

【図表6-2① 仕事に要する時間】

<平日>



<休日>



### <性別> (図表6-2①)

仕事に要する時間について、平日では、男女とも「8時間～10時間未満」が3割台で最も多く、次いで、女性は「6時間～8時間未満」(18.4%)、男性は「10時間～12時間未満」(25.6%)となっており、8時間未満の労働は女性の方が多く、10時間以上の労働は男性の方が多くなっている。また、8時間以上の労働は、男女ともに50%以上を占めている。

休日では、男女とも「なし」が最も多く、女性50.5%、男性46.5%で、女性の方が4.0ポイント高くなっている。仕事をしている人では、「4時間未満」が女性19.9%、男性30.6%で最も多くなっており、休日に仕事をしている人の割合は、女性44.1%、男性50.2%となっている。

男女ともに、平日は「8時間～10時間未満」、休日は「なし」が最も多くなっているが、休日に仕事をしている人も4～5割台と高くなっている。

<性・年代別>…（平日）（図表6-2①-1）

女性では、20～50歳代で「8時間～10時間未満」が最も多くなっており、「10時間～12時間未満」と「12時間以上」では30歳代が最も高くなっている。60歳以上の年代では「4時間～6時間未満」が最も多く、70歳以上は「4時間未満」も同率で最も多くなっている。

男性では、20歳代は「10時間～12時間未満」が最も多くなっている。30～60歳代では「8時間～10時間未満」が最も多く、40歳代は「10時間～12時間未満」も同率で最も多くなっている。また、30歳代では「12時間以上」が28.3%と他の年代に比べ高くなっている。70歳以上では「6時間～8時間未満」が最も多くなっている。

女性の20～50歳代、男性の30～60歳代では「8時間～10時間未満」が多くなっているが、個々の年代を比べると、10時間以上の割合は、女性に比べ男性の方が全般的に高く、男性は長時間労働となっている様子がうかがえる。

【図表6-2①-1 性・年代別 仕事に要する時間（平日）】

		n	①平日							無回答
			なし	4時間未満	4時間～6時間未満	6時間～8時間未満	8時間～10時間未満	10時間～12時間未満	12時間以上	
全体	上段/実数 下段/%	964 100.0	29 3.0	60 6.2	84 8.7	140 14.5	307 31.8	194 20.1	124 12.9	26 2.7
女性	20歳代	53 100.0	1 1.9	2 3.8	2 3.8	10 18.9	22 41.5	9 17.0	6 11.3	1 1.9
	30歳代	95 100.0	6 6.3	4 4.2	9 9.5	17 17.9	26 27.4	19 20.0	12 12.6	2 2.1
	40歳代	129 100.0	- -	5 3.9	15 11.6	23 17.8	54 41.9	16 12.4	12 9.3	4 3.1
	50歳代	108 100.0	1 0.9	8 7.4	14 13.0	19 17.6	35 32.4	18 16.7	9 8.3	4 3.7
	60歳代	59 100.0	- -	8 13.6	16 27.1	13 22.0	13 22.0	4 6.8	2 3.4	3 5.1
	70歳以上	23 100.0	1 4.3	5 21.7	5 21.7	4 17.4	3 13.0	1 4.3	1 4.3	3 13.0
	男性	20歳代	37 100.0	3 8.1	1 2.7	1 2.7	5 13.5	9 24.3	14 37.8	4 10.8
30歳代		92 100.0	1 1.1	2 2.2	2 2.2	7 7.6	31 33.7	23 25.0	26 28.3	- -
40歳代		122 100.0	6 4.9	3 2.5	2 1.6	7 5.7	39 32.0	39 32.0	25 20.5	1 0.8
50歳代		108 100.0	4 3.7	5 4.6	3 2.8	9 8.3	36 33.3	32 29.6	18 16.7	1 0.9
60歳代		94 100.0	4 4.3	8 8.5	8 8.5	14 14.9	34 36.2	18 19.1	5 5.3	3 3.2
70歳以上		43 100.0	2 4.7	9 20.9	7 16.3	12 27.9	5 11.6	- -	4 9.3	4 9.3

<性・年代別>…（休日）（図表6-2①-2）

男女ともに、各年代で「なし」が最も多く、女性では20～40歳代で50%以上を占めている。仕事をしている人は、男女とも「4時間未満」が最も多くなっており、休日に仕事をしている割合は、女性の50歳代・60歳代が5割台、男性の20～60歳代が4～5割台を占めている。

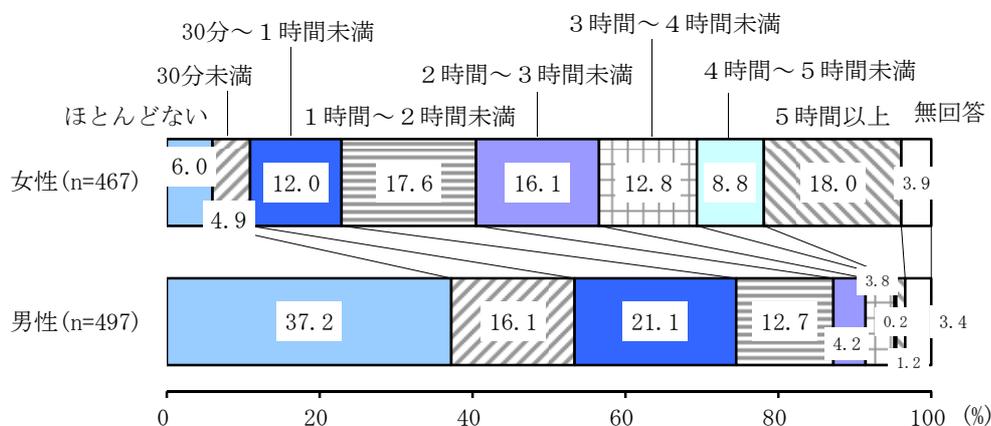
【図表6-2①-2 性・年代別 仕事に要する時間（休日）】

		n	②休日							無回答
			なし	4時間未満	4時間～6時間未満	6時間～8時間未満	8時間～10時間未満	10時間～12時間未満	12時間以上	
全体	上段/実数 下段/%	964 100.0	467 48.4	245 25.4	75 7.8	45 4.7	35 3.6	19 2.0	37 3.8	41 4.3
女性	20歳代	53 100.0	30 56.6	12 22.6	1 1.9	2 3.8	3 5.7	1 1.9	2 3.8	2 3.8
	30歳代	95 100.0	61 64.2	12 12.6	7 7.4	2 2.1	5 5.3	2 2.1	6 6.3	-
	40歳代	129 100.0	72 55.8	20 15.5	11 8.5	8 6.2	5 3.9	1 0.8	6 4.7	6 4.7
	50歳代	108 100.0	46 42.6	25 23.1	14 13.0	7 6.5	6 5.6	4 3.7	1 0.9	5 4.6
	60歳代	59 100.0	18 30.5	17 28.8	7 11.9	6 10.2	2 3.4	1 1.7	1 1.7	7 11.9
	70歳以上	23 100.0	9 39.1	7 30.4	-	1 4.3	-	1 4.3	-	5 21.7
	男性	20歳代	37 100.0	16 43.2	9 24.3	5 13.5	2 5.4	2 5.4	1 2.7	2 5.4
30歳代		92 100.0	43 46.7	30 32.6	4 4.3	2 2.2	5 5.4	2 2.2	6 6.5	-
40歳代		122 100.0	60 49.2	41 33.6	6 4.9	3 2.5	3 2.5	4 3.3	3 2.5	2 1.6
50歳代		108 100.0	48 44.4	34 31.5	11 10.2	6 5.6	3 2.8	1 0.9	3 2.8	2 1.9
60歳代		94 100.0	45 47.9	27 28.7	6 6.4	5 5.3	1 1.1	1 1.1	5 5.3	4 4.3
70歳以上		43 100.0	19 44.2	11 25.6	3 7.0	1 2.3	-	-	2 4.7	7 16.3

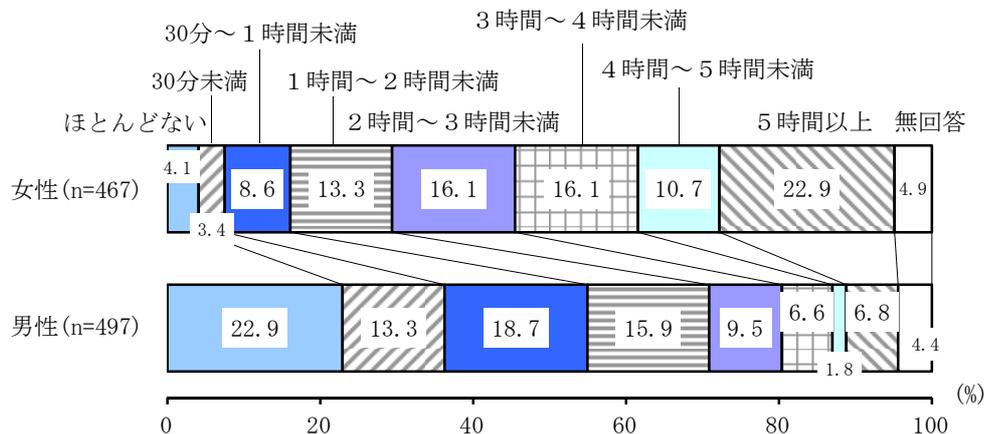
## ②家事・育児・介護等に要する時間

【図表6-2② 家事・育児・介護等に要する時間】

<平日>



<休日>



<性別> (図表6-2②)

家事・育児・介護等に要する時間について、平日では、女性は「5時間以上」が18.0%で最も多く、次いで「1時間～2時間未満」が17.6%、「2時間～3時間未満」が16.1%となっている。一方、男性では「ほとんどない」が37.2%で最も多く、次いで「30分～1時間未満」が21.1%、「30分未満」が16.1%となっている。

休日では、女性は「5時間以上」が22.9%で最も多く、次いで「2時間～3時間未満」と「3時間～4時間未満」がともに16.1%となっている。一方、男性では「ほとんどない」が22.9%で最も多く、次いで「30分～1時間未満」が18.7%、「1時間～2時間未満」が15.9%となっている。

女性は、平日・休日とも「5時間以上」が最も多く、平日も休日も、ほぼ同量の家事・育児・介護等をしている。一方、男性は、平日に比べ休日に家事・育児・介護等をする傾向がみられるが、平日・休日とも「ほとんどない」が最も多くなっている。

<性・年代別>…（平日）（図表6-2②-1）

女性では、20歳代が「30分未満」「30分～1時間未満」「1時間～2時間未満」「5時間以上」で、それぞれ17.0%と最も多くなっている。30歳代・40歳代は「5時間以上」が最も多く、特に30歳代は35.8%と高くなっている。50歳代と70歳以上は「1時間～2時間未満」が最も多く、60歳代では「30分～1時間未満」と「2時間～3時間未満」がともに25.4%で最も多くなっている。

男性では、各年代で「ほとんどない」が3～4割台と最も多くなっている。家事・育児・介護等をしている人では、「30分～1時間未満」が最も多く、60歳代では「30分未満」も同率で最も多くなっている。

【図表6-2②-1 家事・育児・介護等に要する時間（平日）】

		n	①平日								無回答
			ほとんどない	30分未満	30分～1時間未満	1時間～2時間未満	2時間～3時間未満	3時間～4時間未満	4時間～5時間未満	5時間以上	
全体	上段/実数 下段/%	964 100.0	213 22.1	103 10.7	161 16.7	145 15.0	96 10.0	79 8.2	42 4.4	90 9.3	35 3.6
女性	20歳代	53 100.0	6 11.3	9 17.0	9 17.0	9 17.0	6 11.3	1 1.9	4 7.5	9 17.0	- -
	30歳代	95 100.0	8 8.4	4 4.2	13 13.7	11 11.6	7 7.4	11 11.6	6 6.3	34 35.8	1 1.1
	40歳代	129 100.0	5 3.9	6 4.7	8 6.2	20 15.5	21 16.3	20 15.5	18 14.0	26 20.2	5 3.9
	50歳代	108 100.0	5 4.6	4 3.7	9 8.3	26 24.1	24 22.2	20 18.5	10 9.3	7 6.5	3 2.8
	60歳代	59 100.0	1 1.7	-	15 25.4	10 16.9	15 25.4	6 10.2	2 3.4	7 11.9	3 5.1
	70歳以上	23 100.0	3 13.0	-	2 8.7	6 26.1	2 8.7	2 8.7	1 4.3	1 4.3	6 26.1
	男性	20歳代	37 100.0	16 43.2	3 8.1	9 24.3	7 18.9	-	1 2.7	-	1 2.7
30歳代		92 100.0	33 35.9	15 16.3	20 21.7	10 10.9	7 7.6	4 4.3	-	2 2.2	1 1.1
40歳代		122 100.0	41 33.6	21 17.2	26 21.3	19 15.6	6 4.9	5 4.1	1 0.8	2 1.6	1 0.8
50歳代		108 100.0	44 40.7	19 17.6	24 22.2	13 12.0	2 1.9	4 3.7	-	1 0.9	1 0.9
60歳代		94 100.0	37 39.4	17 18.1	17 18.1	9 9.6	5 5.3	4 4.3	-	-	5 5.3
70歳以上		43 100.0	14 32.6	5 11.6	8 18.6	5 11.6	1 2.3	1 2.3	-	-	9 20.9

<性・年代別>…（休日）（図表6-2②-2）

女性では、20歳代は「30分未満」が17.0%と最も多くなっている。30歳代・40歳代は「5時間以上」が最も多く、特に30歳代は43.2%で最も高くなっている。50歳代は「2時間～3時間未満」（21.3%）が、60歳代は「3時間～4時間未満」（27.1%）が、70歳以上は「1時間～2時間未満」（26.1%）が、それぞれ最も多くなっている。

男性では、30歳代は「30分～1時間未満」が18.5%と最も多い。これに次いで「ほとんどない」が17.4%、「1時間～2時間未満」が15.2%となっている。一方で、「5時間以上」も15.2%となっており、他の年代に比べ休日に家事・育児・介護等に関わっている様子がうかがえる。しかし、20歳代と40歳以上の年代では「ほとんどない」が最も多くなっており、家事・育児・介護等をしている人は2時間未満に集中して多くなっている。

【図表6-2②-2 家事・育児・介護等に要する時間（休日）】

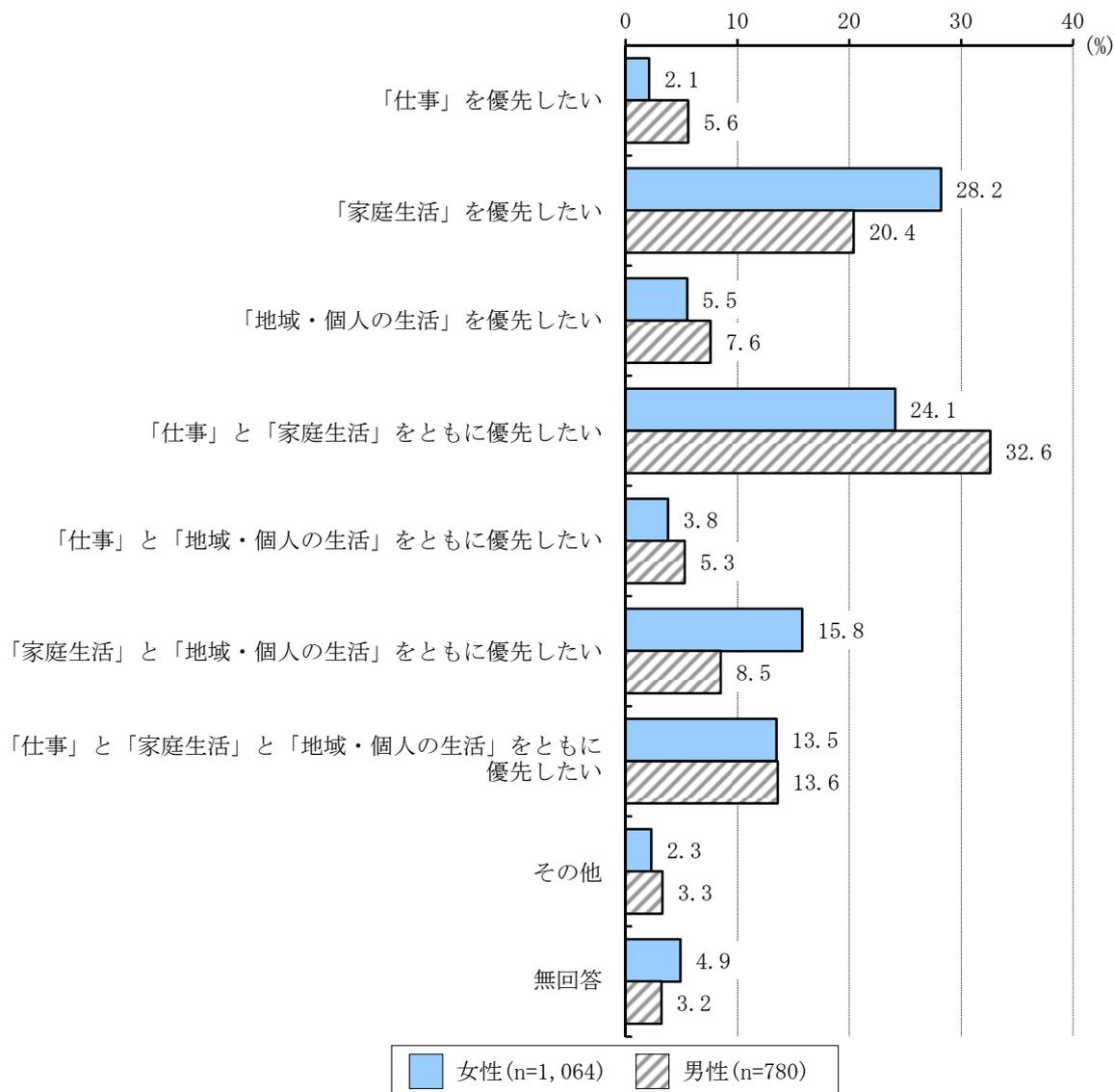
		n	②休日								無回答
			ほとんどない	30分未満	30分～1時間未満	1時間～2時間未満	2時間～3時間未満	3時間～4時間未満	4時間～5時間未満	5時間以上	
全体	上段/実数 下段/%	964	133 13.8	82 8.5	133 13.8	141 14.6	122 12.7	108 11.2	59 6.1	141 14.6	45 4.7
女性	20歳代	53 100.0	6 11.3	9 17.0	6 11.3	4 7.5	8 15.1	8 15.1	3 5.7	8 15.1	1 1.9
	30歳代	95 100.0	5 5.3	2 2.1	10 10.5	10 10.5	8 8.4	9 9.5	9 9.5	41 43.2	1 1.1
	40歳代	129 100.0	3 2.3	4 3.1	5 3.9	13 10.1	23 17.8	19 14.7	19 14.7	36 27.9	7 5.4
	50歳代	108 100.0	2 1.9	1 0.9	8 7.4	19 17.6	23 21.3	21 19.4	16 14.8	15 13.9	3 2.8
	60歳代	59 100.0	1 1.7	-	11 18.6	10 16.9	9 15.3	16 27.1	2 3.4	6 10.2	4 6.8
	70歳以上	23 100.0	2 8.7	-	-	6 26.1	4 17.4	2 8.7	1 4.3	1 4.3	7 30.4
	男性	20歳代	37 100.0	11 29.7	4 10.8	7 18.9	7 18.9	4 10.8	2 5.4	-	2 5.4
30歳代		92 100.0	16 17.4	12 13.0	17 18.5	14 15.2	7 7.6	7 7.6	2 2.2	14 15.2	3 3.3
40歳代		122 100.0	23 18.9	16 13.1	16 13.1	21 17.2	16 13.1	14 11.5	4 3.3	11 9.0	1 0.8
50歳代		108 100.0	26 24.1	15 13.9	25 23.1	15 13.9	10 9.3	6 5.6	3 2.8	5 4.6	3 2.8
60歳代		94 100.0	25 26.6	14 14.9	17 18.1	17 18.1	9 9.6	4 4.3	-	2 2.1	6 6.4
70歳以上		43 100.0	13 30.2	5 11.6	10 23.3	5 11.6	1 2.3	-	-	-	9 20.9

### (3) 希望する暮らし方

問16 あなたは、希望としては、どのような暮らし方をしたいと思いますか。

(○は1つ)

【図表6-3 希望する暮らし方】



※この調査での「地域・個人の生活」とは、地域活動、学習・趣味・付き合い等のことをいう。

#### <性別> (図表6-3)

希望する暮らし方について、女性は「家庭生活を優先したい」が28.2%で最も多く、次いで「仕事と家庭生活をともに優先したい」が24.1%、「家庭生活と地域・個人の生活をともに優先したい」が15.8%となっている。一方、男性は「仕事と家庭生活をともに優先したい」が32.6%で最も多く、次いで「家庭生活を優先したい」が20.4%、「仕事と家庭生活と地域・個人の生活をともに優先したい」が13.6%となっている。

<性・年代別> (図表6-3-1)

女性では、20～40歳代で「仕事と家庭生活をともに優先したい」が最も多くなっており、20歳代では43.4%と他の年代に比べ高くなっている。50歳代は「仕事と家庭生活と地域・個人の生活をともに優先したい」が24.2%で最も多くなっており、60歳以上の年代では「家庭生活を優先したい」が3割台で最も多くなっている。

男性では、20～60歳代で「仕事と家庭生活をともに優先したい」が最も多くなっており、40歳代では50.4%と他の年代、また同年代の女性の割合に比べ高くなっている。

また、男性では「仕事と家庭生活をともに優先したい」の割合は、50歳代・60歳代で3割となっており、同年代の女性の割合を上回っている。70歳以上では、「家庭生活を優先したい」が29.2%で最も多くなっており、他の年代に比べ高くなっている。

多くの性・年代では、家庭生活を含めない「仕事を優先したい」「地域・個人の生活を優先したい」「仕事と地域・個人の生活をともに優先したい」という回答は1割に満たず、希望する暮らし方においては「家庭生活」が重要な位置を占めていることがうかがえる。

【図表6-3-1 性・年代別 希望する暮らし方】

		n	「仕事」を優先したい	「家庭生活」を優先したい	「地域・個人の生活」を優先したい	「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい	「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先したい	「個人生活」と「家庭生活」をともに優先したい	「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先したい	その他	無回答
全体	上段/実数 下段/%	1851 100.0	66 3.6	460 24.9	117 6.3	512 27.7	81 4.4	234 12.6	251 13.6	50 2.7	80 4.3
女性	20歳代	76 100.0	1 1.3	21 27.6	3 3.9	33 43.4	3 3.9	6 7.9	7 9.2	1 1.3	1 1.3
	30歳代	157 100.0	2 1.3	42 26.8	1 0.6	53 33.8	6 3.8	11 7.0	38 24.2	2 1.3	2 1.3
	40歳代	206 100.0	6 2.9	58 28.2	2 1.0	71 34.5	7 3.4	26 12.6	31 15.0	2 1.0	3 1.5
	50歳代	165 100.0	4 2.4	36 21.8	10 6.1	38 23.0	8 4.8	24 14.5	40 24.2	-	5 3.0
	60歳代	186 100.0	8 4.3	57 30.6	11 5.9	33 17.7	8 4.3	42 22.6	15 8.1	5 2.7	7 3.8
	70歳以上	271 100.0	1 0.4	85 31.4	30 11.1	28 10.3	8 3.0	59 21.8	13 4.8	14 5.2	33 12.2
男性	20歳代	53 100.0	4 7.5	7 13.2	1 1.9	23 43.4	8 15.1	5 9.4	4 7.5	-	1 1.9
	30歳代	96 100.0	7 7.3	20 20.8	6 6.3	41 42.7	3 3.1	3 3.1	14 14.6	2 2.1	-
	40歳代	129 100.0	8 6.2	21 16.3	8 6.2	65 50.4	4 3.1	5 3.9	17 13.2	1 0.8	-
	50歳代	123 100.0	7 5.7	18 14.6	11 8.9	45 36.6	10 8.1	4 3.3	25 20.3	2 1.6	1 0.8
	60歳代	162 100.0	9 5.6	30 18.5	15 9.3	50 30.9	10 6.2	17 10.5	21 13.0	5 3.1	5 3.1
	70歳以上	212 100.0	8 3.8	62 29.2	18 8.5	30 14.2	5 2.4	32 15.1	24 11.3	16 7.5	17 8.0

<前回調査（平成22年（2010年））との比較>（図表6-3-2）

前回調査の結果に比べ、女性では、「家庭生活と地域・個人の生活をともに優先したい」の割合が3.0ポイント上昇している。

男性では、「家庭生活を優先したい」は2.5ポイント、「仕事を優先したい」は2.0ポイント低下する一方、「地域・個人の生活を優先したい」が2.4ポイント上昇している。

全体的な傾向としては、前回の調査結果と大きな違いは見られない。

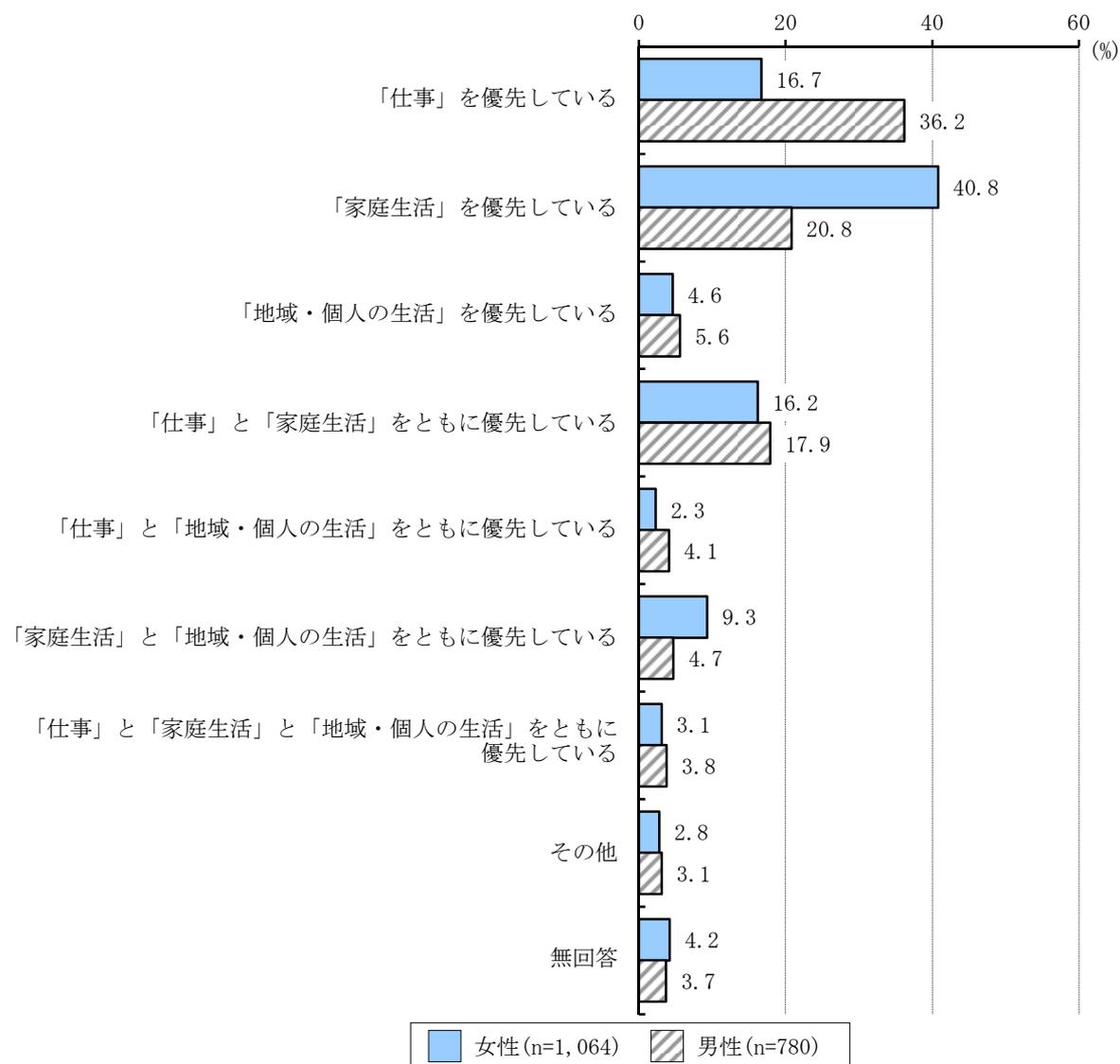
【図表6-3-2 前回調査との比較 希望する暮らし方】

		n	(%)							
			「仕事」を優先したい	「家庭生活」を優先したい	「地域・個人の生活」を優先したい	「仕事」と「家庭生活」を優先したい	「仕事」と「地域・個人生活」を優先したい	「家庭生活」と「地域・個人生活」を優先したい	「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人生活」を優先したい	その他
女性	今回調査	1064	2.1	28.2	5.5	24.1	3.8	15.8	13.5	2.3
	前回調査	690	2.2	29.3	5.7	25.4	2.0	12.8	14.3	1.7
男性	今回調査	780	5.6	20.4	7.6	32.6	5.3	8.5	13.6	3.3
	前回調査	581	7.6	22.9	5.2	32.2	3.4	8.3	13.9	0.9

#### (4) 現実の生活

問17 あなたの現実の生活に最も近いものはどれですか。(○は1つ)

【図表6-4 現実の生活】



#### <性別> (図表6-4)

現実の生活について、女性では「家庭生活を優先している」が40.8%で最も多く、次いで「仕事を優先している」と「仕事と家庭生活をともに優先している」が16%台となっており、「家庭生活と地域・個人の生活をともに優先している」は9.3%で男性(4.7%)に比べ4.6ポイント高くなっている。一方、男性では「仕事を優先している」が36.2%で最も多く、次いで「家庭生活を優先している」が20.8%、「仕事と家庭生活をともに優先している」が17.9%となっている。

<性・年代別> (図表6-4-1)

女性では、20歳代で「仕事を優先している」が31.6%と最も多くなっている。30歳以上では、「家庭生活を優先している」が最も多くなっており、30歳代で47.1%、60歳以上の年代で45%台と高くなっている。

男性では、20～60歳代は「仕事を優先している」が最も多く、30～50歳代は5割台を占め、またそれぞれ同年代の女性の割合を上回り、28.2～39.0ポイント高くなっている。70歳以上では「家庭生活を優先している」が43.9%で最も多くなっている。

全体的に見て、現実の生活では、女性は「家庭生活を優先している」傾向、男性は「仕事を優先している」傾向にあり、現実の生活における性別での役割の違いがうかがえる。特に男性について、問16の希望する暮らし方(89ページ)において仕事を優先したいという回答は低い割合にあったが、現実では仕事を優先せざるをえないことがうかがえる。

【図表6-4-1 性・年代別 現実の生活】

		n	「仕事」を優先している	「家庭生活」を優先している	「地域・個人の生活」を優先している	「仕事」と「家庭生活」を優先している	「仕事」と「地域・個人の生活」を優先している	「個人生活」と「地域・個人の生活」を優先している	「仕事」と「地域・個人の生活」を優先している	その他	無回答
全体	上段/実数 下段/%	1851	460 24.9	600 32.4	93 5.0	313 16.9	56 3.0	136 7.3	63 3.4	54 2.9	76 4.1
女性	20歳代	76	24 31.6	21 27.6	4 5.3	17 22.4	2 2.6	3 3.9	1 1.3	3 3.9	1 1.3
	30歳代	157	32 20.4	74 47.1	1 0.6	31 19.7	4 2.5	6 3.8	8 5.1	1 0.6	-
	40歳代	206	51 24.8	80 38.8	2 1.0	49 23.8	2 1.0	13 6.3	4 1.9	4 1.9	1 0.5
	50歳代	165	42 25.5	49 29.7	2 1.2	37 22.4	8 4.8	11 6.7	11 6.7	1 0.6	4 2.4
	60歳代	186	24 12.9	85 45.7	11 5.9	23 12.4	5 2.7	20 10.8	6 3.2	4 2.2	8 4.3
	70歳以上	271	5 1.8	124 45.8	29 10.7	14 5.2	3 1.1	46 17.0	3 1.1	17 6.3	30 11.1
	男性	20歳代	53	24 45.3	3 5.7	6 11.3	7 13.2	7 13.2	-	1 1.9	4 7.5
30歳代		96	57 59.4	8 8.3	3 3.1	22 22.9	4 4.2	-	2 2.1	-	-
40歳代		129	75 58.1	11 8.5	3 2.3	31 24.0	4 3.1	-	3 2.3	-	2 1.6
50歳代		123	66 53.7	11 8.9	5 4.1	26 21.1	7 5.7	2 1.6	4 3.3	2 1.6	-
60歳代		162	42 25.9	36 22.2	12 7.4	34 21.0	6 3.7	9 5.6	11 6.8	6 3.7	6 3.7
70歳以上		212	16 7.5	93 43.9	14 6.6	20 9.4	4 1.9	26 12.3	8 3.8	12 5.7	19 9.0

#### <性・希望する暮らし方別 現実の生活> (図表6-4-2)

補足として、性別と希望する暮らし方別に現実の生活について、希望する暮らし方の回答数が多い項目を見てみる。

女性の場合、希望する暮らし方で最も回答数が多い「家庭生活を優先したい」女性は、現実でも家庭生活を優先している割合が高い。次に回答数が多い「仕事と家庭生活をともに優先したい」女性のうちでは、仕事と家事どちらも優先できている割合は34.4%と最も高いが、「家庭生活を優先している」が31.6%、「仕事を優先している」が27.0%である。この結果からは、女性が家庭を優先する生活を希望すれば実現できる可能性が高いと考えられるが、仕事と家庭生活両方を優先したいと希望したとしても、現実にはどちらかに偏らざるをえない生活状況がうかがえる。

男性に関しては、回答数が最も多い「仕事と家庭生活をともに優先したい」男性は、「仕事と家庭をともに優先している」男性（36.6%）以上に「仕事を優先している」男性（46.1%）が多く、そのうち「家庭生活を優先している」男性は12.2%である。また、「家庭生活を優先したい」男性のうち、57.2%と6割近くは家庭生活を優先できており、「仕事を優先したい」男性は8割以上が仕事を優先できている。男性の結果をみると、男性が仕事と家庭生活の両立を望んでも、現実で仕事を優先している人が多い。このことから、男性は女性と比較して「仕事」が現実の生活の大きな部分を占めていることがうかがえる。

【図表6-4-2 性・希望する暮らし方別 現実の生活】

(%)

	女性	n	現実						
			「仕事」を優先している	「家庭生活」を優先している	「地域・個人の生活」を優先している	「仕事」と「家庭生活」をともに優先している	「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先している	「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している	「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先している
希望	全体	1064	16.7	40.8	4.6	16.2	2.3	9.3	3.1
	「仕事」を優先したい	22	68.2	13.6	-	13.6	-	-	-
	「家庭生活」を優先したい	300	11.7	68.3	1.7	11.3	1.0	3.7	0.3
	「地域・個人の生活」を優先したい	58	10.3	24.1	44.8	5.2	1.7	5.2	-
	「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい	256	27.0	31.6	0.8	34.4	0.8	2.3	0.4
	「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先したい	40	47.5	5.0	7.5	7.5	20.0	7.5	5.0
	「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい	168	6.5	42.3	7.1	1.8	3.0	36.9	0.6
	「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい	144	14.6	27.8	0.7	25.0	3.5	7.6	19.4

(%)

	男性	n	現実						
			「仕事」を優先している	「家庭生活」を優先している	「地域・個人の生活」を優先している	「仕事」と「家庭生活」をともに優先している	「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先している	「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している	「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先している
希望	全体	780	36.2	20.8	5.6	17.9	4.1	4.7	3.8
	「仕事」を優先したい	44	81.8	6.8	-	4.5	2.3	-	-
	「家庭生活」を優先したい	159	25.8	57.2	2.5	13.8	-	-	-
	「地域・個人の生活」を優先したい	59	23.7	13.6	39.0	1.7	8.5	5.1	-
	「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい	254	46.1	12.2	0.8	36.6	2.0	0.8	-
	「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先したい	41	46.3	-	17.1	4.9	29.3	-	2.4
	「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい	66	7.6	25.8	3.0	7.6	3.0	40.9	1.5
	「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい	106	41.5	5.7	3.8	14.2	6.6	4.7	23.6

※  は、希望と現実の一致を示す。

<前回調査（平成22年（2010年））との比較>（図表6-4-3）

前回調査の結果に比べ、女性では、「仕事と家庭生活をともに優先している」が2.0ポイント上昇する一方、「家庭生活を優先している」は2.1ポイント低下している。

男性では、「仕事と家庭生活をともに優先している」が3.6ポイント、「家庭生活と地域・個人の生活をともに優先している」が3.0ポイント、それぞれ低下している。

ほとんどの項目で多少の増減はあるものの、今回と前回では調査結果に大きな変化はみられない。

【図表6-4-3 前回調査との比較 現実の生活】

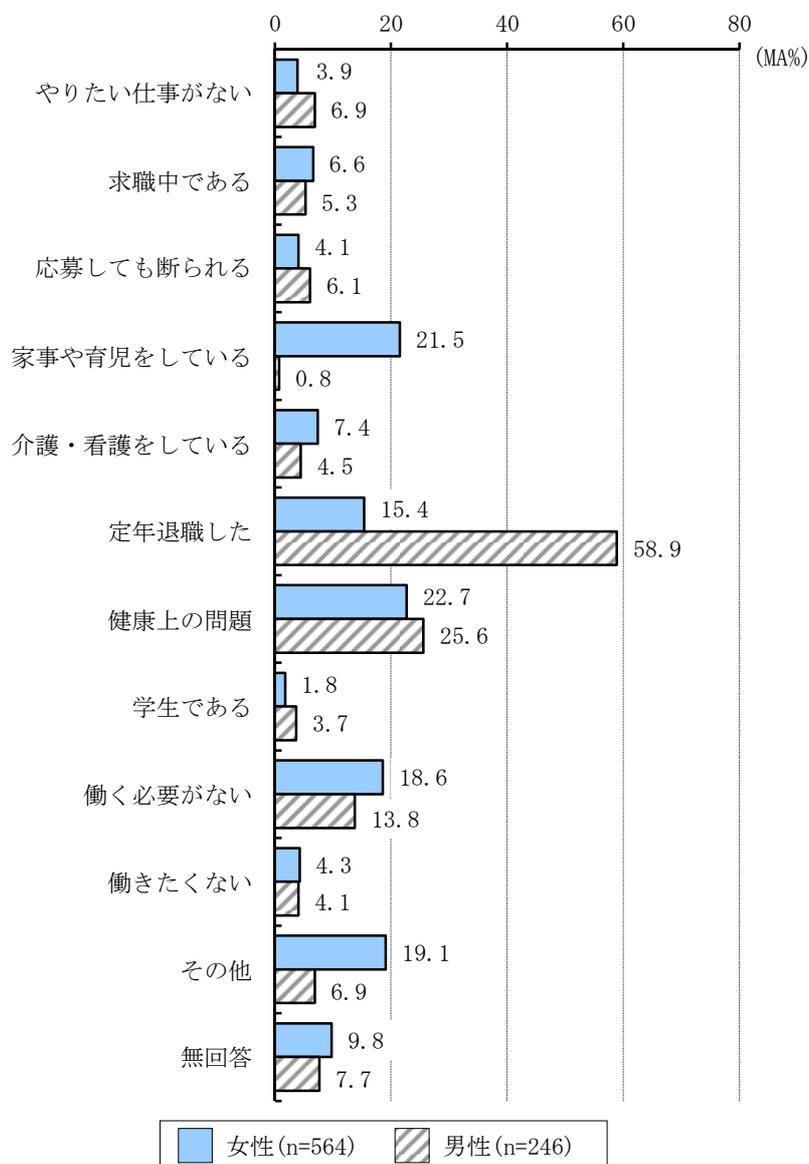
		n	「仕事」を優先している	「家庭生活」を優先している	「地域・個人の生活」を優先している	「仕事」と「家庭生活」をともに優先している	「仕事」と「地域・個人生活」をともに優先している	「家庭生活」と「地域・個人生活」をともに優先している	「仕事」と「地域・個人生活」をともに優先している	その他
女性	今回調査	1064	16.7	40.8	4.6	16.2	2.3	9.3	3.1	2.8
	前回調査	690	15.8	42.9	3.0	14.2	2.3	9.6	3.3	2.9
男性	今回調査	780	36.2	20.8	5.6	17.9	4.1	4.7	3.8	3.1
	前回調査	581	34.3	20.0	3.6	21.5	2.4	7.7	2.8	1.9

(5) 働いていない理由

【問18・問19は、現在「収入を得る仕事をしていない」方におたずねします。】

問18 あなたが働いていないのはどうしてですか。(〇はいくつでも)

【図表6-5 働いていない理由】



<性別> (図表6-5)

現在、収入を得る仕事をしていない人に、働いていない理由をたずねたところ、女性では「健康上の問題」が22.7%で最も多くなっており、次いで「家事や育児をしている」が21.5%で男性（0.8%）に比べ20.7ポイント高くなっている。一方、男性では「定年退職した」が58.9%で最も多く、次いで「健康上の問題」が25.6%となっている。

<性・年代別> (図表6-5-1)

女性では、30歳代・40歳代は「家事や育児をしている」が最も多く、30歳代は79.3%、40歳代は56.2%と高くなっている。50歳代と70歳以上は「健康上の問題」、60歳代は「働く必要がない」が、それぞれ最も多くなっている。

男性では、60歳以上で「定年退職した」が6～7割台と最も多くなっている。

【図表6-5-1 性・年代別 働いていない理由】

		n	やりたい仕事がない	求職中である	応募しても断られる	家事や育児をしている	介護・看護をしている	定年退職した	健康上の問題	学生である	働く必要がない	働きたくない	その他
全体	上段/実数 下段/MA%	814 100.0	39 4.8	50 6.1	38 4.7	123 15.1	53 6.5	234 28.7	191 23.5	19 2.3	140 17.2	34 4.2	127 15.6
女性	20歳代	21 100.0	- -	6 28.6	1 4.8	6 28.6	- -	- -	1 4.8	8 38.1	1 4.8	1 4.8	- -
	30歳代	58 100.0	1 1.7	6 10.3	2 3.4	46 79.3	- -	- -	5 8.6	1 1.7	5 8.6	3 5.2	9 15.5
	40歳代	73 100.0	6 8.2	12 16.4	5 6.8	41 56.2	6 8.2	- -	13 17.8	- -	11 15.1	2 2.7	9 12.3
	50歳代	53 100.0	5 9.4	7 13.2	5 9.4	11 20.8	6 11.3	- -	18 34.0	- -	7 13.2	4 7.5	10 18.9
	60歳代	120 100.0	6 5.0	6 5.0	6 5.0	12 10.0	17 14.2	28 23.3	29 24.2	- -	33 27.5	3 2.5	17 14.2
	70歳以上	238 100.0	4 1.7	- -	4 1.7	4 1.7	13 5.5	59 24.8	62 26.1	1 0.4	48 20.2	11 4.6	62 26.1
	男性	20歳代	14 100.0	- -	3 21.4	1 7.1	- -	- -	- -	- -	9 64.3	- -	- -
30歳代		2 100.0	- -	- -	1 50.0	- -	- -	- -	1 50.0	- -	- -	- -	- -
40歳代		5 100.0	- -	2 40.0	1 20.0	- -	- -	- -	1 20.0	- -	- -	- -	1 20.0
50歳代		11 100.0	- -	6 54.5	1 9.1	1 9.1	1 9.1	- -	3 27.3	- -	- -	1 9.1	1 9.1
60歳代		61 100.0	5 8.2	2 3.3	2 3.3	1 1.6	4 6.6	46 75.4	17 27.9	- -	6 9.8	4 6.6	2 3.3
70歳以上		153 100.0	12 7.8	- -	9 5.9	- -	6 3.9	99 64.7	41 26.8	- -	28 18.3	5 3.3	12 7.8

<前回調査（平成22年（2010年））との比較>（図表6-5-2）

前回調査の結果に比べ、女性では、「健康上の問題」が7.8ポイント、「定年退職した」が5.2ポイント、「働く必要がない」が5.0ポイント、それぞれ上昇している。

男性では、「定年退職した」が14.2ポイント、「健康上の問題」が13.4ポイント、「働く必要がない」が8.2ポイント、それぞれ上昇している。

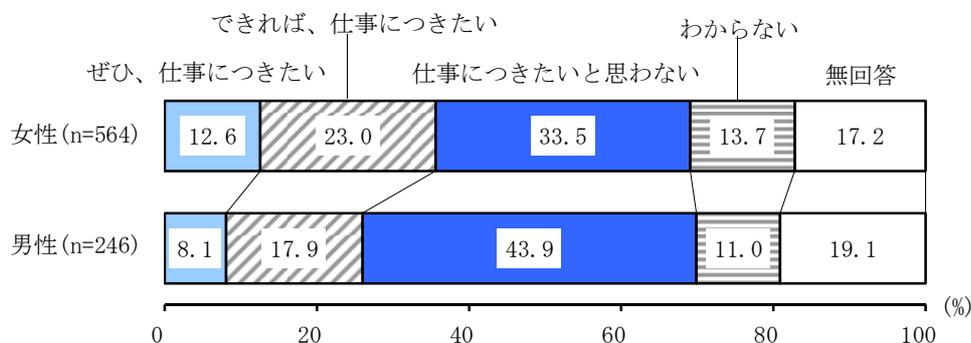
【図表6-5-2 前回調査との比較 働いていない理由】

													(MA%)
		n	やりたい仕事がない	求職中である	応募しても断られる	家事や育児をしている	介護・看護をしている	定年退職した	健康上の問題	学生である	働く必要がない	働きたくない	その他
女性	今回調査	564	3.9	6.6	4.1	21.5	7.4	15.4	22.7	1.8	18.6	4.3	19.1
	前回調査	382	2.1	4.2	5.5	21.5	4.2	10.2	14.9	1.0	13.6	1.3	13.1
男性	今回調査	246	6.9	5.3	6.1	0.8	4.5	58.9	25.6	3.7	13.8	4.1	6.9
	前回調査	197	4.1	8.1	5.1	-	2.5	44.7	12.2	5.1	5.6	0.5	9.6

## (6) 就労の希望

問19 あなたは、今後、収入を得る仕事につきたいと思いますか。(○は1つ)

【図表6-6 就労の希望】



### <性別> (図表6-6)

現在、収入を得る仕事をしていない人に、就労の希望をたずねたところ、男女とも、問19では60歳以上の回答者が多いことを背景に、「仕事につきたいと思わない」が女性33.5%、男性43.9%で最も多く、また女性に比べ男性の方が10.4ポイント高くなっている。

一方、「ぜひ、仕事につきたい」と「できれば、仕事につきたい」を合わせた『仕事につきたい』割合は、女性35.6%、男性26.0%で、女性の方が9.6ポイント高くなっている。また、『仕事につきたい』割合と「仕事につきたいと思わない」を比べると、女性は『仕事につきたい』割合の方が2.1ポイント高く、男性は「仕事につきたいと思わない」の方が17.9ポイント高くなっている。

### <性・年代別> (図表6-6-1)

女性では、20歳代で「ぜひ、仕事につきたい」が57.1%で最も多くなっている。30～50歳代は「できれば、仕事につきたい」が最も多くなっており、30歳代・40歳代では43%台と高く、「ぜひ、仕事につきたい」も3割台と高くなっている。60歳以上の年代では「仕事につきたいと思わない」が4割台で最も多くなっているが、60歳代は「できれば、仕事につきたい」が21.7%となっている。

男性では、60歳代は「仕事につきたいと思わない」が39.3%で最も多く、次いで「できれば、仕事につきたい」が31.1%となっている。70歳以上では「仕事につきたいと思わない」が53.6%を占めている。

【図表6-6-1 性・年代別 就労の希望】

		n	つげ ひ、 仕事に つき たい	事 で に き れ ば、 仕事 につ き たい	い し と 思 わ な い つ き た い	わ か ら な い	無 回 答
全体	上段/実数 下段/%	814 100.0	92 11.3	174 21.4	297 36.5	105 12.9	146 17.9
女性	20歳代	21 100.0	12 57.1	5 23.8	1 4.8	- -	3 14.3
	30歳代	58 100.0	23 39.7	25 43.1	1 1.7	7 12.1	2 3.4
	40歳代	73 100.0	24 32.9	32 43.8	4 5.5	12 16.4	1 1.4
	50歳代	53 100.0	5 9.4	18 34.0	15 28.3	13 24.5	2 3.8
	60歳代	120 100.0	3 2.5	26 21.7	56 46.7	22 18.3	13 10.8
	70歳以上	238 100.0	4 1.7	23 9.7	112 47.1	23 9.7	76 31.9
	男性	20歳代	14 100.0	9 64.3	- -	1 7.1	1 7.1
30歳代		2 100.0	- -	1 50.0	- -	1 50.0	- -
40歳代		5 100.0	2 40.0	1 20.0	1 20.0	- -	1 20.0
50歳代		11 100.0	4 36.4	5 45.5	- -	2 18.2	- -
60歳代		61 100.0	2 3.3	19 31.1	24 39.3	9 14.8	7 11.5
70歳以上		153 100.0	3 2.0	18 11.8	82 53.6	14 9.2	36 23.5

<前回調査（平成22年（2010年））との比較>（図表6-6-2）

問19の回答者は60歳以上の回答者が7割を超えることから、「仕事につきたいと思わない」の割合が高く、前回調査の結果に比べ、男女ともその割合が上昇している。

一方、女性では「ぜひ、仕事につきたい」が1.6ポイント上昇しているのに対し、男性では「ぜひ、仕事につきたい」は5.1ポイント、「できれば、仕事につきたい」は4.4ポイント、それぞれ低下している。

【図表6-6-2 前回調査との比較 就労の希望】

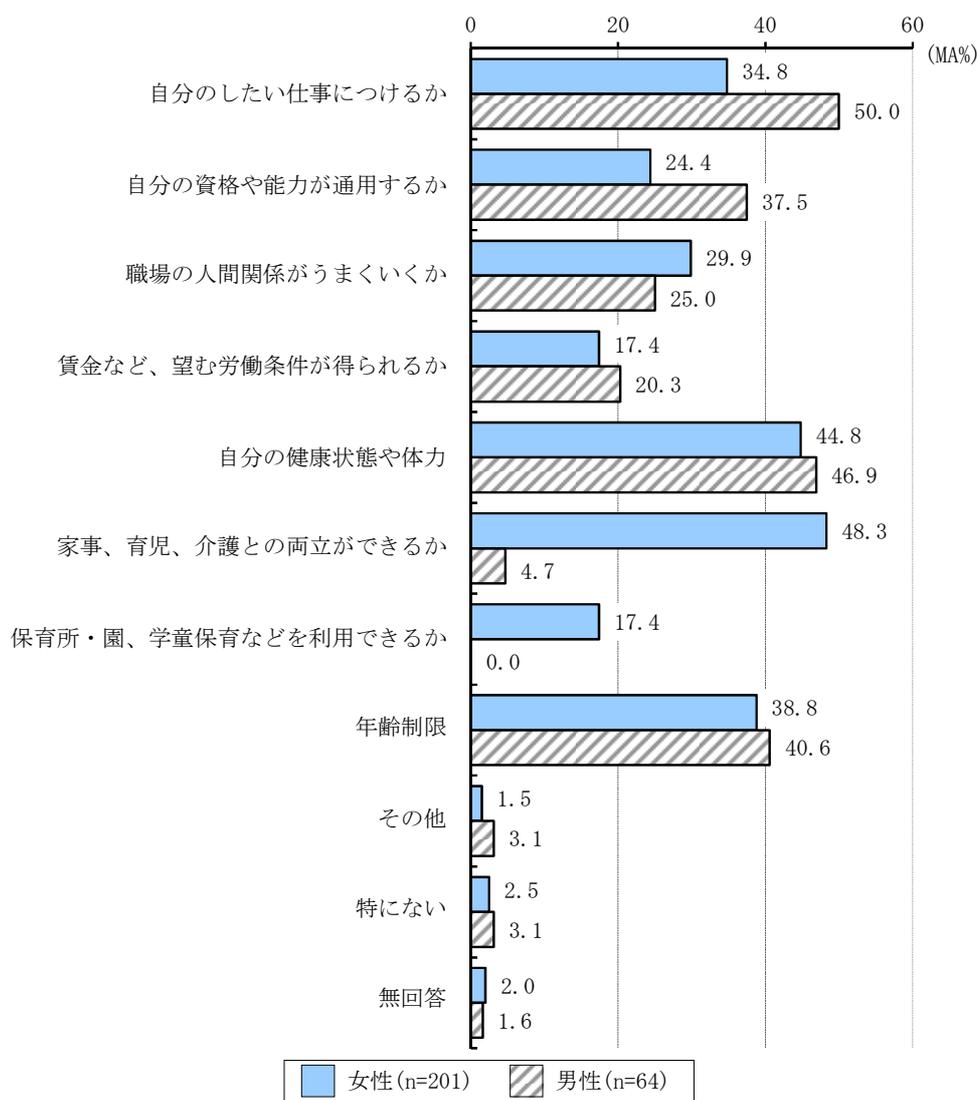
	女性					男性				
	n	き ぜ ひ、 仕事に つ き たい	に で き れ ば、 仕事 につ き たい	と し 事 に つ き た い	わ か ら な い	n	き ぜ ひ、 仕事に つ き たい	に で き れ ば、 仕事 につ き たい	と し 事 に つ き た い	わ か ら な い
今回調査	564	12.6	23.0	33.5	13.7	246	8.1	17.9	43.9	11.0
前回調査	382	11.0	23.6	30.9	10.2	197	13.2	22.3	35.0	8.1

## (7) 仕事につく上での不安

【問19で「1. ぜひ、仕事につきたい」または「2. できれば、仕事につきたい」と答えられた方におたずねします。】

問19-1 あなたは、今後、仕事につく上で何か困ったことや不安がありますか。  
(○はいくつでも)

【図表6-7 仕事につく上での不安】



### <性別> (図表6-7)

仕事につきたい、できれば、仕事につきたいと回答した人に、仕事につく上で困ったことや不安についてたずねたところ、女性では「家事、育児、介護との両立ができるか」(48.3%)、男性では「自分のしたい仕事につけるか」(50.0%)が最も多くなっている。また、男性では「自分のしたい仕事につけるか」と「自分の資格や能力が通用するか」(37.5%)が女性に比べ10ポイント以上高くなっているが、「家事、育児、介護との両立ができるか」は4.7%、「保育所・園、学童保育などを利用できるか」では回答者なしと低く、両項目では女性との差は43.6ポイントと17.4ポイントである。

<性・年代別> (図表6-7-1)

女性では、20歳代で「自分のしたい仕事につけるか」が52.9%で最も多くなっている。30歳代・40歳代は「家事、育児、介護との両立ができるか」が最も多く、30歳代は85.4%、40歳代は64.3%と高くなっており、30歳代では「保育所・園、学童保育などを利用できるか」が50.0%で多くなっている。50歳代と70歳以上は「年齢制限」、60歳代は「自分の健康状態や体力」が、それぞれ最も多くなっている。

男性では、60歳代は「自分の健康状態や体力」が57.1%、70歳以上では「年齢制限」が66.7%で、それぞれ最も多くなっている。

【図表6-7-1 性・年代別 仕事につく上での不安】

		n	自分のしたい仕事につけるか	自分の資格や能力が通るか	職場の人間関係がうまくいけるか	賃金が得られるか、望む労働条件など	自分の健康状態や体力	家事、育児、介護との両立ができるか	保育所・園、学童保育などを利用できるか	年齢制限	その他	特になし
全体	上段/実数 下段/MA%	266 100.0	103 38.7	73 27.4	76 28.6	48 18.0	120 45.1	100 37.6	35 13.2	105 39.5	5 1.9	7 2.6
女性	20歳代	17 100.0	9 52.9	6 35.3	5 29.4	6 35.3	3 17.6	7 41.2	3 17.6	-	-	1 5.9
	30歳代	48 100.0	14 29.2	17 35.4	22 45.8	12 25.0	16 33.3	41 85.4	24 50.0	9 18.8	-	2 4.2
	40歳代	56 100.0	19 33.9	13 23.2	19 33.9	10 17.9	28 50.0	36 64.3	7 12.5	20 35.7	1 1.8	-
	50歳代	23 100.0	11 47.8	5 21.7	10 43.5	2 8.7	12 52.2	5 21.7	-	13 56.5	1 4.3	1 4.3
	60歳代	29 100.0	8 27.6	4 13.8	3 10.3	4 13.8	17 58.6	6 20.7	-	16 55.2	-	1 3.4
	70歳以上	27 100.0	9 33.3	4 14.8	1 3.7	1 3.7	13 48.1	1 3.7	-	19 70.4	1 3.7	-
	男性	20歳代	9 100.0	7 77.8	6 66.7	5 55.6	5 55.6	1 11.1	-	-	-	-
30歳代	1 100.0	1 100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
40歳代	3 100.0	3 100.0	1 33.3	2 66.7	2 66.7	-	-	-	1 33.3	-	-	
50歳代	9 100.0	3 33.3	3 33.3	2 22.2	3 33.3	4 44.4	1 11.1	-	4 44.4	-	-	
60歳代	21 100.0	11 52.4	4 19.0	5 23.8	2 9.5	12 57.1	2 9.5	-	7 33.3	-	1 4.8	
70歳以上	21 100.0	7 33.3	10 47.6	2 9.5	1 4.8	13 61.9	-	-	14 66.7	2 9.5	1 4.8	

<前回調査（平成22年（2010年））との比較>（図表6-7-2）

前回調査の結果に比べ、女性では「自分の健康状態や体力」「職場の人間関係がうまくいくか」「家事、育児、介護との両立ができるか」が、それぞれ上昇し、「年齢制限」は11.2ポイント低下している。

男性では「自分の資格や能力が通用するか」が上昇する一方、「年齢制限」や「賃金など、望む労働条件が得られるか」「職場の人間関係がうまくいくか」は、それぞれ低下している。

【図表6-7-2 前回調査との比較 仕事につく上での不安】

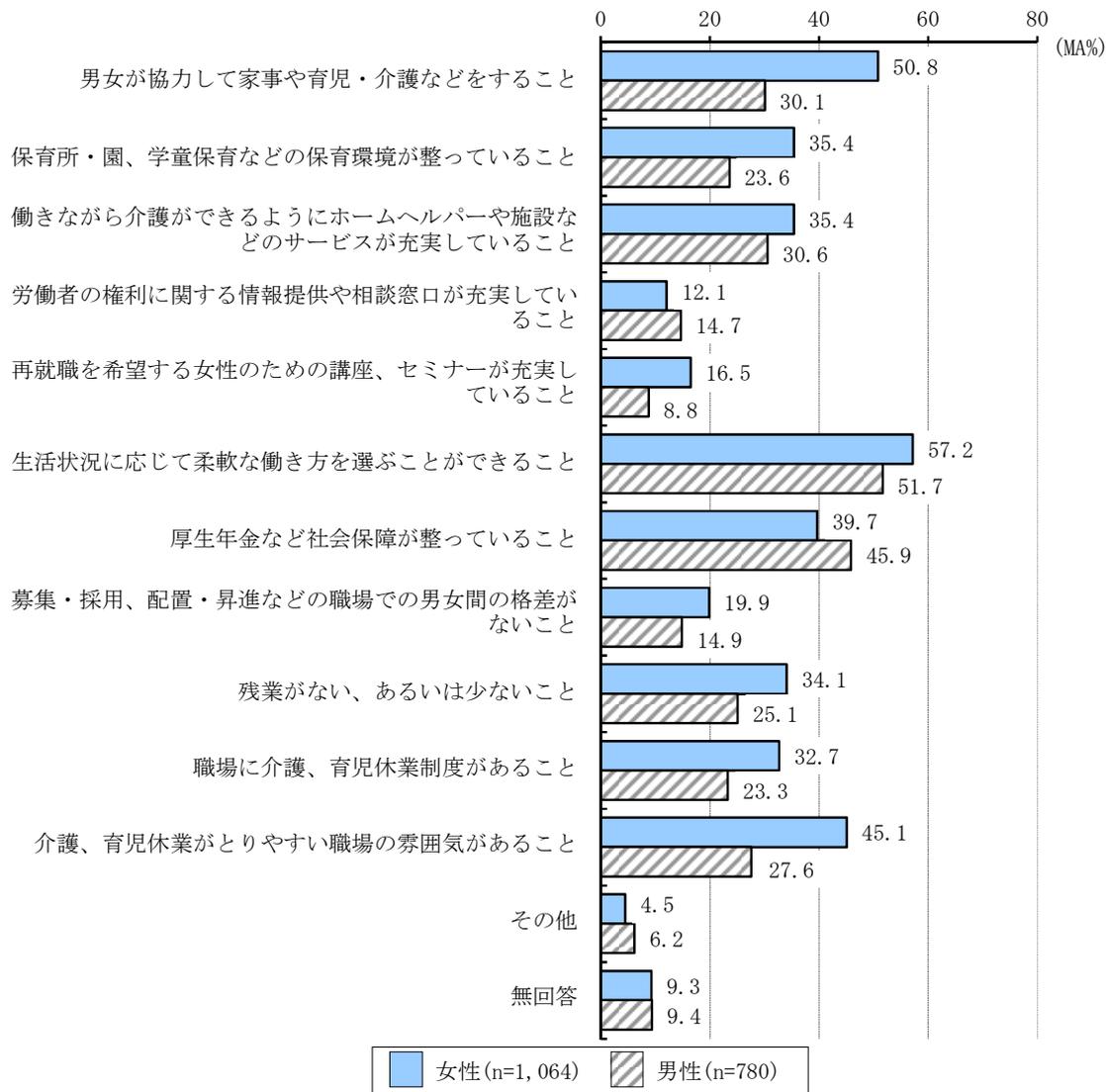
		n	自分の したい 仕事に つ	自分の 資格や 能力が 通	職場の 人間関 係がう ま	賃金な ど、望 む労働 条	自分の 健康状 態や体 力	家事、 育児、 介護と の	保育所・ 園、学 童保育 など、 利用で きるか	年齢制 限	その他	特 に な い
女性	今回調査	201	34.8	24.4	29.9	17.4	44.8	48.3	17.4	38.8	1.5	2.5
	前回調査	132	34.8	25.0	25.0	18.9	37.9	44.7	19.7	50.0	5.3	0.8
男性	今回調査	64	50.0	37.5	25.0	20.3	46.9	4.7	-	40.6	3.1	3.1
	前回調査	70	47.1	30.0	28.6	27.1	44.3	4.3	-	48.6	-	4.3

(MA%)

(8) 働く上で大切なこと

問20 もし、あなたが働き続けたい、あるいは、働き始めたいと考えた場合、どのようなことが大切だと思いますか。(〇はいくつでも)

【図表6-8 働く上で大切なこと】



<性別> (図表6-8)

働き続けたい、働き始めたいと考えたときに大切なことは、男女とも「生活状況に応じて柔軟な働き方を選ぶことができること」(女性57.2%、男性51.7%)が最も多くなっている。次いで、女性では「男女が協力して家事や育児・介護などをすること」(50.8%)、「介護、育児休業がとりやすい職場の雰囲気があること」(45.1%)が多く、これら2項目では、男性に比べ女性の方が20ポイント前後高くなっている。また、「保育所・園、学童保育などの保育環境が整っていること」や「残業がない、あるいは少ないこと」「職場に介護、育児休業制度があること」では、女性の方が10ポイント前後高くなっている。

一方、男性は「厚生年金など社会保障が整っていること」(45.9%)が2番目に多く、女性(39.7%)に比べ6.2ポイント高くなっている。

<性・年代別> (図表6-8-1)

女性では、20歳代で「男女が協力して家事や育児・介護などをする事」と「残業がない、あるいは少ないこと」がともに65.8%と最も多く、次いで「保育所・園、学童保育などの保育環境が整っていること」が63.2%となっている。また、「残業がない、あるいは少ないこと」と「職場に介護、育児休業制度があること」は若い年代ほど高くなっており、「残業がない、あるいは少ないこと」は、同年代の男性では39.6%で、女性の方が26.2ポイント上回っている。30歳代は「保育所・園、学童保育などの保育環境が整っていること」が74.5%で最も多く、「男女が協力して家事や育児・介護などをする事」(68.8%)や「介護、育児休業がとりやすい職場の雰囲気があること」(65.6%)が他の年代に比べ高くなっているが、同年代の男性のこれらの割合は女性に比べ低い。40～60歳代の女性では「生活状況に応じて柔軟な働き方を選ぶことができること」が6～7割台で最も多く、70歳以上は「男女が協力して家事や育児・介護などをする事」が39.9%で最も多くなっている。

男性では、20歳代で「保育所・園、学童保育などの保育環境が整っていること」と「生活状況に応じて柔軟な働き方を選ぶことができること」がともに50.9%と最も多く、次いで「厚生年金など社会保障が整っていること」が49.1%となっている。「男女が協力して家事や育児・介護などをする事」と「職場に介護、育児休業制度があること」については、20歳代がともに43.4%で他の年代に比べ高くなっている。30歳以上になると「生活状況に応じて柔軟な働き方を選ぶことができること」と「厚生年金など社会保障が整っていること」が、第1、2位で多くなっている。

【図表6-8-1 性・年代別 働く上で大切なこと】

	n	男女が協力して家事や育児・介護などをする事	保育所・園、学童保育などの保育環境が整っていること	働きながら介護ができるようなホームヘルプや施設などのサービスが充実していること	報奨金の権利に関する情報提供や相談窓口が充実していること	再就職の希望する女性のための講座、セミナーがあること	働き方を選ぶことが柔軟な生活状況に応じて柔軟な働き方を選ぶことができること	厚生年金など社会保障が整っていること	格差がない職場での男女・昇進の機会があること	募集・採用、配置・昇進などの職採用で男女・昇進の機会があること	残業がない、あるいは少ないこと	職場に介護、育児休業制度があること	介護、育児休業がとりやすい職場の雰囲気があること	その他
全体	1851	778	563	619	245	246	1014	781	328	559	532	696	96	
	上段/実数	42.0	30.4	33.4	13.2	13.3	54.8	42.2	17.7	30.2	28.7	37.6	5.2	
	下段/MA%	100.0	37.8	39.4	9.2	9.7	25.3	19.8	12.5	37.7	32.7	47.2	10.0	
女性	20歳代	76	50	48	16	7	21	41	23	50	44	46	3	
		100.0	65.8	63.2	21.1	9.2	27.6	53.9	30.3	65.8	57.9	60.5	3.9	
	30歳代	157	108	117	58	13	37	105	71	89	79	103	5	
		100.0	68.8	74.5	36.9	8.3	23.6	66.9	45.2	56.7	50.3	65.6	3.2	
	40歳代	206	121	78	84	32	39	141	91	85	82	119	8	
		100.0	58.7	37.9	40.8	15.5	18.9	68.4	44.2	41.3	39.8	57.8	3.9	
	50歳代	165	79	34	81	27	29	116	68	35	48	45	85	3
	100.0	47.9	20.6	49.1	16.4	17.6	70.3	41.2	21.2	29.1	27.3	51.5	1.8	
60歳代	186	74	42	71	23	20	118	57	32	49	50	63	10	
	100.0	39.8	22.6	38.2	12.4	10.8	63.4	30.6	17.2	26.3	26.9	33.9	5.4	
70歳以上	271	108	57	67	27	30	86	99	33	41	48	64	19	
	100.0	39.9	21.0	24.7	10.0	11.1	31.7	36.5	12.2	15.1	17.7	23.6	7.0	
男性	20歳代	53	23	27	15	9	10	27	15	21	23	21	2	
		100.0	43.4	50.9	28.3	17.0	18.9	50.9	49.1	39.6	43.4	39.6	3.8	
	30歳代	96	34	43	27	14	11	51	50	38	40	43	7	
		100.0	35.4	44.8	28.1	14.6	11.5	53.1	52.1	39.6	41.7	44.8	7.3	
	40歳代	129	41	39	48	17	15	62	70	49	36	47	2	
		100.0	31.8	30.2	37.2	13.2	11.6	48.1	54.3	38.0	27.9	36.4	1.6	
	50歳代	123	32	19	42	22	9	68	69	21	30	26	38	6
	100.0	26.0	15.4	34.1	17.9	7.3	55.3	56.1	17.1	24.4	21.1	30.9	4.9	
60歳代	162	44	19	54	25	8	101	68	20	33	27	32	12	
	100.0	27.2	11.7	33.3	15.4	4.9	62.3	42.0	12.3	20.4	16.7	19.8	7.4	
70歳以上	212	61	36	51	28	16	91	74	29	24	29	33	19	
	100.0	28.8	17.0	24.1	13.2	7.5	42.9	34.9	13.7	11.3	13.7	15.6	9.0	

<前回調査（平成22年（2010年））との比較>（図表6-8-2）

前回調査の結果に比べ、男女とも「男女が協力して家事や育児・介護などをするこ  
と」「保育所・園、学童保育などの保育環境が整っていること」「労働者の権利に関す  
る情報提供や相談窓口が充実していること」「厚生年金など社会保障が整っているこ  
と」「募集・採用、配置・昇進などの職場での男女間の格差がないこと」「職場に介護、  
育児休業制度があること」の各割合が低下している。

【図表6-8-2 前回調査との比較 働く上で大切なこと】

		n	男女が協力して家事や育 児・介護などをするこ と	保育所・園、学童保育な どの保育環境が整って いること	働きながら介護がで きるようホームヘル プや施設	労働者の権利に 関する情報提供や 相談窓口が充実 していること	再就職を希望する 女性のための講座、 セミナーが充実 していること	働き方を選ぶこと が柔軟な	厚生年金など社会 保障が	格差がないこと 募集・採用、配 置・昇進	残業がない、あ るいは少	職場に介護、育 児休業制	介護、育児休業 がとりや	その他
女性	今回調査	1064	50.8	35.4	35.4	12.1	16.5	57.2	39.7	19.9	34.1	32.7	45.1	4.5
	前回調査	690	54.8	40.7	40.3	14.6	21.3	57.0	41.3	21.9	30.3	35.4	44.8	3.8
男性	今回調査	780	30.1	23.6	30.6	14.7	8.8	51.7	45.9	14.9	25.1	23.3	27.6	6.2
	前回調査	581	34.4	28.2	29.6	18.2	8.1	49.9	53.7	15.7	18.6	23.4	26.7	4.1

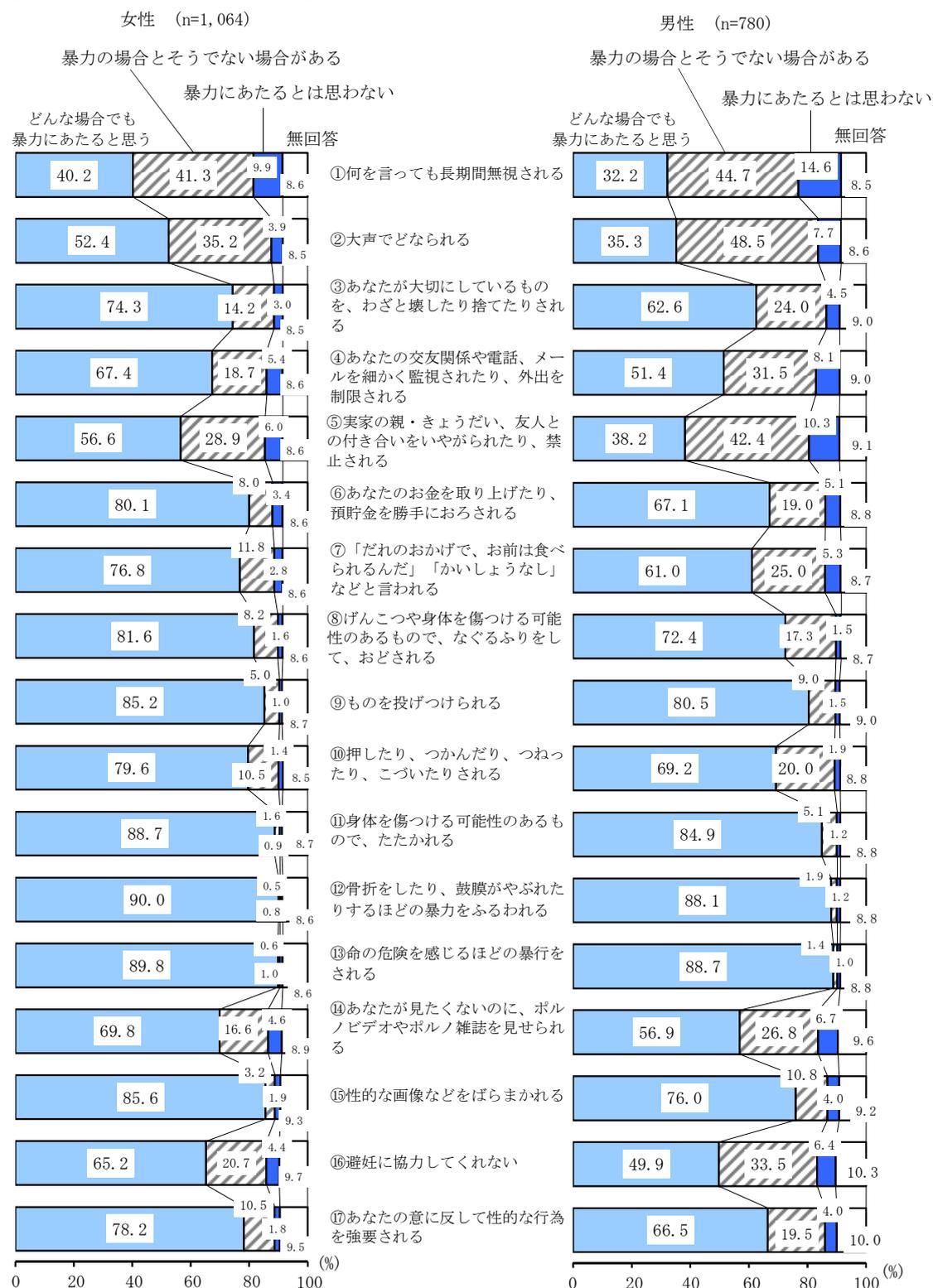
## 7. 男女の人権について

### (1) 配偶者等からの暴力（ドメスティック・バイオレンス DV）に対する認識

問21 あなたは、配偶者・パートナー・恋人から次のようなことをされることは暴力にあたると思いますか。①～⑰それぞれについてお答えください。

(○は各項目それぞれ1つずつ)

【図表 7-1 DVに対する認識】



### <性別> (図表7-1)

配偶者等からの暴力に対する認識について、女性では、「①何を言っても長期間無視される」は「暴力の場合とそうでない場合がある」が41.3%で最も多く、「どんな場合でも暴力にあたると思う」の40.2%と僅差となっており、①以外の項目では「どんな場合でも暴力にあたると思う」が50%以上を占めている。一方、男性では「①何を言っても長期間無視される」や「②大声でどなられる」「⑤実家の親・きょうだい、友人との付き合いをいやがられたり、禁止される」は「暴力の場合とそうでない場合がある」が最も多く、「①何を言っても長期間無視される」や「②大声でどなられる」「⑤実家の親・きょうだい、友人との付き合いをいやがられたり、禁止される」以外の項目では「どんな場合でも暴力にあたると思う」が最も多くなっている。

「どんな場合でも暴力にあたると思う」との回答が多かった上位3つは、順位は若干異なるものの、男女とも同じものが占めた。すなわち身体的暴力のうち、きわめて暴力性が激しい「⑪身体を傷つける可能性のあるもので、たたかれる」「⑫骨折をしたり、鼓膜がやぶれたりするほどの暴力をふるわれる」「⑬命の危険を感じるほどの暴行をされる」であり、女性では「⑪身体を傷つける可能性のあるもので、たたかれる」は88.7%、「⑫骨折をしたり、鼓膜がやぶれたりするほどの暴力をふるわれる」は90.0%、「⑬命の危険を感じるほどの暴行をされる」は89.8%とおよそ9割の人が「どんな場合でも暴力にあたる」と答えている。男性も「⑪身体を傷つける可能性のあるもので、たたかれる」は84.9%、「⑫骨折をしたり、鼓膜がやぶれたりするほどの暴力をふるわれる」は88.1%、「⑬命の危険を感じるほどの暴行をされる」は88.7%となっており、こちらも8割から9割に近い人が「どんな場合でも暴力にあたる」と回答した。激しい暴力性を伴う身体的暴力については、「暴力である」との認識が深まっているといえよう。

また、「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合は、すべての項目で女性の方が高くなっており、男女差が大きい上位5項目をみると、「⑤実家の親・きょうだい、友人との付き合いをいやがられたり、禁止される」が18.4ポイント、「②大声でどなられる」が17.1ポイント、「④あなたの交友関係や電話、メールを細かく監視されたり、外出を制限される」が16.0ポイント、「⑦「だれのおかげで、お前は食べられるんだ」「かいしょうなし」などと言われる」が15.8ポイント、「⑩避妊に協力してくれない」が15.3ポイント、それぞれ女性の方が高くなっている。社会的暴力である④の外出の制限や⑤の付き合いの禁止などにおいて、男女間の認識に大きな差が存在する。

### <性・年代別> (図表7-1-1)

「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答した項目のみで集計したところ、女性では、各年代で「⑫骨折をしたり、鼓膜がやぶれたりするほどの暴力をふるわれる」が最も多い。20～50歳代は「⑬命の危険を感じるほどの暴行をされる」も同率で最も多く、さらに50歳代では併せて「⑪身体を傷つける可能性のあるもので、たたかれる」も最も多くなっており、それぞれ97.0%から99.0%の高い回答率となっている。また、50歳代では、「①何を言っても長期間無視される」(52.1%)や「④あなたの交友関係や電話、メールを細かく監視されたり、外出を制限される」(84.8%)、「⑤実家の

親・きょうだい、友人との付き合いをいやがられたり、禁止される」(71.5%)、「⑦「だれのおかげで、お前は食べられるんだ」「かいしょうなし」などと言われる」(90.3%)など、社会的暴力、精神的暴力の割合が他の年代に比べ高くなっている。

70歳以上は他の年代に比べ、いずれの項目においても暴力と認識する割合は低い。ただし、暴力の認識と年代との間に必ずしも直線的な相関が見られるわけではなく、①～⑦と⑩、⑭の計9項目については50歳代で最も高く、⑧⑨、⑪～⑬の5項目については40歳代で最も高くなっている。

男性では、20～60歳代で「⑬命の危険を感じるほどの暴行をされる」が最も多くなっており、「⑫骨折をしたり、鼓膜がやぶれたりするほどの暴力をふるわれる」は20歳代では同率で多く、70歳以上では最も多くなっている。また、20歳代では、「④あなたの交友関係や電話、メールを細かく監視されたり、外出を制限される」(60.4%)や「⑤実家の親・きょうだい、友人との付き合いをいやがられたり、禁止される」(52.8%)など、社会的暴力の割合が他の年代に比べ高くなっている。

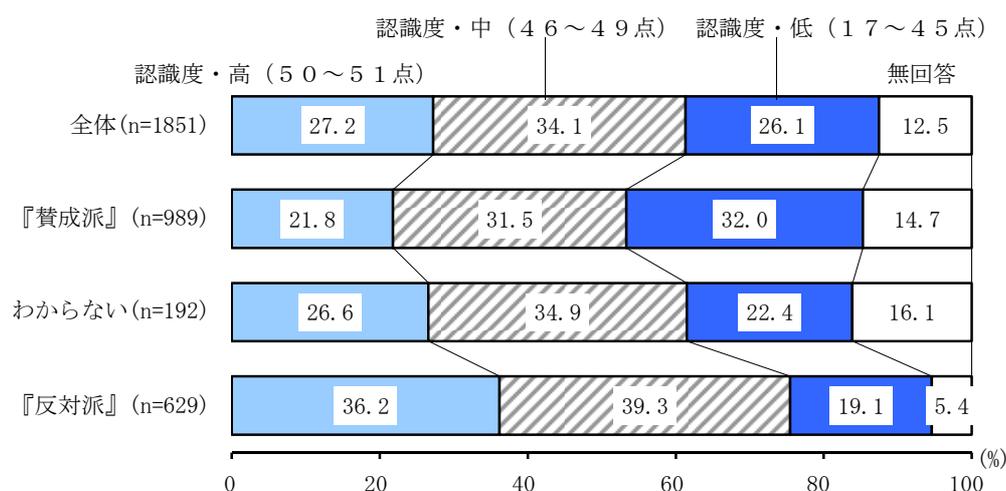
男性でも、70歳以上は他の年代に比べ、いずれの項目においても暴力と認識する人の割合は低く、暴力の認識と年代との間に必ずしも直線的な相関がみられるわけではない点も女性と同様である。ただし、年代別の傾向は女性と異なっており、男性では20歳代で「①何を言っても長期間無視される」「④あなたの交友関係や電話、メールを細かく監視されたり、外出を制限される」「⑤実家の親・きょうだい、友人との付き合いをいやがられたり、禁止される」「⑧げんこつや身体を傷つける可能性のあるもので、なぐるふりをして、おどされる」「⑨ものを投げつけられる」「⑮性的な画像などをばらまかれる」「⑯避妊に協力してくれない」の計7項目については最も高く、それに続いて50歳代で「②大声でどなられる」「③あなたが大切にしているものを、わざと壊したり捨てたりされる」「⑥あなたのお金を取り上げたり、預貯金を勝手におろされる」「⑭あなたが見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せられる」「⑰あなたの意に反して性的な行為を強要される」の計5項目については最も高くなっている。



## <性別役割分担意識との関連> (図表7-1-2)

図表7-1-2は、性別役割分担意識とDVに対する認識との関連を表したものである。「DV認識度・高」群の割合は、性別役割分担『賛成派』(21.8%)に比べて『反対派』(36.2%)で高くなっているのに対して、「DV認識度・低」群の割合は、性別役割分担『賛成派』(32.0%)に比べて『反対派』(19.1%)で低くなっており、性別役割分担に反対する人の方がDV認識度が高い傾向が見られる。このことから、固定的性別役割分担意識の解消が、DVに対する認識を深めることに寄与する可能性が示唆される。

【図表7-1-2 性別役割分担意識とDVに対する認識との関連】



### 【注】

性別役割分担意識については、問7(図表2-1、35ページ)で「賛成」または「どちらかといえば賛成」との回答を『賛成派』、「反対」または「どちらかといえば反対」との回答を『反対派』としてまとめている。

DVに対する認識については、問21(図表7-1、108ページ)の①~⑰全17項目を総合したものをを用いた。各項目について、便宜上「どんな場合でも暴力にあたると思う」を3点、「暴力の場合とそうでない場合がある」を2点、「暴力にあたるとは思わない」を1点として得点化して各回答者の全17項目の合計得点を算出し、得点分布をふまえておおよそ3等分になるよう点数を区分し、得点の少ないほうから、「DV認識度・低」「DV認識度・中」「DV認識度・高」と定義した。なお、問21の①~⑰のいずれか1つでも無回答の場合は得点計算から除外してある。

<前回調査（平成22年（2010年））との比較>（図表7-1-3）

前回調査の結果に比べ、「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合がすべての項目で男女とも10ポイント以上上昇し、特に女性では、「④あなたの交友関係や電話、メールを細かく監視されたり、外出を制限される」「⑦「だれのおかげで、お前は食べられるんだ」「かいしょうなし」などと言われる」「⑥あなたのお金を取り上げたり、預貯金を勝手におろされる」「③あなたが大切にしているものを、わざと壊したり捨てたりされる」「②大声でどなられる」「①⑦あなたの意に反して性的な行為を強要される」が各々20ポイント以上上昇している。一方、男性では「⑦「だれのおかげで、お前は食べられるんだ」「かいしょうなし」などと言われる」や「⑥あなたのお金を取り上げたり、預貯金を勝手におろされる」で20ポイント以上上昇している。

【図表7-1-3 前回調査との比較 DVに対する認識】

		女性				男性			
		n	あど んな 場合 でも 暴力 に	い暴 力の 場合 があ ると そう でな	な暴 力に あた ると は思 わ	n	あど んな 場合 でも 暴力 に	い暴 力の 場合 があ ると そう でな	な暴 力に あた ると は思 わ
①何を言っても長期間無視される	今回調査	1064	40.2	41.3	9.9	780	32.2	44.7	14.6
	前回調査	690	23.8	40.0	16.4	581	17.6	49.6	16.7
②大声でどなられる	今回調査	1064	52.4	35.2	3.9	780	35.3	48.5	7.7
	前回調査	690	29.3	42.2	8.6	581	20.1	50.3	13.6
③あなたが大切にしているものを、わざと壊したり捨てたりされる	今回調査	1064	74.3	14.2	3.0	780	62.6	24.0	4.5
	前回調査	690	50.6	21.0	7.8	581	47.0	26.5	10.0
④あなたの交友関係や電話、メールを細かく監視されたり、外出を制限される	今回調査	1064	67.4	18.7	5.4	780	51.4	31.5	8.1
	前回調査	690	40.1	27.7	11.3	581	32.4	34.3	16.2
⑤実家の親・きょうだい、友人との付き合いをいやがられたり、禁止される	今回調査	1064	56.6	28.9	6.0	780	38.2	42.4	10.3
	前回調査	690	40.6	25.5	13.2	581	25.8	39.6	17.6
⑥あなたのお金を取り上げたり、預貯金を勝手におろされる	今回調査	1064	80.1	8.0	3.4	780	67.1	19.0	5.1
	前回調査	690	55.8	14.6	8.4	581	44.8	25.0	12.7
⑦「だれのおかげで、お前は食べられるんだ」「かいしょうなし」などと言われる	今回調査	1064	76.8	11.8	2.8	780	61.0	25.0	5.3
	前回調査	690	51.3	19.3	8.8	581	36.8	33.6	12.2
⑧げんこつや身体を傷つける可能性のあるもので、なぐるふりをして、おどされる	今回調査	1064	81.6	8.2	1.6	780	72.4	17.3	1.5
	前回調査	690	62.8	13.2	3.3	581	54.4	21.5	6.7
⑨ものを投げつけられる	今回調査	1064	85.2	5.0	1.0	780	80.5	9.0	1.5
	前回調査	690	68.7	7.5	3.3	581	62.8	15.1	4.5
⑩押ししたり、つかんだり、つねったり、こづいたりされる	今回調査	1064	79.6	10.5	1.4	780	69.2	20.0	1.9
	前回調査	690	64.1	11.0	4.6	581	53.7	24.3	4.8
⑪身体を傷つける可能性のあるもので、たたかれる	今回調査	1064	88.7	1.6	0.9	780	84.9	5.1	1.2
	前回調査	690	73.2	2.5	3.8	581	70.7	7.6	4.5
⑫骨折をしたり、鼓膜がやぶれたりするほどの暴力をふるわれる	今回調査	1064	90.0	0.5	0.8	780	88.1	1.9	1.2
	前回調査	690	74.6	0.6	3.6	581	76.9	1.2	4.1
⑬命の危険を感じるほどの暴行をされる	今回調査	1064	89.1	0.9	1.0	780	89.8	0.6	1.0
	前回調査	690	75.1	0.6	3.5	581	77.3	1.0	4.0
⑭あなたが見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せられる	今回調査	1064	69.8	16.6	4.6	780	56.9	26.8	6.7
	前回調査	690	51.0	19.6	7.7	581	42.7	29.1	10.3
⑯避妊に協力してくれない	今回調査	1064	65.2	20.7	4.4	780	49.9	33.5	6.4
	前回調査	690	45.7	24.2	8.4	581	36.3	32.9	12.0
⑰あなたの意に反して性的な行為を強要される	今回調査	1064	78.2	10.5	1.8	780	66.5	19.5	4.0
	前回調査	690	56.8	16.5	5.1	581	50.3	23.1	8.1

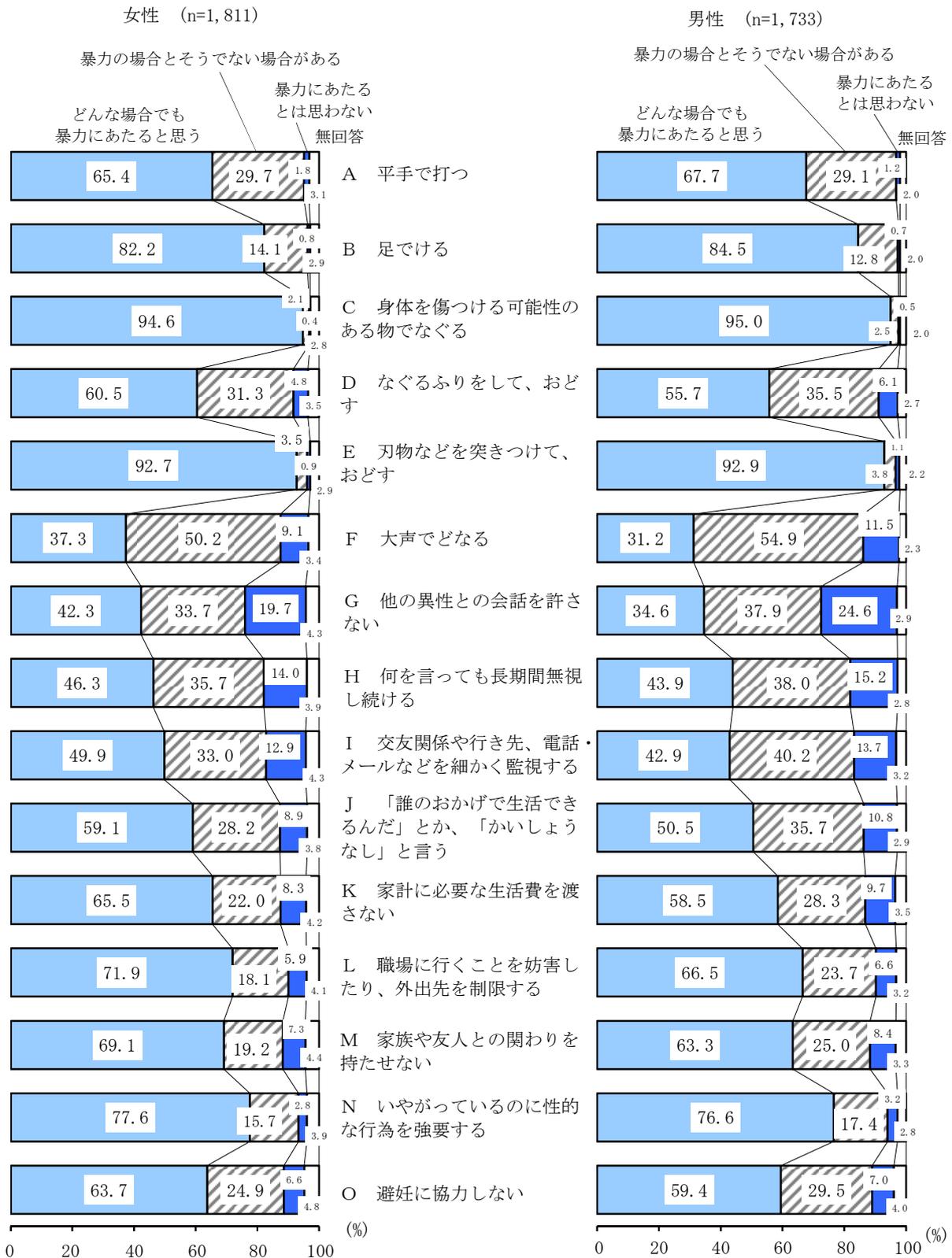
※前回調査と同じ項目のみを比較。

※前回調査の「④あなたの交友関係や電話を細かく監視されたり、外出を制限される」は、今回調査では「④あなたの交友関係や電話、メールを細かく監視されたり、外出を制限される」に変更している。

#### <内閣府調査（平成27年（2015年））との比較>（図表7-1-4）

内閣府調査と比較し、「どんな場合でも暴力にあたる」と答えた人が多かったものを以下に挙げてみる。まず「②大声でどなられる」が内閣府調査では女性で37.3%、男性で31.2%であったが、本調査では女性が52.4%、男性が35.3%と、特に女性で15.1ポイントと大きな差がついた。「④あなたの交友関係や電話、メールを細かく監視されたり、外出を制限される」（内閣府では「交友関係や行先、電話・メールなどを細かく監視する」）については、内閣府調査では女性が49.9%、男性が42.9%であったのに対し、本調査では女性67.4%、男性51.4%となり、これについては男女とも10ポイント近く差がついている。また「⑦「だれのおかげで、お前は食べられるんだ」「かいしょうなし」などと言われる」（内閣府では「誰のおかげで生活できるんだ」とか、「かいしょうなし」と言う）についても、内閣府調査では女性で59.1%、男性50.5%であったが、本調査では女性が76.8%、男性が61.0%となっており、これについても男女とも10ポイント以上の差がついた。一方、「①何を言っても長期間無視される」については男女ともに本調査の方が低く、「⑩避妊に協力してくれない」「⑪あなたの意に反して性的な行為を強要される」（内閣府では「避妊に協力しない」、「いやがっているのに性的な行為を強要する」）については、特に男性で本調査の方が低くなっている。本調査結果は全国に比べ、全般的に暴力に対する認識が高い傾向にあるが、性的な暴力に対する認識については、全国に比べ必ずしも認識が高いとはいえない傾向がうかがえる。

【図表7-1-4 DVに対する認識（全国）】

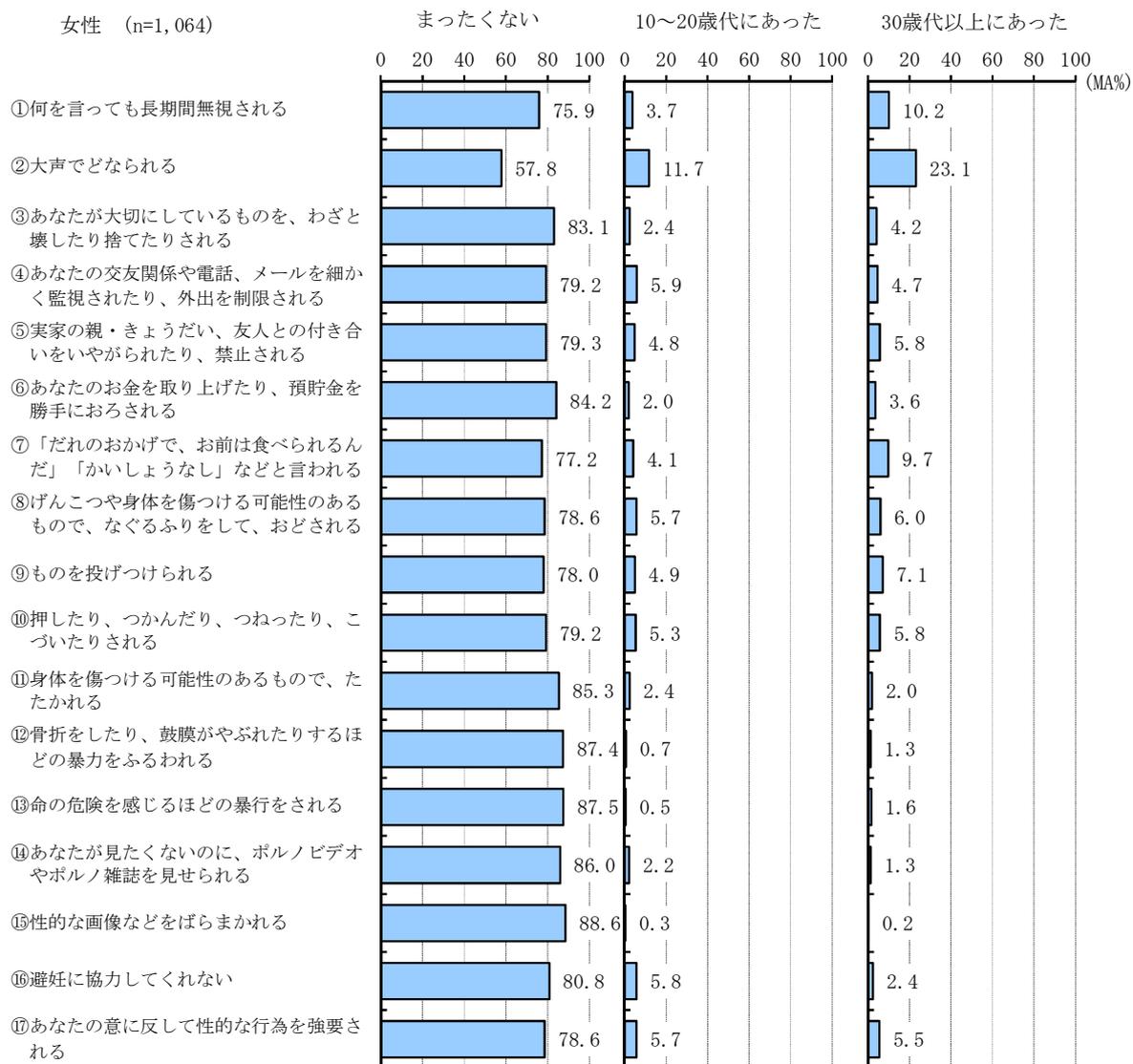


出典：『男女間における暴力に関する調査報告書』・夫婦間での行為についての暴力としての認識（平成27年3月、内閣府男女共同参画局）

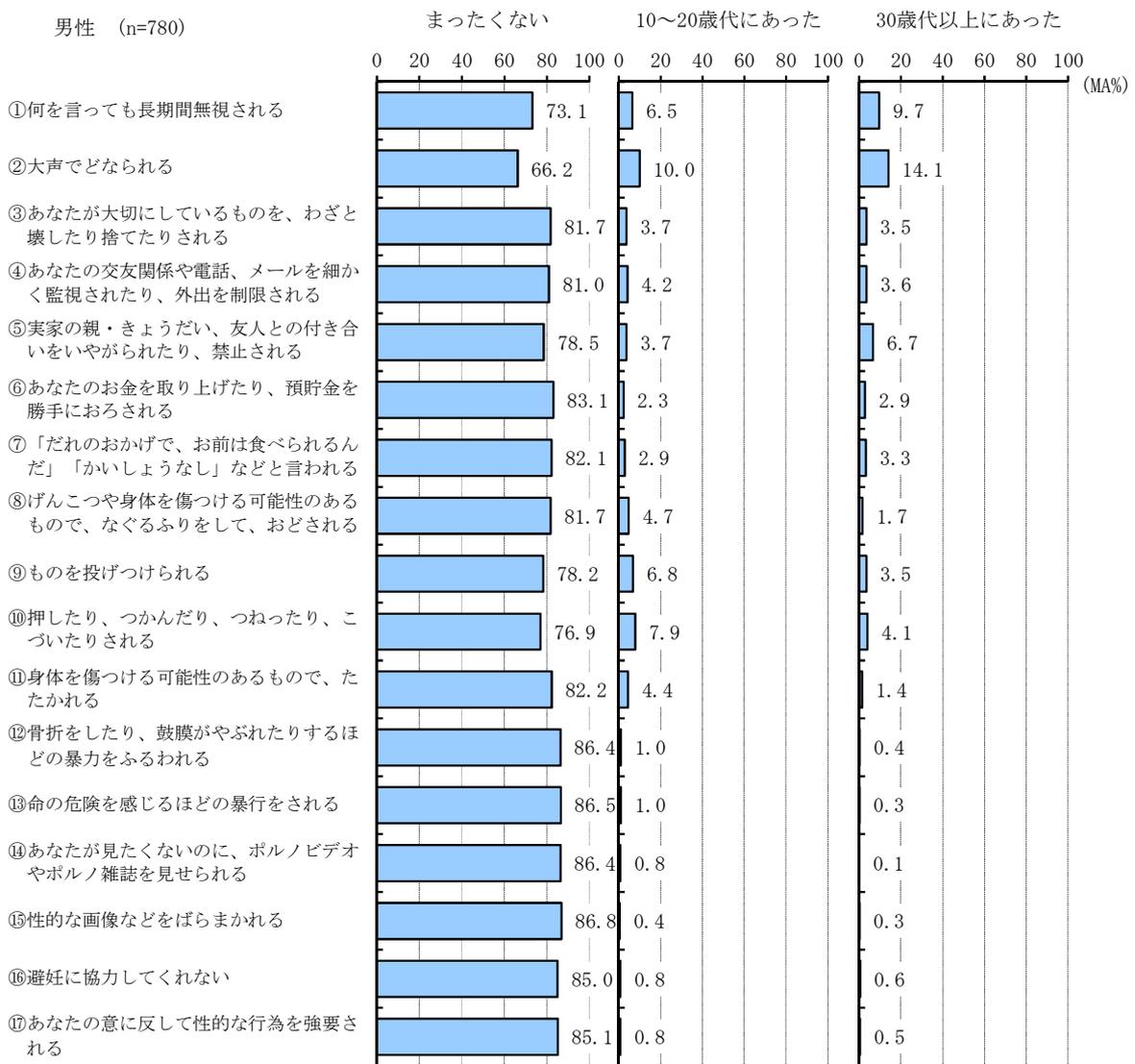
## (2) 配偶者等からの暴力（ドメスティック・バイオレンス DV）の経験

問22 あなたは、配偶者・パートナー・交際相手から次のようなことをされたことがありますか。①～⑰それぞれについてお答えください。（各項目〇はいくつでも）

【図表7-2 DVの経験（女性）】



【図表7-2 DVの経験（男性）】



＜性別＞（図表7-2）

回答者の配偶者等からの暴力の経験については、すべての項目で、男女とも「まったくない」が50%以上を占めている。配偶者等からの暴力を受けた人では、男女とも「②大声でどなられる」が最も高く、「10~20歳代にあった」で女性が11.7%、男性が10.0%、「30歳代以上にあった」で女性が23.1%、男性が14.1%と、男性よりも女性が高くなっている。また「30歳代以上にあった」では、ほぼすべての項目で暴力を受けた率は女性の方が高くなっている。

女性の「10~20歳代にあった」暴力では、「②大声でどなられる」以外に「⑯避妊に協力してくれない」「⑰あなたの意に反して性的な行為を強要される」がそれぞれ5.8%、5.7%、「④あなたの交友関係や電話、メールを細かく監視されたり、外出を制限される」「⑤実家の親・きょうだい、友人との付き合いをいやがられたり、禁止される」がそれぞれ5.9%、4.8%と、他の暴力に比べて高くなっている。若い時期に性的暴力や社会的暴力を経験する女性がいることがわかる。「30歳代以上にあった」

では、「②大声でどなられる」以外では、「①何を言っても長期間無視される」が10.2%、「⑦「だれのおかげでお前は食べられるんだ」「かいしょうなし」などと言われる」が9.7%と高くなり、また「⑨ものを投げつけられる」「⑧げんこつや身体を傷つける可能性のあるもので、なぐるふるをして、おどされる」などの身体的暴力がそれぞれ7.1%、6.0%、「10～20歳代」でも経験することのあった「⑤実家の親・きょうだい、友人との付き合いをいやがられたり、禁止される」の社会的暴力と「⑰あなたの意に反して性的な行為を強要される」の性的暴力もそれぞれ5.8%、5.5%と、依然として経験する女性がいることがわかる。

男性が「10～20歳代」で経験した暴力では、「②大声でどなられる」以外では、「⑩押ししたり、つかんだり、つねったり、こづいたりされる」が7.9%、「⑨ものを投げつけられる」が6.8%、「①何を言っても長期間無視される」が6.5%と、他の暴力に比べ高くなっている。「30歳代以上にあった」では、「②大声でどなられる」以外としては、「①何を言っても長期間無視される」が9.7%、「⑤実家の親・きょうだい、友人との付き合いをいやがられたり、禁止される」が6.7%と増えている。

#### <性・年代別> (図表7-2-1)

「10～20歳代にあった」または「30歳代以上にあった」と回答した人のみで集計したところ、回答者が配偶者・パートナー・交際相手から受けた経験のあるDVについては、女性は、各年代で「②大声でどなられる」が最も多くなっており、なかでも40歳代では4割を超える人が経験していることがわかる。40歳代は「⑦「だれのおかげで、お前は食べられるんだ」「かいしょうなし」などと言われる」も多く、20.4%と5人に1人以上が経験しており、50歳代が15.2%、60歳代で14.5%と続いている。「①何を言っても長期間無視される」についても20歳代以外はいずれも1割を超えており、60歳代では17.2%となっている。また「④あなたの交友関係や電話、メールを細かく監視されたり、外出を制限される」は20～40歳代で、「⑤実家の親・きょうだい、友人との付き合いをいやがられたり、禁止される」は40～60歳代で1割を超えている。「⑧げんこつや身体を傷つける可能性のあるもので、なぐるふりをして、おどされる」「⑨ものを投げつけられる」も40～60歳代で、「⑩押ししたり、つかんだり、つねったり、こづいたりされる」は50歳代と70歳以上を除く年代で1割を超えている。また性的暴力である「⑱避妊に協力してくれない」は30歳代と40歳代で、「⑰あなたの意に反して性的な行為を強要される」は20～40歳代と60歳代で1割を超えている。

以上、多くの項目について僅差のものも含め、②～⑨、⑫、⑬の計10項目において40歳代が最も高く、多くの暴力行為を経験している様子が見えてくる。

男性では、各年代で「②大声でどなられる」が最も多い。「①何を言っても長期間無視される」もいずれの年代でも1割を超え、20歳代と40歳代では2割近くになっている。「③あなたが大切にしているものを、わざと壊したり捨てたりされる」は40歳代で、「④あなたの交友関係や電話、メールを細かく監視されたり、外出を制限される」は50歳代で1割を超えている。「⑤実家の親・きょうだい、友人との付き合いをいやがられたり、禁止される」は40歳代と50歳代で、「⑨ものを投げつけられる」は30歳～50歳代で1割を超える。「⑩押ししたり、つかんだり、つねったり、こづいたりされ

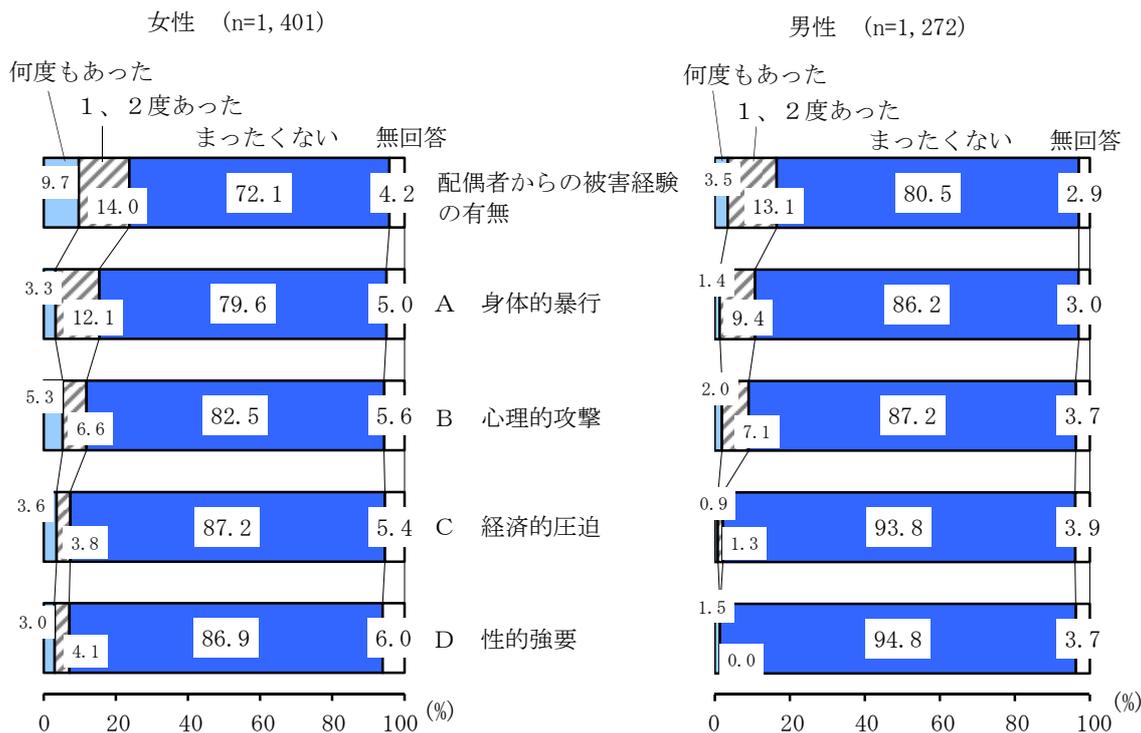
る」は20歳代、40歳代、50歳代で1割を超える。また、女性と同じく、①～③、⑤～⑩、⑫、⑭の計11項目において、40歳代が最も高くなっており、多くの暴力行為を受けている様子が見えてくる。



<内閣府調査（平成27年（2015年））との比較>（図表7-2-2）

内閣府調査と比較すると、「身体的暴行」の未経験者は女性で79.6%であったが、本調査の「⑨ものを投げつけられる」で「まったくない」と答えた人は78.0%で大きな差はなかった。一方、「性的強要」については内閣府では86.9%に対し、本調査で「⑩あなたの意に反して性的な行為を強要される」で「まったくない」と答えた人と答えた人は78.6%に止まっている。男性でも同様の傾向にあり、本調査結果では全国と比べ、DVの被害未経験率は同程度か若干低い傾向がうかがえる。

【図表7-2-2 DVの経験（全国）】



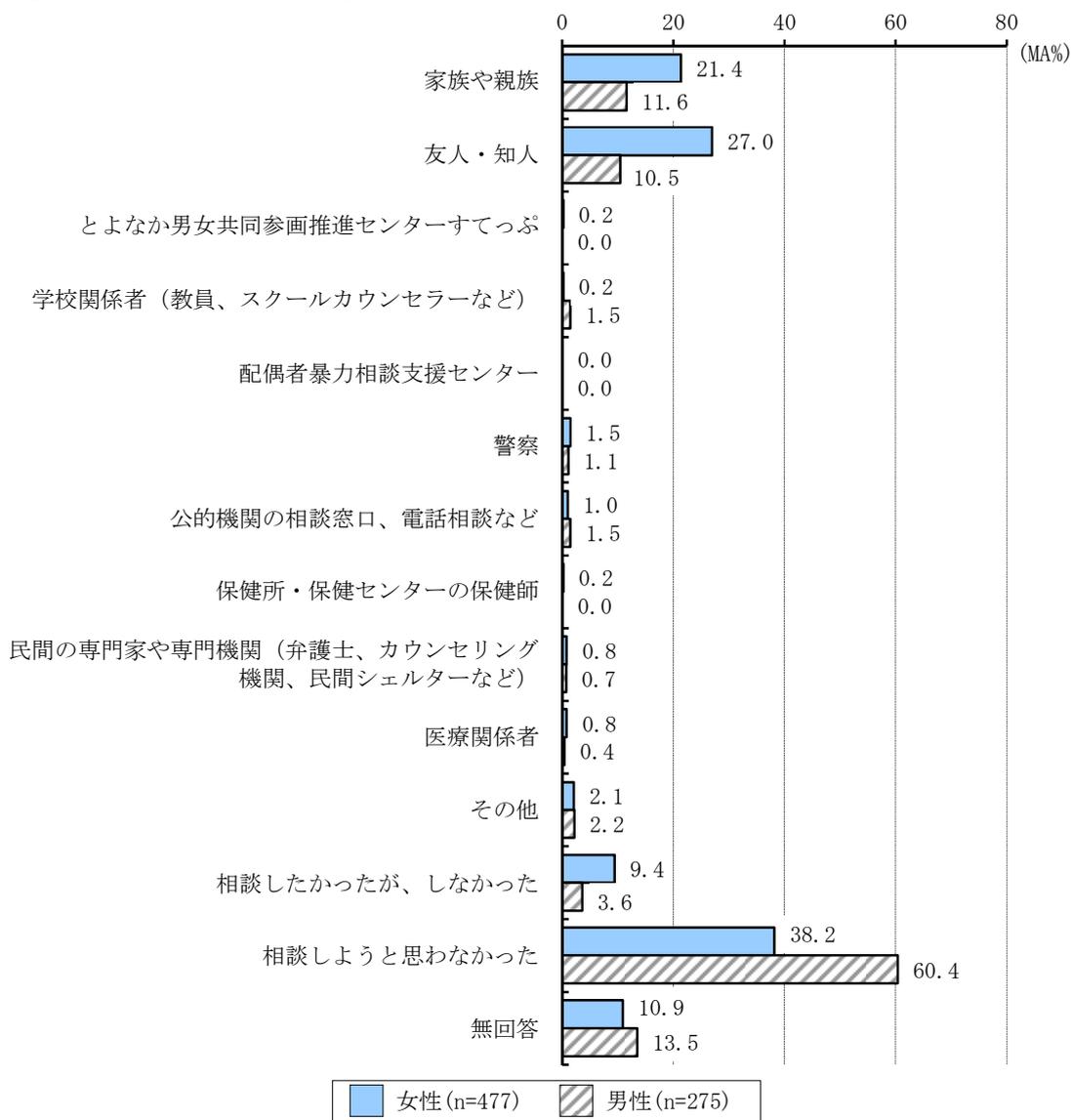
出典：『男女間における暴力に関する調査報告書』・配偶者からの被害経験（平成27年3月、内閣府男女共同参画局）

### (3) 配偶者等からの暴力（ドメスティック・バイオレンス DV）の相談状況

【問22で、1つでも「10～20歳代にあった」または「30歳代以上にあった」と答えられた方におたずねします。】

問23 あなたは、そのことをだれかに相談しましたか。（○はいくつでも）

【図表7-3 DVの相談状況】



#### <性別>（図表7-3）

配偶者等からの暴力を受けた経験があると回答した人に、相談状況をたずねたところ、男女とも「相談しようと思わなかった」（女性38.2%、男性60.4%）が最も多くなっている。相談した人では、女性は「友人・知人」が27.0%で最も多く、男性（10.5%）に比べ16.5ポイント高くなっている。男性では「家族や親族」が11.6%で最も多くなっているが、女性（21.4%）の方が9.8ポイント高くなっている。また、「家族や親族」「友人・知人」以外で公的相談機関等に相談した人は、男女とも少ない。「相談したかったが、しなかった」が女性9.4%、男性3.6%となっている。

<性・年代別> (図表7-3-1)

女性では、20歳代で「友人・知人」が53.6%と最も多く、30歳以上になると「相談しようと思わなかった」が最も多くなっている。相談した人では、30歳代・40歳代・60歳代は「友人・知人」、50歳代・70歳以上は「家族や親族」が最も多くなっている。

男性では、各年代で「相談しようと思わなかった」が最も多くなっており、70歳以上を除いて50%以上を占めている。相談した人では「家族や親族」と「友人・知人」が多く、50歳代では「家族や親族」と同率で「相談したかったが、しなかった」も多くなっている。

【図表7-3-1 性・年代別 DVの相談状況】

		n	家族や親族	友人・知人	とよなか男女共同参画推進センター	学校関係者(教員、スクールカウンセラーなど)	配偶者暴力相談支援センター	警察	公的機関の相談窓口、電話	保健所・保健センターの保健師	民間の専門家や専門機関(弁護士、カウンセラーなど)	医療関係者	その他	相談したかったが、しなかった	相談しようと思わなかった
全体	上段/実数 下段/MA%	754 100.0	134 17.8	159 21.1	1 0.1	5 0.7	- -	10 1.3	9 1.2	1 0.1	6 0.8	5 0.7	16 2.1	55 7.3	349 46.3
女性	20歳代	28 100.0	3 10.7	15 53.6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2 7.1	10 35.7
	30歳代	75 100.0	10 13.3	27 36.0	-	1 1.3	-	2 2.7	-	-	-	-	1 1.3	4 5.3	32 42.7
	40歳代	118 100.0	30 25.4	38 32.2	-	-	-	1 0.8	1 0.8	-	1 0.8	-	1 0.8	15 12.7	41 34.7
	50歳代	75 100.0	21 28.0	20 26.7	1 1.3	-	-	1 1.3	1 1.3	-	-	1 1.3	1 1.3	6 8.0	27 36.0
	60歳代	85 100.0	16 18.8	17 20.0	-	-	-	-	1 1.2	-	2 2.4	1 1.2	3 3.5	8 9.4	35 41.2
	70歳以上	95 100.0	22 23.2	11 11.6	-	-	-	3 3.2	2 2.1	1 1.1	1 1.1	2 2.1	4 4.2	10 10.5	37 38.9
	男性	20歳代	15 100.0	4 26.7	2 13.3	-	1 6.7	-	-	1 6.7	-	1 6.7	-	-	-
30歳代		32 100.0	4 12.5	4 12.5	-	-	-	-	1 3.1	-	-	-	1 3.1	-	20 62.5
40歳代		55 100.0	8 14.5	8 14.5	-	1 1.8	-	-	1 1.8	-	-	-	1 1.8	2 3.6	33 60.0
50歳代		51 100.0	4 7.8	3 5.9	-	2 3.9	-	-	1 2.0	-	-	-	1 2.0	4 7.8	35 68.6
60歳代		51 100.0	1 2.0	4 7.8	-	-	-	-	-	-	-	-	1 2.0	1 2.0	37 72.5
70歳以上		70 100.0	11 15.7	8 11.4	-	-	-	3 4.3	-	-	1 1.4	1 1.4	2 2.9	3 4.3	33 47.1

<前回調査（平成22年（2010年））との比較>（図表7-3-2）

前回調査の結果に比べ、女性では「友人・知人」が8.3ポイント、「相談したかったが、しなかった」が2.6ポイント、それぞれ上昇している。

男性では「友人・知人」が4.2ポイント、「家族や親族」が2.8ポイント、「相談しようと思わなかった」が2.5ポイント、それぞれ上昇している。

【図表7-3-2 前回調査との比較 DVの相談状況】

		n	家族や親族	友人・知人	配偶者暴力相談支援センター	警察	公的機関の相談窓口、電話相談など	保健所・保健センターの保健師	民間シェルターなど	民間の専門家や専門機関（弁護士、カウンセリング機関、弁	医療関係者	その他	相談したかったが、しなかった	相談しようと思わなかった
女性	今回調査	477	21.4	27.0	-	1.5	1.0	0.2	0.8	0.8	2.1	9.4	38.2	
	前回調査	380	21.1	18.7	0.3	1.3	0.3	0.3	0.8	1.1	1.6	6.8	39.7	
男性	今回調査	275	11.6	10.5	-	1.1	1.5	-	0.7	0.4	2.2	3.6	60.4	
	前回調査	240	8.8	6.3	-	-	0.4	-	-	-	0.4	5.0	57.9	

※前回調査と同じ項目のみを比較。

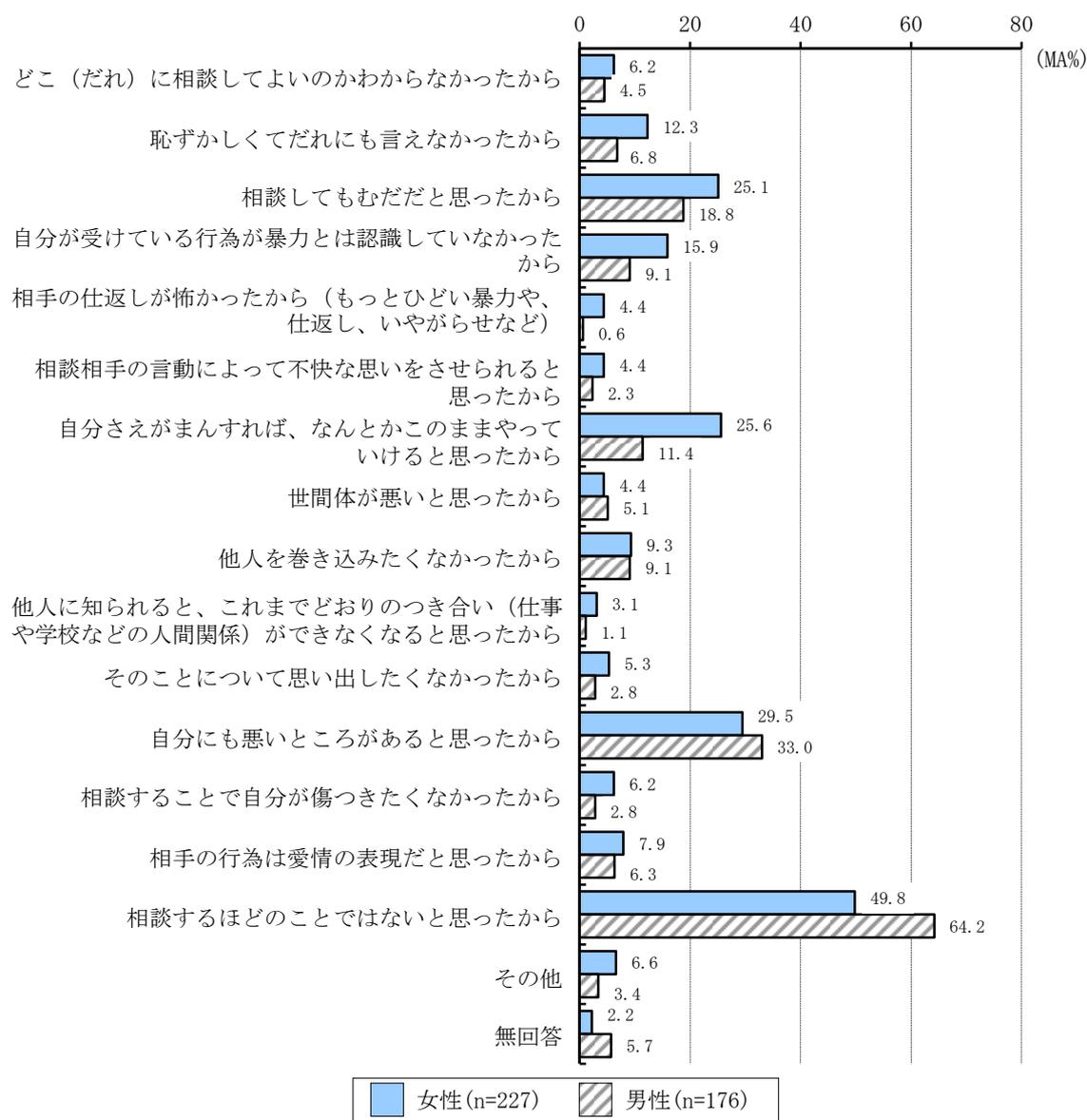
#### (4) 相談しなかった理由

【問23で、「12. 相談したかったが、しなかった」「13. 相談しようと思わなかった」と答えられた方におたずねします。】

問24 あなたが相談しなかった、しようと思わなかったのはなぜですか。

(○はいくつでも)

【図表7-4 相談しなかった理由】



#### <性別> (図表7-4)

暴力行為を受けても相談したかったがしなかった、しようと思わなかったと回答した人に、その理由をたずねたところ、男女とも「相談するほどのことではないと思ったから」(女性49.8%、男性64.2%)が最も多く、次いで「自分にも悪いところがあると思ったから」(女性29.5%、男性33.0%)となっている。女性は「自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」が25.6%と多く、男性(11.4%)に比べ14.2ポイント高くなっている。

<性・年代別> (図表7-4-1)

男女ともすべての年代において、「相談するほどのことではないと思ったから」が最も多く、女性の40歳代・50歳代を除いて50%以上を占めている。また、「自分にも悪いところがあると思ったから」も男女とも30歳以上の年代においてはいずれの年代も3割前後を占め、20歳代ではさらに高くなっている。

女性では、「相談してもむだだと思ったから」については40歳代で30.4%、50歳代で27.3%、他の世代でも20%前後となっている。また「自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」も60歳代では30.2%、他の年代でも20%以上であった。さらに「自分が受けている行為が暴力とは認識していなかったから」も60歳代で20.9%、30歳代で19.4%と、20歳代と50歳代以外は二桁を占めている。「恥ずかしくてだれにも言えなかったから」は40歳代が17.9%、60歳代で14.0%、50歳代で12.1%となっている。また、最も多くの暴力を経験している40歳代（図表7-2-1、120ページ）で「どこ（だれ）に相談してよいのかわからなかったから」が16.1%と他の世代に比べ高くなっている。

男性では、「相談してもむだだと思ったから」が70歳以上で27.8%、50歳代で23.1%、他の世代でも二桁となっている。また「自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」も70歳以上で16.7%、50歳代で15.4%、40歳代で14.3%となった。また、最も多くの暴力を経験している40歳代（図表7-2-1、120ページ）で「他人を巻き込みたくなかったから」が17.1%と他の年代に比べ高くなっている。

女性であっても男性であっても相談しやすい場づくりと、きめ細かな情報提供、相談するという行為を肯定的にとらえることができるような啓発をしていく必要があるといえる。

【図表7-4-1 性・年代別 相談しなかった理由】

	n	相談しなかった理由																
		かよどこ らいいの か(だれ) からに相 か た えな 恥ずか た 相 か 暴 自 仕 相 と 相 い な ら 世 か 他 で そ し 自 つ 相 だ 相 な そ の 他	ら	か	他	で	そ	し	自	つ	相	だ	相	な	相	そ		
全	404	22	40	91	52	11	14	78	19	37	9	17	125	19	29	226	22	
上段/実数	100.0	5.4	9.9	22.5	12.9	2.7	3.5	19.3	4.7	9.2	2.2	4.2	30.9	4.7	7.2	55.9	5.4	
下段/MA%																		
女性	20歳代	12	1	4	1	-	-	3	1	1	-	2	5	-	2	7	1	
		100.0	8.3	33.3	8.3	-	8.3	25.0	8.3	8.3	-	16.7	41.7	-	16.7	58.3	8.3	
	30歳代	36	-	3	8	2	1	9	-	2	2	-	10	-	5	19	3	
		100.0	-	8.3	22.2	19.4	5.6	2.8	25.0	-	5.6	5.6	27.8	-	13.9	52.8	8.3	
	40歳代	56	9	10	17	8	6	5	16	3	5	3	4	14	7	3	18	5
		100.0	16.1	17.9	30.4	14.3	10.7	8.9	28.6	5.4	8.9	5.4	7.1	25.0	12.5	5.4	32.1	8.9
	50歳代	33	2	4	9	3	-	1	7	1	3	1	2	10	2	2	13	-
	100.0	6.1	12.1	27.3	9.1	-	3.0	21.2	3.0	9.1	3.0	6.1	30.3	6.1	6.1	39.4	-	
60歳代	43	2	6	10	9	2	2	13	4	5	1	3	13	4	3	26	6	
	100.0	4.7	14.0	23.3	20.9	4.7	4.7	30.2	9.3	11.6	2.3	7.0	30.2	9.3	7.0	60.5	14.0	
70歳以上	47	-	4	9	8	-	-	10	1	5	-	1	15	1	3	30	-	
	100.0	-	8.5	19.1	17.0	-	-	21.3	2.1	10.6	-	2.1	31.9	2.1	6.4	63.8	-	
男性	20歳代	8	-	-	2	-	-	-	-	1	-	-	5	1	1	7	-	
		100.0	-	-	25.0	-	-	-	-	12.5	-	-	62.5	12.5	12.5	87.5	-	
	30歳代	20	-	1	2	3	-	-	1	1	-	1	7	-	1	13	-	
		100.0	-	5.0	10.0	15.0	-	-	5.0	5.0	-	5.0	35.0	-	5.0	65.0	-	
	40歳代	35	2	2	6	1	1	5	2	6	-	-	11	-	-	21	1	
		100.0	5.7	5.7	17.1	2.9	2.9	14.3	5.7	17.1	-	-	31.4	-	-	60.0	2.9	
	50歳代	39	2	5	9	2	-	-	6	3	3	-	1	8	-	4	23	2
	100.0	5.1	12.8	23.1	5.1	-	-	15.4	7.7	7.7	-	2.6	20.5	-	10.3	59.0	5.1	
60歳代	38	2	1	6	5	-	1	2	1	2	1	3	14	1	3	28	1	
	100.0	5.3	2.6	15.8	13.2	-	2.6	5.3	2.6	5.3	2.6	7.9	36.8	2.6	7.9	73.7	2.6	
70歳以上	36	2	3	10	3	-	2	6	2	3	1	-	13	3	2	21	2	
	100.0	5.6	8.3	27.8	8.3	-	5.6	16.7	5.6	8.3	2.8	-	36.1	8.3	5.6	58.3	5.6	

<前回調査（平成22年（2010年））との比較>（図表7-4-2）

前回調査の結果に比べ、男女とも「恥ずかしくてだれにも言えなかったから」「相談してもむだだと思ったから」「相談することで自分が傷つきたくなかったから」の割合は上昇し、「どこ（だれ）に相談してよいのかわからなかったから」「自分にも悪いところがあると思ったから」は低下している。

【図表7-4-2 前回調査との比較 相談しなかった理由】

		n	(MA%)									
			かよど らいの かわれ からな か た た	えど な か か つ た か て ら だ れ に も 言	た 相 か 談 し て も む だ だ と 思 つ	い な け ん と か こ の ま ん す れ ば 、	自 分 さ え が ま ん す れ ば 、	ら 世 間 体 が 悪 い と 思 つ た か	自 分 に も 悪 い と こ ろ が あ	つ 相 談 す る こ と で 自 分 が 傷	だ 相 手 の 行 為 は 愛 情 の 表 現	な 相 談 す る ほ ど の こ と で は
女性	今回調査	227	6.2	12.3	25.1	25.6	4.4	29.5	6.2	7.9	49.8	6.6
	前回調査	177	6.8	3.4	19.8	16.9	4.0	37.3	4.5	6.8	54.8	5.6
男性	今回調査	176	4.5	6.8	18.8	11.4	5.1	33.0	2.8	6.3	64.2	3.4
	前回調査	151	4.6	3.3	13.2	17.9	8.6	47.0	1.3	17.2	59.6	2.0

※前回調査と同じ項目のみを比較。

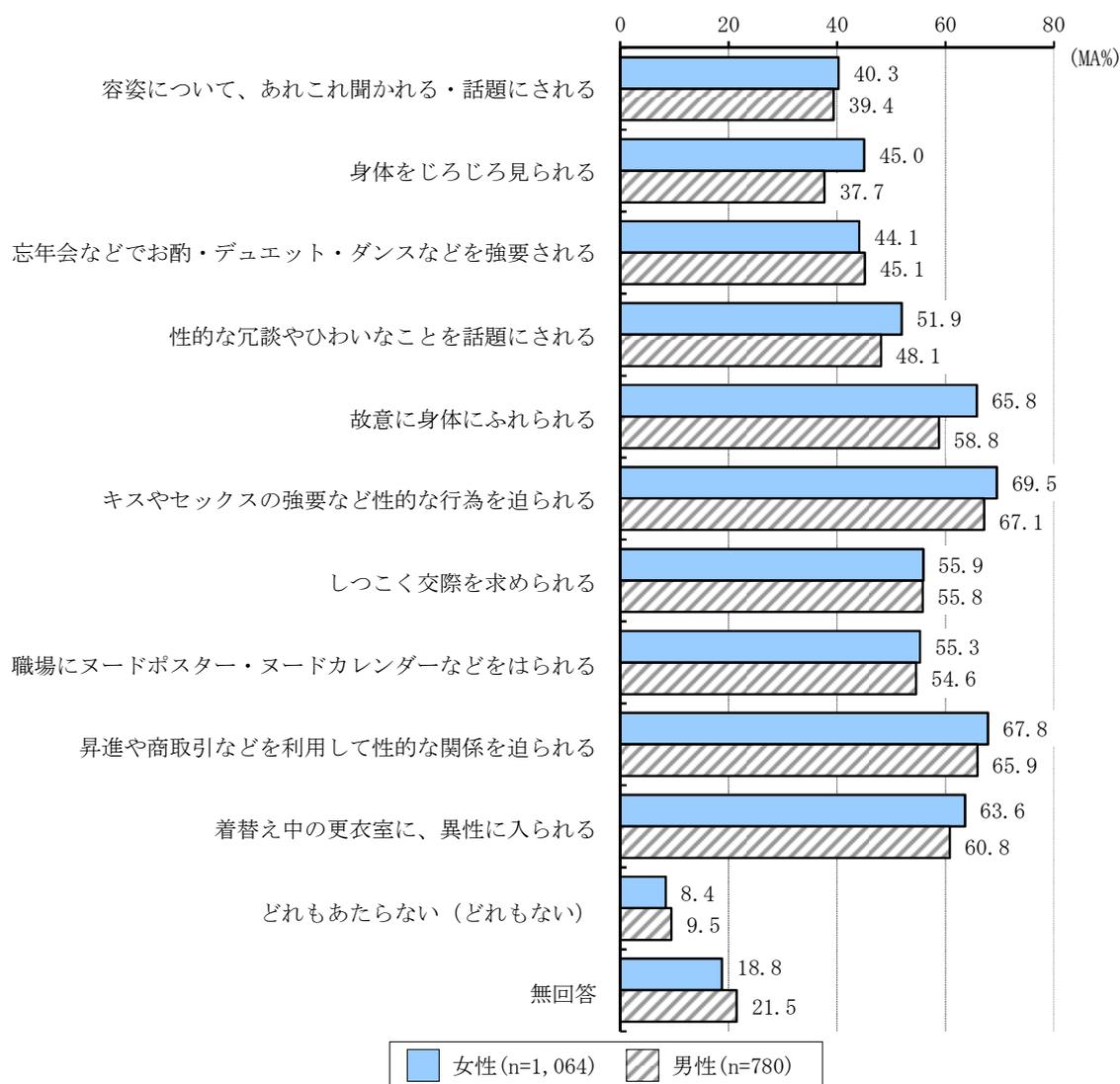
※前回調査の「自分さえがまんすればすむと思ったから」と「相手の行為は愛情表現だと思ったから」は、今回調査では、「自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」と「相手の行為は愛情の表現だと思ったから」にそれぞれ表記を変更している。

## (5) セクシュアル・ハラスメントについて

### ①セクシュアル・ハラスメントの認識

問25 あなたは、次のようなことはセクシュアル・ハラスメント（性的いやがらせ）にあたると思いますか。また、あなたは、自分の意思に反して職場、学校、地域等で次のようなことをされたことがありますか。（○はいくつでも）

【図表7-5① セクシュアル・ハラスメントの認識】



#### <性別> (図表7-5①)

セクシュアル・ハラスメントの認識については、男女とも「キスやセックスの強要など性的な行為を迫られる」（女性69.5%、男性67.1%）が最も多くなっている。さらに、「故意に身体にふれられる」や「しつこく交際を求められる」「職場にヌードポスター・ヌードカレンダーなどをはられる」「昇進や商取引などを利用して性的な関係を迫られる」「着替え中の更衣室に、異性に入られる」では男女とも5割以上と高く、「性的な冗談やひわいなことを話題にされる」は5割前後となっている。また、「身体をじろじろ見られる」は女性の方が7.3ポイント、「故意に身体にふれられる」では女性の方が7.0ポイント高くなっている。

<性・年代別> (図表7-5①-1)

「どれもあたらない (どれもない)」を除いて、いずれの項目においても、20～50歳代では、男性に比べ女性の割合の方が概ね高くなっている。60歳以上の年代では男性の割合の方がそれぞれ概ね高くなっている。セクシュアル・ハラスメントにあたる行為として、性・年代に関係なく最も多いものは、「キスやセックスの強要など性的な行為を迫られる」で、20～50歳代までの各年代では男女とも概ね8～9割を占めている。

女性では、「昇進や商取引などを利用して性的な関係を迫られる」と「故意に身体にふれられる」も50歳代までの年代で8割を超えるかそれに近い値となっている。他の項目についても、20歳代から50歳代までは大きな違いはないが、60歳代と70歳以上でセクシュアル・ハラスメントにあたる行為と答えた人が低くなる傾向がみられる。それと反比例するように、「どれもあたらない (どれもない)」は60歳代で10.2%、70歳代で20.7%と高くなっている。

男性では、20歳代と40歳代で「昇進や商取引などを利用して性的な関係を迫られる」が「キスやセックスの強要など性的な行為を迫られる」と同率で最も多く、それぞれ86.8%と81.4%であった。他の項目についても、20歳代から60歳代までは大きな差はみられないが、70歳以上でセクシュアル・ハラスメントにあたる行為と答えた人が低くなる傾向がみられる。それと反比例するように、「どれもあたらない (どれもない)」は70歳以上で19.8%と上昇している。

【図表7-5①-1 性・年代別 セクシュアル・ハラスメントの認識】

	n	れれ容る る開姿 かにつ れるい て、 話 題 に れ さ こ	る身 体 を じ ろ じ ろ 見 ら れ	どを強 要さ れ る ダ ン ス ・ な	忘年 会な どで お 酌 ス ・ な	性的 な 話 題 に さ ひ わ る い な	る故 意に 身 体 に ふ れ ら れ	キス や セ ッ ク ス の 強 要	れし つ こ く 交 際 を 求 め ら	ダ ー リ な ど を は ら れ る カ ボ ス	職 場 に ス ト ド ボ ス を 迫 ら れ る	昇 進 や 商 取 引 な ど を 利 用 し て 性 的 な 関 係 を 迫 ら れ る	異 性 に 入 ら れ る 更 衣 室 に 、	れも ない ( ど
女性	20歳代	76 100.0	35 46.1	42 55.3	38 50.0	52 68.4	62 81.6	69 90.8	49 64.5	60 78.9	68 89.5	61 80.3	2 2.6	
	30歳代	157 100.0	66 42.0	81 51.6	75 47.8	91 58.0	123 78.3	138 87.9	110 70.1	107 68.2	136 86.6	126 80.3	3 1.9	
	40歳代	206 100.0	109 52.9	120 58.3	116 56.3	136 66.0	180 87.4	183 88.8	150 72.8	145 70.4	179 86.9	172 83.5	6 2.9	
	50歳代	165 100.0	91 55.2	107 64.8	104 63.0	114 69.1	136 82.4	141 85.5	121 73.3	118 71.5	139 84.2	132 80.0	3 1.8	
	60歳代	186 100.0	69 37.1	73 39.2	81 43.5	87 46.8	110 59.1	113 60.8	94 50.5	90 48.4	110 59.1	107 57.5	19 10.2	
	70歳以上	271 100.0	57 21.0	54 19.9	53 19.6	70 25.8	87 32.1	93 34.3	69 25.5	66 24.4	87 32.1	77 28.4	56 20.7	
	男性	20歳代	53 100.0	23 43.4	27 50.9	27 50.9	26 49.1	36 67.9	46 86.8	34 64.2	36 67.9	46 86.8	41 77.4	- -
30歳代		96 100.0	39 40.6	42 43.8	44 45.8	56 58.3	72 75.0	85 88.5	65 67.7	76 79.2	84 87.5	68 70.8	1 1.0	
40歳代		129 100.0	68 52.7	59 45.7	70 54.3	79 61.2	90 69.8	105 81.4	85 65.9	88 68.2	105 81.4	100 77.5	8 6.2	
50歳代		123 100.0	67 54.5	60 48.8	72 58.5	73 59.3	90 73.2	98 79.7	86 69.9	80 65.0	94 76.4	94 76.4	9 7.3	
60歳代		162 100.0	67 41.4	66 40.7	81 50.0	84 51.9	102 63.0	112 69.1	98 60.5	87 53.7	110 67.9	104 64.2	13 8.0	
70歳以上		212 100.0	42 19.8	38 17.9	55 25.9	54 25.5	66 31.1	74 34.9	64 30.2	56 26.4	72 34.0	64 30.2	42 19.8	

<性別役割分担意識との関連> (図表7-5①-2)

問25で挙げられている各行為についてのセクシュアル・ハラスメントの認識と、問7の性別役割分担意識との関係を調べてみた。各行為において若干の異なりはあるものの、「男性は仕事、女性は家事・育児」という性別役割分担に反対する人ほどそれぞれの行為がセクシュアル・ハラスメントにあたる認識している割合が高い傾向が見られる。固定的な性別役割分担意識に反対する人ほど、セクシュアル・ハラスメントの暴力性に敏感である様子が見られる。

【図表7-5①-2 性別役割分担意識とセクシュアル・ハラスメントの認識との関連】

	n	にこれ容 され姿 聞かにつ れるいて ・話あ 題れ	る身 体を じろ ろ見 ら	なデ をユ 強エ 要ツ さト れさ れら る	忘年 会な など でお 酌ス ・	こ性 とを な冗 談や にひ わい な	る故 意に 身 体 に ふ れ ら	れな ど性 的 な セ ツ ク ス の 強 い	らし つ こ く 交 際 を 求 め ら れ る	タ ー ゲ ッ ト を ハ ラ ス メ ン ト と し て 認 識 す る	職 場 に ハ ラ ス メ ン ト を 受 け て い る	を利 用し て 性 的 な 関 係 を 築 く	昇進 や 商 取 引 な ど を 進 め る	に、 替 え 中 の 更 衣 室 に 入 る	(ど れ も あ た ら な い )	無 回 答
全体	1851	736	773	821	927	1159	1263	1030	1015	1236	1151	164	373			
上段/実数	1851	736	773	821	927	1159	1263	1030	1015	1236	1151	164	373			
下段/%	100.0	39.8	41.8	44.4	50.1	62.6	68.2	55.6	54.8	66.8	62.2	8.9	20.2			
賛成	233	48	50	56	64	89	94	75	76	87	85	35	95			
100.0	20.6	21.5	24.0	27.5	38.2	40.3	32.2	32.6	37.3	36.5	15.0	40.8				
どちらかといえば 賛成	756	287	309	321	359	468	520	404	403	506	469	73	143			
100.0	38.0	40.9	42.5	47.5	61.9	68.8	53.4	53.3	66.9	62.0	9.7	18.9				
どちらかといえば 反対	439	209	229	238	277	328	353	299	294	351	327	21	55			
100.0	47.6	52.2	54.2	63.1	74.7	80.4	68.1	67.0	80.0	74.5	4.8	12.5				
反対	190	108	101	114	121	138	148	132	124	146	139	13	19			
100.0	56.8	53.2	60.0	63.7	72.6	77.9	69.5	65.3	76.8	73.2	6.8	10.0				
わからない	192	74	74	79	90	118	130	104	102	128	114	17	43			
100.0	38.5	38.5	41.1	46.9	61.5	67.7	54.2	54.2	53.1	66.7	59.4	8.9	22.4			

<「男もつらい」と感じている男性の意識との関連> (図表7-5①-3)

男性について、問25で挙げられている各行為についてのセクシュアル・ハラスメントの認識と、次の問26「あなたは「男もつらい」と感じることはありますか」に対する回答との関係を調べてみた。「男もつらい」と感じる人が「ある」と回答した人のほうが、「ない」と回答した人に比べ、それぞれの行為をセクシュアル・ハラスメントだと認識している傾向が見られる。

【図表7-5①-3 「男もつらい」と感じている男性の意識とセクシュアル・ハラスメントの認識との関連】

	n	れこれ容 聞かにつ れるいて ・話あ 題れ	る身 体を じろ ろ見 ら	なデ をユ 強エ 要ツ さト れさ れら る	忘年 会な など でお 酌ス ・	こ性 とを な冗 談や にひ わい な	る故 意に 身 体 に ふ れ ら	れな ど性 的 な セ ツ ク ス の 強 い	らし つ こ く 交 際 を 求 め ら れ る	タ ー ゲ ッ ト を ハ ラ ス メ ン ト と し て 認 識 す る	職 場 に ハ ラ ス メ ン ト を 受 け て い る	を利 用し て 性 的 な 関 係 を 築 く	昇進 や 商 取 引 な ど を 進 め る	に、 替 え 中 の 更 衣 室 に 入 る	れも な い (ど れ も あ た ら な い )	無 回 答
全体	780	307	294	352	375	459	523	435	426	514	474	74	168			
上段/実数	780	307	294	352	375	459	523	435	426	514	474	74	168			
下段/%	100.0	39.4	37.7	45.1	48.1	58.8	67.1	55.8	54.6	65.9	60.8	9.5	21.5			
ある	469	218	203	236	248	308	356	296	294	350	321	32	70			
100.0	46.5	43.3	50.3	52.9	65.7	75.9	63.1	62.7	74.6	68.4	6.8	14.9				
ない	250	79	83	104	115	136	150	125	117	149	137	40	56			
100.0	31.6	33.2	41.6	46.0	54.4	60.0	50.0	46.8	59.6	54.8	16.0	22.4				

<前回調査（平成22年（2010年））との比較>（図表7-5①-4）

前回調査の結果に比べ、男女とも「容姿について、あれこれ聞かれる・話題にされる」「性的な冗談やひわいなことを話題にされる」「職場にヌードポスター・ヌードカレンダーなどをはられる」が上昇し、「身体をじろじろ見られる」は低下している。

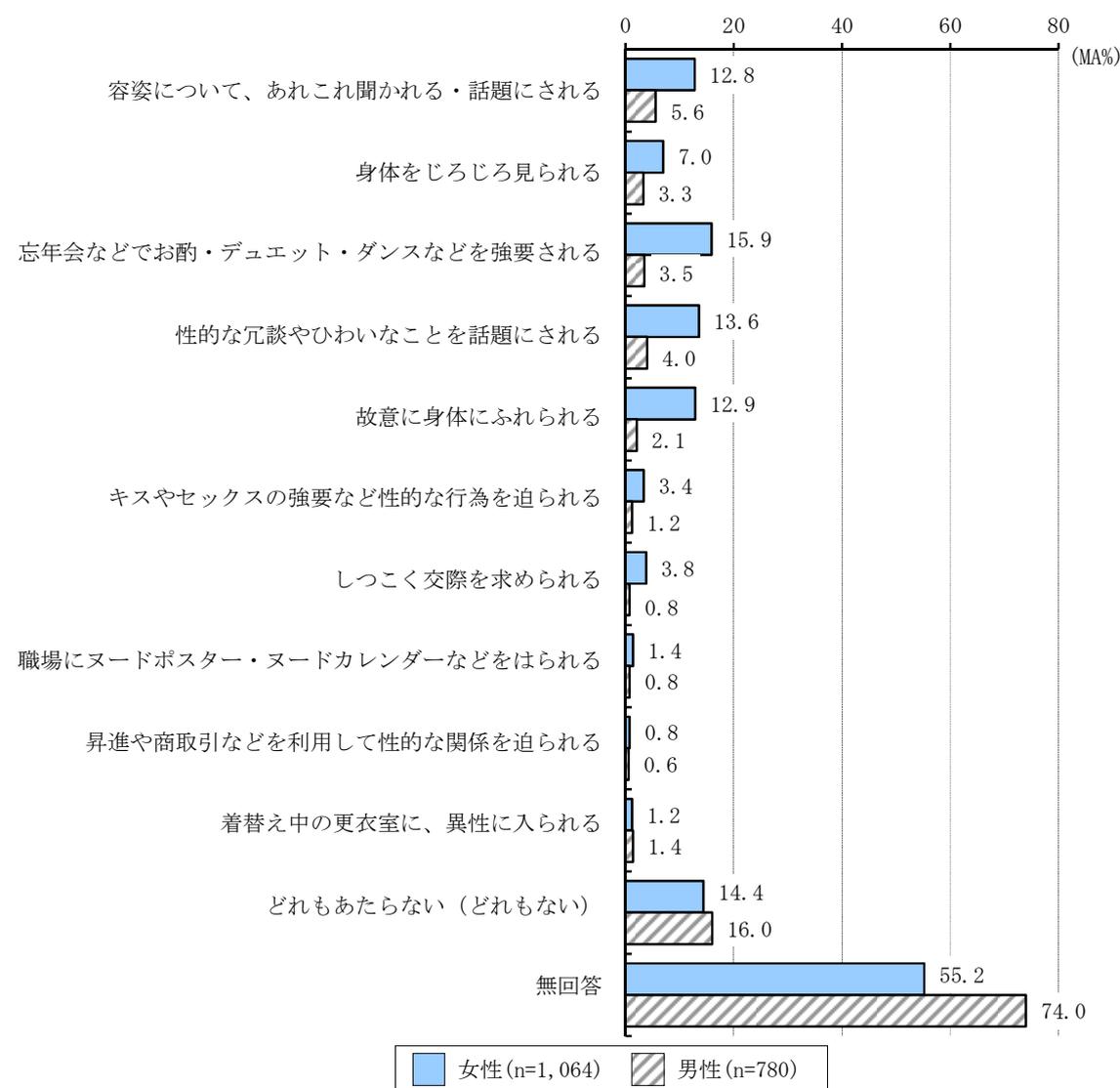
【図表7-5①-4 前回調査との比較 セクシュアル・ハラスメントの認識】

		n	れれ容 聞姿に かにつ れるい ・て、 話あれ にさこ	る身 体を じろ じろ 見 られ	どデ を強 要さ れる ・ダ ン ス な	忘年 会な どで お酌 ・な	性的 な話 題に やひ わい な	る故 意に 身 体 に ふ れ られ	れな ど性 的 な セ ッ ク ス の 強 要	れし つこ く交 際 を 求 め ら	ダ タ ー な ど を は ら れ る	職 場 に ヌ ード ポ ス ター な ど を は ら れ る	昇進 や商 取引 など を利 用し て性 的 な 関 係 を 迫 り	異性 に中 の更 衣 室 に、	れど れも あた らな い（ ど
女性	今回調査	1064	40.3	45.0	44.1	51.9	65.8	69.5	55.9	55.3	67.8	63.6	8.4		
	前回調査	690	38.6	46.4	40.4	47.8	62.8	67.7	53.2	49.9	64.9	60.3	12.0		
男性	今回調査	780	39.4	37.7	45.1	48.1	58.8	67.1	55.8	54.6	65.9	60.8	9.5		
	前回調査	581	37.5	39.2	45.8	48.0	61.6	69.5	56.8	49.2	66.6	61.6	9.6		

## ②セクシュアル・ハラスメントの経験／職場

### 職場でされたことがある

【図表7-5② セクシュアル・ハラスメントの経験／職場】



### <性別> (図表7-5②)

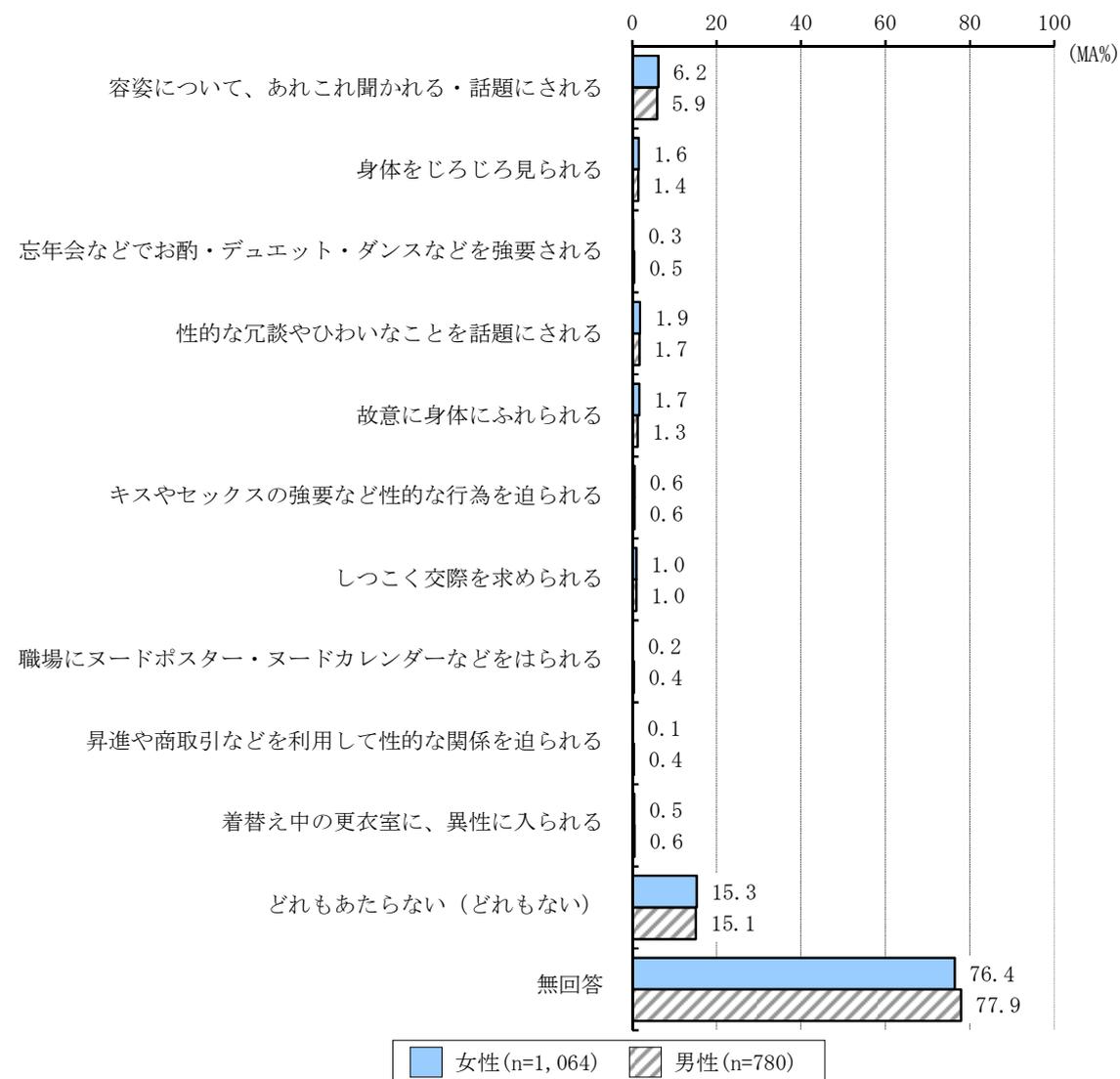
職場でセクシュアル・ハラスメントを受けた経験については、女性では「忘年会などでお酌・デュエット・ダンスなどを強要される」が15.9%で最も多く、次いで「性的な冗談やひわいなことを話題にされる」が13.6%、「故意に身体にふれられる」が12.9%、「容姿について、あれこれ聞かれる・話題にされる」が12.8%と続いており、いずれの行為も、男性に比べ女性の割合の方が高くなっている。「どれもあたらない (どれもない)」は14.4%である。

男性では「どれもあたらない (どれもない)」が16.0%で最も多く、具体的な被害経験としては「容姿について、あれこれ聞かれる・話題にされる」が5.6%、「性的な冗談やひわいなことを話題にされる」が4.0%、「忘年会などでお酌・デュエット・ダンスなどを強要される」が3.5%と続いている。

### ③学校でセクシュアル・ハラスメントの経験

#### 学校でされたことがある

【図表7-5③ セクシュアル・ハラスメントの経験／学校】



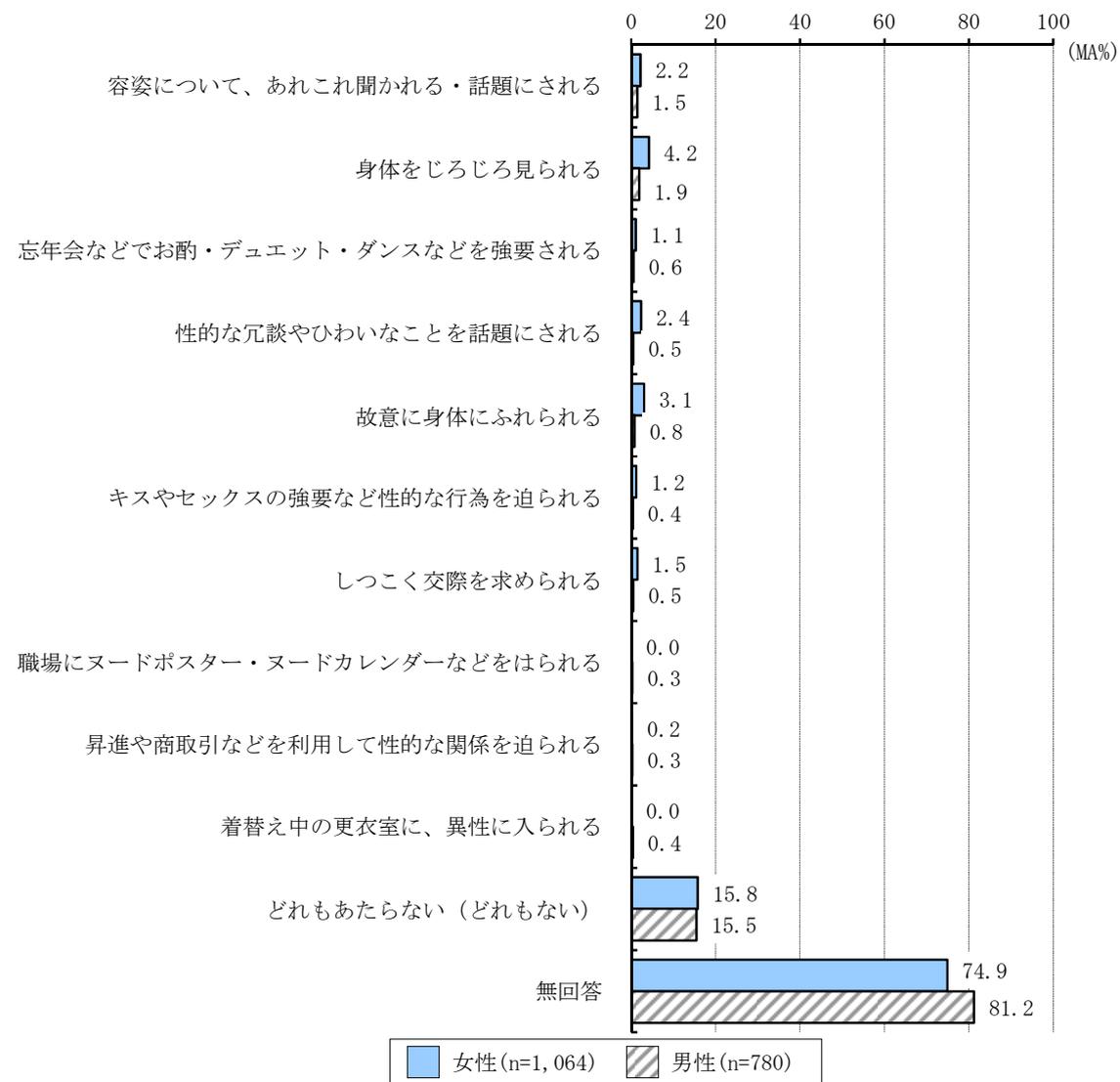
#### <性別> (図表7-5③)

学校でのセクシュアル・ハラスメントの経験については、男女とも「どれもあたらない (どれもない)」が15%台で最も多くなっている。セクシュアル・ハラスメントを受けた経験のある人では、「容姿について、あれこれ聞かれる・話題にされる」が女性6.2%、男性5.9%で最も多くなっている。

#### ④セクシュアル・ハラスメントの経験／地域等

##### 地域等でされたことがある

【図表7-5④ セクシュアル・ハラスメントの経験／地域等】



#### <性別> (図表7-5④)

地域等でのセクシュアル・ハラスメントの経験については、男女とも「どれもあたらない (どれもない)」が15%台で最も多くなっている。セクシュアル・ハラスメントを受けた経験のある人では、「身体をじろじろ見られる」が女性4.2%、男性1.9%で最も多くなっている。

<前回調査（平成22年（2010年））との比較>（図表7-5②③④-1）

前回調査の結果に比べ、職場・学校・地域等のいずれにおいても、「どれもあたらない（どれもない）」の割合が男女とも低下しているが、被害内容の各割合は依然女性の方が高く、前回から大きな変化はみられない。

【図表7-5②③④-1 前回調査との比較 セクシュアル・ハラスメントの経験】

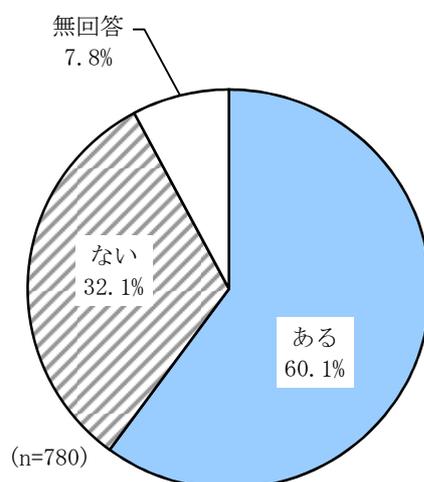
		女性						男性			
		n	あ 職 場 で さ れ た こ と が	あ 学 校 で さ れ た こ と が	あ 地 域 等 で さ れ た こ と が	n	あ 職 場 で さ れ た こ と が	あ 学 校 で さ れ た こ と が	あ 地 域 等 で さ れ た こ と が		
容姿について、あれこれ聞かれる・話題にされる	今回調査	1064	12.8	6.2	2.2	780	5.6	5.9	1.5		
	前回調査	690	12.0	5.2	2.3	581	6.7	4.3	2.1		
身体をじろじろ見られる	今回調査	1064	7.0	1.6	4.2	780	3.3	1.4	1.9		
	前回調査	690	9.4	2.9	2.8	581	2.6	1.2	1.7		
忘年会などでお酌・デュエット・ダンスなどを強要される	今回調査	1064	15.9	0.3	1.1	780	3.5	0.5	0.6		
	前回調査	690	17.2	0.6	2.0	581	4.8	-	0.9		
性的な冗談やひわいなことを話題にされる	今回調査	1064	13.6	1.9	2.4	780	4.0	1.7	0.5		
	前回調査	690	15.9	1.9	2.2	581	5.2	1.4	1.4		
故意に身体にふれられる	今回調査	1064	12.9	1.7	3.1	780	2.1	1.3	0.8		
	前回調査	690	14.3	1.6	3.3	581	2.4	0.5	0.7		
キスやセックスの強要など性的な行為を迫られる	今回調査	1064	3.4	0.6	1.2	780	1.2	0.6	0.4		
	前回調査	690	4.2	0.6	0.7	581	0.9	-	1.0		
しつこく交際を求められる	今回調査	1064	3.8	1.0	1.5	780	0.8	1.0	0.5		
	前回調査	690	5.4	1.0	1.2	581	1.5	0.2	0.5		
職場にヌードポスター・ヌードカレンダーなどをはられる	今回調査	1064	1.4	0.2	-	780	0.8	0.4	0.3		
	前回調査	690	2.0	-	0.6	581	1.0	0.3	0.7		
昇進や商取引などを利用して性的な関係を迫られる	今回調査	1064	0.8	0.1	0.2	780	0.6	0.4	0.3		
	前回調査	690	1.6	0.4	0.1	581	0.9	-	0.5		
着替え中の更衣室に、異性に入られる	今回調査	1064	1.2	0.5	-	780	1.4	0.6	0.4		
	前回調査	690	2.0	0.6	0.7	581	0.9	0.2	0.3		
どれもあたらない（どれもない）	今回調査	1064	14.4	15.3	15.8	780	16.0	15.1	15.5		
	前回調査	690	19.0	19.6	20.0	581	17.9	17.0	17.4		

## (6) 男性で「男もつらい」と感じることの有無（男性のみの回答）

【男性の方のみにおたずねします。】

問26 あなたは、「男もつらい」と感じることはありますか。（○は1つ）

【図表7-6 男性で「男もつらい」と感じることの有無（男性のみ）】



### <男性のみ>（図表7-6）

男性に、「男もつらい」と感じることがあるかたずねたところ、「ある」が60.1%、「ない」は32.1%となっている。

### <年代別（男性のみ）>（図表7-6-1）

「ある」が、20歳代で83.0%と最も高く、30歳代は75.0%、40歳代は76.0%、50歳代は69.1%、60歳代は53.1%と、それぞれ50%以上を占めているが、70歳以上では38.2%に低下しており、「ない」が46.7%と多くなっている。

### <配偶者・パートナーの有無別（男性のみ）>（図表7-6-1）

配偶者・パートナーのいる・いないに関わらず、「ある」が50%以上を占めているが、配偶者・パートナーがいる人は56.8%に対し、いない人は66.4%で、いない人の方が9.6ポイント高くなっている。

### <家族構成別（男性のみ）>（図表7-6-1）

いずれの世帯も「ある」の方が多くなっており、単身世帯が66.2%で最も高く、次いで二世帯世帯が64.9%、その他世帯が61.5%、三世帯世帯が50.0%、夫婦のみ世帯は49.3%となっている。

【図表7-6-1 年代別／配偶者・パートナーの有無別／家族構成別

男性で「男もつらい」と感じることの有無（男性のみ）】

		n	ある	ない	無回答
全体	上段/実数	780	469	250	61
	下段/%	100.0	60.1	32.1	7.8
年代別	20歳代	53	44	7	2
		100.0	83.0	13.2	3.8
	30歳代	96	72	22	2
		100.0	75.0	22.9	2.1
	40歳代	129	98	21	10
		100.0	76.0	16.3	7.8
	50歳代	123	85	35	3
	100.0	69.1	28.5	2.4	
60歳代	162	86	64	12	
	100.0	53.1	39.5	7.4	
70歳以上	212	81	99	32	
	100.0	38.2	46.7	15.1	
配偶者・ パートナー の有無別	いる	505	287	180	38
		100.0	56.8	35.6	7.5
	いない	271	180	69	22
		100.0	66.4	25.5	8.1
家族 構成 別	単身世帯	157	104	44	9
		100.0	66.2	28.0	5.7
	夫婦のみ世帯	207	102	93	12
		100.0	49.3	44.9	5.8
	二世帯世帯	342	222	92	28
		100.0	64.9	26.9	8.2
三世帯世帯	26	13	7	6	
	100.0	50.0	26.9	23.1	
その他世帯	26	16	7	3	
	100.0	61.5	26.9	11.5	

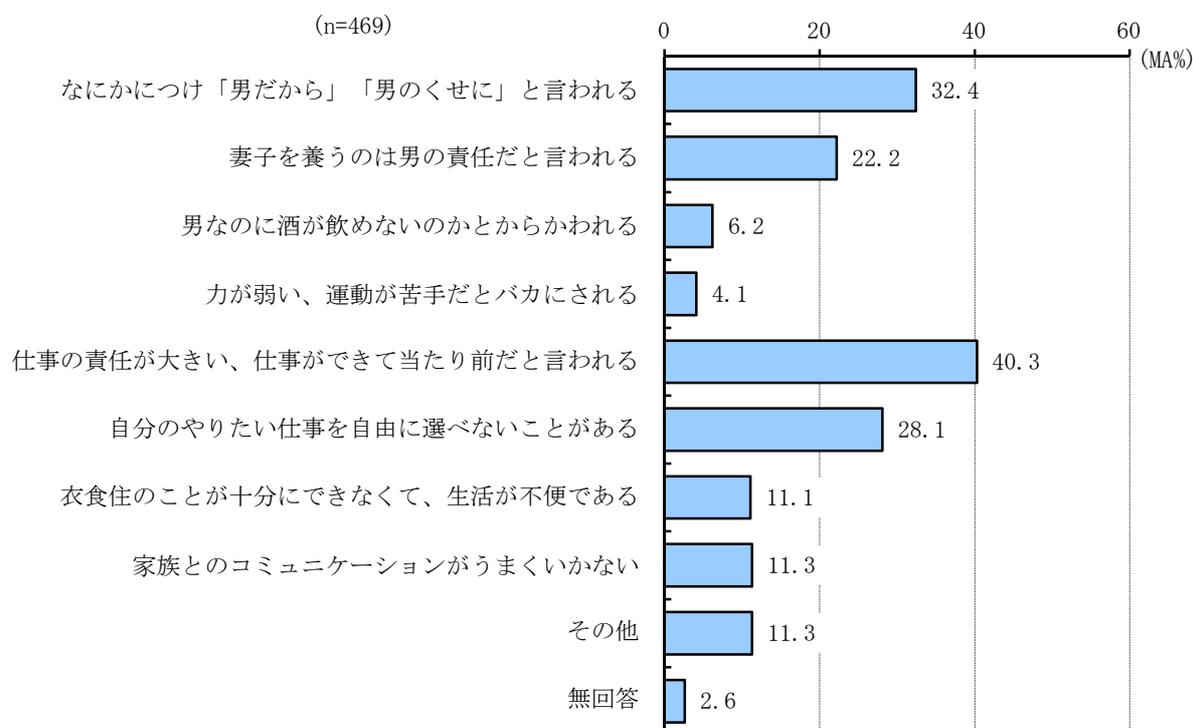
男性の6割が「男もつらい」と回答し、その割合は年代が下がるほど高くなっている。特に20歳代の8割以上が「男もつらい」と回答しており、一般的に若い人ほど職場での地位や賃金があまり高くないことから、仕事や家庭でプレッシャーを感じやすい状況にあるのではないかと考えられる。一方で、この設問は男「も」つらいとあるように、女性のつらさを前提としている。そのように考えると、世代が若くなるほど女性が抱えた課題に共感する見方や性別役割分担に対して否定的な見方をしていることの表れではないかと考えることもできる。

## (7) 男もつらいと感じること（男性のみの回答）

【問26で「1. ある」と答えられた方におたずねします。】

問26-1 それはどのようなことですか。（〇はいくつでも）

【図表7-7 男もつらいと感じること（男性のみ）】



### <男性のみ>（図表7-7）

男性で、男もつらいと感じることがあると回答した人に、その内容をたずねたところ、「仕事（仕事）の責任が大きい、仕事（仕事）ができて当たり前だと言われる」が40.3%で最も多く、次いで「なにかにつけ「男だから」「男のくせに」と言われる」が32.4%、「自分のやりたい仕事を自由に選べないことがある」が28.1%、「妻子を養うのは男の責任だと言われる」が22.2%と続いている。一方で、「男なのに酒が飲めないのかとからかわれる」「力が弱い、運動が苦手だとバカにされる」はそれぞれ1割以下となっている。

### <年代別（男性のみ）>（図表7-7-1）

20歳代と70歳以上は、「なにかにつけ「男だから」「男のくせに」と言われる」が最も多く、特に20歳代は63.6%と高くなっている。また、20歳代では「男なのに酒が飲めないのかとからかわれる」が15.9%で他の年代に比べ高くなっている。30～60歳代は「仕事（仕事）の責任が大きい、仕事（仕事）ができて当たり前だと言われる」が最も多く、なかでも40歳代は60.2%と高くなっている。また、30歳代では「自分のやりたい仕事を自由に選べないことがある」も同率で最も多くなっている。

#### <配偶者・パートナーの有無別（男性のみ）>（図表7-7-1）

配偶者・パートナーがいる人では、「仕事の責任が大きい、仕事ができる当たり前だと言われる」が42.9%で最も多く、いない人に比べ6.8ポイント高くなっている。また、「妻子を養うのは男の責任だと言われる」は26.1%で、いない人に比べ10.0ポイント高くなっている。

配偶者・パートナーのいない人では、「なにかにつけ「男だから」「男のくせに」と言われる」が40.6%で最も多く、いる人に比べ13.4ポイント高くなっている。また、「衣食住のことが十分にできなくて、生活が不便である」は15.0%で、いる人に比べ6.6ポイント高くなっている。

#### <家族構成別（男性のみ）>（図表7-7-1）

その他世帯以外では、「仕事の責任が大きい、仕事ができる当たり前だと言われる」が4割前後で最も多くなっている。次いで、単身世帯、二世帯世帯、三世帯世帯では「なにかにつけ「男だから」「男のくせに」と言われる」（三世帯世帯は1位と同率）、夫婦のみ世帯では「自分のやりたい仕事を自由に選べないことがある」が、それぞれ3割台で多くなっている。また、「妻子を養うのは男の責任だと言われる」の割合は夫婦のみ世帯と二世帯世帯で、「衣食住のことが十分にできなくて、生活が不便である」の割合は単身世帯で、それぞれ高くなっている。

まず、「仕事の責任が大きい、仕事ができる当たり前だと言われる」ことをつらさとしてあげている回答の傾向からは、男性が「男は仕事」という性別役割を感じ取っていること、また、それが男性にとって負担になっていることがうかがえる。

次に、「男なのに酒が飲めないのかとからかわれる」「力が弱い、運動が苦手だとバカにされる」ことは、その他の項目と比較して回答が少なかった。飲酒や運動が苦手でない男性はこうした経験をしにくいだろうが、一方で、男性は「男は強くあるべき」といった期待を受け続けることで、そもそも「からかわれる」ことや「バカにされること」をつらいものと認識しづらくなっている側面があるのかもしれない。

【図表7-7-1 年代別／配偶者・パートナーの有無別／家族構成別

男もつらいと感じること（男性のみ）】

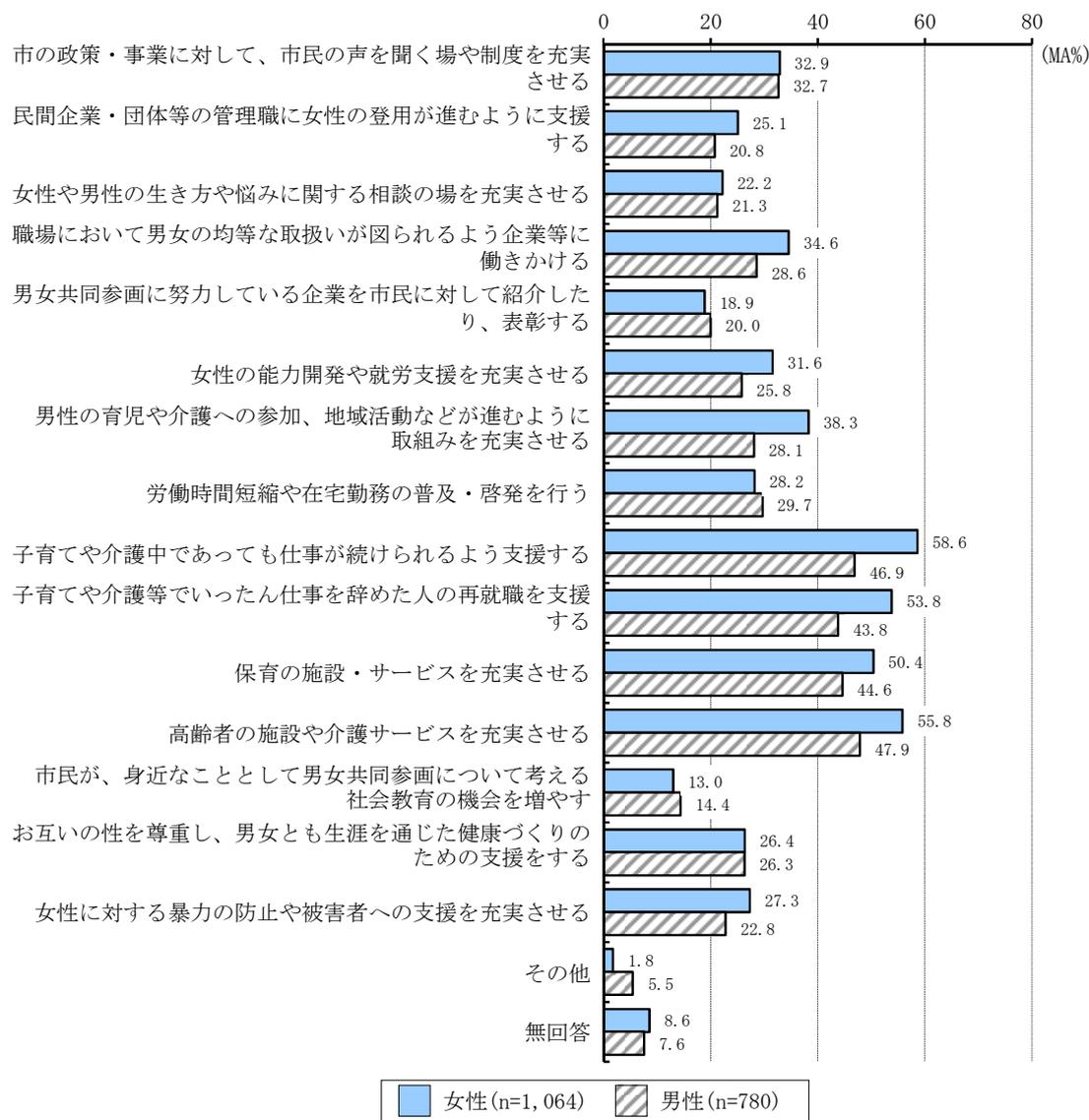
		n	言わ れる	な か に つ く け せ 「 男 だ か 」 と か	任 妻 だ 子 と 養 わ れ る は 男 の 責	の 男 か な と の 酒 か わ れ る 飲 め ない	だ 力 が 弱 い 、 運 動 が 苦 手	だ 仕 事 の 責 任 が 大 き い 、 前	あ 自 由 に 選 べ ない こ と 事 が	自 分 の や り たい し が	便 で 食 住 の こ と が 十 分 に	い シ ヨ ン が う ま く い か な	家 族 の コ ミ ュ ニ ケ ー	そ の 他
全体	上段/実数	469	152	104	29	19	189	132	52	53	53			
	下段/MA%	100.0	32.4	22.2	6.2	4.1	40.3	28.1	11.1	11.3	11.3			
年代別	20歳代	44	28	8	7	4	14	9	3	2	4			
		100.0	63.6	18.2	15.9	9.1	31.8	20.5	6.8	4.5	9.1			
	30歳代	72	21	12	4	4	26	26	8	4	9			
		100.0	29.2	16.7	5.6	5.6	36.1	36.1	11.1	5.6	12.5			
	40歳代	98	28	23	5	6	59	29	14	13	9			
		100.0	28.6	23.5	5.1	6.1	60.2	29.6	14.3	13.3	9.2			
	50歳代	85	24	16	4	2	33	28	10	12	8			
	100.0	28.2	18.8	4.7	2.4	38.8	32.9	11.8	14.1	9.4				
60歳代	86	21	22	3	1	39	22	6	10	10				
	100.0	24.4	25.6	3.5	1.2	45.3	25.6	7.0	11.6	11.6				
70歳以上	81	28	23	6	2	17	17	10	11	13				
	100.0	34.6	28.4	7.4	2.5	21.0	21.0	12.3	13.6	16.0				
配偶者・ パートナー の有無別	いる	287	78	75	13	6	123	86	24	33	34			
		100.0	27.2	26.1	4.5	2.1	42.9	30.0	8.4	11.5	11.8			
	いない	180	73	29	16	13	65	45	27	19	19			
		100.0	40.6	16.1	8.9	7.2	36.1	25.0	15.0	10.6	10.6			
家族 構成 別	単身世帯	104	37	17	8	8	43	30	17	11	11			
		100.0	35.6	16.3	7.7	7.7	41.3	28.8	16.3	10.6	10.6			
	夫婦のみ世帯	102	24	27	4	2	39	32	8	11	13			
		100.0	23.5	26.5	3.9	2.0	38.2	31.4	7.8	10.8	12.7			
	二世帯世帯	222	72	56	9	9	95	61	23	25	22			
		100.0	32.4	25.2	4.1	4.1	42.8	27.5	10.4	11.3	9.9			
三世帯世帯	13	5	2	4	-	5	3	-	1	1				
	100.0	38.5	15.4	30.8	-	38.5	23.1	-	7.7	7.7				
その他世帯	16	8	2	3	-	5	4	1	2	4				
	100.0	50.0	12.5	18.8	-	31.3	25.0	6.3	12.5	25.0				

## 8. 男女共同参画社会の実現について

### (1) 市が力を入れていくべきこと

問27 あなたは、男女共同参画社会を推進していくために、市は今後どのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。(〇はいくつでも)

【図表8-1 市が力を入れていくべきこと】



#### <性別> (図表8-1)

市が力を入れていくべきことについて、女性では「子育てや介護中であっても仕事が続けられるよう支援する」が58.6%で最も多く、次いで「高齢者の施設や介護サービスを充実させる」が55.8%、「子育てや介護等でいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する」が53.8%、「保育の施設・サービスを充実させる」が50.4%と続いている。

女性は、家事・育児・介護といった性別役割分担における女性役割とそれらと仕事との両立についての項目が上位に挙がっているといえる。男性においても、女性が上

位4つに挙げた項目が、若干順位は異なるものの上位を占めている。

ほとんどの項目において女性の回答の方が上回っており、特に先にも挙げた「子育てや介護中であっても仕事が続けられるように支援する」が女性で58.6%に対して、男性では46.9%と女性の方が11.7ポイント、次いで「男性の育児や介護への参加、地域活動などが進むように取組みを充実させる」が女性38.3%に対して男性28.1%と女性の方が10.2ポイント上回っている。ただし、「男女共同参画に努力している企業を市民に対して紹介したり、表彰する」「労働時間短縮や在宅勤務の普及・啓発を行う」「市民が、身近なこととして男女共同参画について考える社会教育の機会を増やす」の3つにおいては、男女でほとんど違いはみられない。

#### <性・年代別> (図表8-1-1)

女性は20歳代・30歳代で「保育の施設・サービスを充実させる」が最も多く、それぞれ71.1%、68.2%となっている。育児と介護が同時に課題となる可能性のある40歳代では「子育てや介護中であっても仕事が続けられるよう支援する」が69.4%で最も多い。50歳代・60歳代・70歳以上では「高齢者の施設や介護サービスを充実させる」がそれぞれ64.8%、66.7%、56.8%で最も多くなっている。それぞれの年代における課題についての回答が、上位を占めたことになろう。また、いずれの年代においても、これら3つと「子育てや介護等でいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する」と答えた人は、半数近くもしくはそれ以上を占めている。これら以外には、30歳代で「男性の育児や介護への参加、地域活動などが進むように取組みを充実させる」が51.0%と、半数以上となっている。

男性では、20歳代で「子育てや介護等でいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する」が56.6%と最も多く、30歳代で「保育の施設・サービスを充実させる」が47.9%と最も多い。40歳代では女性と同様「子育てや介護中であっても仕事が続けられるよう支援する」が最も多く53.5%となっている。50歳以上でも女性同様、「高齢者の施設や介護サービスを充実させる」が最も多く、50歳代で48.0%、60歳代で56.2%、70歳以上で56.6%となっている。また「男性の育児や介護への参加、地域活動などが進むように取組みを充実させる」は20～50歳代で3割台となっているが、いずれの年代も女性の割合に比べ低くなっている。

「職場において男女の均等な取扱いが図られるよう企業に働きかける」は、20～50歳代の各年代で男女の割合の差が大きく、20歳代では7.4ポイント、30歳代では13.2ポイント、40歳代では13.0ポイント、50歳代では8.7ポイントと、いずれも男性よりも女性の割合の方が高くなっている。「女性の能力開発や就労支援を充実させる」も、20～50歳代では、女性の各年代は3割台となっているのに対し、男性は2割程度と低くなっている。「労働時間短縮や在宅勤務の普及・啓発を行う」は、女性の20歳代・30歳代では4割台、男性の20～60歳代では3割台で、20歳代・30歳代では男性に比べ女性の割合の方が高くなっている。

【図表8-1-1 性・年代別 市が力を入れていくべきこと①】

		n	充市市 実民の さ政策 せるを 聞く・ 場業に や対し て、 を	支に民 援女間 す性企 るの業 登・団 用が体 が進等 むの管 よ理 うに職	せに女 る関性 すや男 る相性 談の生 場き方 を充や 実実悩 ささみ	等取職 に扱場 働いお きか図 けるら るれ男 る女 よう均 等企等 な	する男 たり女 、共同 表参 彰市面 すにに 対努 して力 してし てて介	を女性 充の能 実力開 させ発 せるや 就労支 援	う加、男 に性 取地育 組域見 み活や を動介 を充護 実さな せるむ るよ	普勞 及働 ・時 啓間 発短 を行縮 うや 在宅 勤務 の
全体	上段/実数 下段/MA%	1851 100.0	606 32.7	429 23.2	403 21.8	591 31.9	357 19.3	537 29.0	627 33.9	532 28.7
女性	20歳代	76 100.0	20 26.3	21 27.6	21 27.6	30 39.5	10 13.2	26 34.2	28 36.8	32 42.1
	30歳代	157 100.0	47 29.9	36 22.9	25 15.9	60 38.2	33 21.0	49 31.2	80 51.0	64 40.8
	40歳代	206 100.0	59 28.6	51 24.8	45 21.8	65 31.6	40 19.4	71 34.5	92 44.7	75 36.4
	50歳代	165 100.0	56 33.9	48 29.1	37 22.4	64 38.8	34 20.6	58 35.2	64 38.8	40 24.2
	60歳代	186 100.0	67 36.0	50 26.9	48 25.8	67 36.0	34 18.3	52 28.0	71 38.2	43 23.1
	70歳以上	271 100.0	100 36.9	61 22.5	60 22.1	82 30.3	50 18.5	80 29.5	72 26.6	46 17.0
	男性	20歳代	53 100.0	17 32.1	13 24.5	13 24.5	17 32.1	19 35.8	12 22.6	18 34.0
	30歳代	96 100.0	26 27.1	17 17.7	20 20.8	24 25.0	10 10.4	16 16.7	33 34.4	34 35.4
	40歳代	129 100.0	35 27.1	22 17.1	24 18.6	24 18.6	21 16.3	26 20.2	43 33.3	42 32.6
	50歳代	123 100.0	35 28.5	20 16.3	31 25.2	37 30.1	23 18.7	27 22.0	37 30.1	37 30.1
	60歳代	162 100.0	55 34.0	34 21.0	29 17.9	56 34.6	38 23.5	50 30.9	38 23.5	51 31.5
	70歳以上	212 100.0	86 40.6	55 25.9	49 23.1	64 30.2	45 21.2	69 32.5	49 23.1	47 22.2

【図表8-1-1 性・年代別 市が力を入れていくべきこと②】

		n	子育て支援 が継続される よう支援も	子育てや介 護人等の再 就職をん	保育の施設・ サービスを充 つ	高齢者の施設 や介護サービ スを充実させる	市民が、身近な こととして考 えて	お互いの性を 尊重し、健康 づく	被害者への支 援を充実させ や	その他
全体	上段/実数 下段/MA%	1851 100.0	990 53.5	914 49.4	885 47.8	969 52.4	250 13.5	486 26.3	469 25.3	62 3.3
女性	20歳代	76 100.0	50 65.8	49 64.5	54 71.1	33 43.4	8 10.5	18 23.7	20 26.3	1 1.3
	30歳代	157 100.0	101 64.3	80 51.0	107 68.2	69 43.9	13 8.3	35 22.3	42 26.8	3 1.9
	40歳代	206 100.0	143 69.4	132 64.1	108 52.4	107 51.9	25 12.1	52 25.2	59 28.6	6 2.9
	50歳代	165 100.0	100 60.6	97 58.8	91 55.2	107 64.8	21 12.7	48 29.1	48 29.1	5 3.0
	60歳代	186 100.0	111 59.7	98 52.7	91 48.9	124 66.7	30 16.1	57 30.6	62 33.3	1 0.5
	70歳以上	271 100.0	117 43.2	116 42.8	84 31.0	154 56.8	41 15.1	70 25.8	60 22.1	3 1.1
	男性	20歳代	53 100.0	29 54.7	30 56.6	28 52.8	19 35.8	6 11.3	21 39.6	16 30.2
30歳代		96 100.0	44 45.8	39 40.6	46 47.9	29 30.2	8 8.3	19 19.8	25 26.0	9 9.4
40歳代		129 100.0	69 53.5	57 44.2	53 41.1	54 41.9	16 12.4	30 23.3	22 17.1	6 4.7
50歳代		123 100.0	58 47.2	52 42.3	53 43.1	59 48.0	17 13.8	20 16.3	28 22.8	9 7.3
60歳代		162 100.0	75 46.3	81 50.0	78 48.1	91 56.2	18 11.1	44 27.2	36 22.2	6 3.7
70歳以上		212 100.0	90 42.5	82 38.7	88 41.5	120 56.6	46 21.7	69 32.5	49 23.1	9 4.2

<前回調査（平成22年（2010年））との比較>（図表8-1-2）

前回調査の結果に比べ、男女とも「民間企業・団体等の管理職に女性の登用が進むように支援する」と「労働時間短縮や在宅勤務の普及・啓発を行う」が上昇している。

逆に、「保育の施設・サービスを充実させる」が男女とも低下している。また、男性では、「市の政策・事業に対して、市民の声を聞く場や制度を充実させる」が9.6ポイント、「子育てや介護等でいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する」が9.4ポイント、「高齢者の施設や介護サービスを充実させる」が8.9ポイント、それぞれ低下している。

【図表8-1-2 前回調査との比較 市が力を入れていくべきこと】

		n	(MA%)							
			充市の政策・事業を聞く場や制度を	市民の声を聞く場や制度を	民間企業・団体等の管理職に	支援する	女性や男性の生き方や悩みに	等取職に抜かいおける	する男女性共画に努力して	を女性の実力開発や就労支援
女性	今回調査	1064	32.9	25.1	22.2	34.6	18.9	31.6	28.2	
	前回調査	690	35.7	22.3	28.3	30.1	17.1	32.3	28.0	
男性	今回調査	780	32.7	20.8	21.3	28.6	20.0	25.8	29.7	
	前回調査	581	42.3	19.6	27.5	29.6	23.8	26.7	25.5	

		n	(MA%)							その他
			する仕事や介護等であつても	子育てや介護等であつても	支援する	実保育の施設・サービスを充	ス高齢者の施設や介護サビ	る男女市民が、身近なことを考えて	りとも互いの生涯を通じた健康づく	
女性	今回調査	1064	58.6	53.8	50.4	55.8	13.0	26.4	27.3	1.8
	前回調査	690	61.0	58.3	58.4	61.6	14.9	25.4	34.5	1.6
男性	今回調査	780	46.9	43.8	44.6	47.9	14.4	26.3	22.8	5.5
	前回調査	581	54.7	53.2	56.8	56.8	16.2	29.9	28.7	3.8

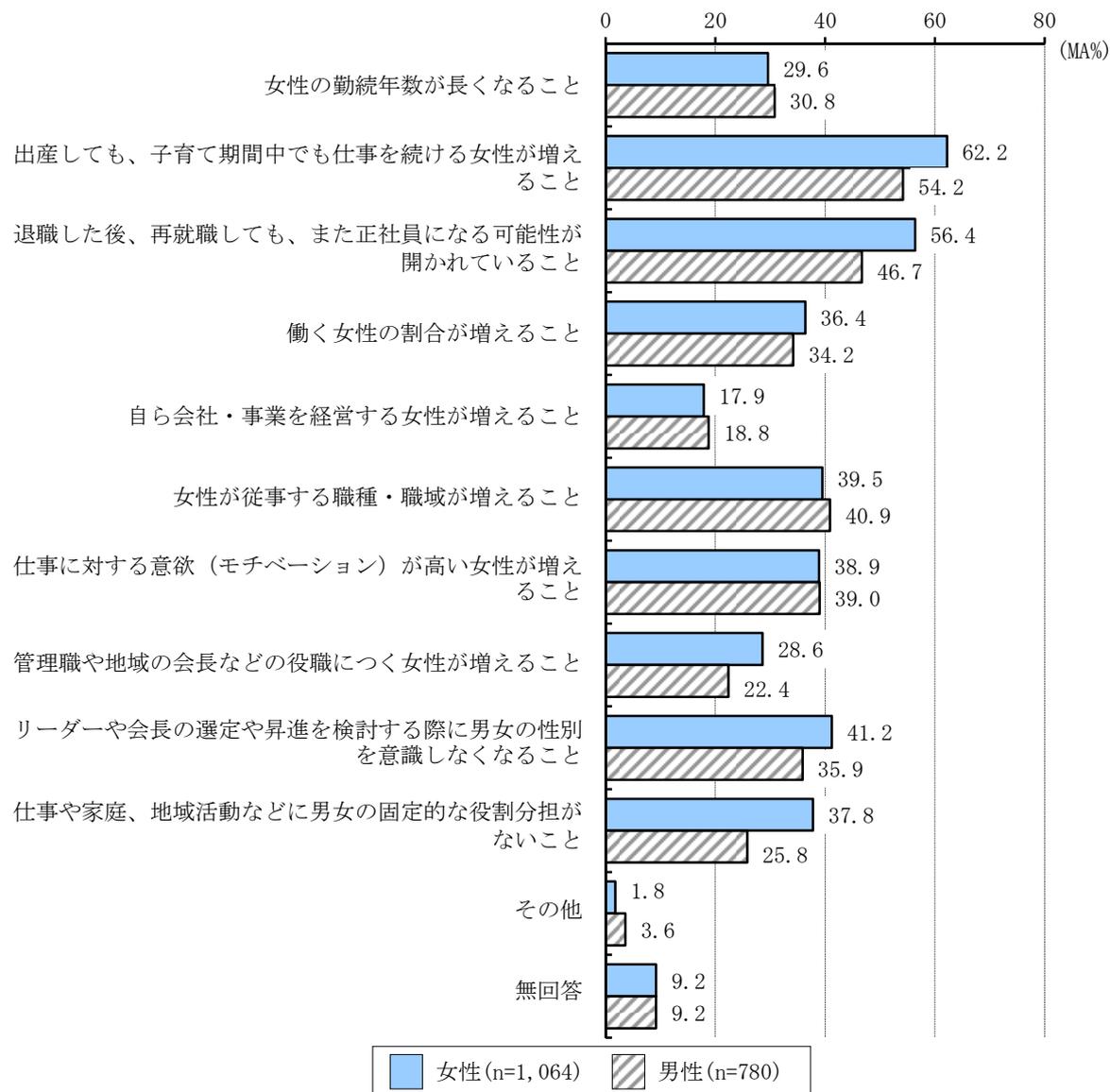
※前回調査と同じ項目のみを比較。

※前回調査の「市の政策・事業に対して、市民の声を聞く場や制度を充実させる」は「市の政策・事業に対して、市民の声を聞く場や制度を充実させる」に、「女性や男性の生き方や悩みに関する相談の場を充実する」は「女性や男性の生き方や悩みに関する相談の場を充実させる」に、「女性の能力開発や就労支援を充実する」は「女性の能力開発や就労支援を充実させる」に、「保育の施設・サービスを充実する」は「保育の施設・サービスを充実させる」に、「高齢者の施設や介護サービスを充実する」は「高齢者の施設や介護サービスを充実させる」に、「女性に対する暴力の防止や被害者への支援を充実する」は「女性に対する暴力の防止や被害者への支援を充実させる」に、それぞれ表記を変更している。

## (2) 「女性の活躍が推進されている」状態に関する意見

問28 あなたは、「女性の活躍が推進されている」とはどのような状態だと思いますか。  
(〇はいくつでも)

【図表8-2 「女性の活躍が推進されている」状態に関する意見】



### <性別> (図表8-2)

女性の活躍が推進されている状態に関する意見については、男女とも「出産しても、子育て期間中でも仕事を続ける女性が増えること」（女性62.2%、男性54.2%）が最も多く、次いで「退職した後、再就職しても、また正社員になる可能性が開かれていること」（女性56.4%、男性46.7%）となっており、どちらも女性の割合の方が高くなっている。また、「仕事や家庭、地域活動などに男女の固定的な役割分担がないこと」では、女性37.8%、男性25.8%で、女性の方が12.0ポイント高くなっている。

<性・年代別> (図表8-2-1)

男女ともに、各年代で「出産しても、子育て期間中でも仕事を続ける女性が増えること」が最も多く、20歳代・30歳代では、女性は7割台、男性は6割台で女性の割合の方が高くなっている。また、「退職した後、再就職しても、また正社員になる可能性が開かれていること」が、女性の20～50歳代で6割台、男性の40～60歳代で5割台となっており、各年代とも男性に比べ女性の割合の方が高くなっている。「女性の活躍」と就労の継続（もしくは中断後再就職）は、市民意識において結びつきつつあるといえるであろう。

女性の30歳代では、「自ら会社・事業を経営する女性が増えること」（21.0%）と「管理職や地域の会長などの役職につく女性が増えること」（40.1%）が他の年代に比べ高く、「自ら会社・事業を経営する女性が増えること」では、男性の30歳代の割合は女性との差は小さく、20歳代と70歳以上の割合の方が高い。また、男性の「管理職や地域の会長などの役職につく女性が増えること」の割合は、20歳代と70歳以上では同年代の女性の割合を上回っているが、それ以外の年代では女性の割合を下回っている。

女性の50歳代では「女性が従事する職種・職域が増えること」（48.5%）が他の年代に比べ高くなっているが、男性では60歳代が53.7%と高くなっている。また、30～50歳代の女性では「仕事や家庭、地域活動などに男女の固定的な役割分担がないこと」が4割台で高くなっているが、男性の各同年代の割合は女性よりも低くなっている。

【図表8-2-1 性・年代別 「女性の活躍が推進されている」状態に関する意見】

	n	女性の勤続年数が長くなる	出産しても、子育て期間中	退職した後、再就職していること	退職した後、再就職し、また正社員になること	働く女性の割合が増えること	自ら会社・事業を営むこと	女性が従事する職種・職域が増えること	仕事に対する意欲（モチベーション）が高い女性が増えること	と役職につく女性が増えること	別進意をなくする	リーダーや会長の選定や昇	が男女の固定的な役割分担	その他
全体	1851	55.5	108.6	96.5	65.4	33.7	33.7	73.9	38.8	25.9	38.8	71.8	60.4	4.7
上段/実数	100.0	30.0	58.7	52.1	35.3	18.2	39.9	71.8	38.8	25.9	38.8	71.8	60.4	4.7
下段/MA%	100.0	30.0	58.7	52.1	35.3	18.2	39.9	71.8	38.8	25.9	38.8	71.8	60.4	4.7
女性	20歳代	76	18	55	48	33	12	27	27	22	31	29	4	4
		100.0	23.7	72.4	63.2	43.4	15.8	35.5	35.5	28.9	40.8	38.2	5.3	5.3
	30歳代	157	36	123	98	65	33	51	69	63	71	69	2	2
		100.0	22.9	78.3	62.4	41.4	21.0	32.5	43.9	40.1	45.2	43.9	1.3	1.3
	40歳代	206	69	136	127	68	36	77	77	69	86	87	6	6
		100.0	33.5	66.0	61.7	33.0	17.5	37.4	37.4	33.5	41.7	42.2	2.9	2.9
	50歳代	165	56	112	108	68	28	80	74	62	74	68	2	2
	100.0	33.9	67.9	65.5	41.2	17.0	48.5	44.8	37.6	44.8	41.2	1.2	1.2	
60歳代	186	61	112	99	70	31	77	73	36	77	68	-	-	
	100.0	32.8	60.2	53.2	37.6	16.7	41.4	39.2	19.4	41.4	36.6	-	-	
70歳以上	271	74	123	118	82	50	107	94	52	98	80	5	5	
	100.0	27.3	45.4	43.5	30.3	18.5	39.5	34.7	19.2	36.2	29.5	1.8	1.8	
男性	20歳代	53	19	34	21	20	13	21	17	18	17	15	3	3
		100.0	35.8	64.2	39.6	37.7	24.5	39.6	32.1	34.0	32.1	28.3	5.7	5.7
	30歳代	96	26	62	44	37	19	27	35	22	29	23	7	7
		100.0	27.1	64.6	45.8	38.5	19.8	28.1	36.5	22.9	30.2	24.0	7.3	7.3
	40歳代	129	41	77	65	44	24	44	45	22	40	23	4	4
		100.0	31.8	59.7	50.4	34.1	18.6	34.1	34.9	17.1	31.0	17.8	3.1	3.1
	50歳代	123	43	66	64	43	19	48	51	28	45	35	5	5
	100.0	35.0	53.7	52.0	35.0	15.4	39.0	41.5	22.8	36.6	28.5	4.1	4.1	
60歳代	162	43	93	84	52	24	87	72	29	62	46	2	2	
	100.0	26.5	57.4	51.9	32.1	14.8	53.7	44.4	17.9	38.3	28.4	1.2	1.2	
70歳以上	212	66	89	83	71	47	88	82	54	84	57	6	6	
	100.0	31.1	42.0	39.2	33.5	22.2	41.5	38.7	25.5	39.6	26.9	2.8	2.8	

<回答者本人の職業別> (図表8-2-2)

男性の家族従業者、家事専業、学生（女性、男性）は回答数が極端に少ないことから、それ以外の項目について分析する。

女性では、自営業主が「退職した後、再就職しても、また正社員になる可能性が開かれていること」が59.3%と最も多い。家族従業者、雇用者、家事専業、無職（年金生活者を含む）では、「出産しても、子育て期間中でも仕事を続ける女性が増えること」が最も多く、雇用者の68.0%を筆頭に無職においても52.7%といずれも50%以上を占めた。「退職した後、再就職しても、また正社員になる可能性が開かれていること」は自営業主以外においても多く、雇用者でも62.4%、家事専業で57.5%、家族従業者でも50.0%であった。

男性では、雇用者と自営業主で「出産しても、子育て期間中でも仕事を続ける女性が増えること」が最も多く、それぞれ61.1%、44.6%と高くなっている。また、自営業主においては「仕事に対する意欲（モチベーション）が高い女性が増えること」も44.6%で最も多くなっている。無職（年金生活者を含む）では「女性が従事する職種・職域が増えること」が49.8%で最も多くなっている。

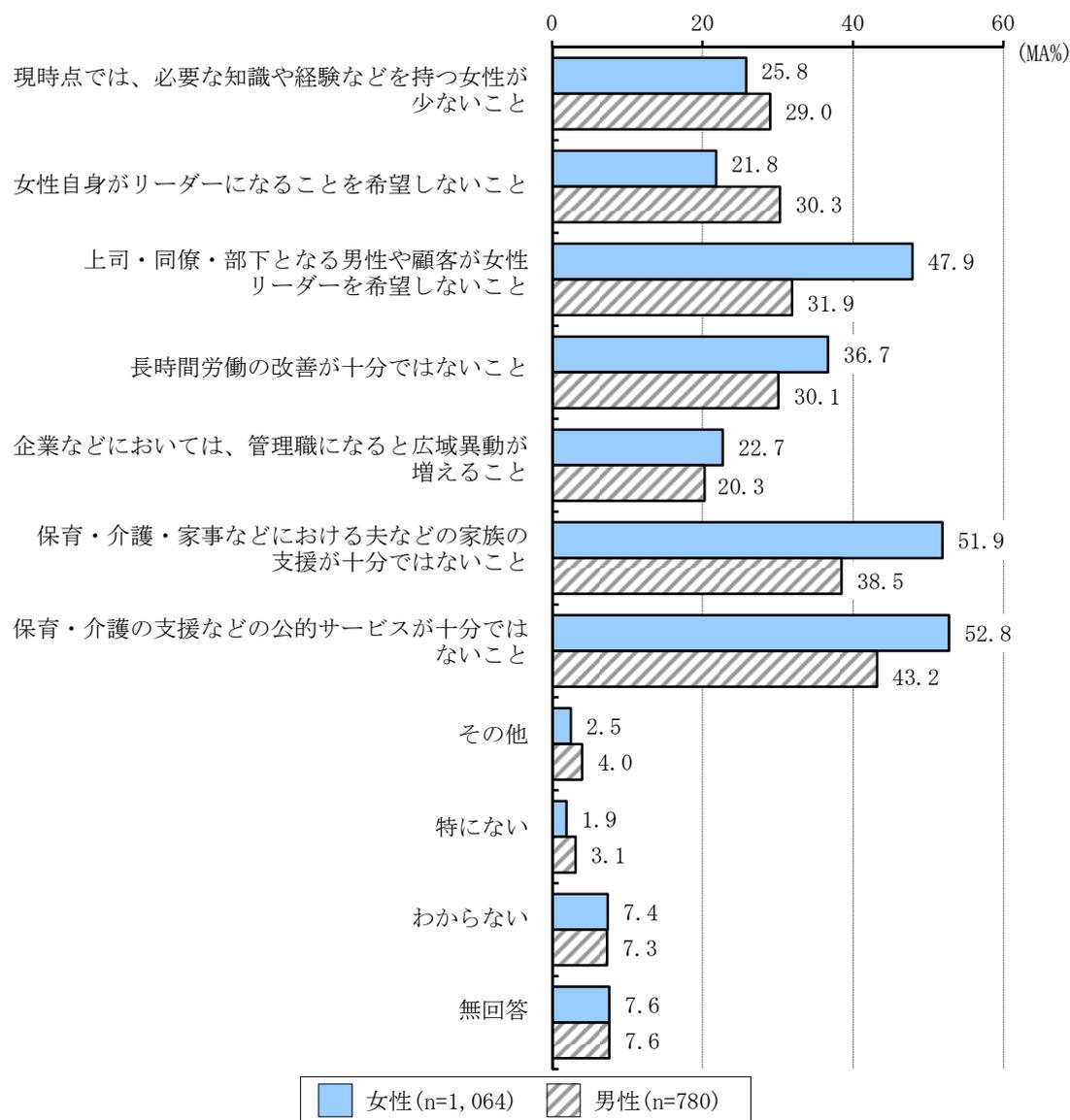
【図表8-2-2 職業別 「女性の活躍が推進されている」状態に関する意見】

	n	女性の勤続年数が長くなること	出産しても、子育て期間中でも仕事を続ける女性が増えること	退職した後、再就職しても、また正社員になること	働く女性の割合が増えること	女性が会社・事業を経営すること	女性が従事する職種・職域が増えること	仕事に対する意欲（モチベーション）が高い女性が増えること	役職につく女性が増えること	別を意欲しなくなることに成長すること	進を検討する際に男女の性昇	リダイナミックな選定や昇	がないこと	に男女や家庭的な役割分担など	その他
全体	1851	555	1086	965	654	337	739	718	479	718	604	47			
上段/実数	100.0	30.0	58.7	52.1	35.3	18.2	39.9	38.8	25.9	38.8	32.6	2.5			
下段/MA%															
女性	27	7	15	16	9	6	10	11	8	15	8	-			
自営業主（独立して、自分で事業をしている人。経営者）	100.0	25.9	55.6	59.3	33.3	22.2	37.0	40.7	29.6	55.6	29.6	-			
家族従業者（自営業主の家族で、その自営業に従事している人）	30	10	18	15	11	7	11	14	9	10	12	1			
雇用者（会社、官公庁、個人商店などに雇われている人）	100.0	33.3	60.0	50.0	36.7	23.3	36.7	46.7	30.0	33.3	40.0	3.3			
家事専業（主婦・主夫）	410	142	279	256	163	77	168	181	158	180	174	7			
無職（年金生活者を含む）	100.0	34.6	68.0	62.4	39.8	18.8	41.0	44.1	38.5	43.9	42.4	1.7			
学生	327	75	203	188	118	52	131	111	79	126	128	6			
その他	100.0	22.9	62.1	57.5	36.1	15.9	40.1	33.9	24.2	38.5	39.1	1.8			
無職（年金生活者を含む）	224	65	118	101	71	43	87	82	42	88	70	2			
学生	100.0	29.0	52.7	45.1	31.7	19.2	38.8	36.6	18.8	39.3	31.3	0.9			
その他	13	5	10	10	4	1	7	7	3	9	5	2			
その他	100.0	38.5	76.9	76.9	30.8	7.7	53.8	53.8	23.1	69.2	38.5	15.4			
男性	27	7	17	11	9	3	5	7	4	9	5	-			
自営業主（独立して、自分で事業をしている人。経営者）	100.0	25.9	63.0	40.7	33.3	11.1	18.5	25.9	14.8	33.3	18.5	-			
家族従業者（自営業主の家族で、その自営業に従事している人）	92	26	41	35	30	19	28	41	18	30	23	4			
雇用者（会社、官公庁、個人商店などに雇われている人）	100.0	28.3	44.6	38.0	32.6	20.7	30.4	44.6	19.6	32.6	25.0	4.3			
家事専業（主婦・主夫）	9	2	4	5	-	2	4	2	1	3	1	-			
無職（年金生活者を含む）	100.0	22.2	44.4	55.6	-	22.2	44.4	22.2	11.1	33.3	11.1	-			
学生	396	130	242	193	148	67	154	150	93	140	100	14			
その他	100.0	32.8	61.1	48.7	37.4	16.9	38.9	37.9	23.5	35.4	25.3	3.5			
家事専業（主婦・主夫）	1	-	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-			
無職（年金生活者を含む）	100.0	-	100.0	-	-	-	-	100.0	-	-	-	-			
学生	233	68	112	114	78	52	116	95	55	91	68	7			
その他	100.0	29.2	48.1	48.9	33.5	22.3	49.8	40.8	23.6	39.1	29.2	3.0			
学生	12	3	8	4	3	2	5	2	1	3	3	1			
その他	100.0	25.0	66.7	33.3	25.0	16.7	41.7	16.7	8.3	25.0	25.0	8.3			
その他	23	7	11	9	6	4	8	10	4	8	4	1			
その他	100.0	30.4	47.8	39.1	26.1	17.4	34.8	43.5	17.4	34.8	17.4	4.3			

(3) 政治・経済・地域などの各分野で女性のリーダーを増やすときに障害となるもの

問29 あなたは、政治・経済・地域などの各分野で女性のリーダーを増やすときに障害となるものは何だと思いませんか。(〇はいくつでも)

【図表8-3 政治・経済・地域などの各分野で女性のリーダーを増やすときに障害となるもの】



<性別> (図表8-3)

政治・経済・地域などの各分野で女性のリーダーを増やすときに障害となるものについては、男女とも「保育・介護の支援などの公的サービスが十分ではないこと」が最も多く、女性で52.8%、男性で43.2%となっている。次いで、「保育・介護・家事などにおける夫などの家族の支援が十分ではないこと」が女性51.9%、男性38.5%、さらに「上司・同僚・部下となる男性や顧客が女性リーダーを希望しないこと」が女性47.9%、男性31.9%と続いており、いずれも女性の割合が男性を上回っている。

一方、「現時点では、必要な知識や経験などを持つ女性が少ないこと」「女性自身がリーダーになることを希望しないこと」といった女性に原因があるとする見方について

ては、男性の割合が女性を上回っている。すなわち前者では女性25.8%に対して男性29.0%と3.2ポイント、後者では女性21.8%に対して男性30.3%と8.5ポイントとそれぞれ男性の割合が女性を上回っている。

### <性・年代別> (図表8-3-1)

「保育・介護の支援などの公的サービスが十分ではないこと」は、女性では、20歳代・30歳代・50歳以上の年代で最も多く、男性の場合は30歳以上の各年代で最も多くなっている。

男性の20歳代は、「上司・同僚・部下となる男性や顧客が女性リーダーを希望しないこと」で39.6%と最も多く、次いで「保育・介護・家事などにおける夫などの家族の支援が十分ではないこと」(37.7%)となっている。「保育・介護・家事などにおける夫などの家族の支援が十分ではないこと」は、女性の40歳代と60歳代でも多く、「上司・同僚・部下となる男性や顧客が女性リーダーを希望しないこと」の割合は、20～50歳代の女性で5割台と高くなっている。

【図表8-3-1 性・年代別 政治・経済・地域などの各分野で女性のリーダーを増やすときに障害となるもの】

		n	と現 時点 を持 つ女 性が 必要 な少 ない やこ 経	と女 性を 希望 しない こと になる こ	しや 顧 客が 女性 リー ダー となる 希望 性	上 司・ 同僚 ・部 下と なる 希望 性	な長 時間 労働 の改 善が 十分 では ない こと	とに 企業 など に広 域お いて は、 管理 職	でる 保 育・ 介 護の 家 族の 支 援が 十分 な こと	サ 保 育・ 介 護の 支 援が 十分 な こと 的	そ 他	特 に ない	わ から ない	無 回 答
全体	上段/実数 下段/MA%	1851 100.0	500 27.0	468 25.3	759 41.0	626 33.8	400 21.6	852 46.0	899 48.6	58 3.1	44 2.4	138 7.5	145 7.8	
女性	20歳代	76 100.0	15 19.7	18 23.7	39 51.3	28 36.8	16 21.1	39 51.3	43 56.6	3 3.9	1 1.3	5 6.6	2 2.6	
	30歳代	157 100.0	26 16.6	39 24.8	85 54.1	67 42.7	36 22.9	91 58.0	95 60.5	8 5.1	3 1.9	10 6.4	6 3.8	
	40歳代	206 100.0	51 24.8	51 24.8	117 56.8	81 39.3	47 22.8	122 59.2	111 53.9	7 3.4	2 1.0	12 5.8	5 2.4	
	50歳代	165 100.0	36 21.8	44 26.7	94 57.0	67 40.6	46 27.9	99 60.0	101 61.2	5 3.0	1 0.6	8 4.8	4 2.4	
	60歳代	186 100.0	55 29.6	39 21.0	88 47.3	69 37.1	42 22.6	100 53.8	100 53.8	1 0.5	3 1.6	12 6.5	17 9.1	
	70歳以上	271 100.0	91 33.6	41 15.1	86 31.7	78 28.8	55 20.3	100 36.9	111 41.0	3 1.1	9 3.3	32 11.8	46 17.0	
	男性	20歳代	53 100.0	14 26.4	17 32.1	21 39.6	16 30.2	6 11.3	20 37.7	19 35.8	3 5.7	2 3.8	7 13.2	2 3.8
30歳代		96 100.0	19 19.8	28 29.2	28 29.2	29 30.2	12 12.5	35 36.5	38 39.6	9 9.4	4 4.2	10 10.4	2 2.1	
40歳代		129 100.0	30 23.3	39 30.2	45 34.9	42 32.6	22 17.1	47 36.4	55 42.6	8 6.2	2 1.6	8 6.2	6 4.7	
50歳代		123 100.0	31 25.2	43 35.0	41 33.3	39 31.7	25 20.3	47 38.2	54 43.9	3 2.4	4 3.3	9 7.3	4 3.3	
60歳代		162 100.0	55 34.0	51 31.5	51 31.5	59 36.4	43 26.5	72 44.4	81 50.0	2 1.2	6 3.7	6 3.7	11 6.8	
70歳以上		212 100.0	76 35.8	57 26.9	61 28.8	49 23.1	48 22.6	77 36.3	88 41.5	5 2.4	6 2.8	17 8.0	33 15.6	

### <回答者本人の職業別> (図表8-3-2)

男性の家族従業者、家事専業、学生（女性、男性）は回答数が極端に少ないことから、それ以外の項目について分析する。

女性は、自営業主や家族従業者、無職（年金生活を含む）で「保育・介護の支援な

どの公的サービスが十分ではないこと」が最も多くなっており、5割近くから6割近くとなっている。雇用者では「上司・同僚・部下となる男性や顧客が女性リーダーを希望しないこと」が56.8%で最も多い。家事専業で最も多いのは「保育・介護・家事などにおける夫などの家族の支援が十分ではないこと」の57.2%であり、この項目は家族従業者でも50.0%と家族従業者の中での1位と同率で最も多くなっている。

男性では、自営業主で「保育・介護・家事などにおける夫などの家族の支援が十分ではないこと」、雇用者・無職（年金生活を含む）で「保育・介護の支援などの公的サービスが十分ではないこと」が、それぞれ4割台で最も多くなっている。また、雇用者では、「女性自身がリーダーになることを希望しないこと」が34.1%、「上司・同僚・部下となる男性や顧客が女性リーダーを希望しないこと」が35.4%となっている。

雇用者の回答に注目すると、女性雇用者の56.8%が「上司・同僚・部下となる男性や顧客が女性リーダーを希望しないこと」と回答していることから、女性の活躍を阻む労働現場のリアルな実態がうかがえる。「女性自身がリーダーになることを希望しないこと」の割合は、男性雇用者では34.1%に対して女性雇用者では27.6%と6.5ポイントの差があり、男女間で認識にズレが見られる。

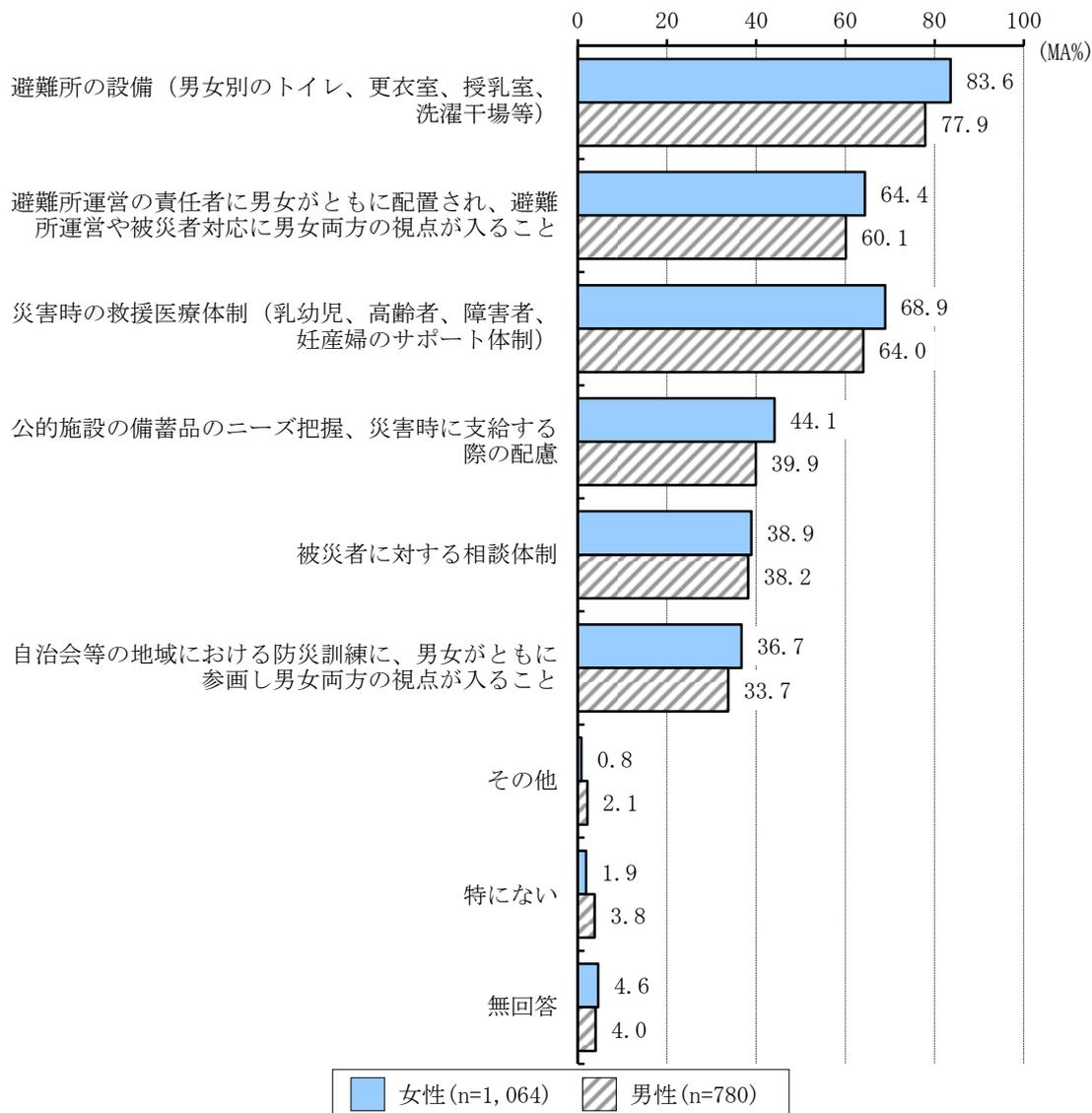
【図表8-3-2 職業別 政治・経済・地域などの各分野で女性のリーダーを増やすときに障害となるもの】

	n	と現時点を 持つ女性 が少なく ないこと	女性自身が リーダー になるこ と	上司・同僚・ 顧客が女性・ 部下となる 男性を希望 しないこと	長時間労働 の改善が十 分ではないこ と	企業などにお ける異動は、 管理職に 増えること	企業などにお ける異動は、 管理職に 増えること	保育・介護・ 家事などの 支援が十分 ではないこと	保育・介護 の支援が十 分ではないこ と	その他	特 に な い	わ か ら な い	無 回 答
全体	1851	500	468	759	626	400	852	899	58	44	138	145	
上段/実数	100.0	27.0	25.3	41.0	33.8	21.6	46.0	48.6	3.1	2.4	7.5	7.8	
下段/MA%													
女性	27	10	6	12	12	6	13	16	3	2	-	-	
自営業主（独立して、自分で 事業をしている人。経営者）	100.0	37.0	22.2	44.4	44.4	22.2	48.1	59.3	11.1	7.4	-	-	
家族従業者（自営業主の家族で、 その自営業に従事している人）	30	8	8	11	11	5	15	15	2	1	3	3	
雇用者（会社、官公庁、個人 商店などに雇われている人）	100.0	26.7	26.7	36.7	36.7	16.7	50.0	50.0	6.7	3.3	10.0	10.0	
家事専業（主婦・主夫）	410	90	113	233	167	113	229	230	10	3	22	16	
無職（年金生活を含む）	100.0	22.0	27.6	56.8	40.7	27.6	55.9	56.1	2.4	0.7	5.4	3.9	
学生	327	77	58	153	115	65	187	171	9	3	32	25	
その他	100.0	23.5	17.7	46.8	35.2	19.9	57.2	52.3	2.8	0.9	9.8	7.6	
無職（年金生活を含む）	224	74	39	86	70	44	89	109	1	9	18	33	
学生	100.0	33.0	17.4	38.4	31.3	19.6	39.7	48.7	0.4	4.0	8.0	14.7	
その他	13	3	3	5	5	5	8	8	1	-	1	1	
無職（年金生活を含む）	100.0	23.1	23.1	38.5	38.5	38.5	61.5	61.5	7.7	-	7.7	7.7	
学生	27	10	4	9	10	2	8	12	-	2	3	3	
その他	100.0	37.0	14.8	33.3	37.0	7.4	29.6	44.4	-	7.4	11.1	11.1	
男性	92	27	24	21	20	23	38	35	3	1	5	11	
自営業主（独立して、自分で 事業をしている人。経営者）	100.0	29.3	26.1	22.8	21.7	25.0	41.3	38.0	3.3	1.1	5.4	12.0	
家族従業者（自営業主の家族で、 その自営業に従事している人）	9	3	2	5	1	3	1	1	-	-	1	1	
雇用者（会社、官公庁、個人 商店などに雇われている人）	100.0	33.3	22.2	55.6	11.1	11.1	33.3	11.1	-	-	11.1	11.1	
家事専業（主婦・主夫）	396	102	135	140	126	72	149	177	19	14	25	12	
無職（年金生活を含む）	100.0	25.8	34.1	35.4	31.8	18.2	37.6	44.7	4.8	3.5	6.3	3.0	
学生	1	1	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	
その他	100.0	100.0	-	-	100.0	-	100.0	-	-	-	-	-	
無職（年金生活を含む）	233	81	64	69	71	57	94	106	5	7	22	25	
学生	100.0	34.8	27.5	29.6	30.5	24.5	40.3	45.5	2.1	3.0	9.4	10.7	
その他	12	2	4	4	4	-	2	5	1	-	2	-	
無職（年金生活を含む）	100.0	16.7	33.3	33.3	33.3	-	16.7	41.7	8.3	-	16.7	-	
学生	23	8	5	6	9	4	10	10	2	2	2	2	
その他	100.0	34.8	21.7	26.1	39.1	17.4	43.5	43.5	8.7	8.7	8.7	8.7	

(4) 防災・災害対応における性別に配慮した対応で必要と思うもの

問30 あなたは、防災・災害対応において、性別に配慮した対応で必要だと思うものがありますか。(〇はいくつでも)

【図表8-4 防災・災害対応における性別に配慮した対応で必要と思うもの】



<性別> (図表8-4)

防災・災害対応における性別に配慮した対応で必要と思うものについては、男女とも「避難所の設備 (男女別のトイレ、更衣室、授乳室、洗濯干場等)」(女性83.6%、男性77.9%)が最も多く、次いで「災害時の救援医療体制 (乳幼児、高齢者、障害者、妊産婦のサポート体制)」(女性68.9%、男性64.0%)、「避難所運営の責任者に男女がともに配置され、避難所運営や被災者対応に男女両方の視点が入ること」(女性64.4%、男性60.1%)と続いており、すべての項目で男性に比べ女性の割合の方が高くなっている。性別で大きな傾向の違いは見られない。

<性・年代別> (図表8-4-1)

男女とも、各年代で「避難所の設備（男女別のトイレ、更衣室、授乳室、洗濯干場等）」が最も多く、特に20歳代・40歳代の女性では9割を超えている。「災害時の救援医療体制（乳幼児、高齢者、障害者、妊産婦のサポート体制）」は、30歳代の女性で74.5%と最も高く、20歳代とともに、同年代の男性の割合を10ポイント以上上回っている。

「公的施設の備蓄品のニーズ把握、災害時に支給する際の配慮」は、20歳代の女性が36.8%に対し、同年代の男性は52.8%で、男性の方が16.0ポイント高くなっている。

「被災者に対する相談体制」は、50歳以上の女性で高く、また同じく50歳以上では男性に比べ女性の割合の方が高くなっている。「自治会等の地域における防災訓練に、男女がともに参画し男女両方の視点が入ること」は、60歳以上の男女の割合が、それぞれ4割台となっている。

【図表8-4-1 性・年代別 防災・災害対応における性別に配慮した対応で必要と思うもの】

		n	場、避 等、難 更 衣 室 の 設 備 授 乳 室 洗 濯 干 場	点 が 入 る こ と	や 被 入 る こ と	と 難 配 置 に 責 任 者 の 運 営 が	の サ ポ ー ト 体 制	児 高 齢 者 救 援 医 療 者 妊 産 婦	災 害 時 の 救 援 医 療 者 妊 産 婦	慮 握 、 公 的 施 設 の 備 蓄 品 の ニ ーズ 配 把	被 災 者 に 対 す る 相 談 体 制	男 女 両 方 の 視 点 が 入 る こ と	自 治 会 等 の 地 域 に お け る 防 災 訓 練	そ の 他	特 に な い
全体	上段/実数 下段/MA%	1851 100.0	1499 81.0	1156 62.5	1235 66.7	780 42.1	714 38.6	655 35.4	25 1.4	51 2.8					
女性	20歳代	76 100.0	69 90.8	43 56.6	52 68.4	28 36.8	21 27.6	20 26.3	- -	3 3.9					
	30歳代	157 100.0	137 87.3	104 66.2	117 74.5	71 45.2	50 31.8	48 30.6	2 1.3	3 1.9					
	40歳代	206 100.0	188 91.3	138 67.0	135 65.5	92 44.7	72 35.0	64 31.1	- -	3 1.5					
	50歳代	165 100.0	140 84.8	112 67.9	114 69.1	78 47.3	69 41.8	55 33.3	1 0.6	1 0.6					
	60歳代	186 100.0	146 78.5	121 65.1	126 67.7	86 46.2	78 41.9	83 44.6	1 0.5	4 2.2					
	70歳以上	271 100.0	208 76.8	166 61.3	187 69.0	114 42.1	123 45.4	120 44.3	5 1.8	6 2.2					
	男性	20歳代	53 100.0	38 71.7	30 56.6	30 56.6	28 52.8	19 35.8	18 34.0	1 1.9	6 11.3				
30歳代		96 100.0	79 82.3	56 58.3	55 57.3	39 40.6	35 36.5	24 25.0	1 1.0	3 3.1					
40歳代		129 100.0	115 89.1	79 61.2	84 65.1	53 41.1	51 39.5	35 27.1	1 0.8	3 2.3					
50歳代		123 100.0	100 81.3	61 49.6	79 64.2	40 32.5	41 33.3	27 22.0	5 4.1	3 2.4					
60歳代		162 100.0	128 79.0	113 69.8	113 69.8	60 37.0	63 38.9	66 40.7	2 1.2	3 1.9					
70歳以上		212 100.0	145 68.4	127 59.9	135 63.7	89 42.0	86 40.6	92 43.4	5 2.4	11 5.2					

<家族構成別> (図表8-4-2)

男女ともに、いずれの世帯も「避難所の設備（男女別のトイレ、更衣室、授乳室、洗濯干場等）」が最も多くなっている。また、女性の三世代世帯では「災害時の救援医療体制（乳幼児、高齢者、障害者、妊産婦のサポート体制）」（75.0%）と「公的施設の備蓄品のニーズ把握、災害時に支給する際の配慮」（56.3%）が他の世帯に比べ高くなっている。

【図表8-4-2 家族構成別 防災・災害対応における性別に配慮した対応で必要と思うもの】

	n	場等 レ、難 更、所 衣の設 室、備 授（男 乳室、 別 洗の 濯トイ	点 が 入 る こ と	や 被 入 る こ と	と も に 配 置 さ れ る	避 難 所 運 営 の 責 任 者 に 男 女 が 同 じ に 配 置 さ れ る	の サ ポ ー ト 体 制	災 害 時 の 救 援 医 療 体 制 （ 乳 幼 児 、 高 齢 者 、 障 害 者 、 妊 産 婦 ）	慮 握 、 公 的 施 設 の 備 蓄 品 の ニ ーズ 把 握	被 災 者 に 対 す る 相 談 体 制	男 女 両 方 の 視 点 が 入 る こ と	自 治 会 等 の 地 域 に お け る 防 災	そ の 他	特 に な い
全体	上段/実数 下段/MA%	1851 100.0	1499 81.0	1156 62.5	1235 66.7	780 42.1	714 38.6	655 35.4	25 1.4	51 2.8				
女性	単身世帯	177 100.0	147 83.1	112 63.3	119 67.2	81 45.8	74 41.8	66 37.3	2 1.1	2 1.1				
	夫婦のみ世帯	293 100.0	239 81.6	183 62.5	199 67.9	140 47.8	125 42.7	126 43.0	2 0.7	5 1.7				
	二世帯世帯	507 100.0	439 86.6	339 66.9	356 70.2	213 42.0	182 35.9	170 33.5	4 0.8	11 2.2				
	三世代世帯	32 100.0	27 84.4	22 68.8	24 75.0	18 56.3	13 40.6	13 40.6	- -	1 3.1				
	その他世帯	29 100.0	20 69.0	16 55.2	17 58.6	10 34.5	11 37.9	9 31.0	- -	1 3.4				
	男性	単身世帯	157 100.0	122 77.7	95 60.5	92 58.6	55 35.0	56 35.7	46 29.3	2 1.3	8 5.1			
夫婦のみ世帯		207 100.0	160 77.3	133 64.3	144 69.6	87 42.0	77 37.2	83 40.1	4 1.9	8 3.9				
二世帯世帯		342 100.0	275 80.4	198 57.9	216 63.2	138 40.4	136 39.8	108 31.6	8 2.3	12 3.5				
三世代世帯		26 100.0	19 73.1	14 53.8	18 69.2	10 38.5	10 38.5	13 50.0	1 3.8	- -				
その他世帯		26 100.0	21 80.8	15 57.7	15 57.7	10 38.5	9 34.6	6 23.1	- -	- -				

ほとんどの項目において性、年代、家族構成で回答の傾向に大きな差はみられなかった。特に回答の割合が多かった3つの項目「避難所の設備（男女別のトイレ、更衣室、授乳室、洗濯干場等）」「災害時の救援医療体制（乳幼児、高齢者、障害者、妊産婦のサポート体制）」「避難所運営の責任者に男女がともに配置され、避難所運営や被災者対応に男女両方の視点が入ること」については、広く問題意識が共有されていることがうかがえる。

## 9. 自由記述について

「男女共同参画社会の実現」に向けて意見や要望を自由記述でたずねたところ、317人から436件の回答があった。以下の表では、記入内容にしたがって項目を作成し、内容を分類している。なお、複数の事柄に関する記述があった場合は、それぞれでカウントした。内容は大きく直接的に実現に向けての意見や要望であった（読み取れるものも含む）「男女共同参画社会の実現に向けて必要なこと」と、それ以外の意見等であった「男女共同参画社会に対する所感・意見、その他の所感・意見」とに分けている。

### (1) 男女共同参画社会の実現に向けて必要なこと

男女共同参画社会を実現に向けて必要な取り組みや考え方に関する記述は多岐に渡り、計227件であった。以下ではそれらの内容をまとめ、①男女共同参画を可能とする社会、②女性、③男性、④高齢者、⑤子ども、⑥教育、⑦企業、⑧国・行政に分類している。

表1-① 男女共同参画を可能とする社会

記述内容	回答数
男女が働く・働かないを選べる多様なニーズに対応した社会になってほしい	20
性別ではなく個人の能力で評価される社会にすべき	10
男女が平等で、性別に関わらず安全で平和な生活ができるようにしてほしい	3
助けが必要な人を発見できるチェック体制が必要である	1
経済的に自立できる社会を実現してほしい	1
計	35

表1-② 女性

記述内容	回答数
女性自身の意識・能力の向上が必要である	28
女性の労働環境を改善すべき	10
社会などでの女性の立場への理解が浸透してほしい	3
女性の視点を生かして男性と協力し社会進出してほしい	2
計	43

表 1-③ 男性

記述内容	回答数
男性の意識の改革が必要である	12
男性の家事や育児への参加が増えてほしい	6
女性ばかりでなく男性にも支援してほしい	2
男性に働く場を保障し、女性が出産・育児に専念できる社会にしてほしい	1
計	21

表 1-④ 高齢者

記述内容	回答数
高齢者に昔の考え方を改めてほしい	8
高齢者と社会とのつながりがもっと増えてほしい	6
計	14

表 1-⑤ 子ども

記述内容	回答数
保育所や手当などの子育てサービスを充実させるべき	24
子育て支援をもっと充実させてほしい	14
計	38

表 1-⑥ 教育

記述内容	回答数
教育によって一つの価値観にとらわれない多様な見方を養うべき	25
差別と区別をはき違えないように子どもの教育をしてほしい	1
低年齢期からの家庭教育が大切である	1
お互いに敬意と愛情を持つ教育をしてほしい	1
計	28

表 1-⑦ 企業

記述内容	回答数
企業の労働環境を改善してほしい	16
中小企業に男女共同参画の意識が浸透するよう働きかける必要がある	3
労働時間の短縮より時間外勤務手当を保障してほしい	1
職場復帰のプログラムがあるとよい	1
小さなことでも相談できる窓口が必要である	1
計	22

表 1-⑧ 国・行政

記述内容	回答数
育児や介護への公的支援を拡充してほしい	17
政治家の意識改革が必要である	4
国が税制や最低賃金の見直しに取り組むべき	1
社会人が勉強できる場をつくってほしい	1
官民一体でやらないと進まない	1
議員に女性枠を設け、女性の声を反映させる必要がある	1
一般市民の声を反映することが行政の役割だ	1
計	26

### ①男女共同参画を可能とする社会

全体として、人々の多様なニーズに応えられる社会であることという記述が多い。特に、子育てや介護ができる働き方を個人の状況に合わせて柔軟に選べる社会が必要という認識が多かった。次いで性別ではなく個々の能力が評価される社会が、男女共同参画社会に必要なことという認識であった。

### ②女性

女性個人の意識や能力の向上を求める声が多かった。次いで、女性が現在抱えている職場での差別や子育て・介護問題などへの理解が必要であるという意見がみられた。

### ③男性

家事や子育て、介護、女性が働くことなどに対する男性の意識改革を求める声が多かった。次いで、男性が家事や子育てなどに実際に参加する・できるようにすることという意見が多かった。

### ④高齢者

高齢者が男女共同参画社会を理解し、昔からの考え方を改善することをあげる意見が多かった。一方で、働く場がない高齢者や孤立しがちな高齢者に活躍する場を提供することで、男女共同参画社会の助けになるという意見もみられた。

### ⑤子ども

子育て支援、特に保育所の不足や待機児童などの課題改善が男女共同参画社会実現のために必要だという声が多かった。また、保育所以外にも、学童保育の充実など子どもの就学前だけではなく就学後の子育て支援の充実を求める声もみられた。

### ⑥教育

教育の重要性をあげた回答のうち、ほとんどは教育によって多様な価値観の獲得をめざすという主旨のものであった。

## ⑦企業

女性が働きやすい職場環境や労働時間の問題など、労働環境の改善を推進してほしいという記述が最も多かった。また、大企業以上に中小企業の女性の労働環境を問題視する指摘もみられた。

## ⑧国・行政

男女共同参画社会実現にかかわる課題に関する公的な支援を充実させてほしいという記述が最も多かった。その他、女性議員を増やすなど政治の場が率先して男女共同参画を推進すべきといった政治家の意識改革が必要という意見もみられた。

## (2) 男女共同参画社会に対する所感・意見、その他の所感・意見

表 2

記述内容	回答数
本調査について（調査の実施や内容に対する評価・批判）	44
豊中市への言及（施策・事業に対する評価・批判）	20
日本社会は男性中心であり改善の余地がある	31
男女で完全な平等は無理ではないか	27
男女共同参画が進むことに賛成である	12
性別の役割は残すべき	8
すべての女性が働きたいわけではない	7
男女で話し合える場が必要である	5
景気回復が第一である	5
ハラスメント問題の解決に取り組んでほしい	5
女性ばかり強調するのはおかしい	4
女性の社会進出は少子化・晩婚化の原因ではないか	3
P T A制度を改善してほしい	3
日本社会全体の変化が必要である	3
男女の役割などを考え直す必要があると思う	2
その他	30
計	209

多岐にわたる意見や指摘がみられた。男女が話し合う場、景気回復が必要、職場でのセクシュアル・ハラスメント問題の指摘、P T Aの役割が女性に負担を与えていること、社会全体の変化の必要などがあげられた。以上に加えて、本調査についての意見や豊中市の施策・事業に対する評価・批判が多くあった。

表 2 を大別すると、男女共同参画社会を推進すべきという主張と男女共同参画社会に対する違和感の表明で二分することができた。

男女共同参画を推進すべきという主張に関しては、日本社会の現状が未だに男性が経済や地位で有利であることや、女性が働きたくても働けない、あるいは女性が過度な家庭生活の負担（家事・子育て・介護など）を負わざるをえないという記述が大半を占めた。

一方、男女共同参画社会への違和感に関しては、男女共同参画・男女平等を「すべての男女が同じことをする」と捉えた場合の違和感の表明が大半を占めた。具体的には、「性差はあるのだから完全な平等は不可能」といった意見が散見され、男女ですべてを同じにすることが男女共同参画・男女平等であり、それは現実的に不可能ではないか、といった主旨の記述も多かった。これらに加えて、男性は仕事をし、女性は家事や気配りをするといった従来の性別役割分担を肯定する意見もみられた。

自由記述でみられた違和感の表明は、男女共同参画社会に否定的というわけではない。たとえば意見の中には、男女で平等は無理としつつも、「男女の賃金差はなくすべき」という意見や「参画の機会は男女で平等であるべき」という意見などがあった。これらの記述から推察すると、男女共同参画社会の実現について違和感をおぼえるかどうかは、男女のチャンスを平等にすることと結果を平等にすることなど、「男女共同参画」「男女平等」という概念をどのようなものと想定しているかによるとと思われる。

また、女性が男性とともに仕事中心の生活になることへの拒否を主張する記述も多かった。このような記述からは、「女性の社会進出」が、少なくとも自由記述の回答者の中で男女共同参画のイメージの一つとなっていることがうかがえる。自由記述の中でもこのイメージを指摘する回答がいくつか見られた。男女共同参画社会をめざすうえでは、性別にかかわらず多様な生き方が選べる社会が男女共同参画社会であるという認識が広まる必要があるだろう。



## V. 今回の調査からみえてきたこと



今回の「女性と男性がともに暮らしやすい豊中市をつくるためのアンケート」の各設問に対する回答結果からみえてきた特徴をまとめておく。

## 1. 家族や男女の役割に関する意識

結婚や子育てに関する8つの考え方に対する賛否を尋ねた設問（問6）では、教育・学歴については、男女ともに9割前後が、「男女にかかわらず同程度身につけさせたい」と回答していたが、それ以外の項目では、どちらかといえば、伝統的な家族のあり方や男女の固定的な役割にとらわれない回答よりも、それらを支持する回答の方が多かった。また、そうした傾向は女性よりも男性で顕著だった。「結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない」と「結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい」という、伝統的な家族のあり方にとらわれない考え方に賛成する人の割合は、平成26年度大阪府「男女共同参画に関する府民意識調査」（以下、大阪府調査）の結果と比べて、やや少なかった。

「男性は仕事、女性は家事・育児」という性別役割分担への賛否を尋ねた設問（問7）でも、男女とも反対派に比べて賛成派の方が多く、その傾向は女性よりも男性で顕著だった。性別役割分担意識の賛成理由として一番多かった回答は、男女ともに「子どもの成長にとってよいと思うから」であった。問6で「子どもが3歳くらいまでは母親のもとで育てる方がよい」という回答が男女ともすべての年齢層で半数以上を占めていたことをふまえると、性別役割分担への賛成意見は、幼少期の育児を母親の責任だとみなす考え方と強く結びついていると考えられる。

ただし、男女の固定的な役割や伝統的な家族観にとらわれない回答の割合は、総じて、男女ともに若い世代ほど顕著な傾向にあり、5年前の前回調査に比べて増加していた。また、性別役割分担意識についても、男女ともに、反対派の割合が若い世代ほど多く、前回調査に比べると、男女ともに賛成派は減少して反対派が増加していた。これらのことから、市民全体としては、男女の役割を固定的に考えない方向へ意識が変化している様子が見えてきた。

## 2. 社会の男女平等感の評価

家庭や職場など社会生活を営む8つの場での男女平等感の評価を尋ねた設問（問9）では、「学校教育」については、男女ともに平等になっていると評価する人が圧倒的に多かったが、その他の場については、総じて男女ともに男性優遇と見なす割合が高く、男性よりも女性で、平等になっていると評価する割合は少ない傾向が見られた。こうした回答傾向は、前回調査とそれほど変わっていなかった。

収入を得る仕事をしている人に対して、雇用の場での7つの項目についての男女平等感の評価を尋ねた設問（問14）では、「育児・介護休暇のとりやすさ」を除

く6項目で、総じて男性が優遇されていると見なす割合が高く、その傾向は特に「昇進・昇格、管理職への登用」と「昇給・賃金」で顕著だった。一方、唯一「育児・介護休暇のとりやすさ」については、女性が優遇されていると見なす割合が高く、男性がこれらの制度を利用するのが依然として困難であるとの認識が優勢だった。ただし、この「育児・介護休暇のとりやすさ」を除けば、前回調査に比べて、各項目で男性が優遇されていると見なす割合が減少し、平等になっていると見なす割合が増加していることから、雇用の場での男女平等が進んでいるという認識が市民の間で徐々にではあるが広まっている様子うかがえた。

### 3. 生活における理想と現実のギャップ

家庭で果たすべき5つの役割の分担について、理想と現実をそれぞれ尋ねた設問（問8）からは、理想と現実のギャップが大きい様子が明らかにされた。まず理想について、男女ともに、「家計管理」「家事」では「主に妻・パートナー（女性）」、「生活費を得る」では「主に夫・パートナー（男性）」の割合がそれぞれ最も高くなっており、これらの役割に関して「男は仕事、女は家事・育児」という性別役割分担の原則に対応した分担を理想とする市民の割合が高い様子うかがえた。ただし、男女とも、総じて、年長世代よりも若い世代の方が「夫婦対等」を理想とする割合が高い傾向もみられた。

これら5つの役割について、理想と現実を比較したところ、「生活費を得る」では理想以上に現実で「主に夫・パートナー（男性）」の割合が高いのに対して、「家計管理」「家事」「育児」では理想以上に現実で「主に妻・パートナー（女性）」の割合が高く、理想以上に現実では性別役割分担が顕著になっている様子うかがえた。

生活における理想と現実のギャップの大きさは、仕事や家事・育児・介護等に費やす時間を尋ねた設問（問15）や、「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」それぞれの優先度の理想と現実を尋ねた設問（問16、問17）からもうかがえた。「現実の生活」（問17）においては、平成24年度内閣府「男女共同参画に関する世論調査」（以下、平成24年度内閣府調査）とほぼ同じ回答傾向が見られ、全体的に、女性は「家庭生活優先」、男性は「仕事優先」の傾向が顕著であった。また、「仕事に要する時間」（問15）で見ても、平日の平均労働時間が「8時間未満」は女性に多く、「10時間以上」は男性に多かった。「家事・育児・介護等」の平均時間については、平日・休日とも、女性は「5時間以上」が最も多いのに対して男性は「ほとんどない」が最も多くなっていた。これらのことから、実際に、「男は仕事、女は家庭」という性別役割分担の傾向が顕著であることがうかがえた。

こうした「現実の生活」と「希望する暮らし方」（問16）の回答を比較検討したところ、女性では、「家庭優先」の生活を希望すれば実現できる可能性が高いが、「仕事と家庭生活の両立」を望んでも、現実には「家庭優先」か「仕事優先」のどちらかに一方に偏らざるをえない状況うかがえた。一方男性では、「仕事優先」を希望する人は少なく、「仕事と家庭生活の両立」を望んでいる人が多いにもか

ならず、その大半は現実には「仕事優先」にならざるをえず、女性と比較して「仕事」が現実の生活の大きな部分を占めていることがうかがえた。

これらの結果をふまえると、市民の半数以上が性別役割分担に賛成しているとはいえ（問7）、市民の多くは、実際の希望以上に「男は仕事、女は家事・育児」という性別役割分担に沿った生活を強いられる傾向にあり、生活の現実をより理想に近づけようとするのであれば、性別役割分担を解消する方向に現実を変化させていくことが求められるといえるだろう。

#### 4. 女性の就労促進に向けて

現在収入を得る仕事をしていない人に今後の就労意向（問19）を尋ねたところ、仕事に就きたいと回答した人の割合は、男性よりも女性で多かった。

また、「働いていない理由」（問18）を尋ねたところ、女性では、30～40歳代で「家事や育児をしている」ことを理由に挙げる人の割合が圧倒的に多かった。

今後就労する上で困ることや不安（問19-1）についても、30～40歳代女性では「家事、育児、介護との両立ができるか」が最も多く、30歳代女性では「保育所・園、学童保育などを利用できるか」が目立った。

「働き続ける、働き始めたいと考えるうえで大切なこと」（問20）については、20歳代男女と30歳代の女性の半数以上が「保育所・園、学童保育などの保育環境が整っていること」を挙げていた。

これらのことから、30～40歳代の女性が収入を得る仕事をしない最も大きな理由が、家事・育児・介護等の責任を負っていることにあり、女性が安心して働けるためには、それらの負担を軽減できるような環境整備が早急に求められるといえよう。

#### 5. 地域活動と防災・災害対応

地域活動への参加の実態と希望とを比較してみたところ（問10）、今後参加したい活動が「特にない」人の割合は、現在参加している活動が「特にない」人の割合よりも少なく、特に「地域における趣味・スポーツ・学習の活動」や「NPO（非営利団体）やボランティアの活動」では、実際に参加している人よりも「今後参加したい」人の割合の方が多いことから、条件さえ整えば、地域活動に参加する市民は実際よりも多い様子が見えてきた。

地域活動に参加していない理由、あるいは参加したくない理由（問10-1）としては、男女ともに「あまり関心がないから」「参加するきっかけがないから」と並んで、30～50歳代では「仕事が忙しいから」が多く、30歳代女性では「家事・育児・介護で忙しいから」も多くなっていた。前回の調査と比べて、男女とも「仕事が忙しいから」「あまり関心がないから」が増加していることも合わせて考えると、地域活動への参加を促すうえでは、1人あたりの労働負担や家事・育児負担の軽減と、地域社会への関心の喚起などが課題であるといえるだろう。

一方、災害時における性別に配慮した地域での対応に関する設問（問30）では、「避難所の設備（男女別のトイレ、更衣室、授乳室、洗濯干場等）」や「避難所運営の責任者に男女がともに配置され、避難所運営や被災者対応に男女両方の視点が入ること」の回答割合が高く、男女ではそれほど違いが見られなかったことから、こうした問題意識が、性別にかかわらず市民の間である程度共有されていることがうかがえた。

## 6. 男性の家庭・地域参加の促進

男性が家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくために（問11）、市民の間では、「夫婦・家族間でのコミュニケーション」や「家事などに対する男性個人の抵抗感をなくす」といった個人レベルでの意識改革や行動変容と同時に、「労働時間短縮・休暇制度の普及」や「男性の家事・子育て参加への評価を高める」ことといった社会レベルでの制度・慣習の改革も必要だと認識されている傾向がうかがえた。これらの項目の回答割合が高い傾向は、平成24年度内閣府調査や大阪府調査と共通していた。

また、今回調査で初めて設問に加えた、「男もつらい」と感じることの有無（問26）については、男性の6割以上が「ある」と回答しており、若い世代ほど「ある」との回答が多かった。男性がつらいと感じることとして、特に「仕事の責任が大きい、仕事できて当たり前だと言われる」「自分のやりたい仕事を自由に選べないことがある」「妻子を養うのは男の責任だと言われる」などの回答が多く、職業責任や家族の扶養責任を重荷に感じている男性が少なくない様子がうかがえた。

これらをふまえると、男性の生きづらさを軽減するとともに、男性が家庭や地域の活動により積極的に参加していくためには、職業責任や扶養責任を女性と分かち合うことでそれらの負担を軽減していくことが求められるといえよう。

## 7. 配偶者等からの暴力(DV)の認識と経験

配偶者・パートナー・恋人による17の行為について、暴力にあたると思うかどうかを尋ねた設問（問21）では、全ての項目において、5年前の前回調査に比べて、男女ともに「どんな場合でも暴力にあたると思う」との回答が増加しており、市民の間で暴力に対する敏感さが増している様子がうかがえた。なかでも、交友関係の制限などの「社会的暴力」や、言葉で相手を貶めたり脅したりする「精神的暴力」においては、男性よりも女性で「暴力にあたる」と見なす傾向が強かった。内閣府「男女間における暴力に関する調査（平成26年度調査）」（以下、平成26年度内閣府調査）の結果と比べると、全般的に暴力に対する認識はより敏感な傾向にあるが、性的な暴力に対する認識については必ずしも敏感とはいえない傾向がうかがえた。

配偶者等による暴力行為を受けた経験がある人の割合（問22）は、「何を言って

も長時間無視される」と「大声でどなられる」でやや多かったが、その他の15項目では男女とも10%未満であった。

被害を受けた女性のうち、4割近くは「相談しようと思わなかった」と答え、約1割が「相談したかったが、しなかった」と答えていた（問23）。相談しなかった理由（問24）では、約半数が「相談するほどのことではないと思ったから」と答え、ほぼ4人に1人が「自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」「相談してもむだだと思ったから」と答えていた。また、割合は低い「どこ（だれ）に相談してよいのかわからなかったから」との回答も見られた。被害を受けた男性では、6割以上が「相談しようと思わなかった」と答えており（問23）、その理由として「相談するほどのことではないと思ったから」との答えた割合は女性よりも多かった（問24）。これらの回答傾向は、平成26年度内閣府調査や大阪府調査とほぼ同様であった。

男性の方が相談しようと思わない傾向の背景として、女性に比べて被害が深刻でないケースが多いことも考えられるが、「恥ずかしくてだれにも言えなかったから」「世間体が悪いと思ったから」「他人を巻き込みたくなかったから」との回答が女性に劣らず見られることをふまえると、「男は弱みを見せてはいけない」「男が女から暴力を受けるはずがない」といった「男らしさ」についての世間の常識や思い込みが、男性の相談をためらわせている可能性も考えられる。

これらのことから、女性であっても男性であっても相談しやすい場づくりや、相談するという行為への抵抗をなくすよう理解を広める必要があるといえよう。また、とよなか男女共同参画推進センターすてっぷや配偶者暴力相談支援センターなどの公共機関の相談先を利用した人が少ない（問23）ことをふまえ、相談機関の周知を含め、きめ細やかな情報提供も求められるだろう。

相談相手で比較的多いのは「家族や親族」「友人・知人」となっている（問23）ことから、市民一人一人が、身近な人から相談を受けた場合に、適切な対応をしてしかるべき機関につなげていけるために、DVに対する正しい知識を持てるよう、さらに啓発を続けていく必要もあるだろう。

## 8. セクシュアル・ハラスメントの認識

設問にあげた10の行為（問25）のうち、「身体をじろじろ見られる」「故意に身体にふれられる」については、男性よりも女性の方で「セクシュアル・ハラスメントに該当する」との回答がやや多かったが、その他の項目については、何がセクシュアル・ハラスメントにあたるかについて男女でそれほど大きな違いはみられなかった。

むしろ、年齢層別の違いの方が大きく、男女ともほとんどの項目について、60歳以上、特に70歳以上で、他の年齢層に比べて、それぞれの行為を「セクシュアル・ハラスメントに該当する」と見なす割合が非常に低い傾向にあった。

本調査全体に占める回答の割合が、前回調査に比べて70歳以上がかなり増えたにもかかわらず、問25については前回と今回で回答傾向に大きな違いは見られな

いことから、若い層では、いくぶんセクシュアル・ハラスメントへの感性が増しているのではないかと考えられる。

## 9. 女性の活躍と男女共同参画促進のために

「女性の活躍が推進されている」状態（問28）としては、男女とも「出産しても、子育て期間中でも仕事を続ける女性が増えること」「退職した後、再就職しても、また正社員になる可能性が開かれていること」の割合が高くなっていった。これらの回答傾向からは、市民の間で、「女性の活躍」のためには、まずは女性の就労の継続もしくは中断後の再就職の問題が重要であるとの認識が広がっている様子がうかがえる。

先述の「4. 女性の就労促進に向けて」では、30～40歳代の就労を阻む大きな要因が、女性の家事・育児・介護負担の重さであることがうかがえたが、政治・経済・地域などの各分野で女性のリーダーを増やすときに障害となるもの（問29）についても、市民の間で同様の認識が見られ、男女とも「保育・介護の支援などの公的サービスが十分ではないこと」「保育・介護・家事などにおける夫などの家族の支援が十分ではないこと」という回答が多かった。

最後に、男女共同参画社会の推進のために市が力を入れるべきこと（問27）についても、男女とも「子育てや介護中であっても仕事が続けられるよう支援する」「子育てや介護等でいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する」「高齢者の施設や介護サービスを充実させる」「保育の施設・サービスを充実させる」など、やはり、育児・介護負担の軽減や、それらと仕事との両立支援に関する項目の回答割合が高かった。平成24年度内閣府調査と大阪府調査でも同様の傾向が見られる。

このように、女性の活躍と男女共同参画推進のためには、全国や大阪府と同様、女性の子育て・介護の負担を軽減できる環境整備が求められる。具体的には、子育て・介護サービスを充実、それらの責任を家族皆で分かち合うための啓発、再就職支援、男女ともに仕事と子育て・介護を両立できる労働環境の整備などが課題とされる。

## VI. 調查票



# 女性と男性がともに暮らしやすい豊中市をつくるためのアンケート

## 《調査ご協力方へお願い》

日ごろは、市政にご協力いただき、誠にありがとうございます。  
 豊中市では、「男女共同参画社会の実現」をめざし、平成23年度（2011年度）に第2次豊中市男女共同参画計画を策定し、取組みを進めています。  
 このたび、男女共同参画についてのこれまでの取り組みの成果や実態を把握し、今後の施策検討の参考とさせていただきます。アンケートを実施することとなりました。  
 このアンケートは、市内にお住まいの20歳以上の市民の中から4,000人の方を無作為に選ばさせていただきます。ご記入いただいた内容については、すべて統計的に処理いたしますので、回答者個人が特定されたり、個々の回答内容が他にもれたりすることは一切ありません。また、調査目的以外に使用することはありません。  
 お忙しいところ誠に恐縮でございますが、アンケートの趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

「男女共同参画社会とは」～豊中市男女共同参画推進条 例前文より抜粋～  
 すべての人の人権が尊重され、自ら意思で生き生きを遂げ、男女が性別にかかわらず、その個性と能力を十分に発揮し、職域、学校、地域、家庭その他の社会のあらゆる分野における活動に対等に参画することができる男女平等を前提とする社会

平成27年(2015年)9月

豊中市長 浅利 敬一郎

## ◆ご記入にあたってのお願い◆

- このアンケートは、封筒のあて名の方がお返えください。ご回答いただいたら郵筒でご協力をさせていただきます。なお、ご記入にあたっては、ご家族、ご友人の方などに代筆していただいても結構です。
- お返えは、封筒のあて名は番号に○をつけてください。
- の数は、質問の最後の( )内に書いてあります。
- 質問の進み方は、ことわり書きや矢印の指示をご覧ください。
- ご記入いただいた調査票は、同封の封筒に入れ、10月2日(金)までにポストに入れてください。
- なお、この調査は、株式会社サニーリサーチズ(大阪府北区)に集計・分析を委託し、アンケートの返送先を郵便局留としています。

◆お問い合わせ先◆  
 豊中市 人権政策課 男女共同参画係  
 TEL: 06-6858-2654 FAX: 06-6846-6003  
 E-mail: dan.jokyoudou@city.toyonaka.osaka.jp

【調査実施委託先】  
 株式会社サニーリサーチズ  
 大阪府北区大槻1丁目18-30  
 電話: 06-4801-9271  
 FAX: 06-4801-9228  
 (担当: 金剛 不林)

## はじめに、あなたご自身についておたずねします。

問1 あなたの性別について、あてはまる番号に○をしてください。(○は1つ)

- |       |       |        |
|-------|-------|--------|
| 1. 女性 | 2. 男性 | 3. その他 |
|-------|-------|--------|

問2 あなたの年齢について、あてはまる番号に○をしてください。(○は1つ)

- |           |           |           |
|-----------|-----------|-----------|
| 1. 20～29歳 | 2. 30～39歳 | 3. 40～49歳 |
| 4. 50～59歳 | 5. 60～69歳 | 6. 70歳以上  |

問3 現在、あなたには配偶者・パートナー(事実婚を含む)はいますか。(○は1つ)

- |                 |                  |
|-----------------|------------------|
| 1. 配偶者・パートナーがいる | 2. 配偶者・パートナーはいない |
|-----------------|------------------|

問4 あなたと一緒に住んでいる方に○をつけてください。(○はいくつでも)

- |              |                        |
|--------------|------------------------|
| 1. 配偶者・パートナー | 2. 子ども (一問4-1へお進みください) |
| 3. 孫         | 4. 父                   |
| 5. 母         | 6. 祖父母                 |
| 7. 兄弟・姉妹     | 8. その他(具体的に)           |
| 9. 同居家族はいない  |                        |

## 【問4で「2. 子ども」と答われた方におたずねします。】

問4-1 一番下のお子さんは次のどれにあたりますか。(○は1つ)

- |             |                |
|-------------|----------------|
| 1. 3歳未満     | 2. 3歳以上就学前     |
| 3. 小学生      | 4. 中学生         |
| 5. 高校生相当の年齢 | 6. 高校生相当の年齢より上 |

【すべての方におたずねします。】

問5 あなたの職業は何ですか。(〇は1つ)

1. 自営業主 (独立して、自分で事業をしている人。経営者) 2. 家族従業者 (自営業主の家族で、その自営業に従事している人) 3. 雇用者 (会社、官公庁、個人商店などに雇われている人) 4. 家事専業 (主婦・主夫) 5. 無職 (年金生活を含む) 6. 学生 7. その他 (具体的に )
--

【3. 雇用者 (会社、官公庁、個人商店などに雇われている人)】と答えられた方におたずねします。】

問5-1 勤務形態は、次のどれにあたりますか。(〇は1つ)

1. 正社員・正職員 2. 派遣・契約・嘱託社員 3. パートタイム・アルバイト (週 30 時間以上) 4. パートタイム・アルバイト (週 30 時間未満) 5. その他 (具体的に )
---

【配偶者・パートナー (事実婚を含む) がいる方におたずねします。】

問5-2 あなたの配偶者・パートナーの職業は何ですか。(〇は1つ)

1. 自営業主 (独立して、自分で事業をしている人。経営者) 2. 家族従業者 (自営業主の家族で、その自営業に従事している人) 3. 雇用者 (会社、官公庁、個人商店などに雇われている人) 4. 家事専業 (主婦・主夫) 5. 無職 (年金生活を含む) 6. 学生 7. その他 (具体的に )
--

【3. 雇用者 (会社、官公庁、個人商店などに雇われている人)】と答えられた方におたずねします。】

問5-3 あなたの配偶者・パートナーの勤務形態は、次のどれにあたりますか。(〇は1つ)

1. 正社員・正職員 2. 派遣・契約・嘱託社員 3. パートタイム・アルバイト (週 30 時間以上) 4. パートタイム・アルバイト (週 30 時間未満) 5. その他 (具体的に )
---

続いて、順番に質問にお答えください。

問6 あなたは、次の①～⑧の項目についてどのように思いますか。

(〇は各項目それぞれ1つずつ)

	そう思う	どちらかと思う	どちらかといえ	どちらともいえない	どちらかといえ	どちらともいえない	そう思わない
① 妻や子どもを養うのは、男性の責任である	1	2	3	4	5	5	5
② 結婚したら、妻が夫の姓を名乗るのは当然だ	1	2	3	4	5	5	5
③ 男の子は男らしく、女の子は女らしく育てる方がよい	1	2	3	4	5	5	5
④ 自分の子どもには、男女にかかわらず同程度の教育・学歴を身につけさせたい	1	2	3	4	5	5	5
⑤ 子どもが3歳くらいまでは母親のもとで育てる方がよい	1	2	3	4	5	5	5
⑥ 育児・介護休業は、男性より女性がとった方がよい	1	2	3	4	5	5	5
⑦ 結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない	1	2	3	4	5	5	5
⑧ 結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい	1	2	3	4	5	5	5

問7 あなたは、「男性は仕事、女性は家事・育児」という考え方について、どう思いますか。

(〇は1つ)

1. 賛成 2. どちらかといえば賛成 3. 反対 4. どちらかといえば反対 5. わからない(問8へ)
---

(問7-2へ)

【問7で「1. 賛成」、「2. どちらかといえば賛成」と答えられた方におたずねします。】

問7-1 その理由は、以下のどれに近いですか。(〇はいくつでも)

1. 役割分担をした方が効率がよいと思うから 2. 小さい頃からそう教えられてきたから 3. 子どもの成長にとってよいと思うから 4. 個人的にそうありたいと思うから 5. その他 (具体的に ) 6. 理由を考えたことがない
--

【問7で「3. 反対」、「4. どちらかといえば反対」と答えれば反対」と答えられた方におたずねします。】

問7-2 その理由は、以下のどれに近いですか。(〇はいくつでも)

1. 男女平等に反すると思うから
2. 小さい頃からそう教えられてきたから
3. 男女がともに仕事と家庭の両方に関わる方が、各個人、家庭にとってよいと思うから
4. 女性が家庭のみでしか活躍できず、社会にとっても損失だと思うから
5. その他 (具体的に )
6. 理由を考えたことがない

問8 家庭での分担について、あなたはどのようなのが望ましいと思いますか。また実際にあなたの家庭では、どのように分担していますか。

(①～⑥の項目について、理想と現実それぞれ各項目に〇は1つずつ)

理想	配偶者・パートナーのいる方のみ お答えください				
	夫婦・カップルで同じ	主に夫・パートナー (男性)	主に妻・パートナー (女性)	その他	該当しない
1	2	3	4	5	6
①生活費を得る	1	2	3	4	5
②家計の管理	1	2	3	4	5
③日常の家事 (食事のしたく、掃除、洗濯)	1	2	3	4	5
④育児	1	2	3	4	5
⑤高齢者、病人の介護・看護	1	2	3	4	5

問9 あなたは、一般的に、次の①～⑧の各分野で男女は平等になっていると思いますか。(〇は各項目それぞれ1つずつ)

	男性の方が優遇されている	どちらの方が優遇されている	平等になっている	どちらの方が優遇されている	女性の方が優遇されている	わからない
① 家庭生活で	1	2	3	4	5	6
② 職場で	1	2	3	4	5	6
③ 学校教育の場 (児童・生徒の立場から)	1	2	3	4	5	6
④ 法律や制度で	1	2	3	4	5	6
⑤ 政治の場で	1	2	3	4	5	6
⑥ 自治会やNPOなどの地域活動・社会活動の場で	1	2	3	4	5	6
⑦ 社会通念・慣習・しきたりで	1	2	3	4	5	6
⑧ 社会全体で	1	2	3	4	5	6

問10 次の地域活動について、(ア)現在参加している活動と、(イ)今後(または引き続き)参加したい活動に〇をつけてください。(〇はいくつでも)

	(ア) 現在参加している活動	(イ) 今後(または引き続き)参加したい活動
① 自治会・町内会の活動	1	1
② P.T.Aや子ども会の活動	2	2
③ 地域における趣味・スポーツ・学習の活動	3	3
④ NPO (非営利団体) やボランティアの活動	4	4
⑤ 民生委員・市民公募委員・市政モニターなど公的な立場での活動	5	5
⑥ 特になし	6	6

次のページの問10-1にご回答ください。

【問10で1つでも「6. 特にない」と答えられた方におたずねします。】

問10-1 それはどのような理由からですか。(〇はいくつでも)

1. 仕事が忙しいから	2. 家事・育児・育児・介護で忙しいから
3. 健康状態がおもわしくないから	4. 活動に魅力がないから
5. 人間関係がわずらわしいから	6. 活動の情報が得られないから
7. 参加するきっかけがないから	8. あまり関心がないから
9. 一緒に参加する仲間がない	
10. その他 (具体的に )	

【すべての方におたずねします。】

問11 今後、男性が家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくためにはどのようなことが必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

1. 男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすること
2. 男性が家事などに参加することに対する女性の抵抗感をなくすること
3. 夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること
4. 年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担等についての当事者の考え方を尊重すること
5. 社会の中で、男性による家事、子育て、介護、地域活動についても、その評価を高めること
6. 労働時間短縮や休暇制度を普及することで、仕事以外の時間をより多く持つようになること
7. 男性が家事、子育て、介護、地域活動に関心を高めるよう啓発や情報提供を行うこと
8. 国や地方自治体などの研修等により、男性の家事や子育て、介護等の技能を高めること
9. 男性が子育てや介護、地域活動を行うための、仲間(ネットワーク)作りをすすめること
10. 家庭や地域活動と仕事の両立などの問題について、男性が相談しやすい窓口を設けること
11. その他 (具体的に )
12. 特に必要なことはない

問12 あなたが高齢期の生活について、特に不安に思っていることはありますか。(〇はいくつでも)

1. 生きがいを見つけられるか
2. 健康で過ごせるか
3. 一人になったときの孤独
4. 一人になったときの身の回りのこと
5. 経済的にやっつけていけるか
6. 病気が寝たきりになったとき、世話を頼める人がいるか
7. その他 (具体的に )
8. 特にない

問13 高齢期を生き生きと送るためにやってみたいことがありますか。(高齢者の方は、現在行っていることで生きがいを感じるものに〇をつけてください。)(〇はいくつでも)

1. 働くこと	2. 学習や教養を高めるための活動
3. 趣味の活動やスポーツ、旅行	4. 世代間交流 (若い世代との交流)
5. ボランティア活動	6. 地域の老人クラブ活動
7. 自治会・町内会の活動	8. 孫など家族との団らん
9. 夫婦・カップルでの団らん	10. その他 (具体的に )
11. 特にない	

【問14・問15は、「収入を得る仕事をしている」方におたずねします。】

問14 あなたは、雇用の場合は次の①～⑦の項目について男女は平等になっていると思いますか。(〇は各項目それぞれ1つずつ)

	優男 遇性 され てい る	男 性 ち ら が 優 い と い え ば	平 等 に な つ て い る	女 性 ち ら が 優 い と い え ば	優女 遇性 され てい る	わ か ら な い
① 採用・募集	1	2	3	4	5	6
② 仕事の内容、仕事の分担	1	2	3	4	5	6
③ 昇給や賃金水準	1	2	3	4	5	6
④ 昇進・昇格、管理職への登用	1	2	3	4	5	6
⑤ 研修の機会や内容	1	2	3	4	5	6
⑥ 働き続けやすい雰囲気	1	2	3	4	5	6
⑦ 育児・介護休暇のとりやすさ	1	2	3	4	5	6

問15 1日のうちで、あなたが仕事(在宅就労を含む)や、家事・育児・介護等をしている平均時間は、平日、休日それぞれどのくらいですか。(〇はそれぞれ1つずつ)

① 平日 (〇は1つ)	② 休日 (〇は1つ)
1. なし	1. なし
2. 4時間未満	2. 4時間未満
3. 4時間～6時間未満	3. 4時間～6時間未満
4. 6時間～8時間未満	4. 6時間～8時間未満
5. 8時間～10時間未満	5. 8時間～10時間未満
6. 10時間～12時間未満	6. 10時間～12時間未満
7. 12時間以上	7. 12時間以上

(2) 家事・育児・介護等

① 平日 (○は1つ)	② 休日 (○は1つ)
1. ほとんどない	1. ほとんどない
2. 30分未満	2. 30分未満
3. 30分～1時間未満	3. 30分～1時間未満
4. 1時間～2時間未満	4. 1時間～2時間未満
5. 2時間～3時間未満	5. 2時間～3時間未満
6. 3時間～4時間未満	6. 3時間～4時間未満
7. 4時間～5時間未満	7. 4時間～5時間未満
8. 5時間以上	8. 5時間以上

【すべての方におたずねします。】

問16 あなたは、希望としては、どのような暮らし方をしたいと思いますか。(○は1つ)

1. 「仕事」を優先したい
2. 「家庭生活」を優先したい
3. 「地域・個人の生活(*)」を優先したい (※)地域活動、学習・趣味・付き合い等
4. 「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい
5. 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先したい
6. 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい
7. 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい
8. その他 (具体的に )

問17 あなたの現実の生活に最も近いものはどれですか。(○は1つ)

1. 「仕事」を優先している
2. 「家庭生活」を優先している
3. 「地域・個人の生活」を優先している
4. 「仕事」と「家庭生活」をともに優先している
5. 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先している
6. 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している
7. 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している
8. その他 (具体的に )

【問18・問19は、現在「収入を得る仕事をしていない」方におたずねします。】

問18 あなたが働いていないのはどうしてですか。(○はいくつでも)

1. やりたい仕事がない
2. 求職中である
3. 応募しても断られる
4. 家事や育児をしている
5. 介護・看護をしている
6. 定年退職した
7. 健康上の問題
8. 学生である
9. 働く必要がない
10. 働きたくない
11. その他 (具体的に )

問19 あなたは、今後、収入を得る仕事にしていきたいと思いますか。(○は1つ)

1. ぜひ、仕事にしていきたい
2. できれば、仕事にしていきたい
3. 仕事にしていきたいと思わない
4. わからない

【問19で「1.ぜひ、仕事にしていきたい」または「2.できれば、仕事にしていきたい」と答えられた方におたずねします。】

問19-1 あなたは、今後、仕事につく上で何か困ったことや不安がありますか。(○はいくつでも)

1. 自分のしたい仕事につけるか	2. 自分の資格や能力が通用するか
3. 職場の人間関係がうまくいくか	4. 賃金など、望む労働条件が得られるか
5. 自分の健康状態や体力	6. 家事、育児、介護との両立ができるか
7. 保育所・園、学童保育などを利用できるか	8. 年齢制限
9. その他 (具体的に )	
10. 特にない	

【すべての方におたずねします。】

問20 もし、あなたが働き続けたい、あるいは、働き始めたいと考えた場合、どのようなことが大切だと思いますか。(○はいくつでも)

1. 男女が協力して家事や育児・介護などをすること
2. 保育所・園、学童保育などの保育環境が整っていること
3. 働きながら介護ができるようにホームヘルパーや施設などのサービスが充実していること
4. 労働者の権利に関する情報提供や相談窓口が充実していること
5. 再就職を希望する女性のための講座、セミナーが充実していること
6. 生活状況に応じて柔軟な働き方を運ぶことができること
7. 厚生年金など社会保障が整っていること
8. 募集・採用、配置・昇進などの職場での男女間の格差がないこと
9. 残業がない、あるいは少ないこと
10. 職場に介護、育児休業制度があること
11. 介護、育児休業がとりやすい職場の雰囲気があること
12. その他 (具体的に )

問21 あなたは、配偶者・パートナー・恋人から次のようなことをされることは暴力にあたると思いますか。①～⑱それぞれについてお答えください。(○は各項目それぞれ1つずつ)

どんな場合でも暴力にあたると思う	ない場合がある	思わない場合は	
① 何を言っても長期間無視される	1	2	3
② 大声でどなられる	1	2	3
③ あなたが大切にしているものを、わざと壊したり捨てたりされる	1	2	3
④ あなたの交友関係や電話、メールを細かく監視されたり、外出を制限される	1	2	3
⑤ 実家の親・きょうだい、友人との付き合いをいやがられたり、禁止される	1	2	3
⑥ あなたのお金を取り上げたり、預貯金を勝手におろされる	1	2	3
⑦ 「だれのおかげで、お前は食べられるんだ」「かいしよなし」などと言われる	1	2	3
⑧ げんこつや身体を傷つける可能性のあるもので、なぐるふりをして、おどされる	1	2	3
⑨ ものを投げつけられる	1	2	3
⑩ 押したり、つかんだり、つねったり、こづいたりされる	1	2	3
⑪ 身体を傷つける可能性のあるもので、たたかれる	1	2	3
⑫ 骨折をしたり、鼓膜がやぶれたりするほどの暴力をふるわれる	1	2	3
⑬ 命の危険を感じるほどの暴行をされる	1	2	3
⑭ あなたが見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せられる	1	2	3
⑮ 性的な画像などをばらまかれる	1	2	3
⑯ 避妊に協力してくれない	1	2	3
⑰ あなたの意に反して性的な行為を強要される	1	2	3

問22 あなたは、配偶者・パートナー・交際相手から次のようなことをされたことがありますか。①～⑱それぞれについてお答えください。(各項目○はいくつでも)

まったくない	10代	20代	30代以上
① 何を言っても長期間無視される	1	2	3
② 大声でどなられる	1	2	3
③ あなたが大切にしているものを、わざと壊したり捨てたりされる	1	2	3
④ あなたの交友関係や電話、メールを細かく監視されたり、外出を制限される	1	2	3
⑤ 実家の親・きょうだい、友人との付き合いをいやがられたり、禁止される	1	2	3
⑥ あなたのお金を取り上げたり、預貯金を勝手におろされる	1	2	3
⑦ 「だれのおかげで、お前は食べられるんだ」「かいしよなし」などと言われる	1	2	3
⑧ げんこつや身体を傷つける可能性のあるもので、なぐるふりをして、おどされる	1	2	3
⑨ ものを投げつけられる	1	2	3
⑩ 押したり、つかんだり、つねったり、こづいたりされる	1	2	3
⑪ 身体を傷つける可能性のあるもので、たたかれる	1	2	3
⑫ 骨折をしたり、鼓膜がやぶれたりするほどの暴力をふるわれる	1	2	3
⑬ 命の危険を感じるほどの暴行をされる	1	2	3
⑭ あなたが見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せられる	1	2	3
⑮ 性的な画像などをばらまかれる	1	2	3
⑯ 避妊に協力してくれない	1	2	3
⑰ あなたの意に反して性的な行為を強要される	1	2	3

すべての項目で「1」に○をつけた方は問25へお進みください。

「2」または「3」に1つでも○をつけた方は問23にご回答ください。

【問22で、1つでも「10～20歳代にあった」または「30歳代以上にあった」と答えられた方におたずねします。】

問23 あなたは、そのことをだれかに相談しましたか。(○はいくつでも)

1. 家族や親族	
2. 友人・知人	
3. とよなか男女共同参画推進センターすてっぷ	
4. 学校関係者(教員、スクールカウンセラーなど)	
5. 配偶者暴力相談支援センター	
6. 警察	
7. 公的機関の相談窓口、電話相談など	
8. 保健所・保健センターの保健師	
9. 民間の専門家や専門機関(弁護士、カウンセリング機関、民間シェルターなど)	
10. 医療関係者	
11. その他(具体的に)	
12. 相談したかったが、しなかつた	
13. 相談しようと思わなかつた	

【問23で「12. 相談したかったが、しなかつた」「13. 相談しようと思わなかつた」と答えられた方におたずねします。】

問24 あなたが相談しなかつた、しやうと思わなかつたのはなぜですか。(○はいくつでも)

1. どこ(だれ)に相談してよいかわからなかつたから	
2. 恥ずかしくてだれにも言えなかつたから	
3. 相談してもむだだと思つたから	
4. 自分が受けている行為が暴力とは認識していなかつたから	
5. 相手の仕返しが怖かつたから(もつとひどい暴力や、仕返し、いやがらせなど)	
6. 相談相手の言動によって不快な思いをさせられると思つたから	
7. 自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思つたから	
8. 世間体が悪いと思つたから	
9. 他人を巻き込みたくなかつたから	
10. 他人に知られると、これまでどおりのつき合い(仕事や学校などの人間関係)ができなくなると思つたから	
11. そのことについて思い出さなかつたから	
12. 自分にも悪いところがあると思つたから	
13. 相談することで自分が傷つきたくなかつたから	
14. 相手の行為は愛情の表現だと思つたから	
15. 相談するほどのことではないと思つたから	
16. その他(具体的に)	

【すべての方におたずねします。】

問25 あなたは、次のようなことはセクシュアル・ハラスメント(性的いやがらせ)にあたると思いますか。また、あなたは、自分の意思に反して職場、学校、地域等で次のようなことをされたことがありますか。(○はいくつでも)

セクシュアル・ハラスメントにあたる行為	職場でされた	学校でされた	地域等でされた
1 容姿について、あれこれ聞かれる・話題にされる	1	1	1
2 身体をじろじろ見られる	2	2	2
3 忘年会などでお酌・デュエット・ダンスなどを強要される	3	3	3
4 性的な冗談やひくいことを話題にされる	4	4	4
5 故意に身体にふられる	5	5	5
6 キスやセックスの強要など性的な行為を迫られる	6	6	6
7 しつこく交際を求められる	7	7	7
8 職場にヌードポスター・ヌードカレンダーなどをはられる	8	8	8
9 昇進や商取引などを利用して性的な関係を迫られる	9	9	9
10 着替え中の更衣室に、異性に入られる	10	10	10
11 どれもあたらない(どれもない)	11	11	11

【次の質問は、男性の方のみにおたずねします。】

問26 あなたは、「男もつらい」と感じることはありませんか。(○は1つ)

1. ある	2. ない
-------	-------

【問26で「1. ある」と答えられた方におたずねします。】

問26-1 それはどのようなことですか。(○はいくつでも)

1. なにかにつけ「男だから」「男のくせに」と言われる 2. 妻子を養うのは男の責任だと言われる 3. 男なのに酒が飲めないのかとからかわれる 4. 力が弱い、運動が苦手だとバカにされる 5. 仕事の責任が大きい、仕事ができると言われる 6. 自分のやりたい仕事を自由に選べないことがある 7. 衣食住のことが十分にできなくて、生活が不便である 8. 家族とのコミュニケーションがうまくいかない 9. その他(具体的に)
--

【すべての方におたずねします。】

問27 あなたは、男女共同参画社会を推進していくために、市は今後どのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。(〇はいくつでも)

1. 市の政策・事業に対して、市民の声を聞く場や制度を充実させる
2. 民間企業・団体等の管理職に女性の登用が進むように支援する
3. 女性や男性の生き方や悩みに関する相談の場を充実させる
4. 職場において男女の均等な取扱いが図られるよう企業等に働きかける
5. 男女共同参画に努力している企業を市民に対して紹介したり、表彰する
6. 女性の能力開発や就労支援を充実させる
7. 女性の育児や介護への参加、地域活動などが進むように取組みを充実させる
8. 労働時間短縮や在宅勤務の普及・啓発を行う
9. 子育てや介護中であっても仕事が続けられるよう支援する
10. 子育てや介護等でいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する
11. 保育の施設・サービスを充実させる
12. 高齢者の施設や介護サービスを充実させる
13. 市民が、身近なこととして男女共同参画について考える社会教育の機会を増やす
14. お互いの性を尊重し、男女ともに生涯を通じて健康づくりのための支援をする
15. 女性に対する暴力の防止や被害者への支援を充実させる
16. その他 (具体的に )

問28 あなたは、「女性の活躍が推進されている」とはどのような状態だと思いますか。

(〇はいくつでも)

1. 女性の勤続年数が長くなること
2. 出産しても、子育て期間中でも仕事を続ける女性が増えること
3. 退職した後、再就職しても、また正社員になる可能性が開かれていること
4. 働く女性の割合が増えること
5. 自ら会社・事業を経営する女性が増えること
6. 女性が従事する職種・職域が増えること
7. 仕事に対する意欲 (モチベーション) が高い女性が増えること
8. 管理職や地域の会長などの役職につく女性が増えること
9. リーダーや会長の選定や昇進を検討する際に男女の性別を意識しなくなること
10. 仕事や家庭、地域活動などに男女の固定的な役割分担がないこと
11. その他 (具体的に )

問29 あなたは、政治・経済・地域などの各分野で女性のリーダーを増やすときに障害となるものは何だと思いますか。(〇はいくつでも)

1. 現時点では、必要な知識や経験などを持つ女性が少ないこと
2. 女性自身がリーダーになることを希望しないこと
3. 上司・同僚・部下となる男性や顧客が女性リーダーを希望しないこと
4. 長時間労働の改善が十分ではないこと
5. 企業などにおいては、管理職になると広域異動が増えること
6. 保育・介護・家事などにおける夫などの家族の支援が十分ではないこと
7. 保育・介護の支援などの公的サービスの不足が十分ではないこと
8. その他 (具体的に )
9. 特になし
10. わからず

問30 あなたは、防災・災害対応において、性別に配慮した対応で必要だと思うものはありますか。(〇はいくつでも)

1. 避難所の設備 (男女別のトイレ、更衣室、授乳室、洗濯干場等)
2. 避難所運営の責任者に男女がともに配置され、避難所運営や被災者対応に男女両方の視点が入ること
3. 災害時の救援医療体制 (乳幼児、高齢者、障害者、妊産婦のサポート体制)
4. 公的施設の備蓄品のニーズ把握、災害時に支給する際の配慮
5. 被災者に対する相談体制
6. 自治会等の地域における防災訓練に、男女がともに参画し男女両方の視点が入ること
7. その他 (具体的に )
8. 特になし

問31 男女共同参画社会の実現に向けてあなたのご意見、ご要望がありましたら、ご自由に書きください。

ご協力ありがとうございました。

女性と男性がともに暮らしやすい豊中市をつくるためのアンケート

結果報告書

発行 平成 28 年（2016 年）3 月

豊中市人権政策課

〒561-8501 豊中市中桜塚 3-1-1 TEL : 06-6858-2654

TOYONAKA

---